全国の“道の駅”完全制覇の旅

[四国編]

よしだやすお

シリーズのご紹介

★☆★　シリーズのご紹介　★☆★

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [東北編]　2011/01/23出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [四国編]　2011/02/07出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [北海道編]　2011/03/03出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [中国編]　2011/03/25出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [近畿編]　2011/06/14出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [北陸編]　2011/11/29出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅 [九州編]　2011/9/27出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅［中部・前編］　2013/9/9出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅［中部・後編］　2013/9/9出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅［関東前編］　2014/1/7出版

◎全国の“道の駅”完全制覇の旅［関東後編］　2014/8/26出版

※中部と関東は、アップできる容量を越えた為、前編、後編の２冊に分割しました。

【ブログ】

「全国の“道の駅”完全制覇の夢！」　http://ameblo.jp/rs-trip/

【ホームページ】

～新しい旅のスタイル～

「全国の“道の駅”完全制覇を目指す旅！」　http://www.rs-trip.com

四国のスタンプラリー

四国の道の駅スタンプラリーも厳密に「期間」がありますから注意が必要です。

私の時は「２００９年７月１８日～２０１１年７月１９日」までででしたから、仮に今（２０１１年１月）から始めると半年くらいしか期間が残っていないから厳しいですね。

四国のこのスタンプ帳、何と無料で配られていました。

期間中に全部の道の駅を回ったら、最後の道の駅でハガキに確認印を押してもらい道の駅連絡会に送ります。

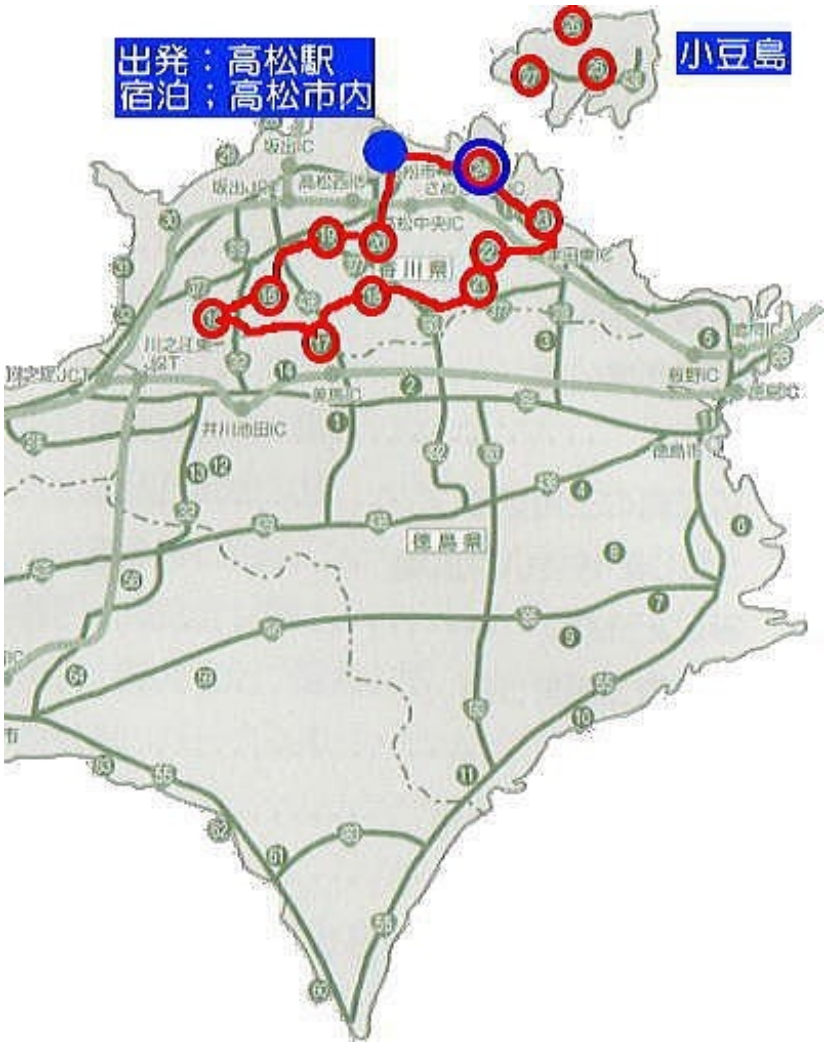
ここの“おまけ”は、こんな道の駅マークの入ったオリジナルハンカチでした。（笑）

屋島合戦の古戦場！“源平の里むれ”

今日からは、’０９年７月２６日～２７日で行った四国、香川県のレポートです。

香川県って四国のどこかご存じですか？

四国って、こんな形をしてますね。
この右上の部分が香川県で、４県の中で一番小さい面積です。



今回は初日に１０か所、２日目は小豆島にフェリーで渡って３か所をまわったのですが、初日に１０か所も行けたのは結構狭い範囲に固まっていて効率が良かったからです。

さて、７月２６日、この２日前には福岡は記録的な豪雨で、物的、人的な多大な被害がでました。
天気予報ではこの２６日はほぼ天気が回復し「曇り時々雨」のはずだったのですが、朝起きたら激しい雨音！

その激しい雨の中をまず新幹線で岡山へ、さすがに連日の雨の影響で新幹線も徐行し岡山へは遅れて到着したのですが、接続の高松行き「マリンライナー」は待ってくれていました。

折角“瀬戸大橋”を列車で渡るのですが、雨でなにも見えず！

高松到着は１０時少し過ぎていました。

左側が「マリンライナー」で、指定席の車両は２階建てになっています。

駅レンタカーで借りた今日の相棒は“フィット”です。
運転もし易くて好きなくるまです。

まず最初に向かったのは、高松駅から２０分ほどしか離れていない
道の駅源平の里むれ です。

ここは源平屋島合戦の古戦場として有名なことから、この名前がついています。

駐車場に到着すると、まずお洒落な建物が３棟あります。
この右の二つは男女別の “トイレ” でした。

一番左が “情報ステーション” で、ここには大型液晶テレビやインターネットへの接続環境があります。

道の駅の本体はどれだ？と思っていたら、この裏側に大きな建物がありました。

ここに物産館、並びに海鮮食堂があります。

さてお天気ですが、高松駅では雨はあがったものの、どんよりとした曇り空でした。
ここに到着した時もそうだったのですが、私たちが写真を撮り始めると、なんと、お日様が顔を出し、晴れ間が・・・！

お〜〜！　やっぱし俺は晴れ男だ！　とまず自慢！

少し周りを紹介すると、この物産館の更に裏には広い公園があります。

ここには何故か電車が展示してあります。

そして最高級石材である 「庵治石」 で作られたというモニュメントがいくつも点在します。

全体の配置図はこの様になっています。

さて、店内に入ってみましょう。

ここは単なる道の駅というより、観光地の土産物センターといった感じで、広いし、商品がとっても充実しています。

で、肝心のスタンプ帳やスタンプが見当たりません。
お店の人に聞こうと思うのだけど、とにかくレジが混雑していて近づけません！

仕方なく、ガムを１個かってレジに並び、お金を払いながら尋ねました。
そしたらカウンターの下からスタンプ帳を出してくれたのですが、“タダ”とのこと。
四国は気前が良いのですね！

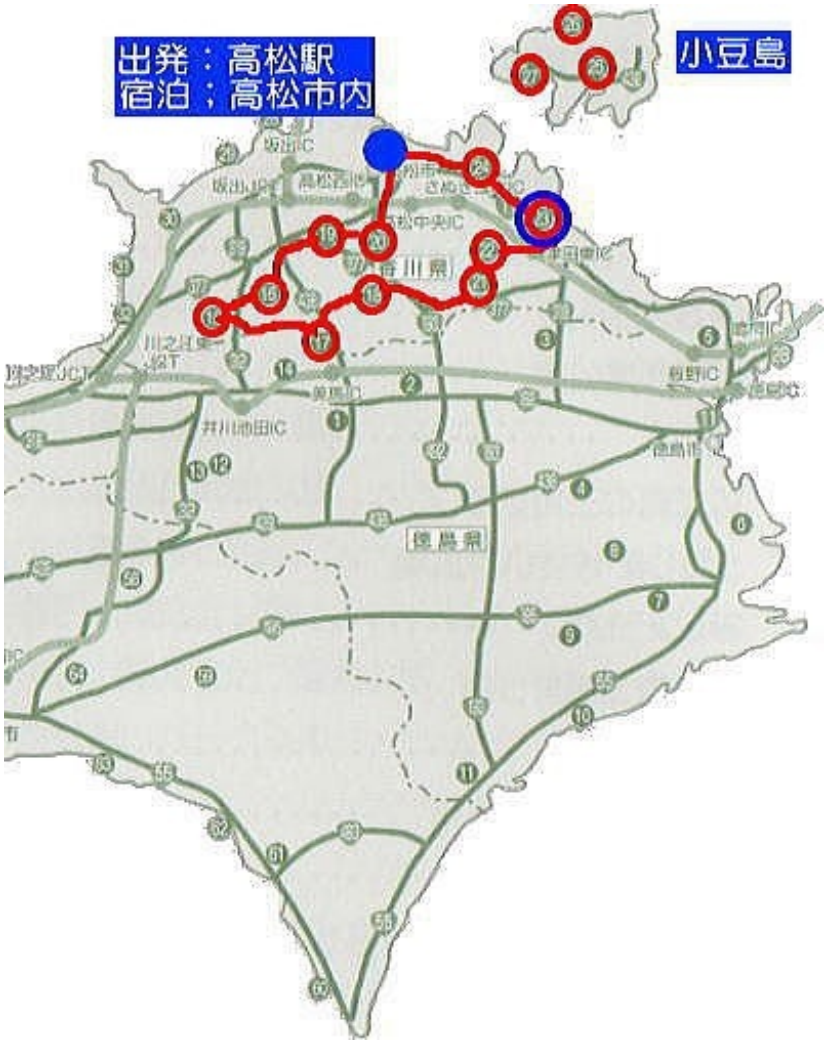
で、更に肝心のスタンプは・・・・・
「すみません、今壊れていて修理に出しているのです・・・・」　えぇぇぇ・・・！

「とりあえず事務所で他のを押しておきますので・・・・・！」
と、押してもらったのがこれ・・・・

これって、スタンプラリー有効なの？？
最初から波乱のスタート！

３０００本の松林！“津田の松原”

四国の２か所目は、同じ国道１１号線沿いで、距離にして１１ｋｍほど離れた
道の駅津田の松原 です。



津田町は江戸時代から年貢米の積出港であった津田港を中心に栄えた町です。
そして、ここには道の駅の看板とともに、こんな看板があります。

香川県立の “琴林公園（きんりんこうえん）” です。

琴林公園の名前は、松林を吹き抜ける風音がまるで琴を奏でるように聞こえることから名づけられたそうですが、一般には “津田の松原” と言います。
これが、道の駅の名前なんですね！

ですから、駐車場のまわりもぐるりと松林です。

道の駅の建物は国道に面した場所にありますが、あまり大きくなく、こじんまりしています。

店内に入ると、レジのおばさんがいきなり声をかけてきました。
「スタンプは、そこにあるよ！」

えっ！どうしてわかったの？

あっ、そ〜か、手にスタンプ帳を持ってたんだ！
多分、この手の客はスタンプだけ押して何も買わずに立ち去る客と見抜いたのでしょう！
鋭い！

店の外に、見覚えのあるものが・・・・・

これは以前 “瀬戸大橋記念公園” で見かけた 「親切な青鬼くん」 ではないですか！
座っている台座に 「観光客に親切に」 って書いてありますよ！

さて、折角来たので津田の松原を見てみることにしました。
駐車場の奥から入って行くのですが、入り口に全体の案内板があります。

ずいぶんと広大な公園です。

すぐ横に 「石清水神社」 というのがあり、その別当常楽寺の僧が６００年前に防風林として松を植えたのが始まりだそうですが、現在は３０００本の松林が広がり、白砂の自然海岸とともに青松白砂のレクレーション基地になっています。

ここでは海水浴やボートセイリングはもちろん、ビーチバレーフェスティバルや手作りカヌー大会なども毎年開催されます。

また、根元の砂が削られ、あたかも根が浮き上がったような 「根あがり松」 が有名です。

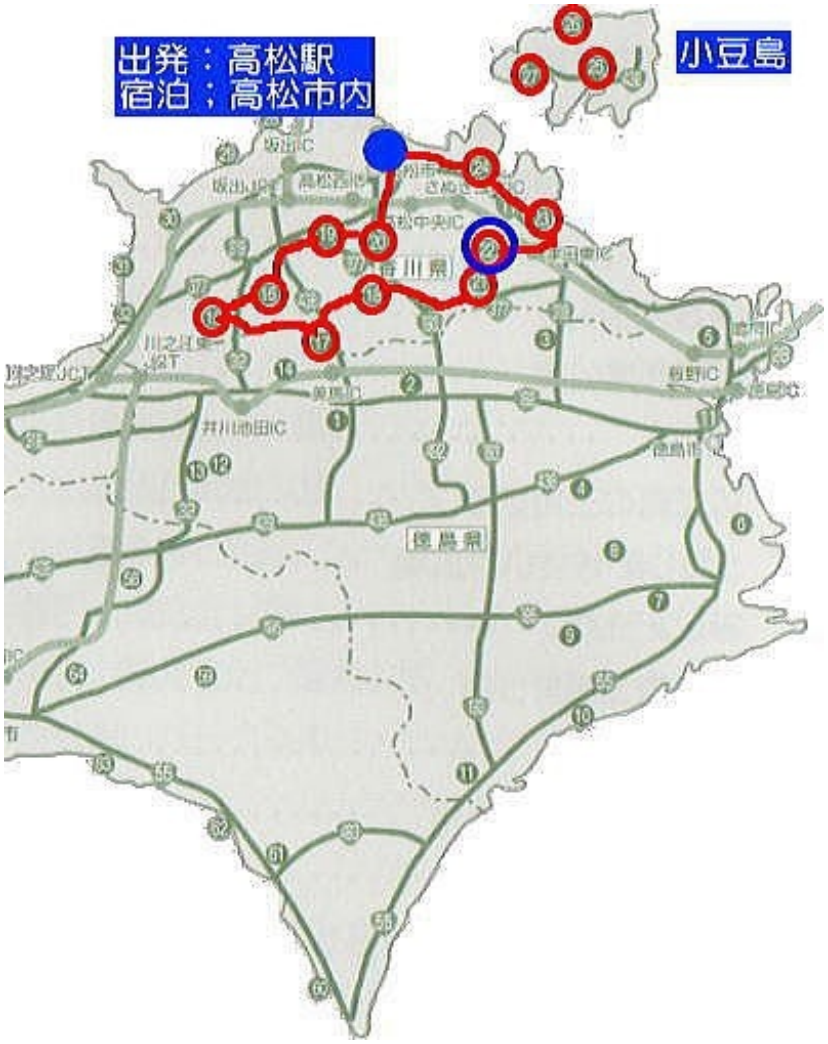
ここへ到着した時点では、最初の写真でお分かりのように空は再び曇っていて、地面は濡れていますね。

でも、またしてもこの道の駅にいる間に太陽が顔を出し、上の２枚の写真でははっきり “影” が写っています。

これで、私ははっきり “晴男” としての神通力がある、と確信したのです！（笑）

自然公園に併設！“みろく”

本日の３か所目は海岸線の国道１１号線を離れ、県道１０号線に入ります。
少し山道を辿って、
道の駅みろく へ到着しました。



ここは、道路を挟んで両側に道の駅の施設があり、それを陸橋で繋いでいます。
上の写真が物産館、レストラン、情報コーナーなどのあるメインの施設です。
これは陸橋の上から撮ってみました。

そして道路の向かい側はこうなっています。

向かい側には、ふれあい市場、青果物の直売所などがあります。

さて、元に戻って左端の物産館に入ってみました。

スタンプはここに置いてあり、とりあえず３個目をゲット！
物産館といっても商品は少なく、大半は軽食のコーナーになっていました。

中央は“ありえす”という海鮮レストランで「各種定食５００円より」ののぼりが目を引きます。
ここは、中央の石段を上った高台にあります。

一番右端にあるのが、トイレと情報コーナーですが、ここにはエレベータもあります。

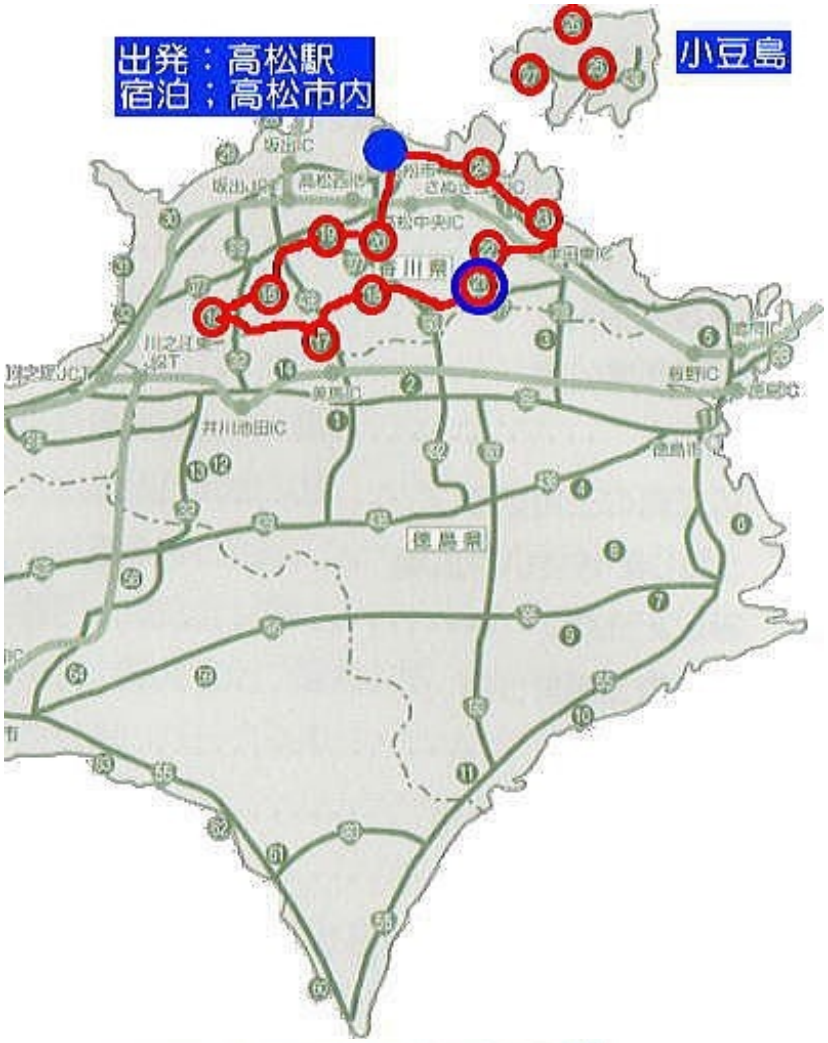
さて、建物全体をご紹介したところで、実はここは“みろく自然公園”というでっかい公園の一角なのです。

中央にみろく池があり、「ゆ～とぴあみろく温泉」という宿泊温泉施設があります。
そして周辺には、野球場、サッカー場、テニスコート、キャンプ場、ログハウス、バーベキューハウス、ちびっこランド、アスレチックなどのレジャー施設が点在します。

そしてもう一つ、このみろく自然公園を見下ろす位置に、四国最大の前方後円墳である“富田茶臼山古墳”があります。
この付近は、こういった重要な文化財と自然豊かな環境に恵まれた地域と言えます。

お遍路さんの終着駅！“ながお”

次に向かったのは、静かな山間にある
道の駅ながお です。



道の駅の裏側は深い山で、道路を挟んだ反対側には “前山ダム” の湖畔が広がる自然に恵まれた環境の中にあります。

上の看板にお遍路さんの絵が書いてありますね。

実はここは、四国霊場８８ヶ所の最終札所である 「大窪寺」 参拝に向かう途中にあり、結願所を目前に疲れを癒す場所として利用されているのです。

四国を旅すると、このような「何番札所」と書いた看板を目にしますが、これが八十八番、つまり最後のお参りをするお寺なのですね。

そして道路を挟んだ向かい側に 「おへんろ交流サロン」 があり、資料館や研修センターが整備されています。

他にこんなものも見かけました。
私にはあんまり関心がありませんが、お遍路さんにとっては “聖地” なのでしょう！

この「おへんろ交流センター」のある道路側は、その真裏がダム湖畔です。

とってもきれいな湖畔で、ここから湖面へ下りてゆくことができます。
魚釣りをしている人を見かけました。

さて、道の駅にはいってみるとこんな具合です。

情報コーナーにはでっかいお地蔵さんの絵が飾ってあり、売り場では竹細工が目立ちます。

この日、ホテル指定のパーキングに車を預けたとき、「八十八ヵ所めぐりですか？それともうどん食べ歩き？」って尋ねられました。

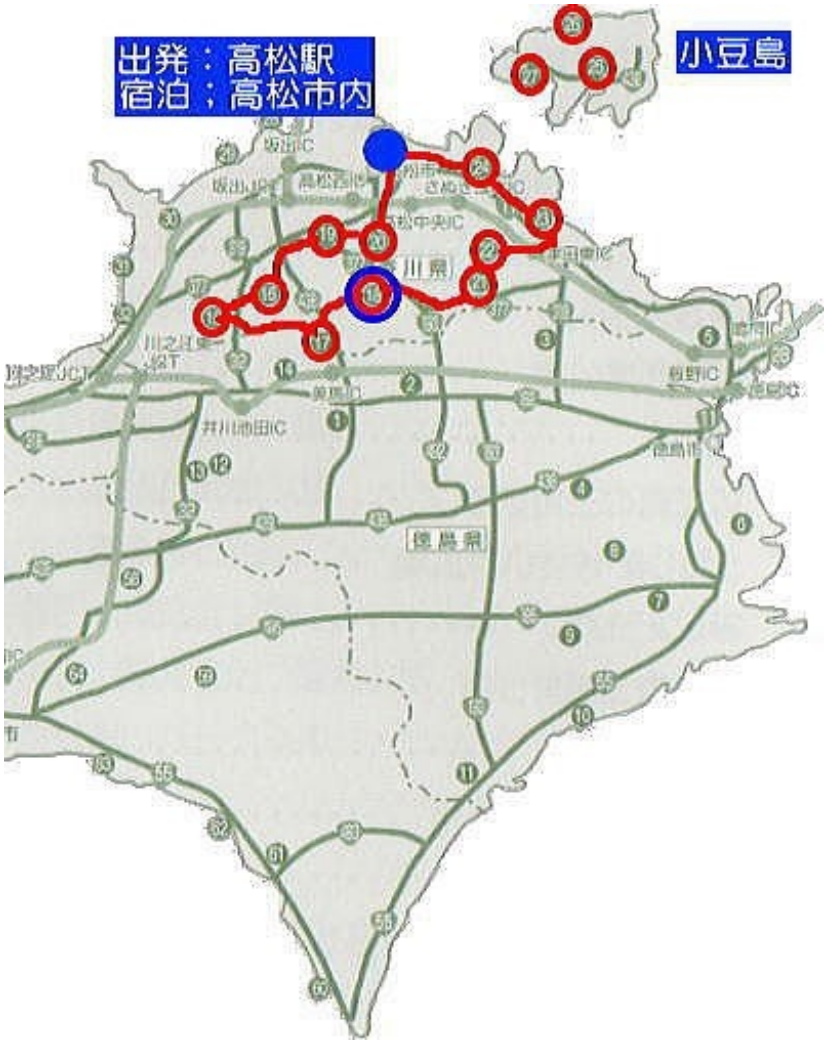
「道の駅めぐりなんです！」と答えたら、意外そうな顔をされました。

四国といえば、やっぱり四国霊場八十八箇所かさぬきうどん巡りがメジャーなのでしょうね！

SANUKI-SHI
道の駅
なかお

塩江温泉の中心部！“しおのえ”

次の目的地は、３０分ほど離れた
道の駅しおのえ です。



みろくを出る頃から雲行きが怪しくなってきました。
途中から雨が降り出し、道の駅に到着したときは叩きつけるような土砂降り！
くるまから出るのも躊躇されます。

この道の駅にいる間ずっと激しく降っていましたから、私の “晴男” の神通力は既に使い果たして残っていなかったのでしょう！

激しく降っている雨がわかりますか？

ここ高松市塩江町には、県下唯一の温泉郷である「塩江温泉」があります。
道の駅しおのえは、その温泉卿の中心部にあります。

真裏を川が流れており、それを渡った先にも温泉館が見えます。

そして足湯 もありますね。
でもこの激しい雨では付近をうろうろすることもできません。

またすぐ近くには 「内場池」 という県内屈指のダム湖があり、そこではヘラブナやブラックバスが釣れる絶好のポイントがあるそうです。

中に入ってみました。
雨宿りなのでしょう、結構大勢の方たちがおられました。

中は外見でみるより意外に広い売り場になっています。
7～９月の夏場は、毎週「日曜朝市」が物産館前で開催され、たくさんの人々が集まるそうです。

売り場で何か変なものを見つけました。

この右側に下がっているもの、女性の下着のようにも見えますね！
これは “灯篭” なのです。

四国霊場八十八ヵ所を回るときに使うのだと思いますが、四国ならではの商品ですね。

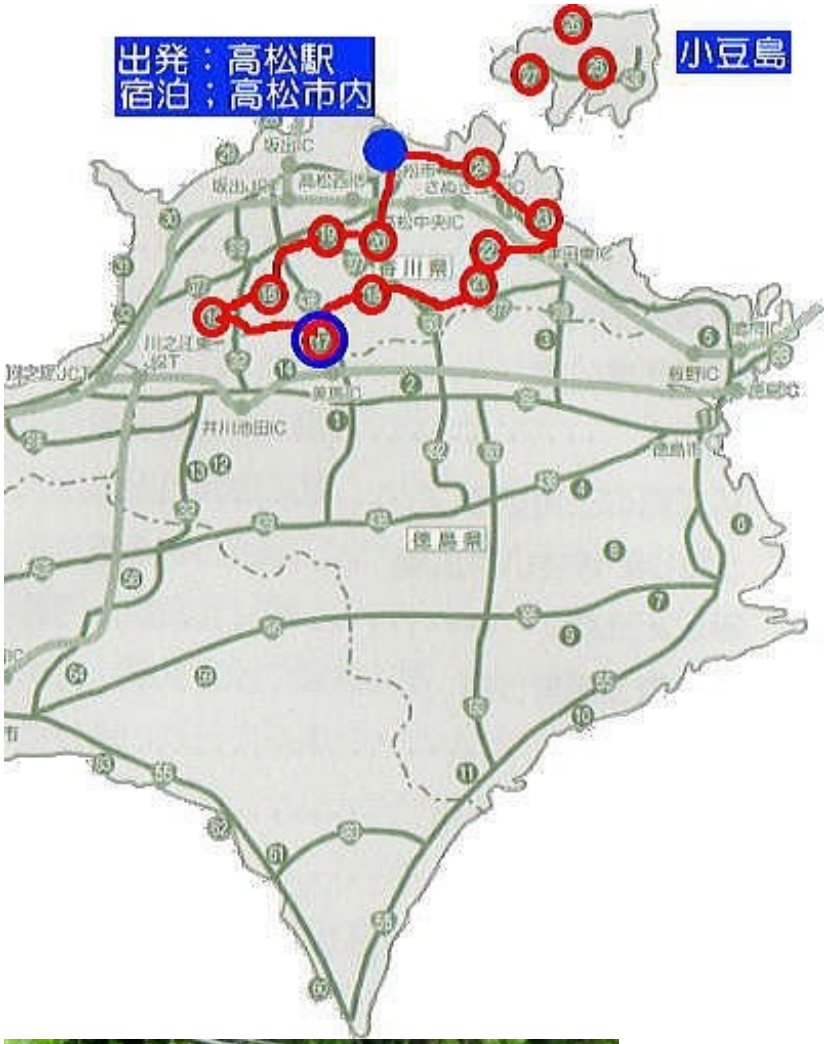
さて、今の時間は１３時１０分です。
おなかが空いてきましたが、まだ５箇所も残っているのです。

結局いつもと同じパターンで、ここでパンを買い込み、走りながら食べることにしました。

平賀源内ゆかりの温泉！“ことなみ”

次の道の駅までは30ｋｍ、45分ほどかかって到着しました。

道の駅ことなみ は、深い山里にあります。



琴南は、香川県の最南端、徳島県との県境に近い讃岐山脈に抱かれ、県下唯一の一級河川である“土器川”の最上流域に位置します。

金毘羅さんで有名な琴平の南にあるので“琴南”（ことなみ）と名付けられたそうです。

ここは周りを深い山々に囲まれた峠の町です。

周りには遊歩道があり、木々の鮮やかな緑が雨上がりの空の下でひと際映えています。

これが道の駅の全景ですが、ここも “温泉” が併設されています。
というより、温泉の方がメインの施設のようです。

こんな看板がありました。
“平賀源内ゆかりの温泉” だそうです。

これは、江戸時代の発明王「平賀源内」が絶賛し、その書物 「物類品隲」 の中にこんな文章を残しています。

「奥林の石壁から滴っている白い乳のようなお湯…土地の人は石の乳と呼び、やけど薬として珍重している・・・・」

更に源内は、江戸・湯島で開かれた「薬品会」にこの “石の乳” を出品しています。

道の駅のメインの建物にはこの様に大きく “ゆ” ののれんがかかっていました。

そして中に入ってみると・・・・・

やっぱりこれは “温泉” ですね。

ここは「美霞洞（みかど）温泉」という昔からの湯治場の一角になるものです。

そしてこの建物は「エピアみかど」という、温泉および宿泊施設になっています。

フロントの付近に“道の駅スタンプコーナー”があり、スタンプインクだけ置いてありますが肝心のスタンプがありません。
代わりに「スタンプは売店にあります」と張り紙がしてあります。

変だな、と思いながら売店へ行って尋ねると、カウンターの下からスタンプを取り出し、「あそこのスタンプインクで押してください」と先程のスタンプコーナーを指差します。

結局また戻ってスタンプを押し売店に返却すると、次の客がきて同じことを聞いていました。

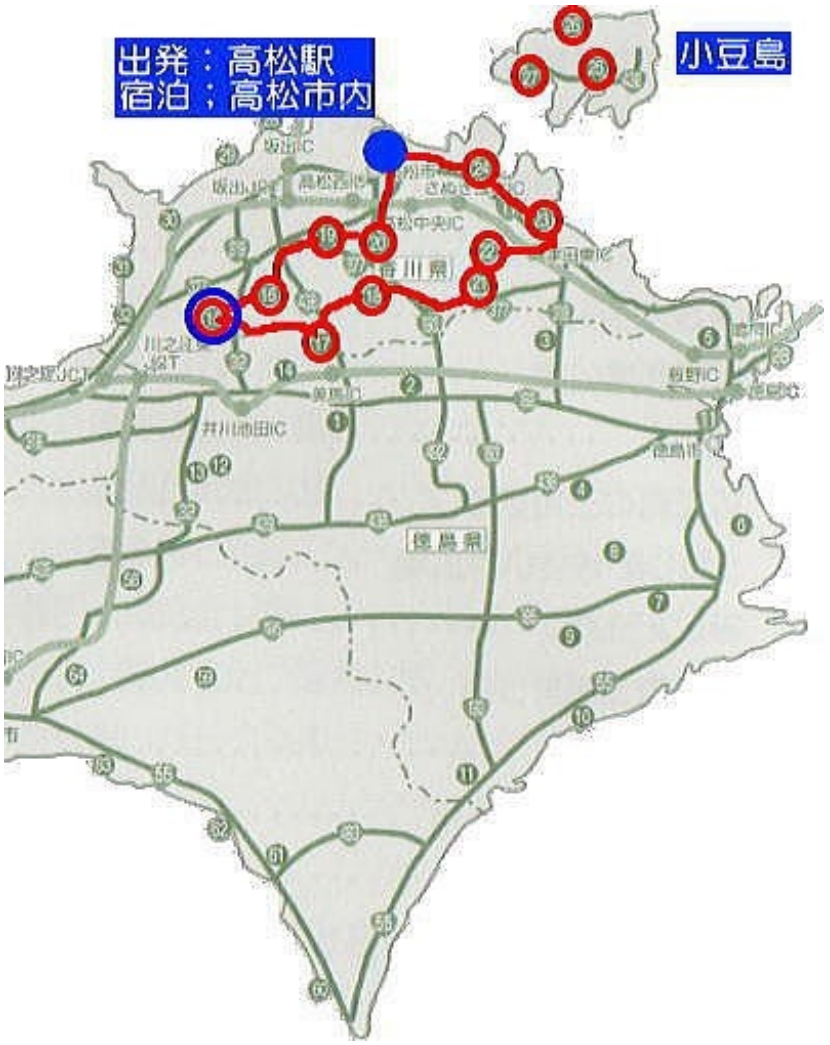
スタンプをわざわざ隠しておかねばならないとは、これを盗んでゆく不届き者がいるのでしょ

うか？
それとも、“源平の郷むれ” みたいに、スタンプを壊す者がいるのかな？

それにしても情けない話ですね！

阿讃山脈の稜線をイメージ！“たからだの里さいた”

道の駅たからだの里さいた へは、40分弱で到着しました。



ここ財田町は、香川県の西南部にあり、財田川が流れ、古来より「たからだの里」と呼ばれて、お米、みかん、富有柿、桃、たけのこ等と豊かな恵みを生んできました。

ここの物産館の屋根はなだらかに波打っており、「クジラ」かな？って思いました。
実際は、県境に連なる “阿讃山脈” の稜線をイメージしたものだそうです。

“阿讃” って、阿波と讃岐の両方に連なる山脈だからついた名前でしょうね！

ここ “たからだの里” も、温泉、宿泊・研修施設、パークゴルフ場などの複合施設です。

ふるさと伝承館やゲートボール場もあるんですね。
これらの施設は、市、ＪＡ．地元商工会などが出資した第三セクター「株式会社たからだの里」が運営しています。

こちらは“インフォメーションコーナー”のある建物です。

物産館の中はとっても広いです。
農業の町だけあって、たくさんの作物が並んでいます。

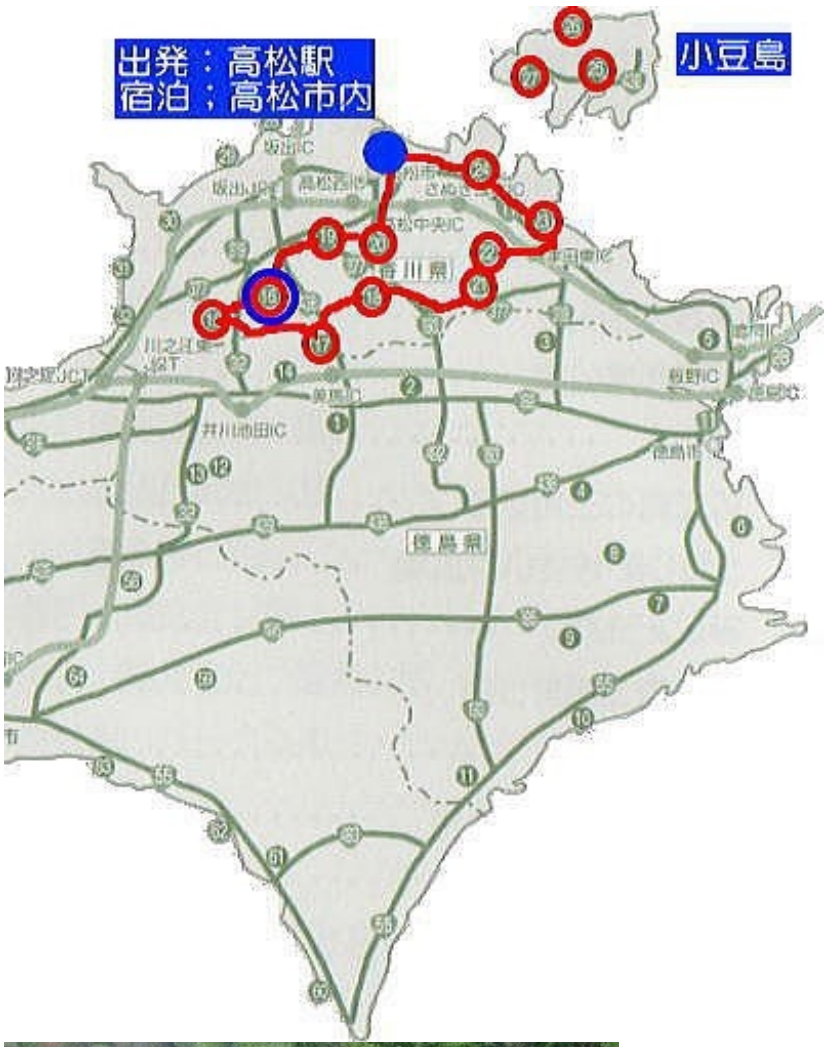
このでっかいのは何だろうと思ったら、「しょうが」でした。

天気は相変らす降ったりやんだりの繰り返しです。
時間は現在15時40分、残り3か所、なんとか回れそうです。

飛行機を考案した日本人！“空の夢もみの木パーク”

次にやってきたのは
道の駅空の夢もみの木パーク です。

ここは、国道32号線の山間部で、もみの木が群生していたことから “もみの木峠” と名付けられたところにあります。



この駐車場には目立つシンボルがあります。

セスナ機です。
う〜〜ん！本物だろうと思うのですが・・・・？？

何故ここに飛行機があるのか、そしてこの道の駅の名前が何故 “空の夢” なのかを説明する前に、まず道の駅の全体像をご紹介します。

右正面が道の駅の本体である “交流センター”　“特産品センター” です。

右奥に小さく鳥居が見えますね。（あとで紹介します）

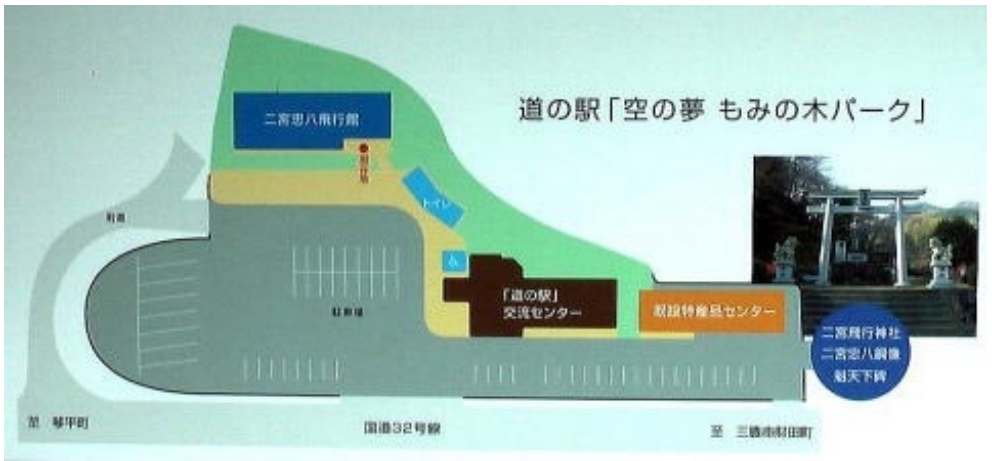
そして左側にある建物が “二宮忠八飛行館” なのです！

中央を拡大すると、こんな看板があります。

“二宮忠八”って誰？と思われるでしょうね！
ライト兄弟が世界で初めて飛行機で空を飛ぶ以前に、飛行機の原理を思いついた日本人がいたのです。
二宮忠八の業績をここ“まんのう町”のＨＰから引用させてもらいます。

二宮忠八翁 明治22年(1889)11月9日、陸軍衛生兵二宮忠八は、演習の途次、正午過ぎ本町の縦の木峠でカラスの滑空する姿を見て飛行原理を着想した。
着想を現実のものとするために、鳥や昆虫の観察を続け明治24年には、カラス型模型飛行器を飛ばすことに成功した。
その後、二枚翼の玉虫型飛行器の実用機の完成を目指し、日夜研究を重ねたが、あと一歩のところでライト兄弟に先を越された。
自らの考えていた飛行機が現実に世界の空を飛び交うようになったとき、その事故による犠牲者の多さを嘆き、自宅に「飛行神社」を建立し、航空殉難者の慰霊に一生をそそいだ。

もっと詳しいことは、Wikipedia を見てね！　→　二宮忠八リンク



この飛行館には、実際二宮忠八が考案した“カラス型飛行器”　“玉虫型飛行器”が展示してあります。

早速行ってみました。
そしたら・・・・・・・・　！

入り口は閉まっています。
開館時間は ＡＭ10：00～ＰＭ4：00、そして今の時間は 16：10
あっちゃ～！

子供のころ“科学少年”だったボクはこういうものにすごく興味があるので・・・・残念！

この道の駅の奥に神社が見えるので行ってみました。
これが “二宮飛行神社” なのです。

中央に立っておられるのが “二宮忠八翁” ですね。
そのすぐ左に台座があり、何か乗っています。

それを拡大したのがこれです。

世界で初めて考案した原理で飛ぶ飛行機です。

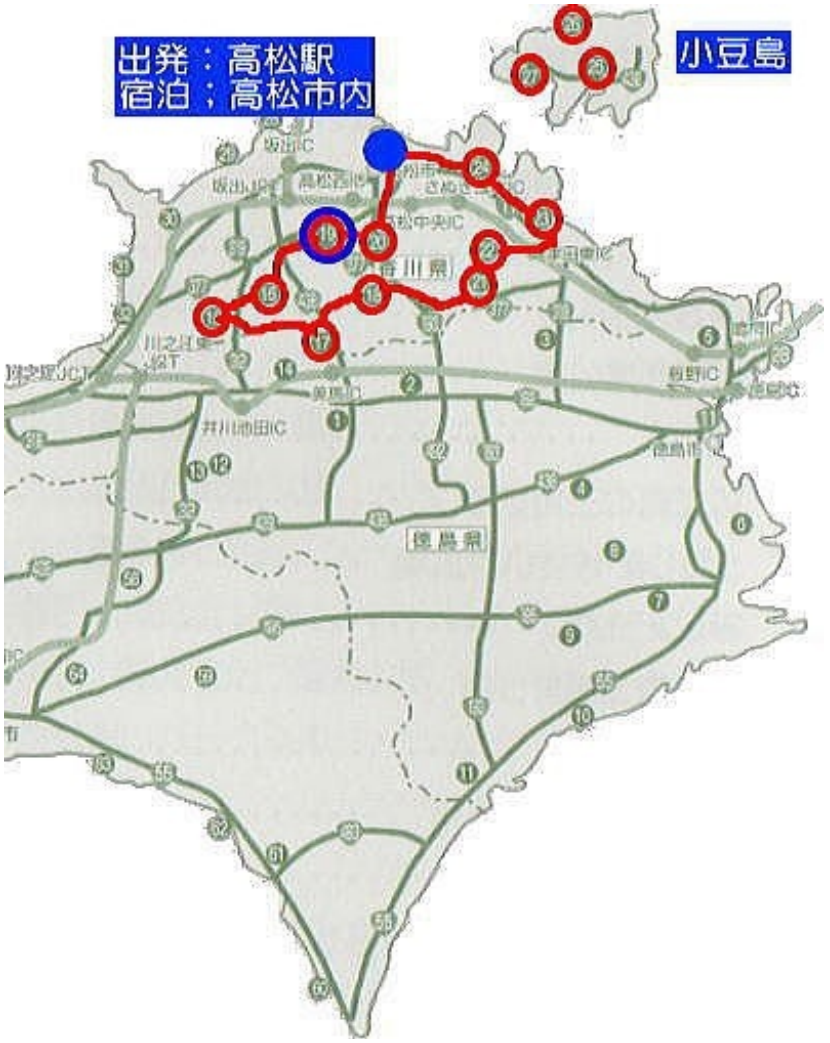
“二宮忠八” という人物自体今日初めて知りましたし、ライト兄弟より先に日本人が飛行機の原理を発明したなんて驚きでした。

当時の軍が彼の発明を理解し、資金を提供する者が出ていれば、歴史は大きく変わっていただろうと思います。

神社に立つ二宮忠八の目線からみたセスナ機です。
毎日どんな気持で眺めているのでしょうか！

うどん発祥の地！“滝宮”

国道32号線沿いに、さぬき百景に選ばれた桜の名所 “滝宮公園” があります。
道の駅滝宮 （たきのみや） は、その公園に隣接しています。

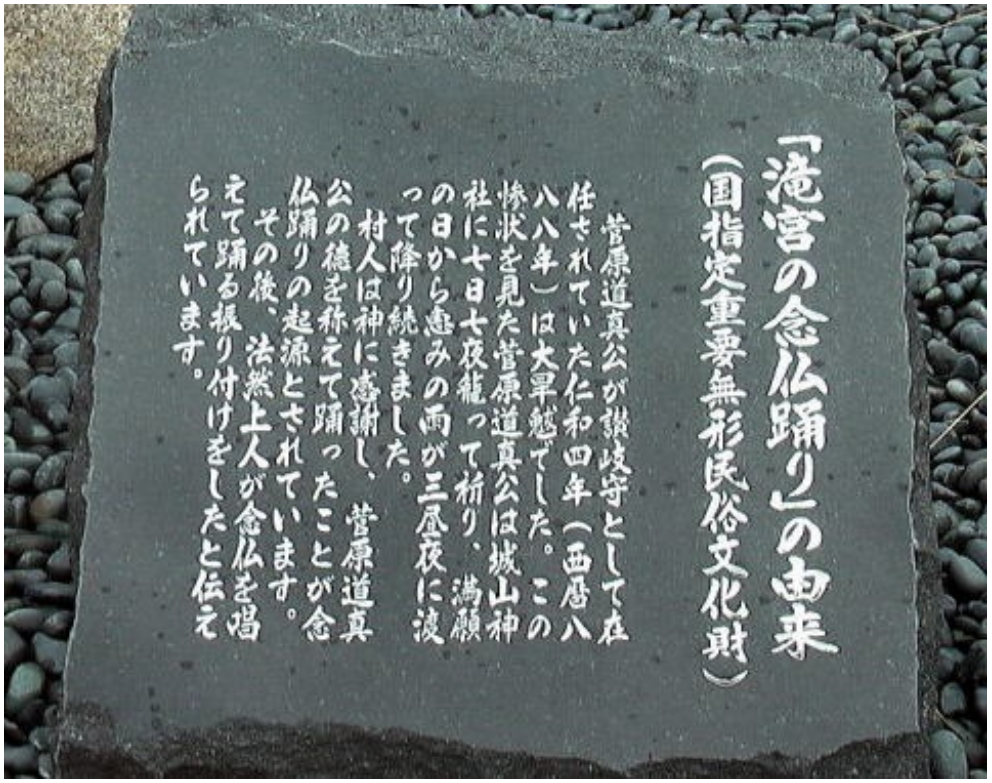


ここには、こんな大きな看板が・・・。

そしてこの看板の右下に小さく見える怪しげな人影は・・・・？

これは“滝宮の念仏踊り”といいます。

どんな由来の踊りかというと　・・・・
面倒なので、そのまま画像を出します。　　・・・　手抜きだ～！（;´▽｀A``

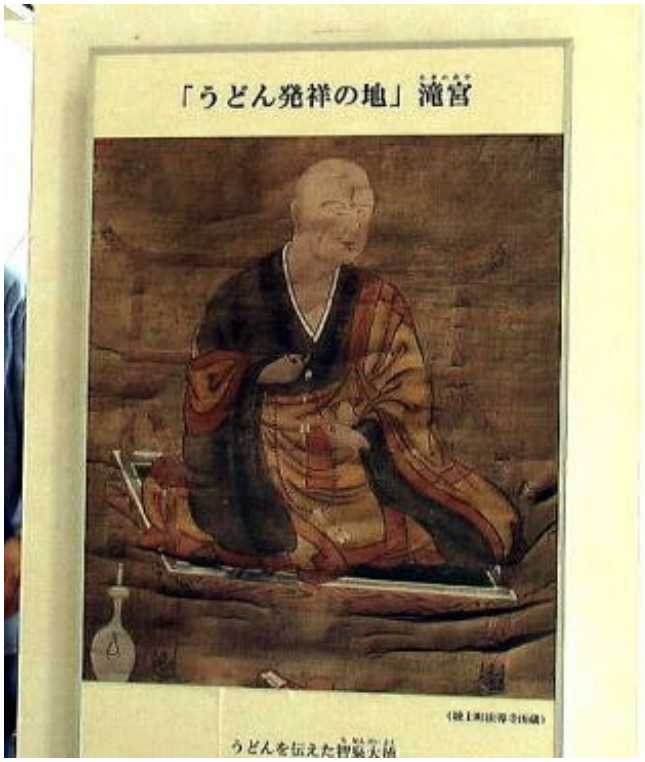

「滝宮の念仏踊り」の由来
（国指定重要無形民俗文化財）
菅原道真公が讃岐守として在任されていた仁和四年（西暦八八八年）は大旱魃でした。この惨状を見た菅原道真公は城山神社に七日七夜籠って祈り、満願の日から恵みの雨が三昼夜に渡って降り続きました。
村人は神に感謝し、菅原道真公の徳を称えて踊ったことが念仏踊りの起源とされています。
その後、法然上人が念仏を唱えて踊る振り付けをしたと伝えられています。

で、道の駅は？というと　・・・

道の駅
滝宮
綾川町
うどん会館

最初の看板にも大きく “うどん会館” と書いてありましたね。
ここ綾川町滝宮は 「うどん発祥の地」 なのだそうです。

中に、こんな肖像画がありました。



うどんを伝えた“智泉大徳”（ちせんだいとく）の肖像画です。
その説明は以下の通り。

延暦8(789)年2月14日、父滝宮龍燈院の菅原氏、母空海の姉（後・智縁尼）の間に生まれる。空海門下第一の秀才と評され、十大弟子とも四哲とも言われています。
延暦23(804)年、遣唐使として入唐した空海が大陸の進んだ文化を携えて帰国すると、空海から「うどんの祖」を伝授され、故郷である滝宮の両親をもてなしたのが、讃岐にうどんが伝わった最初と言われています。

ですからこの「うどん会館」には、うどん打ち体験室、実演コーナー、そしてもちろんレストランでは手打ちうどんが味わえます。

外にはこんなものがあります。

水車の左後ろにはウッドデッキも見えますね。
そしてこの道の駅の裏側には川が流れており、洒落た橋がかかっています。

なかなか風情のある風景です。

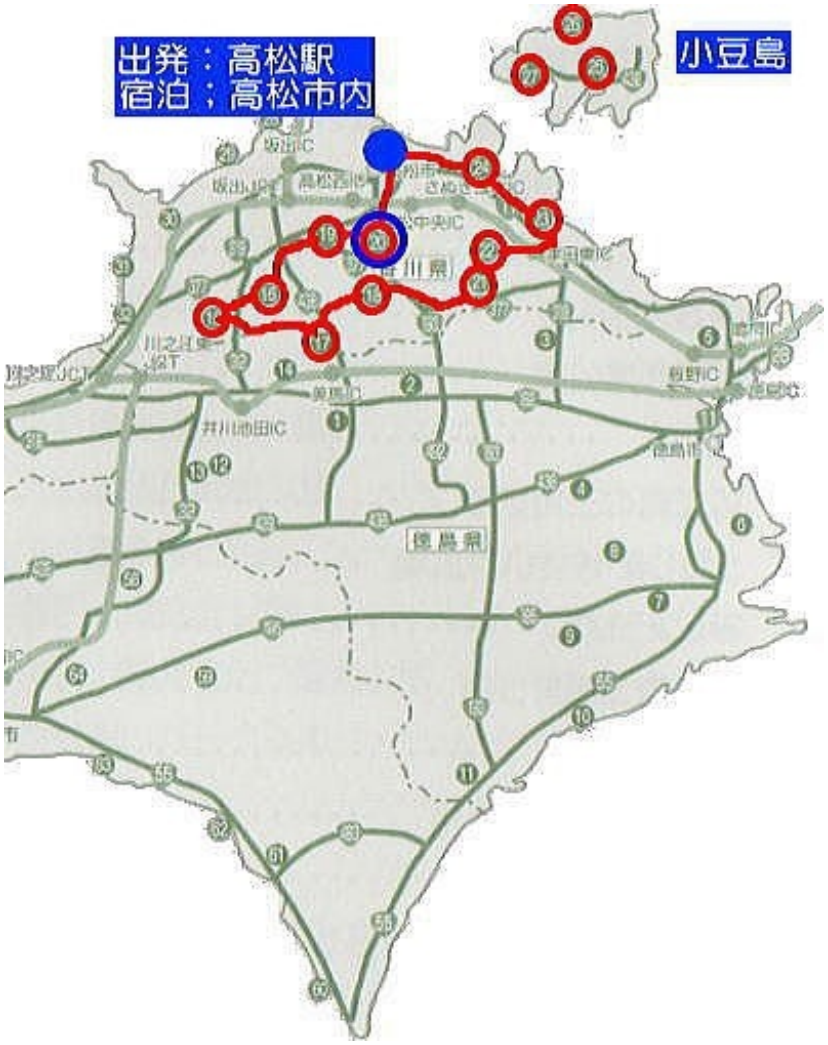
さあ、今日はあと1か所になりました。
時間は16：50ですから、十分間に合いそうです。

道の駅
滝宮
うどん発祥の地
綾川町
うどん会館
TEL 087-876-5018

日帰り温泉施設！“香南楽湯”

初日最後の道の駅、10か所目は高松空港まで5分という距離にある
道の駅香南楽湯（こうなんらくゆ）です。

今日はずっと降ったりやんだりのお天気でしたが、ここでは雨が降っています。



高松市までかなり近いところまで戻ってきました。
県道13号線沿いですが、結構交通量の多い道路に面しています。

ここは、その名の通り “温泉” がメインの施設です。
日量１８０ｔという豊富な湯量を利用し、「石の風呂」と「木の風呂」という巨大な温泉が週替わりで男湯と女湯にチェンジします

他に薬草風呂・香湯・寝湯・露天風呂・サウナなど個性豊かな温泉を楽しむことができます。

この白い、丸い部分が全面ガラス張りのレストランです。

庭がきれいに整備されており、中央には玄関に続く屋根つきの通路があります。

玄関から中に入ってみました。

エントランスの左右に、レストラン入り口、温泉入り口のちょっとものものしいドアがあります。

温泉入り口の方に入るとそこには、温泉受付のカウンターと売店がありました。

ここの売店はとても商品が豊富です。
ちょっと珍しいものを見つけました。

讃岐うどんの缶詰です！
きつねうどんとカレーうどんの２種類があります。

早速１個づつ買って帰りました。
この食べ方は、中身をそのままどんぶりに移し、電子レンジで１分温めるだけです。

こんな具合ですね！
で、お味のほうはというと・・・・・

う～～ん！
この缶に「蒟蒻入り麺」と書いてありましたが、「蒟蒻」そのものですね！
蒟蒻をうどんの形に細長くしたような味で、讃岐うどんの味ではありません。

珍しいので話題性はありますが、１個３１５円は高かったようです。

この温泉のキャラクタ「ししまるくん」です。
すぐ近くに大獅子で有名な冠櫻神社があり、その獅子頭は大人８人でやっと持ち上がる大きさなのだそうです。

さて、この温泉を離れたのが17：30、そしてちょうど３０分で高松駅付近のホテルに到着しました。

ホテルは高松屈指のアーケード街の中にありました。
朝食付き２名でわずか３９８０円で宿泊したのは、以前の記事で書いたとおりです。

そして同じアーケード内にある和民の居酒屋で今日１日の疲れを癒しました。

明日は、いよいよ“小豆島”へフェリーで渡る予定です。

道の駅
Kounan-rakuyu
香南楽湯

いざ！小豆島へ！

いよいよ２日目です。
朝起きると窓の外は雨が降っていて、がっくり！

でも、朝食を済ませホテルを出る頃にはすっかり雨はあがっていました。
８時過ぎに駐車場を出発し、１０分ほどで高松港へ到着です。

高松港からは、瀬戸内海のいろんな島々や本州へのフェリーが出ており、小豆島行きは広い港の一番端にありました。

入り口を入ると、案内のおじさんが「池田港行きが８：３２だよ！」と教えてくれました。
えっ！池田港ってどこ？

実は事前にネットで調べていたのは「土庄港」というところへ行くもので、それは９：００出港のはずです。

「小豆島のどこへ行くの？」
道の駅なんですが・・・！

「どこの道の駅？」
えっと～！確かぁ“ふるさと村”

「そこだったら池田港が一番近いよ！」
てなことで、急遽このフェリーに乗ることに！

高松からのフェリーは土庄港行きしかないと思いこんでいたら、何か所もあるんですね。
急いで切符売り場で切符を買い、フェリーに乗り込みました。

早速甲板へ！

この “きりん” 実はこれが「階段」で、ここから甲板に出てくるのです。

結構楽しい甲板です！

この高松港周辺は、近代的な高層ビルが立ち並んでいます。
高松って、都会なんだな、とあらためて感心！

そのビルの谷間にお城を発見！
本物かな～　、良く分かりません！

出港してしばらくすると、空は晴れてきました！　やったー！
折角の小豆島ですから、今日は晴れて欲しいものです。

甲板を降りて船室へ行ってみると、結構立派です。
でも、朝早い便のせいでしょうか、がらんとしています。

折角の瀬戸内海、船室にいてはもったいないのでデッキのベンチに腰をおろします。
心地よい海風の中、瀬戸内海の青い海原と島々を心ゆくまで堪能しました。

乗船時間はちょうど１時間です。
途中、池田港から高松に向かう同型のフェリーとすれ違いました。

こちらは“きりん”ですが、向こうは“パンダ”です。
そして小豆島の陸地が見えてきました。

いよいよ小豆島へ初上陸です！！

オリーブの島！“小豆島ふるさと村”

小豆島池田港の岸壁に接岸し、フェリーから地上に降りて最初に目指したのは
道の駅小豆島ふるさと村 です。

池田港からはわずか５ｋｍしか離れておらず、当初予定していた9：00出港の土庄港行きに乗ることを考えると、随分時間の短縮になりました。

天気は、すっかり晴れあがっています。
“晴男” 復活です！

この “小豆島観光案内図” を見ると、“小豆島に来た～！” っていう実感が湧いてきます。

天気が良くなったこともあって、島全体に明るく開放感を感じます。

道の駅は、この先端が尖った円筒形の建物がシンボルですが、これは現代美術を展示する “池田町美術館” になります。

その裏側に “ふるさと物産館” があります。
売店と食堂ですね。

物産館の前にある石のオブジェ、これは “オリーブの実” を表しています。

小豆島は 「オリーブの島」 とも言われますが、日本で最初にオリーブの栽培に成功したのがここなのです。

次に行く道の駅が「オリーブ公園」ですが、そこに限らず家庭の庭先まで含めた島中のいたるところにオリーブの樹があります。

さて、こんなものもありました。
これは東四国国体のシンボルキャラクターですが、右側は多分オリーブの実でしょうね。

さて、奥に入ると中庭があり、その先に “手延べそうめん館” がありました。

中には入りませんでしたが、ここでは手延べ素麺の製造工程が見られます。
知らなかったけど、素麺は小豆島の特産なんですね。

売店にも、たくさんの種類が売っていました。

ここ “小豆島ふるさと館” は、道の駅だけでなく、総合レジャー施設になっています。

この道の駅から入った裏側に、グラウンドやテニスコート、ロッジ、イベント広場などがあり、
その先には “国民宿舎小豆島” があります。

車でぐるっと回ったら、こんなかわいいのもあったので、おもわず“パチリ”と撮ってきました。

道の駅小豆島ふるさと村
SHIKOKU
KAGAWA
☎0879-75-2266
ROAD STATION FURUSATOMURA

地中海を再現！“小豆島オリーブ公園”

映画 「二十四の瞳」 で有名な瀬戸内海に浮かぶ小豆島、その２箇所目は
道の駅小豆島オリーブ公園 です。

温暖な気候に恵まれたこの島は、日本のオリーブの発祥の地です。

明治４１年に当時の農商務省が三重県・香川県(小豆島)・鹿児島県で、アメリカから輸入した苗木を使って植樹をしたのですが、小豆島のみが成功したものです。

そして、このオリーブ公園のある場所がその発祥の地になります。

やってきました、オリーブ公園！
ここは、“愛とやすらぎのオリーブの丘” として、広大な敷地にさまざまな施設があります。

道の駅は、中央部の “オリーブ記念館” の中にあります。

ギリシア風の重厚な建物です。

その横に、まず “ふれあい広場” があり、その先の建物が “サン・オリーブ” という、温泉施設、並びにレストランです。

手前に植わっている樹は、もちろん “オリーブ” です。

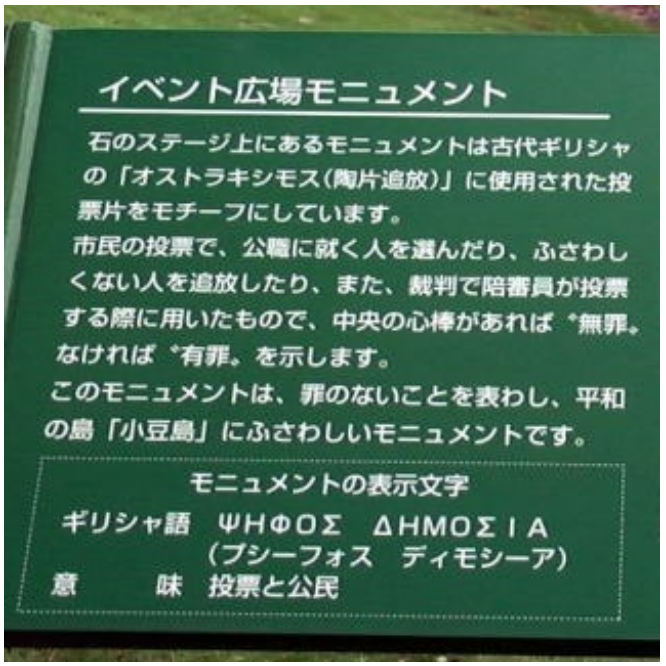
たくさんのオリーブの実がついています。

これがオリーブの樹の説明です。
オリーブは世界に１０００種類もあり、そのうち小豆島で主に作られているのは、「ミッション」「マンザニロ」「ネバディロブランコ」「ルッカ」という４種類なのだそうです。

そして、ここがサン・オリーブの手前の、“ふれあい広場” です。
なんだか、地中海にいるような気がします。（行ったことはありませんけど！）

ここは高台にあるので、眺めは抜群です。

上の写真はイベント広場にあるモニュメントです。
これが何かは、下の説明を読んでね！　（またしても手抜き！）



さて、建物の中に入って見ましょう。

ここにあったものは・・・・

オリーブの女神・アテナ像だそうです。
足元にある写真は・・・えっと～、マラソンの・・・・誰だっけ！忘れた！！

つまり、マラソンで優勝したときの月桂冠もここで作っているんですね！

そして・・・・こいつを発見！！

例の青鬼くんです！

うぉ〜、このぬいぐるみ欲しい！！
と、売店を探したけどありませんでした！　残念！

売店の天井や壁が洒落ています。
とにかくオリーブの製品ばかり・・・・。

パンを小さく切って置いてあり、オリーブ油の試食がありましたが、ボクはちょっと・・！
あまり馴染みがありませんので！

さて、最後にもう一つ紹介したいものがあります。

これは、“ギリシア風車” といって、オリーブ公園のシンボルのひとつですね。
小豆島と姉妹島提携を結んでいる 「ギリシア・ミロス島」 との友好の証として建設されたそうです。

後ろから見るとこうなります。

瀬戸内海の風景に見事にマッチしていますね。

もうひとつおまけの写真です。

これは途中の道路にあったもので、本当はもっとたくさんいたんだけど、走りながらなのでうまく撮れませんでした。

大阪城の石垣はここから！“大阪城残石記念公園”

小豆島の３か所目、今回の最後になるのは
道の駅大阪城残石記念公園 です。

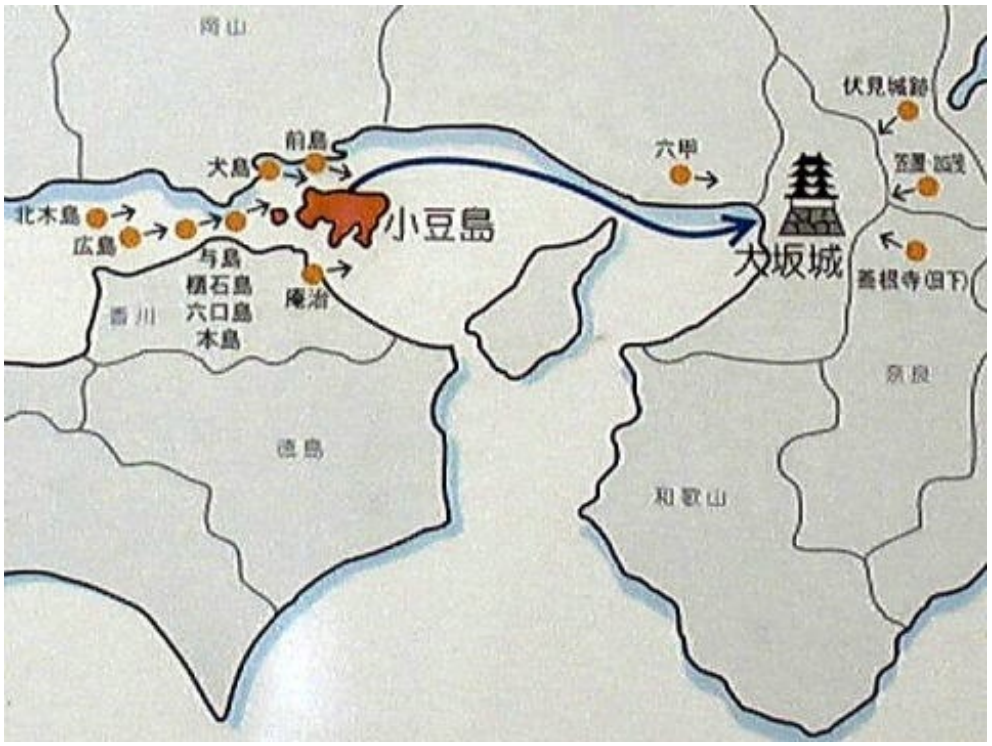
ここは、島の反対側の海岸沿いになります。
一旦西側の “土庄” へ行ってから島を縦断するので多少遠回りですが、道路は快適です。

ここに着くころは空は晴れあがり、最高の天気になりました。
というより、暑い！　じっとしてても汗が流れます！

この石の記念碑「大阪城残石記念公園」の文字は、元首相の細川護熙氏による書です。
細川護熙氏は私が転勤で熊本に赴任していた時代の県知事なので親しみがあります。

何故ここが 「大阪城残石記念公園」 なのか、というのが気になりますね。

今から４００年前、徳川幕府の大坂城拡張・修築工事の際、西日本一帯から花崗岩が集めれ、その数は５０万個以上と推定されています。
その石は、主に六甲山系、生駒山系、そして小豆島をはじめとする瀬戸内海の島々から運ばれたものです。



そして切り出されものの、大阪城には運ばれずここに放置された石が多数残っており、これを “残念石” と言います。

これらを保存し、後年に伝えるために作られたのがこの公園なのです。

ここに一列に並んでいるのが、その残石群（残念石）の一部です。

そしてここは、それらの石を切り出したり加工したり、運んだりした工程が再現してあり、資料館になっています。
当時のままの木造の建物に入ってみました。

建物は細長く「残石棟」「切り出し棟」「運搬等」「加工棟」と続いています。
それぞれの棟に入る度にセンサーが感知し、説明のアナウンスが流れます。
そして、石の現物や実際の加工などに使われた道具がぎっしりと展示されています。

ブルドーザーもトラックも無い時代に、さまざまな工夫をして目的を果たしていたことが良く理解できます。

下の写真の右側の木造建物群が、その資料館です。

そして屋外には、実際に巨石を運んだ道具や・・・・・・

それを海に浮かべた“筏”等も再現されていました。

道の駅の裏側には港があり、その先に瀬戸内海と、その島々が広がります。

裏手は山々が連なっていますが、ここから岩石を切り出したのでしょうか・・・
山肌が削り取られています・・・。

資料館以外では「休憩所・情報コーナー」と「喫茶・売店コーナー」がありますが、ちょっと貧弱な感じです。

この最後の道の駅で食事にしようと思っていた当ても外れ、小豆島を離れることにしました。

帰りは「土庄港」（とのしょうこう）からフェリーに乗ります。
これがフェリーターミナルです。

来る時はがらんとしていたフェリーも、帰りは高校生の修学旅行（らしい）と一緒になり、賑やかな船室でした。

高松にもどり、時間があるので最初行った「源平の里むれ」 にもう一度行って土産を買いこみ、讃岐うどんを食べ、そして家路につきました。

初日の雨は仕方がないとして、今回特に楽しみにしていた小豆島が晴天だったので、ラッキーな旅になったと思います。

世界一の斜張橋を望む！“今治市多々羅しまなみ公園”

「こだま指定席往復切符」 を使って “新尾道駅” に着いたのが9：10です。
“こだま” というのは各駅に停車するだけでなく、駅での 「時間待ち」 が多いのには閉口しました。

新尾道でレンタカーを借りたのですが、ＪＲ系の 「駅レンタカー」 はここには営業所が無くてマツダレンタカーに業務委託をしてます。
でも、一応こだま割引の特典である 「最初の２４時間は２０００円！」 が使えるので助かります。

ですから、今日の車はマツダの ”デミオ” です。

新尾道を出発して “しまなみ海道” を辿り、最初にやってきたのは
道の駅今治市多々羅しまなみ公園 です。

実は今日の予定の９箇所の道の駅のうち、４つがこの尾道と今治を結ぶ “しまなみ海道” にあるのです。
新尾道を出発地に選んだのもこの理由です。

岡山側の “瀬戸大橋” と比べると “しまなみ海道” は「島」の上を通る部分が多く、極端に長い橋は少ないようです。

ですから、ここも “大三島”（おおみしま） という島にあります。

この、世界一の斜張橋である “多々羅大橋” を渡ったところにこの道の駅はあります。
そしてこの “しまなみ海道” には自転車専用の道路があり、全ルートのサイクリングができます。

途中でも自転車で走っている人たちを沢山見かけましたし、ここにもレンタサイクルがあります。

さて、この道の駅の全体はこうなっています。

右側のとんがった屋根のあるのが物産館です。

中央の壁に 「スタンプこちら」 と大きな、きたない字（笑）で書いてあります。

そしてその左側にある建物は、主に海産物を売っていて、レストランもあります。
２つの建物は中で繋がっています。

そしてこの “海産物の売り場” には、巨大な水槽が２つあり、鯛やヒラメが泳いでいます。
そこには “丸ごと姿料理” の看板が・・・。

更にその天井には・・・・・

巨大な“ヒラメ”がいました！

もう一つ気になったものがあります・・・・・。

これは、道の駅の裏側の山ですが、右の建物の横に何かありますね！

拡大してみましょう！

な、なんでこんなところに海上自衛隊のヘリがあるの？
エンジントラブルで不時着したのか・・・・？
謎です！！

ここは、景色の恵まれたとても素敵な道の駅でした。

道の駅
多々羅しまなみ公園
上浦町
TEL(0897)87-3855

かつては神の島！“しまなみの駅御島”

２箇所目の道の駅は、しまなみ公園と同じく “大三島” の中にある
道の駅しまなみの駅御島（みしま） で、わずか６ｋｍ程しか離れていません。

この “大三島”（おおみしま） というのは、芸予諸島の中のひとつで、愛媛県の最北部に位置します。
ここには “大山祇神社（おおやまずみじんじゃ）” というのがあり、かつては “神の島” として、魚類を採ることさえ長らく禁忌されていたそうです。

“大山祇神社” というのは、全国の山祇神社、三島神社の総本社であり、国宝８件、国の重要文化財７５件が収められています。

ここは “戦いの神” であり、源氏、平家を始めとする多くの武将が武具などを奉納したことから、国宝、重要文化財の指定をうけた日本の甲冑の約4割がここにあるのだそうです。

しまなみ海道が開通した直後はかなりの観光客がここを訪れたそうですが、今は下火になったようです。

で、この道の駅しまなみの駅御島は、この大山祇神社の隣にあります。

これが道の駅の全体です。
右側の細長い建物が物産館です。

そして左端にある建物は、レンタサイクル、シャワー室、コインロッカーなどがあり、サイクリングで島を巡る人たちの休憩所を兼ねています。

物産館の入り口です。

“愛媛産には愛がある！” いいですね～
「直江兼継」の影響か？（笑）

店内にもこんな看板が・・・・！
左の２つはどんな意味だろう？？

ここの野菜売り場はすべて「〇〇さんちの何々」で統一されてました。
顔写真も入れたら良いのに！

そして見つけたのが愛媛産のハウスみかん！
味見をしてみると、これが甘い！
そして皮が柔らかいので、そのまま食べられます。

くるまで走りながら食べるのに買いました。　３００円です！

物産館の奥には焼き物のコーナーがあります。
何か有名な焼き物でしょうが・・・・なに焼きと書いてあるか読めない　・・・・・　(-。ー；)

この道の駅、一つ前の “多々羅しまなみ公園” が抜群の景観でお客も多く華やかだったので、すご～く地味にみえます。

ちょっとがっかりした道の駅ですね！

国宝とロマンの島
大三島
道の駅
しまなみの駅 御島
みしま
0897(82)0002

伯方の塩！“伯方Ｓ・Ｃパーク”

大三島の２つの道の駅を回った後、再びしまなみ海道に乗って隣の島にある
道の駅伯方Ｓ・Ｃパーク へやってきました。

ここは “伯方島” といい、インターチェンジで言うとわずか１つ目です。
この日は土曜日で、高速は１０００円ぽっきりのはずですが、たびたび途中で降りるのでそうはゆきません。

正規の通行料の半額が適用され、それが１０００円を超えれば１０００円で打ち切りです。
最初の尾道から “大三島ＩＣ” までは１０００円で、“大三島ＩＣ” からこの “伯方島ＩＣ” までは正規料金が４５０円ですから、２２５円が適用されます。

何度も乗ったり降りたりするので結局１０００円では済みませんが、それでも安いですね！

この “Ｓ・Ｃ” って何の略だろうと気になって調べてみたのですが書いてないですね。
場所柄からすると “スポーツセンター” かなぁ？？

どなたか知りませんか？

※スポーツ&カルチャー　だそうです！

この道の駅は、この “マリンオアシスはかた” っていうのがメインになります。

その裏手には１０００人規模のシアターを持つという町民会館、そして体育館、テニスコートなどの施設が集まっています。

そして、すぐ横が “伯方ビーチ” という海水浴場なのです。

子供たちが楽しそうに遊んでいます。
ビーチの向こう側にかかる橋は “伯方・大島大橋” と言います。

そしてビーチの横にはずらりと “屋台” が並んでいます。
海水浴客が目当てなのでしょうね！

“はかた” というと福岡県民の私はまず “博多” が思い浮かびますが、“伯方” は特に “伯方の塩” が有名ですね。

ということで、これがありましたよ！

“塩ソフトクリーム” です！

時間に余裕のない世知辛い旅ですので食べていませんが、聞くところによると 「ほんのり塩の味がし、しかし塩辛くない」 のだそうです！

“マリンオアシスはかた”　の入り口にはこんな看板が・・・！

野菜売り場にめずらしいものを発見！

上の白いのは “白なす” で、下の丸いのは “青大丸なす” だそうです。

そしてやっぱり “伯方の塩” がいっぱい！！

そしてもうひとつ気になるのは、この “鶴姫伝説”

“瀬戸内のジャンヌダルク” だそうですよ！

そのチラシによると、このようなお話のようです・・・・。

中世の瀬戸内一一。
周防の大内氏が瀬戸内の海に侵攻、鶴姫の次兄安房が陣代となって河野氏や来島氏と力を合わせ、大内軍を撤退させるが討死。
16歳の鶴姫がかわってたたかいの先頭に立つこととなった。
海の平和を守る使命を背負う鶴姫は、たたかいによって憎しみが憎しみを生むことに苦しむ。
誰かがこの連鎖を断ち切らねば、と。
鶴姫を心から愛し、鶴姫の本当の願いをわが身を持って遂げようとする若者クロタカ。 女としての鶴姫の葛藤を知り、救おうとする幼なじみの娘カモメ。
3人の思いが瀬戸内の海を駆けめぐるとき、そこに･･･

しまなみ海道１０周年記念作品として「坊ちゃん劇場」で上演されているもので、実際に彼女のものと言われる鎧が今も残っているのだそうです。

道の駅
伯方S・Cパーク
TEL(0897)72-3300

急流観潮船のりば！“よしうみいきいき館”

方島から再びしまなみ海道の高速に乗り、３つ目の島 “大島” にやってきました。
道の駅よしうみいきいき館 は大島の南、来島海峡に面したところにあります。

ここ大島は、かつて “村上水軍” が活躍した地で、島の東部には “村上水軍博物館” があります。

ちょうど目の前に “来島海峡大橋” が眺望でき、素晴らしい景色です。

正面が “下田水港” で、こんな大きなフェリーや、多くの漁船などが停泊しています。

時間がお昼時だったせいでしょうか、すごく広い駐車場はほぼ満車でやっと一番端に停めて、かなり歩く羽目になりました。

ここには、観光バスまでが停まり、ぞろぞろと乗客が降りてきました。
たくさんのお客のお目当てが分かりました！　これです！！

建物の前に広い、青いテントが張ってあります。
そこには “七輪バーベキュー” のでっかい文字が！

そこでは大勢の家族連れやグループが七輪を囲んで、新鮮な魚介類のバーベキューを楽しんでいます。

建物の中に入るとそこには巨大な生け簀がいくつもあって、来島海峡で獲れたサザエ、ハマグリ、タコ、エビ、天然タイなどが泳いでいます。

お客から注文があってから生け簀から取り出し、目の前の七輪で焼くのですから、とびきりに新鮮な魚介類を豪快に食べることができるのです。

なるほど、すごい数のお客が集まってるわけが納得できました。

そして、たまたま道の駅の裏側に行ったら、こんな光景が・・・。

いくつもの七輪に炭を入れ、大きな扇風機でまとめて火をおこしていました。
裏方さんも大変ですね！

でも、この日は何もしなくとも汗ばむ真夏日！
外に張られたテントの中で、目の前の七輪でバーベキューをするのは、さぞ暑かろう！　と同情

しました。

食べられない者のひがみでしょうか？

建物の外に、こんな看板がありました。

来島海峡といえば波が激しく、日本三大急潮 の一つです。

ちなみに日本三大急潮というのは、この来島海峡の他に 針尾瀬戸（長崎県） と、黒之瀬戸（鹿児島県） ですね。

実はたまたま昨日テレビを見ていたら、「路線バスで行く・・・・の旅」とか何とかいう番組で、谷川真理と吉沢京子がここで急潮体験してるのが放映されていました。

渦に落ち込んだら海底に吸い込まれてゆくそうで、やっぱり怖いですね。

さて、最後はこのほんわかした写真でお終いとしましょう。

道の駅
よしうみいきいき館
TEL (0897) 84-3710

ゆうやけこやけライン！“風早の郷風和里”

しまなみ海道にある4つの道の駅を巡ったあと、四国本土に上陸しました。
道の駅風早の郷風和里（ふわり） までは、45分程かかりました。

この道の駅にも海水浴場があり、土曜日ということもあって大勢の人々が集まってくるので、駐車場は二人のガードマンが汗だくで誘導しています。

駐車場からこの木製の陸橋を渡ると、そこが “立岩海岸” という海水浴場です。

砂浜では若者やカップルが照りつける太陽を楽しんでいます。

これが道の駅の全体ですが、いくつかの建物が並んでいます。

一番手前がレストランですね。

その隣が物産館で、情報コーナーもここにあります。
建物の前の “ふれあい広場” には、大勢の若者が集まっています。

さすがに海水浴場だけあって、こんなものが・・・・

次にファーストフードのコーナーがあり・・・・・

そして一番端が、生鮮品の販売所です。

物産館の中をちょっとだけ紹介しておきますね。

この昆虫たち、全部竹細工ですが、実によくできています。
子供たちの夏休みの工作の宿題に、こんなのが作れたら良いでしょうね。

この、四国の西岸の海岸を “ゆうやけこやけライン” といい、夕陽の美しい場所です。

この道の駅では、“風早夕日フォトコンテスト” というのを毎年行っています。
風早の郷のホームページ にその入賞作品が掲載されていますが、それは見事な写真ばかりです。

私にもこんな写真が撮れればなぁ、とつくづく思います。

日本の夕日百選！“ふたみ”

信号の多い松山市内を通りぬけ、伊予灘にそって “ゆうやけこやけライン” を南下し、
道の駅ふたみ へやってきました。

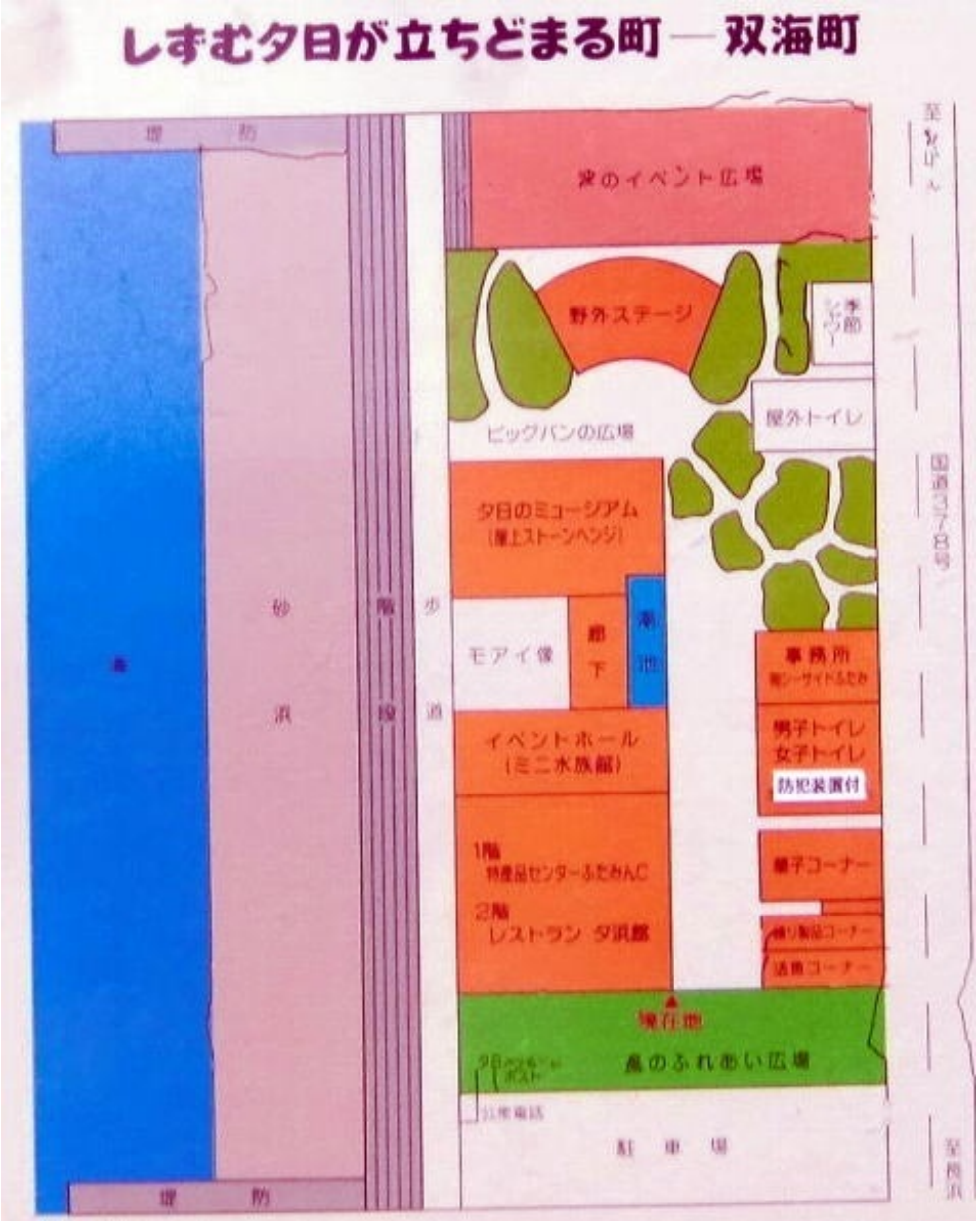
ここ双海町のキャッチフレーズは “沈む夕日が立ち止まる町” です。
「日本の夕日百選」 にも選ばれ全国でも夕日の美しい町として知られており、海岸線のどこからでも西瀬戸に沈む夕日を鑑賞できます。

ちなみに “ゆうやけこやけ” の “こやけ” とは、夕焼けがだんだん薄れてゆく光景や、夕日が沈んで暗くなった後にもう一度赤く光る光景のことを言うのだそうです。

ここは別名 「ふたみシーサイドパーク」 つまり、ここも海水浴場が併設されています。

さて、ここの道の駅、色んな施設がありますよ！

奥の方にはイベント広場や野外ステージまであるんですね。



正面の白い建物がメインですが、２階にある“レストランタ浜館”へは、左にある木製階段を上って直接行くことができます。

ここで夕陽を眺めながら食事をすれば、さぞ素晴らしいことでしょう。

そしてこれが “特産品センター ふたみんC” です。

結構賑わってますね。

奥には “ゆうやけこやけステーション” というスタジオがあって、海岸にむかってDJを流していました。

さて、時間は３時を過ぎました。
快適な海岸線はここまでです。

残りの３か所は内陸部へ入って行きます。

道の駅
ふたみ
TEL089-986-0522

ウッドデッキのやすらぎ！“内子フレッシュパークからり”

海岸線の道の駅を６か所回った後、内陸部の
道の駅内子フレッシュパークからり へ向かいました。

海水浴場のあった 「道の駅ふたみ」 から目的地へ行く最短距離は地図でみると県道５４号線のようですが、なにやら怪しげな道に見えます。

迷って、とりあえずナビで検索すると、一旦伊予市まで戻って、そこから松山自動車道に乗り、１区間目の “内子五十崎IC” で降りれば道の駅はすぐそばではありませんか！

これなら安心だし、時間も早いので黙ってナビに従うことにしました。

確かにこのルートは正解で、４０分弱で到着しました。
でも、この道の駅、何か雰囲気が違います。

周りを高い樹木に囲まれていますが、道の駅らしい建物が無いのです。

人は大勢出入りしているので、とりあえず中に入ってみました。

広いテント張りみたいなその中は、たくさんの農産物が所狭しと並べてあり、周りにちょっとしたお店がいくつか並んでいます。

中をぐるぐる回ってみましたが、どこにもスタンプを置いている様子はありません。
入り口付近のレジのおじさんに聞いてみました。

「あそこ、あそこ、ほら今帽子がぶった人が通っているだろ、あの横だよ！」
良く分からないけどおじさんの指差す方へ行ってみました。

そしたら壁際にちょっとした台が置いてあり、確かにスタンプがありました。
「あれ、さっきここ通ったけで気がつかなかったよ!」

それくらい隅っこの分かりにくいところに追いやられていたのです！

農産物売り場を抜けて裏側へ回ったところ、そこには“ウッドデッキ”が並んでおり、多くの人たちが涼んでいます。

気がつくとその横には川が流れており、覗き込むとすごく景色がいいのです。

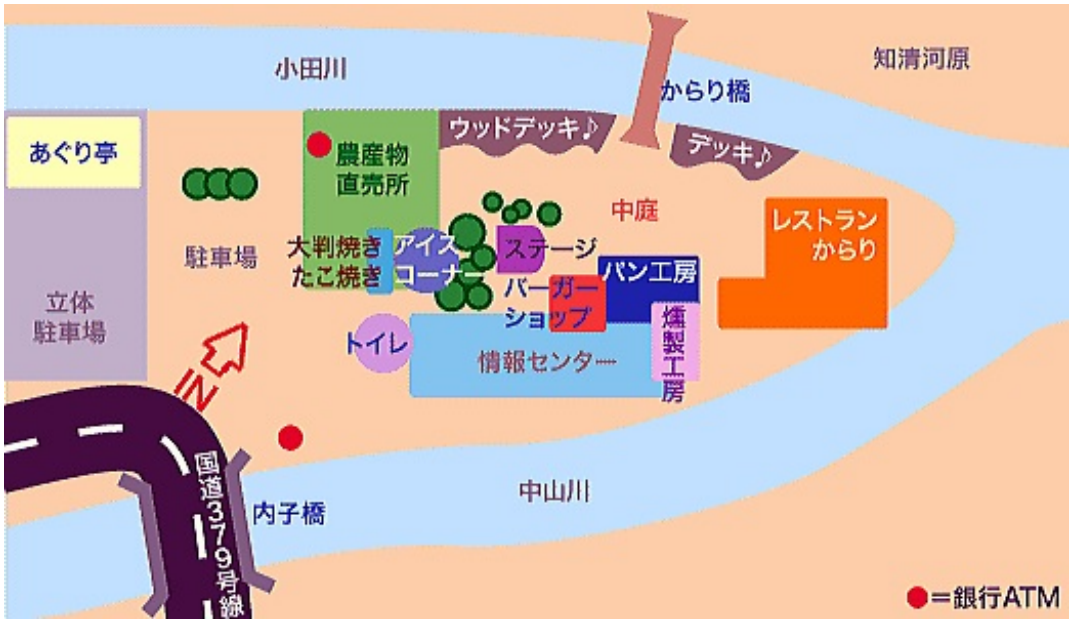
どうやらここは “小田川” と言うようです。

そのウッドデッキを更に進むと、木立の中に建物が見えます。

ここには“パン工房”があり、焼き立てパンが味わえるらしく、店内のテーブルや椅子も満員になっていました。

更に奥のつき当たりには“レストランからり”がありました。

あとで分かったのですが、ここの配置はこの様になっています。



小田川と中山川という２つの川に挟まれた中洲のようになっていますね。
どうりできれいな風景だったはずです。

最初にこんな配置図の看板があれば迷わなかったはずですよね！

ところでこの道の駅の名前にある “からり” とは、こんな意味があります。

「果楽里」果物を楽しむ里、「花楽里」花を楽しむ里、「香楽里」香りを楽しむ里、「加楽里」加工することを楽しむ里。そして「カラリ」と晴れ晴れした気分、「カラリ」としたすがすがしい時間、「カラリ」とした爽やかな人間関係、出会いを楽しむという意味も含んでいます。

そして最初の道の駅標識にあったここの “シンボル” はこれ・・・・

これは “手” ですね！

時代が移り、社会が変わっても人の基本は温もりです。
それを伝え、繋ぐ私の手、あなたの手、みんなの手、エネルギッシュに集えば何でもできる「太陽の手」。
からりはみんなの「小さな手」から始まります。

ということだそうです。

最初は「なんじゃ、こりゃ！」と思った道の駅ですが、こうしてみてゆくと大勢の家族連れなどで賑わっている訳が分かるような気がしてきました。

山里の癒し！“小田の郷せせらぎ”

内子を出て国道３７９号線を東に進み、
道の駅小田の郷せせらぎ へ向かいました。

実はこの付近にはもう一つ 「道の駅ひろた」 があるのですが、内子を出たのが１６時過ぎであまり時間に余裕がなく、道路も怪しげなので、この 「小田の郷」 と 「みかわ」 の２ヶ所で今日の最後としたものです。

このルートは全線国道なので大丈夫だろうと思ったのは、甘かったようです。
至るところで道路は狭くなり、離合するのにやっとで、しかも結構交通量は多いのです。

慎重に進んで、２５分ほどで到着しました。

この付近はさすがに道路はきちんとしていますが、周りを山々に囲まれた、正に自然豊かな町です。

すぐ横にきれいな川が流れています。
“せせらぎ” という名前はここから来ているのでしょう。

そこは小さな滝になっていて、さわやかなせせらぎの音が響いています。

この川に架かった橋の上から見た道の駅です。
きれいなさるすべりの花が見えます。

そして道の駅の全景がこれです。
周りの山々にマッチした、木造のユニークな形をしています。

地元の木材を使ったこのユニークな建物、直線と曲線のバランスがとれて、この風景にすごく似合っています。

すぐ横に、川を眺められる休憩所があり・・・・・

更に奥には “かじか亭” という食事処があります。

正面入り口の横には何やら黄色くてでっかいものが・・・

巨大な “かぼちゃ” でした。

ここは、まさに “静かな山間の里” です。
これといった特徴は少ないのですが、静けさの中で癒しを求めるには最適かもしれません。

ただ、ここへ来るための道路事情は最悪です。

このあと、最後の道の駅「みかわ」へ行くためには、更なる試練が待っていたのです。

面河渓の入口！“みかわ”

さあ、いよいよ本日の最後の目的地です。
道の駅みかわ は国道３３号線沿いですから、そこまで行けばあとは真っ直ぐ北上して宿泊地の松山市内に向かうだけです。

小田の郷を出たのが１６：４５、そして道の駅みかわの営業時間が１７：３０までですから、まあ何とか間に合いそうです。

でも・・・・・
この国道３８０号線、やっかいな相手でした。

少しだけ走ると早速道幅は狭くなりました。
しかも山道ですから、既に薄暗く曲がりくねっています。
そして、結構対向車があるので用心の為にライトをつけ、細心の注意で走らねばなりません。

多少広いところで何とか離合できますが、“最徐行” です。
これが話に聞く四国の “酷道” かと妙に感心しながら走り抜けました。

四国在住の miya-Zさん の情報によると、四国の「３桁国道」、俗に言う “酷道” はこの程度のものではなく、有名な（？）１９３号線（いくさ）酷道を始め、いくつもの難所があるそうです。

四国制覇を果たすためには、まだまだ試練が待っているようです。(((゜д゜;)))

無事に「２桁国道」（笑）に出られて、道の駅みかわ到着が１７：１６、ぎりぎりセーフでした。

ここ美川町もやっぱり “山の中” です。
名峰「石鎚山」に近く、“石鎚国定公園面河渓（おもごけい）” の入り口付近に位置します。

四国最大の “美川スキー場” もこの近くにあります。

正面入り口のすぐ横にある “水車” がここのシンボルですね。

物産館の中には、さすがに “石鎚山” の写真やら資料などが多いです。

近くの高校生が実習で作ったとかいう 「じゃがいも」 が１袋１００円で売っており、目ざとく見つけたうちの嫁さんが２袋も買ってました。
重たいのに・・・・・・(`×´)

もう閉館時間だというのにお客さんはまだいっぱいいます。
レジでは店員さんがお金の勘定をしてました。（早く閉めたいのでしょう！）

裏に回ってみると、階段があり、下を流れる川に下りることができます。
“久万川” というらしく、川沿いには親水公園が整備されて川の自然を楽しめるようになっています。

さて、自然を満喫できたことだし、そろそろ宿泊地の松山市内に向かうことにします。
国道３３号線は、結構峠道を走りますが、さすがは「２桁」ですから、危なげなところもなく、
１時間２０分ほどで宿に到着しました。

いつもの “Ｓホテル” が取れなかったので、松山駅前のマンションのような雰囲気のビジネスホテルです。

ホテルに薦められて、すぐ近くの居酒屋に行きました。
居酒屋と言っても、カウンターが６～７席、座敷のテーブルが２つほどの狭いところで、おばさんが一人で切り盛りし、お客も私たちと後から入ってきた２人づれの若い男性だけです。

ほとんどがおばさん手作りの普通の家庭料理です。
松山に何しに来たか聞かれて「道の駅めぐりです」といったら、「へっ？」という感じで道の駅自体を知らないようでした。

でも、料理は美味しく値段もすごく安かったので満足です。

明日は、今日行けなかった「道の駅ひろた」をまず往復し、それから瀬戸内海沿岸を回って、最後は瀬戸大橋経由で帰ります。

道の駅 みかわ
農村活性センター

銅山跡の峡の郷！“ひろた”

さあ、２日目になりました。　今日の最初は昨日行けなかった
道の駅ひろた です。

昨日は時間に余裕がなく、道路も怪しげに思えたので残したのですが、松山市内から片道約３０ｋｍを往復することになります。

昨日通った国道３３号線をしばらく戻り、途中から右折して国道３７９号線にルートをとります。
これは “内子” へ繋がる “３桁国道” 、昨日のことがあって悪路の覚悟をしていたのですが、ほんの数キロ程度の “離合困難区間” があっただけで、比較的快適な道路でした。

到着したのは８時４０分、ここは８時から開店なのでもう営業しています。

標識に “峡の郷” って書いてありますね！
正にここは峡谷、深い山の中です。

周りをぐるっと山々に囲まれているのがわかりますね。
そして色々珍しいものが周りにはあります。

この右手前の真黒いオブジェ、これって “炭” ですよね！

そして左奥に吊橋が見えます！

これこそ、世界最大規模の木造橋なのだそうです。

渡ってみると、下は清流が流れており石段を伝って下りることもできます。
でも、これだけ大きい橋ですが中央付近では揺れるんです！

気持ち悪ぅ〜〜！

上の写真が、揺れる橋の上から見た道の駅です。

そして、巨大な “切り株” が・・・・・
これは県武道館の円柱をとった原木杉の根っこで、周囲が１２ｍあるそうです。

もうひとつ目についたもの、それがこの看板です。

“東海道五十三次” に引っかけた “陶街道五十三次” ですが、ここ砥部町は “砥部焼” で有名な焼き物の町なのです。

砥部町の国道３３号から国道３７９号沿いに点在する 「自然・歴史・文化・砥部焼」 にちなんだ５３のポイントを指定し、そこを巡るスタンプラリーを行っています。

専用のスタンプブック（しらべ帖）が５００円で売っており（高っけ～！）、道の駅スタンプの横に、この五十三次のスタンプも置いてありました。

さて、店に行ってみるとまだ朝早いのでお客はあまりいません。
外のテントには色んな店が出ています。

すり身でてんぷらを揚げているおじさんが試食をくれました。
旨かったけど、買わなくてごめんね！

店内もまだ準備中ですね。

外で写真を撮りまくっていると、軽乗用車にのった年配のおじさんが手招きをしています。
振り返っても誰もいないので、やっぱり私を呼んでいるようです。

近づくと、山の中腹を指差し、
「あそこにコンクリートの残骸が見えるだろ・・・」
「あそこから昔は銅を掘り出して、コンベアでこの辺まで持ってて来てたんだ」

と、勝手に説明を始めました。

「でも、銅の含有率が悪かったんだよ！だから閉山になっちまった！」

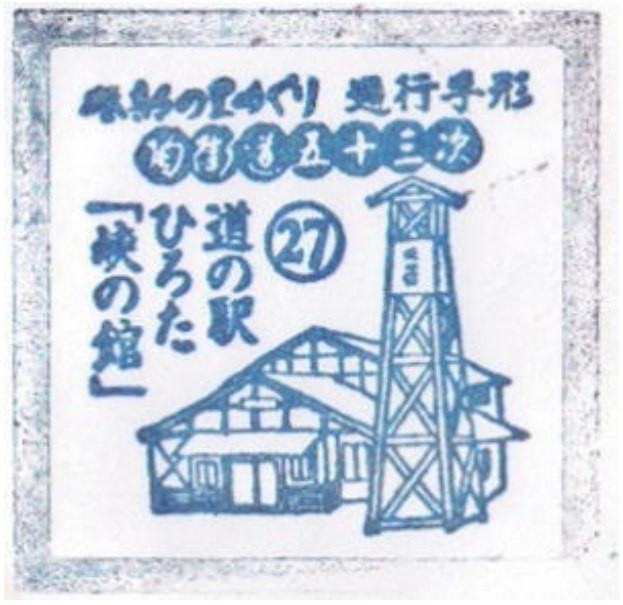
そして最後に、
「俺はそこのオペレーターで働いていたんだ・・・」

こっ、これは話が長くなったらどうしよう！　と一瞬不安がよぎりましたが、そこまででにっこり笑って去って行きました。

懐かしくて誰かに話したかったのでしょうね。
聞いてあげたから、俺って良いことしたかな？

この道の駅、案内板をみるとものすごく広くて、私がうろうろしたのはほんのわずかに過ぎなかったようです。

松山から１時間もかかりませんから、癒しを求めて人々が集まってくるのでしょう。



古代からの温泉保養地！“今治湯の浦温泉”

道の駅ひろたへの片道３０ｋｍを往復して松山へ戻ると、そこから高速に乗って一気に
道の駅今治湯の浦温泉 まで走りました。

ここは松山自動車道から分岐した “今治小松道路” の終点で、更にもう少し北上すると、初日に通った “しまなみ海道” に通じてます。

ここ今治市は、「関ヶ原の戦い」で戦功をあげて入城した藤堂高虎が「今より治める」という意味で地名を改めたことに由来します。

現在では日本でも有数の造船、タオルなどの繊維、電機、食品などの企業が立地する産業都市として躍進しています。

道の駅は、横に３つの木造建築が並んでいます。
一番手前はトイレですが、真中が物産館、情報コーナーで・・・

一番端はレストランになります。

レストランと物産館は中で繋がっていますね。

これは情報コーナー兼休憩所です。
真中の円柱には “来島海峡大橋” が描かれています。

そして、ここの名称は “湯の浦温泉” ですが、物産館とトイレの建物の間にこんなものがありました。

このモニュメントは “温泉の湯けむり” をイメージしています。
そして実は、これを見ている時に突然岩の割れ目から大量の湯気が噴き出しました。

残念ながら写真が間に合わずに湯気は消えてしまったのですが、おそらく定期的に湯けむりが噴き出すような仕組みになっているのだろうと思います。

この付近が古代からの温泉保養地と伝えられている場所ですが、その後地殻の変動などにより自噴していた温泉水が途絶えておりました。
それを昭和５１年に今治市が源泉の発掘に成功し、１０００年余りの年月を経て、湯の浦温泉として復活したのだそうです。

そしてこの道の駅自体に温泉がある訳ではなく、約３００ｍ離れた丘陵地に “国民保養温泉地湯の浦温泉” があります。

最後に、ここで見かけたもの　・・・・・

この自転車、何を積んでいるのかと思ったら、お遍路さんの道具一式が荷台に乗っています。
自転車で八十八か所を巡っているのでしょうね。

四国ならではの光景です。

道の駅 今治湯ノ浦温泉 0898-47-0990
今治城
来島海峡大橋
愛媛 みかんと歴史のしまなみ海道

高速ＳＡと共通！“小松オアシス”

今治小松道路を戻って分岐点の 「いよ小松北ＩＣ」 で一般道に降り、
道の駅小松オアシス へ向かいました。

ここは、とても珍しい道の駅です。
それは、高速道路のサービスエリアと道の駅が一緒になっているのです。

案内に従って少し小高い所に車を進めると、広い駐車場に行き着きました。
すると、大きな丸い建物があります。

その手前に長屋のような商店が並んでして、ここに 「道の駅 」の表示が・・・・
これがなければ、本当にここが道の駅なのかわかりません。

そして手前の駐車場とその先は金属の柵で区切られていて車は通れず、人だけが行き来できるようになっています。

なるほど、こうすることで道の駅と高速のＳＡを同じ施設として使える訳ですね。

ここは小高い場所ですから眺めは良いし、すぐ先に反対車線ののサービスエリアが見えます。

さて、「石鎚山ハイウェイオアシス館」と書いてある、その丸い建物に入ってみました。

ここには西日本最高峰“石鎚山”をテーマとした展示館があります。

“日本の名峰ベスト４位” である石鎚山のさまざまな表情がそこにはありました。

休憩コーナーの裏のガラス張りの外には、人口の滝や岩で石鎚の渓谷が再現されており、そこには鯉も泳いでします。

なかなかの凝った作りです。

さて、一通り見て回ったところで次の道の駅へ行く為に再び いよ小松ＩＣ から高速に乗りました。
ジャンクションで松山自動車道に入ったらすぐに、“石鎚山ＳＡ（石鎚山ハイウエイオアシス）”という看板がありました。

「えっ！ということは何も一般道に降りずに、まっすぐ来れば道の駅に寄れたんだ！」 と今頃になって気がつきました。

いよ小松ＩＣで降りて一般道を結構な距離走りましたから、時間のロス、高速料金のロス、ガソリンのロスをしてしまったことになります。
もう少し事前に調べておけばよかった！　悔しぃぃ・・・！！（/TДT)/

石鎚山ハイウェイオアシス
小松オアシス

別子銅山の跡地！“マイントピア別子”

松山自動車道 新居浜ＩＣ で高速を降りると、
道の駅マイントピア別子 は、通常１５分～２０分で行ける距離です。

愛媛県東部にある “新居浜市” は、銅山によって栄えた工業の街です。

日本三大銅山のひとつ “別子銅山（べっしどうざん）” は新居浜市の山麓部にあり、１６９０年に鉱脈が発見され、２８０年の永きに亘って産出を続け、日本の貿易や近代化に多大な寄与をしてきました。

一貫して住友家が経営にあたってきたので、住友が日本を代表する巨大財閥になった礎を築いたとも言われています。

マリンピア別子は、その 別子銅山開坑３００年 を記念して造られたテーマパークです。

新居浜市内から県道４７号線に入り、“別子ライン” と呼ばれる渓谷に沿って山道を登ってゆきます。

山間部にはいって、道の駅があと数キロに近づいたころから道路脇に駐車している車が目立ち始め、その数が次第に増えてきました。

いや～な予感がしたとおり、道の駅に通じる渓谷にかかった橋が見えたころに車はぴたっと止まり動かなくなりました。

大渋滞です・・・・！

「こっ、こんな山の中の道の駅に、こんなに人が押し寄せるのかい？？？」
全く想定外の事態ですが、もう進むことも戻ることもできません。
いや、九州からはるばるここまで来て、スタンプもゲットせずにおめおめと戻る訳にはゆきません。

「私が歩いて行ってスタンプだけ押してこようか・・」と嫁が言い出す始末！
まあ、そういうわけにもゆかないですね！

結局前の道の駅をでてから１時間かかって、ようやく駐車場に入りこみました。

橋の上にはまだ延々と車列が続いています。

別子銅山の跡地とは漠然と分かっていましたが、何でこんなに人気があるの？
とにかく人々が行き来している方向へ行ってみました。

先の方に大きな建物が見えます。

どうやらここが正面入り口のようです。
やたらと子供連れが目立ちます。

建物の入り口付近に “チケット売り場” がありました。
この銅山跡は “産業遺産” に指定されており、鉱山観光や砂金採りが楽しめます。

目指すスタンプはこの窓口、写真で見ると一番右側に置いてありました。

中にはいると、これはすごく立派です。
物産館あり、レストランあり、ファーストフードあり、どこも人でいっぱいです。

この真中にあるのは「銅の鉱脈」を模したもので、ヘルメットを被って青い服を着たもぐら君がノミを使って掘る動作をしながら、ゆっくり回転しているのです。

これは祭りに使う神輿でしょう。
左下の画面に、祭りの様子が映し出されています。

この建物は４階建てで、３階は大宴会場、４階は “ヘルシーランド別子” という大温泉があり、これを目当てに来る人も多いのでしょう。

そして、この建物自体がこのテーマパークのほんの一部で、広大な跡地を使った様々な施設が点在します。

出口にあったこれは・・・・・

「仲持」 といい、銅山の開坑以来、明治１３年に牛車道ができるまで、奥深い銅山で精錬した粗銅や、山中の生活物資をすべて人の手で、男性４５ｋｇ、女性３０ｋｇを背負って運んだのだそ

うです。

繁栄の陰には、そうして苦労した人々がいたということでしょう。
短時間でしたが、歴史を感じさせる道の駅でした。

瀬戸内海のサンセット！“とよはま”

山の中のマイントピア別子から戻って再び松山自動車道に乗り、大野原ＩＣ でおりると
道の駅とよはま が瀬戸内海に面した美しい場所にあります。

ここからは愛媛県を離れて香川県になります。
そしてここから先は、ずっと一直線に近い場所で並んでいるので楽ちんです。

最初に目に付いたのがこの看板、ユニークですね。

これが道の駅全体ですが、右下に階段がありますね・・・。

この階段の先は地下道になっていて、国道１１号線を挟んだ向かい側に通じています。

そして道路の向こう側にも道の駅・・・・・・
つまり、ここは国道を挟んだ両側に道の駅があるのです。

案内板でみるとこんな具合ですね。

こんな看板もあり・・・・・

“とんこつラーメン” の看板？？　九州と同じじゃん！！

建物の横にはテント張りの店舗があって産直品が販売されています。

左側の建物がレストランですが、入り口には２匹の“たぬき”が・・・。

売り場の中心部には大きな神輿があります。
確かマイントピア別子にもあったのと同じようですね。

ここも瀬戸内海の夕陽がきれいな場所です。
左下になにやら看板がありますね。

その日の夕陽が沈む時間が書いてあります。

この道の駅はあまり大きな特徴はありませんが、国道沿いの交通の要所であり、一休みして瀬戸内海の景色を眺めるには最適かもしれません。

道の駅
とよはま
自然の息吹を深呼吸

トライアスロンに遭遇！“道の駅ことひき”

香川県に入るとあとは比較的に近い距離で道の駅が並んでいて
道の駅ことひき までは１２km程しか離れていません。

距離は近いのですが、観音寺市に入った頃から何故か交通規制が多くなってきました。
交差点ごとに人がいて、一部の道路が通行禁止になっているのです。

しばらく走ると、その訳がわかりました。

これなんです。
「日本学生トライアスロン選手権 観音寺大会」 なるものが開催されていたのです。

この旗の他に、各有名大学の応援の幟もたくさん風に舞っています。

道の駅にもう少しのところで、行く手をおまわりさんが遮りました。
「どこへ行かれますか？」

道の駅に行きたいのですが・・・、と答えると、
「この先はトライアスロンのコースなので車は入れませんよ！」

えぇぇ・・・・、またしても道の駅を前にして近づけない！
どうなってんだ、今日は！

でも、親切なおまわりさんで、
「じゃあ、そこの神社の境内に停めて歩いて下さい。」

でも、その神社も既に車がいっぱいです・・・・！
「そこの手前で少し待ってくれませんか。」

あっちゃ～！　また時間がとられる・・・　でも待つしかないか・・・　と観念したのですが、
意外と早くスペースが空いて駐車することができました。

そこから歩いて数百メートル離れた道の駅へ・・・・・

途中、久しぶりに「青鬼くん」に出会いました。

道路沿いに運営スタッフらしい黄色いジャンバーの人たちが何人もいます。
そしてテレビカメラも　・・・・・
カメラの前で“ピース！”　・・・・・　　そんなことはしません！

道の駅に到着しました。

この正面が道の駅？？？

この看板がなければ道の駅とは思いませんね！
「世界のコイン館」と書いてある。やっぱりここだ！

古ぼけた明治時代風の建物が、どうやら目的の道の駅のようです。

古めかしい入り口を入ってみました。
ほとんどお客はいません！

２階が「世界のコイン館」らしく、１階の中央付近でチケットを売っています。
時間も無いし、あまり関心も無いのでパス！

これって、例の神輿のミニチュアだよね！
３個セットになっているのもあるぞ！

奥の棚に江戸時代の銅銭みたいなのがあります。

“寛永通宝” ですね。

実はこの寛永通宝、この時は何も気をとめなかったのですが　・・・
あとで知ったのは、この寛永通宝こそがここ観音寺市のシンボルなのです。

この先の “有明浜” というところに、有名な 「銭形砂絵」 があるのです。

（パンフレットより借用）

有明浜の白砂に描かれた「寛永通宝」は、東西122ｍ南北90ｍ周囲345ｍもある巨大な砂絵で、この銭形を見れば健康で長生き、しかもお金に不自由しなくなるそうなのです。

あっちゃ～！　見ておけばよかった！
お金に不自由せずに済んだのに・・・・。

今になっては手遅れですが、ちょうどその砂浜付近でトライアスロンの水泳競技があっていたので、実際に行けたかどうかは判りません。

そして、ちょうどその頃、「トップランナーが間もなく来ますよ！」という伝令が走ってきました。

まずい！もしかするとランナー全員が通過するまであの神社から出られないかも知れない！
大急ぎで戻りました。

途中、先頭集団の自転車のランナーがすごいスピードで私たちを追い越して行きます。
「がんばれ～」という声援が沿道の人々から飛びます。

幸い、ランナーは神社からの出口のほんのちょっと手前から曲がって行くので、我々も無事に脱出することが出来ました。

渋滞やらトライアスロンやら、今日は私たちにも障害の多い道の駅めぐりのようです。

道の駅
ことひき
TEL0875-24-2150

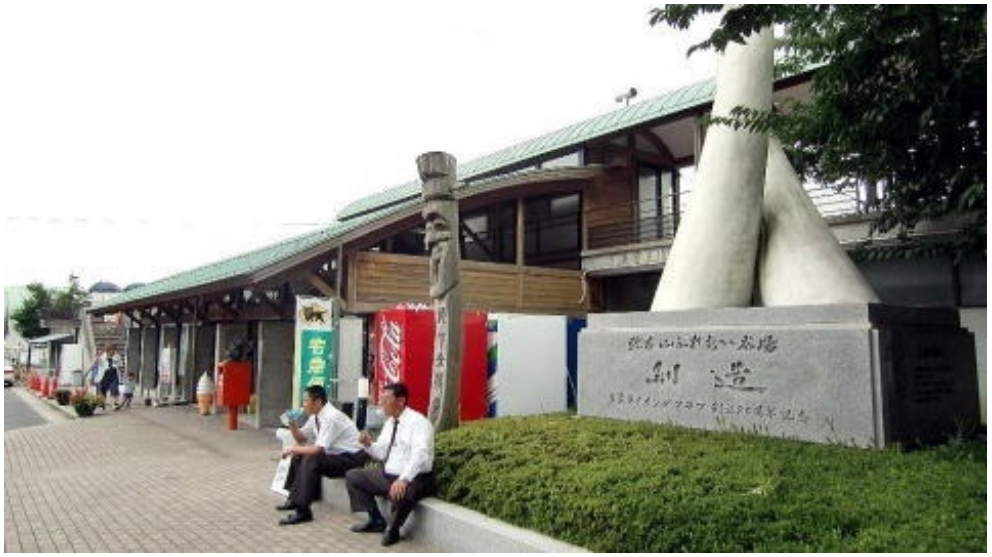
レジャーランド隣接！“ふれあいパークみの”

トライアスロンのコースから辛くも脱出した私たちが次に向かったのは、
道の駅ふれあいパークみの です。

駐車場には大型観光バスが何台も停まっています。

ここは三野平野を一望できる弥谷山の麓にあるレジャースポットで “弥谷山（いやだにやま）ふれあいの森” の中にある施設のひとつです。

これが道の駅の建物です。



腰をおろして缶コーヒーを飲んでいるのは観光バスの運転手さんたちです。
ご苦労様です！

このオブジェがここのシンボルのようですが、何を表現しているのでしょう？
う〜ん！ワカラン！

ポストの上には、何故か “獅子頭” が　・・・・・

喫煙コーナーには、何故か “クワガタ虫” が　・・・・・

で、ここが物産館の入り口です。

まあ、ありふれた売店ですな・・・。

店の奥に情報コーナーがあり、無事にスタンプをゲット！
俺ですさん 風に言うと、儀式終わり！

さて、外に出るともうひとつ大きな施設があります。

こちらは “天然いやだに温泉” の建物です。
たくさんの貸切バスは、おそらくここが目当てでしょう。

ここは３階建てで、温泉の他に温泉プールやレストラン、宿泊施設まで揃っていますね。

それからもう一つ、道の駅の端に階段があり、その上は “ラブリーモノライダー” の乗り場があります。
要するに園内を周るモノレールですね。

フェンスから覗いてみると、道の駅の裏手の広い敷地にはアスレチックをはじめとする様々な大型遊具が立ち並んでいます。

ここは大人も子供も楽しめるレジャーランドだったのですね！

リベンジ！“恋人の聖地 うたづ臨海公園”

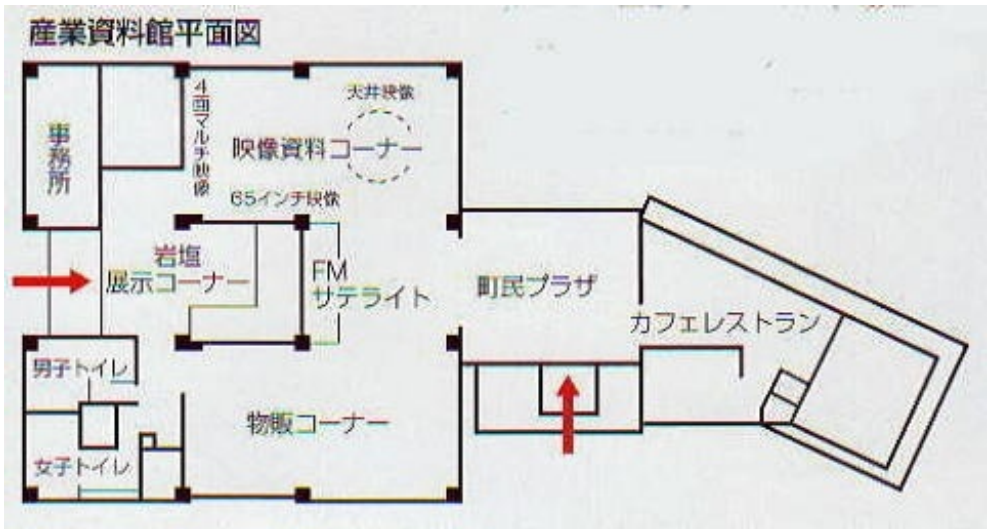
さて残る道の駅はあと２か所になりました。
道の駅恋人の聖地 うたづ臨海公園 は、実は６月の初めに一度来ています。

その時の “事件” については
中国地方道の駅全駅制覇！　■トピックスその３

道の駅の記事は
四国偵察：道の駅うたづ臨海公園　　をご覧ください。　(*^^)v

さて、２ヶ月半ぶりにここへは “リベンジ” にやってきました。
６月初めに 「四国偵察」 でやってきた時は工事中だったその建物は、立派に完成していました。

これがその建物で “産業資料館” と看板があります。
その内部はこの様になっています。



前回涙をのんだ “スタンプ” は、事務所の窓口にありました。
窓口でスタンプを押していると、中から “じろり” と見られました。

なんだか、お役所っぽい雰囲気がします。

（写真を撮り漏れたのでパンフレットから！）

中はいわゆる資料館という感じで、中央にＦＭサテライトがありますが、この時間は既に閉まっていました。

上の平面図の “町民プラザ” というのがこの写真で、その奥にお洒落な感じのカフェレストランがあります。

こちら側にも入り口があって、こんな感じです。

道の駅の裏側に出ると、そこからはみごとに “瀬戸大橋” の雄姿が望まれます。

この道の駅の名前、頭に “恋人の聖地”　というのがついていますね。
ここは夕陽が美しく、また夕刻にはイルミネーションが灯され、瀬戸大橋のライトアップも楽しめる最高のデートスポットだからです。

そしてこの “恋人の聖地” というのは国内で100余か所が認定されている正式な名称なのです。
今年の秋にはここに “恋人の聖地・モニュメント” が完成予定だそうです。

さて、前回の記事にも書きましたがここにはもう一つの目玉 “塩田” が再現されています。

ここではグループで申し込むと、瀬戸内海の海水から塩を作る体験ができます。

実はこの一帯を “うたづ海ホタル” と呼ぶのですが、このパンフレットの絵のように広大なものです。
但し、まだ工事中で完成するのは今年の秋の予定です。

全体が出来上がったら、カップルだけでなく家族連れなどたくさんの人たちの憩いの場となることだろうと思います。

最終回！“瀬戸大橋記念公園”

四国北部の旅もいよいよ今日で最終回になります。
道の駅瀬戸大橋記念公園 に来るのはこれが2回目です。

前回来た時の記事　→　初めての四国：瀬戸大橋記念公園

6月に来た時はちょうどスタンプブックが切り替わる時期で、スタンプブック自体が手に入らず四国デビューが叶いませんでした。

今回は、しっかりとスタンプGET！

この景色も前回ご紹介済みですね。
瀬戸大橋を眺めるには、この公園が最高のロケーションだろうと思います。

前回瀬戸大橋記念館の展望台に上らなかったので、今回はあがってみました。

これが入り口から続いている “水の回廊” の方角ですが、今日は時間が遅いせいか噴水は止まっています。

以下は、展望台から海の方向です。

時間に少し余裕があったので、記念館の中を見て回りました。
瀬戸大橋の計画から工事、完成までの数十年に亘る流れが資料と模型を使って展示されています。

瀬戸大橋全線を縮小した模型も大きな部屋一面に作成されていましたが、これは実に迫力があります。
そして、これだけの難工事に挑んだ人たちの偉大さに感動しました。

瀬戸大橋方面に行かれる方は、是非一度はご覧になることをお勧め致します。

前回閑古鳥が鳴いていた “瀬戸大橋タワー” は、今日は動いていました。

この宇宙船のような輪がゆっくり回転しながら、地上108メートルまで上昇します。
そこからはすごい景色だろうと思います。

ただ、100人が乗れるこの空中展望台、人影はぱらぱらとしか見えませんでしたけど・・。

さて、この公園に16時半までいて出発しました。
瀬戸大橋中間地点の “与島PA” でお土産を買いこみ、あとは岡山へ出て山陽自動車道に入り、一気に尾道まで走ります。

この日は日曜日、全線で１０００円と思っていたら岡山付近で一旦料金を精算するんですね！
坂出北ICから福山西ICまで結局、１０００円＋９００円かかりました。

新尾道駅でレンタカーを返したのがジャスト19時、新幹線は20：01の出発です。
でも、この新尾道駅周辺、まったく何もないのです。

夕食に駅弁を買おうにもKIOSKは閉まっているし、周辺を探すもコンビニは無し。
やっとスーパーを見つけて入ったところ、弁当類はすべて売り切れ！

時間は迫ってくるし・・・・・
結局、パンと飲み物だけ買って新幹線こだまの中でやや惨めな夕食となりました。

今回まわった道の駅は１８か所、走行距離は６２８kmです。
まだまだ四国は広いようです。

四国北部の旅のレポートは本日で終了です。
最後までお付き合いいただいた皆様、ありがとうございました。

佐多岬メロディライン！“瀬戸農業公園”

今日から新しいシリーズです。

１０/２４（土）朝６時に自宅を出発し、九州自動車道鳥栖ＪＣＴから大分自動車道にはいって大分を目指します。

大分宮河内ＩＣで高速を下りて、佐賀関港に到着したのが８時２０分でした。

九州と四国の間にはいくつかのフェリーがありますが、この大分県佐賀関港から愛媛県の三崎港へのルートが一番距離が近く、“国道フェリー” なので運賃も比較的安いのです。

そしてこのフェリーは１時間ごとに運航しており、朝７時から、夜２３時まであるので便利です。

９時に佐賀関港を出港し、７０分程で三崎港に着岸しました。

この “佐多岬半島” というのは、地図でわかるように 「日本で一番細長い半島」 です。
ダイナミックなリアス式海岸がどこまでも続きますが、この細長い地形を利用して、ずらりと 「発電用風車」 が並んでいるのが船からも見えました。

そしてこの細長い半島を走る道路を “佐多岬メロディライン” といいます。

三崎港でフェリーを降り、メロディラインを２０分弱走って今回最初の、

道の駅瀬戸農業公園　に到着しました。

ここは、広い駐車場の脇に “だんだん” という名の農作物販売所があります。

そして、その横に石段があり　・・・・・・

その上に道の駅の施設があります。

石段を登って、左手にあるのが “瀬戸農業活性化センター” というメインの建物です。
元々ここは、農業を活性化する目的で造られた公園であり、モデル温室栽培のハウスなども建っています。

以前はこの敷地内にも 「風車」 があり、この農業施設で利用されていたようですが、その風車は何故か取り崩されていました。

そして右側には “れすとらん風車” があり、地元で獲れた魚介類を使ったメニューがあります。

この農業公園は、細長い佐多岬半島の中でも特にくびれた場所にあるので、高台からは、半島の

両側の海岸線を見ることが出来ます。

上が北方面、下が南方面の海岸線です。

そしてここの駐車場には、半島の形がペイントされていました。

建物の中に入って見ましょう。

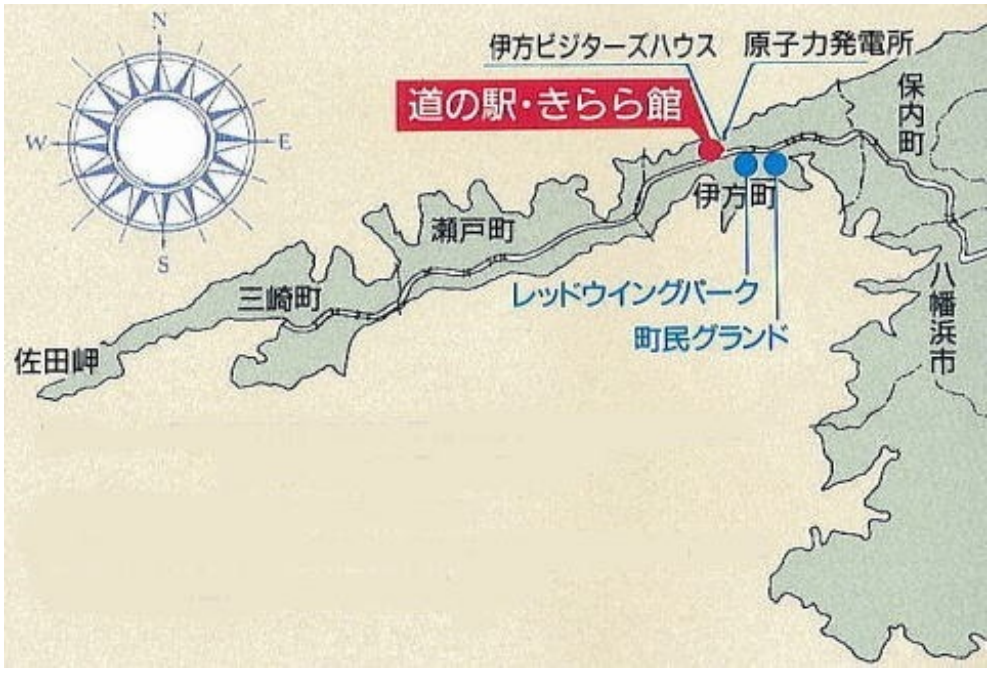
半島にずらりと並んだ“風車”の写真がありますね！
“風のまちから”って、すてきなネーミングですね。

この“農業活性化センター”の中の物産館は広く、たくさんの商品があり、早速欲しくなりますがまだ１軒目なので、ここはぐっと堪えて、次へと向かいます。

じゃこカツの旨さに感動！“伊方きらら館”

２軒目は、同じ“佐多岬メロディライン”上にある
道の駅伊方きらら館　で、７～８分で到着しました。

半島の部分を拡大してみましょう。



日本一細長い半島の付け根付近になりますが、隣に “原子力発電所” があります。
ここ “伊方町”（いかた） は、四国で最初に原子の火を灯した町として知られています。

道の駅のすぐ横に “伊方原子力発電所ビジターハウス” があり、この道の駅の３階から直接行ける通路で繋がっています。

この日は天候は曇り、そして明日の予報は “雨” です。

まあ、こればかりは仕方が無いですね。

道の駅の建物は１階が物産館や展示コーナー、２階が民族資料室、３階が休憩所および隣のビジターセンターへの通路になっています。

そして屋上の丸い部分は展望台です。

中に入って正面にあるのは、巨大な水槽です。

そしてこの水槽は側面に何か突起物がいくつか見えますね。
これは “ふれあい水槽” といって、中を泳いでいる魚と直接触れ合うことができるのです。

私も試して見ました！
突起には水が入っており、そこから水槽の中に手を入れることができます。

指を動かすと、魚が 「なんだろう？」 と寄ってきます。
「魚に噛みつかれないよう注意してください」 という大きな張り紙が貼ってあります。
指を餌と間違って噛み付くのかな？

それにしても、どうして水が溢れ出さないんだろう？

う〜ん！　難しいことは考えない事にしよう！

伊方町はアメリカミネソタ州の “レッドウィング市” と姉妹都市を結んで国際交流を続けています。
同じ種類の原子力発電所がこの町にもあるからだそうです。

伊方市は “杜氏” の町でもあるので、物産館にはたくさんの種類のお酒、焼酎が並んでいます。
そして、当然海産物も多いです。

大分県の“関アジ” “関さば” といえばブランド魚として有名ですが、同じ海を泳ぐ魚でも、ここ愛媛県で水揚げされると　“岬アジ” “岬さば” となり、値段はすごく安くなります。
ですから、お魚を食べるなら絶対この佐多岬半島ですね！

屋上の展望台に上がってみました。

天気が良かったら最高だと思いますが、ちょっと残念です。

再び駐車場に戻ると、そこに気になるものがありました。

たこ焼き屋さん、焼きそば屋さんがあり、その向こうの建物に“伊方じゃこてん”の看板があります。

うまそうな匂いがするので、早速買ってみました。
“じゃこ天”と“じゃこカツ”がそれぞれ１００円、両方を買いました。

これは旨かった！！ヘ(゜∀゜*)ノ

その場で揚げたばかりですから、じゃこ天も旨いが、じゃこカツはジューシーで更に美味しいのです。
写真を撮ってないので、パンフレットから切抜きを！

翌日の帰りに再びここを通ったので土産に買って帰りたかったのですが、時間が遅く既に閉まっていました。
また来ることがあれば、絶対に食べたい一品です。

おしどりが飛来する！“清流の里ひじかわ”

細長い佐多岬半島を抜け、四国内部に入ってゆきます。
森進一 “港町ブルース” の　♪ 高知、高松、やは～たは～ま ♪ の八幡浜市の市街地を抜け、次が大洲市です。

松山自動車道 “大洲IC” の横を通って更にしばらく進んだところに
道の駅清流の里ひじかわ はあります。

ここ大洲市肱川町は、愛媛県下最大の一級河川 「肱川」 の中流付近に位置し、その自然豊かな環境の中で、３０００羽と言われる日本一の “おしどり” が飛来することでも有名です。

この道の駅は 「商業集積施設」 が併設されこれを 「えみゅー(恵水遊)」 と言って、スーパー、コンビニ、美容室、居酒屋、喫茶店の五店舗があります。

下の写真が、その店舗群ですね！

そして、メインの建物がこちらです。

ここには物産館と・・・・

レストランがあります。

そして、この道の駅の名前 “清流の里” の名の通り、すぐ真裏に 「肱川」 の豊かな川が流れています。

この自然豊かな環境の中で、美容室、居酒屋、喫茶店といった商業施設と一緒に併設された道の駅というのも珍しいものです。

EHIME HIJIKAWA ROUTE 197
清流の里
ひじかわ

５万円の松茸に驚く！“きなはい屋しろかわ”

ひじかわから15ｋｍ離れた
道の駅きなはい屋しろかわ へやってきました。

ここ西予市城川町は近くに “三滝渓谷” や “宝泉坊温泉” を有する自然に恵まれた町です。

「きなはい」 というのは、「来なさい」という方言かな～と思うのですが、よく分かりません。

建物は細長く、一番右には別棟でたこ焼き屋さんがあります。

左端には屋外に農産物販売のテントがありました。
そこで見たものは　・・・・・・

おっ！　“マツタケ”じゃん！！

えっ！「1本　１８００円～７５００円」　・・・・・・・　！　Σ(ﾟДﾟ)
右上のかご　・・・・　４本入っていますが　・・・・・・・・・

ごっ、ごまんごせんえん！！！　((((((ﾉﾟ⊿ﾟ)ﾉ

どんな人が買うのか、じっとここで待ってみようと思いましたが　・・・・・

・・・・・　そんな時間はないので店内へ　・・・・

奥伊予地方の案内があり　・・・・

こんな垂れ幕が　・・・・

ここ城川町はドイツマイスター直伝の地豚を加工した手作りハムやソーセージが有名なのです。

ですから、店内のショーケースには畜産物がたくさん　　・・・　。

通信販売もやっているらしく、パンフレットが置いてありました。

まあ～、あんまり特徴が無い道の駅でしたが、超高級の “マツタケ” を拝ませていただいただけでも良かったかな？

しろんこ祭り
道の駅　きなはい銀しろかわ
TEL 0004-32-1109

武家屋敷造り！“日吉夢産地”

次の目的地は、１０分ほどしか離れていない
道の駅日吉夢産地 です。

ここは、現在の地名は「北宇和郡鬼北町（きほくちょう」ですが、以前は“日吉村”と呼ばれ、高知県との境に近い山間部の町です。

四万十川（しまんとがわ）の源流が流れ、アメゴ釣り大会などのイベントも行われます。

ここの道の駅は広く、純和風の武家屋敷のような造りになっています。

分かり易いように最初に配置図を掲載しておきましょう。

最初にご紹介するのは “青空市” です。

この細長い建物が “青空市” で、農作物、食品加工品、花卉、苗木などがの店がずらりと並びます。
近隣の農村で収穫されたばかりの新鮮な野菜類が、良心的な価格で販売されています。

次は正面の入口である、“陣屋入口” です。

トラックやバスはさすがに入れないので、もうひとつ別の入口もあります。
この“陣屋入口”の建物には日吉村に伝わる文化財が保管されており、他にもさまざまな分野の作品展などが開催されるそうです。

そして次がメインの建物です。

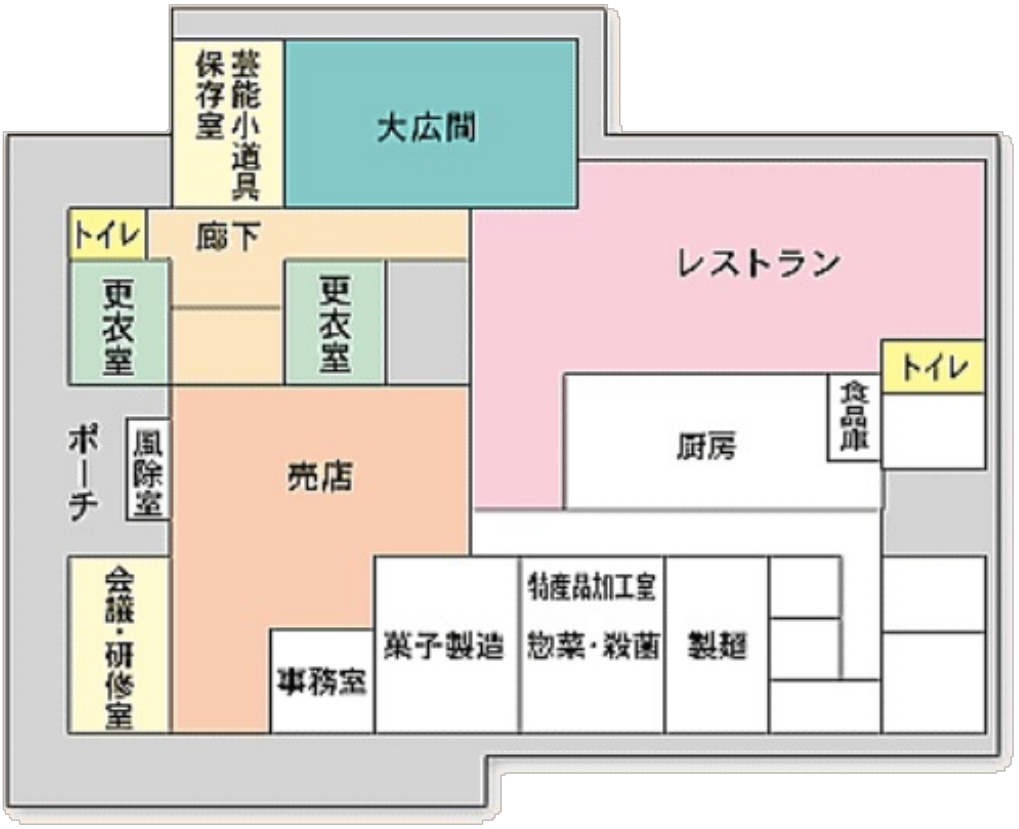
中央の大きな、庄屋さんのような建物が “ふれあい交流センター” になります。

左手の小さな建物は “アイスクリーム屋さん”

手前の小さなのが “やきいも屋さん” です。

“ふれあい交流センター” の玄関は、「歓迎」の看板もあって、何か旅館か食事処の入口のような雰囲気です。

ここも配置図をお見せしましょう。



大広間まであって、本格的です。

駐車場には “野外ステージ” もあり、さまざまなイベントが行われています。
ここは単なる道の駅というより、地域の人たちが集うコミュニケーションの場としての総合施設なのだと思います。

ハーレーも売っている！？“広見森の三角ぼうし”

本日は全部で９か所の道の駅を回る予定ですが、次は６か所目の
道の駅広見森の三角ぼうし　です。

ここは「日吉夢産地」から宇和島へ向かう国道３２０号線と、高知に抜ける国道３８１号線のちょうど交差点にあり、色んな方面への交通の要所と言えます。

この付近には結構道の駅が集中しているので、我々道の駅巡りをする者にとっては効率がよく、好都合です。

ここは中央の駐車場のまわりに、ぐるりと建物が囲んでいます。

左側には、農作物を中心にした “青空市” があります。

中央正面には赤い三角屋根の建物があり、主に木工品を中心とした民芸品を販売しています。
“森の三角ぼうし” という名称はこの建物から名付けられているのですね。

そして右の方の建物は、農産加工品、土産物などの販売所です。

中に入ってみます。

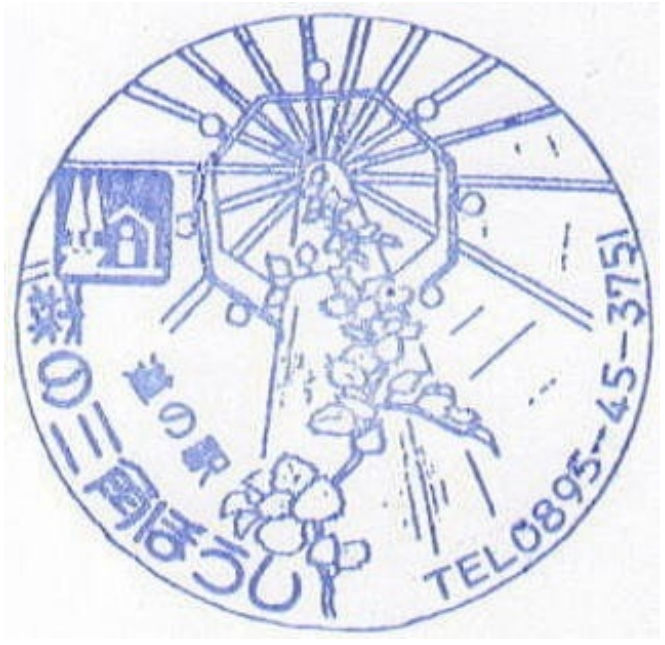
いろんな地元特産品、木工品などがありますが、こんなものまで・・・・・

中古バイクですが、これはすごい年代物です。
１９６５年のハーレーダビットソンのサイドカー付きです。

これが３９８万円　・・・！ ((((((ﾟ⊿ﾟ)ﾉ

この間の “マツタケ” の55,000円も驚いたけど、この40年以上も前のバイクをこの値段で買うマニアがいるのでしょうか？

う〜〜ん！　世の中ワカランことばかりだ！ ヽ((◎д◎　))ゝ



四万十の巨魚アカメ！“虹の森公園まつの”

森の三角ぼうしから、高知県の四万十方面に向かってわずか４ｋｍで
道の駅虹の森公園まつの　へやってきました。

ここは久々にでっかい施設で、期待できそうです。

駐車場にはいると、建物群は横に長く伸びていて、とても写真にはいりません。
いくつかに分割してお届けを　・・・・・　。

正面向かって右の方の建物で、手前からレストラン、土産品・特産品店、一番奥の丸い屋根がガラス細工のお店です。

そして、正面左側を見ると　・・・・・

「アカメ　国内飼育数Ｎｏ.1！！」って書いてあります。
“アカメ”って魚、あとから紹介しますね！

そして、一番奥の建物は“おさかな館”って書いてあります。

とにかく広いので、配置図をお見せしておきましょう。

道路を挟んだ反対側にも施設があって、こちらは “森の国ファーム” という名前で、農産物の収穫体験などが出来るようになっています。

ついでに、道の駅の裏側ですが、ここには日本最後の清流・四万十川の支流のひとつ、広見川が流れています。

川遊びをしている家族の姿が見えます。

さて、建物に戻ってみましょう。

この写真のとおり、とにかくここは広いのです。

まず物産館に入ってみて　・・・・・

あれっ！　意外にお客さんが少ないですね・・・！

もう一つ奥の丸い屋根の方へ行ってみると　・・・・

ここは “風音” という名のガラス工房です。
ここには、いっぱいお客さんがいました。

ここの作品は見事です！
しばし、見とれて　・・・・・。

いや～　可愛いのがいっぱいあって欲しくなりますね～
でも、値段も結構するな～

この工房の奥では、実際に作品を作っている様子がガラス越しに見ることが出来ます。

さて、一気に反対側の端に行くと　・・・　そこは“おさかな館”です。

ここは入場料８００円の有料！
“有料” のところには基本的に行かないことにしているので　・・・　入り口だけで！　(^▽^;)

そこにいたのが　・・・・・　これです！

こやつが ・・“アカメ” なのです！
長さが１ｍを超える　・・・・　！　((≫д≪))

水の中で噛み付かれたら　・・・・・　うぉ～　恐ろしい！　((((((ﾉﾟ⊿ﾟ)ﾉ

日本最後の清流・四万十川には、こんな怪物が棲んでいるのですね！

外の庭にも、いました。

巨大な“アカメ”君が銅像になっている　・・・　。

そしてこんなものも　・・・・

ちゃんとナンバープレートがついてますね。
現役なんでしょう！

久々に面白い道の駅に出会った気がしました。

虹の松原公園まつの

井関農機の発送地！“みま”

巨大な“アカメ”のいた 「虹の森公園まつの」 から一旦 「森の三角ぼうし」 の交差点へ戻り、その先を県道57号線に進路を変え、20分ほど走ったところに次の目的地
道の駅みま　がありました。

ここは、正に田園風景の中のど真ん中に、突如としてでっかい施設が現れます。

正式には “道の駅みま コスモス館” という名前のようですが、周りを見回してもコスモスの咲いている様子は見当たりません。（謎です！）

とにかくここも広いので写真に入りきれません。

ですから、まず配置図をパンフレットから切り取ってみました。

ここには、美術館、記念館などが併設されているのです。
まず正面入り口から　・・・・

この入り口の屋根が特徴的ですね。

そしてここが美術館、記念館の入り口なんですが、建物の庇の形も変わっています。

純木造なのですが、長い通路のすべてがこの庇ですから、かなり手間がかかったことでしょう。

そしてここが美術館への入り口なんですが　・・・・・・

・・・・・　　有料だったので “パス” しました。 (;^_^A

ここに何があるかと言うと　・・・・

「畦地梅太郎」 という、この町出身の版画家の作品が展示されており、画伯のアトリエが精密に再現されているそうです。

そしてもう一つが　・・・・

農機メーカー“井関農機” の創業者 「井関邦三郎」氏もここの出身で、その記念館です。
農家の暮らしを少しでも楽にしたくて色々な農機具を考案し、製品化していったそうです。

特産品コーナーに入ると、おコメをはじめとする農作物、特産物が広い売り場に並んでいます。

そして、その片隅に、何かこの場に不釣合いなコーナーが　・・・・

「K-1コーナー」 で、K-1に関する展示や、K-1グッツの販売がされています。
どうしてこんなコーナーが　・・・　と思っていたら、張り紙がありました。

いや～、この “三間町” 単なる田園地帯の片田舎、と思っていたら
あらゆる分野で人材を輩出している地域だったのですね！

お見それしました！ (;^ω^A

さて、今の時間が３時４５分、残るは宇和島市内の１箇所のみです。
今日は楽勝だな　・・　と思っていたら　・・・・

では、次回へ！

自然と歴史に
包まれた
美術の里
道の駅「みま」
コスモス館
愛媛県宇和島市三間町務田180番地1
TEL(0895)58-1122

閉店時間で慌てる！“うわじま きさいや広場”

初日９ヶ所の予定のうち、残りは宇和島市内の1ヶ所だけです。
「みま」 の道の駅を出たのが１６時ちょうど、今日は十分に余裕あり ・・・ と思っていました。

今日最後の目的地である
道の駅うわじま きさいや広場　は、今年オープンしたばかりなので、私のナビにデータがありません。

ですから、住所で目的地を入力しました。

国道５６号線にでて宇和島市内にさしかかると、“宇和島道路” という自動車専用道路に入ります。

この “宇和島道路” が私のナビにははいっていません。
突然、「３００m先を右折してください！」 という指示が出たのですが、自動車専用道路で右折なんてできませんよね！

その手前のインターで降りていればよかったのでしょうが、そんなことは知りません。
やむを得ず次のインターまで走ったのですが、これが結構遠い！

そこから降りて一般道を戻るのですが、夕方のラッシュでのろのろ ・・ としか動きません。
しかも、ナビの設定を間違えて今夜宿泊するホテルまで行ってしまい、また戻る羽目に！

ようやく住所のところまでやってきたのですが、今度はどこに道の駅があるか分からない。
ガソリンスタンドで尋ねて、ようやく目的地にたどり着いたときは１７時過ぎてました。

宇和島の港に近い、結構大きな道の駅です。

私たちは、目的の道の駅に到着すると、まず付近の写真を撮って回ります。
ここでも、あちこち写真を撮りながら、ふっと気がつくと、お店が閉まりかけているではないですか！

ここは、１７時半までだったはずです。
入り口の案内を見ると　・・・・・
[営業時間　17：30まで　但し、土曜は　17：00まで] と書いてあります。
そして今日は、土曜日！ Σ(ﾟдﾟ;)

さすがに慌てました。
あす一番に来るとしても、開店が9：00からなので全ての予定が狂ってしまいます。

まだ、店舗の中で数人のおばさんたちが片づけをしていたので、恥も外聞もなく、
閉まっているガラス戸を“ドンドン”と叩きました。

気がついたおばさんが、時計を指差して「５時までだ！」と言ってます。
私はガラス越しにスタンプブックを見せて、必死に訴えました！

ようやく鍵を開けておばさんが出てきました。
そして　・・・・

「スタンプだったら、そこの足湯のとこを曲がった、観光案内所に置いてあるよ！」

何も慌てることは無かった訳です！ Σヾ(￣0￣;ノ

店舗のすぐ横に立派な足湯があり　・・・・・

そこを曲がると、“観光情報センター”という案内所がありました。
冷や汗をかきましたが、無事にスタンプをゲット！

そして気がついたのは、先ほど閉まろうとしていたのは“農産物売り場”であって、その奥にまだたくさんの施設があったのです。

一安心して “特産品売り場” に入ってみました。

ここはすごいです！
広くて本当に色んな商品が並んでいます。
例によって、ついつい買い込んでしまいました。

水産物も多くて、こんな立派な水槽も　・・・・　。

外には屋根付の “多目的広場” があり　・・・・

Pearl pavillion　“真珠館” もあります。

時間があれば、ゆっくり見て回りたい場所ですね。

こうして、無事に１日目が終りました。
今日の宿泊は “宇和島オリエンタルホテル” ここから１ｋｍほどしか離れていません。

朝食つき、２名で８，２００円、相変わらず安いところを見つけます。
道の駅巡りをしていなければ、おそらく宇和島市などに泊ることは無かったでしょう。

ホテルの中の居酒屋で、たらふく飲んで、食って、明日への英気を養いました。

沖縄の果物に出会う！“みしょうＭＩＣ”

四国西部 宇和島市内のホテルで、２日目の朝を迎えました。

ここ “宇和島” は、伊達十万石の城下町で、仙台藩主伊達政宗の息子「秀宗」が治めた地域です。

そして、フリーアナウンサーの 「宮川俊二」 さんや、アメリカ大リーグで活躍する 「岩村明憲」 選手の出身地でもあります。

歴史や文化が育まれ、海や山の大自然にも恵まれた豊かな町です。

さて、ホテルでバイキングの朝食を済ませ、７時４０分に出発、２日目最初の
道の駅みしょうＭＩＣ　に向かいました。

ここは、愛媛県の最後の１か所となります。

本日の予報はあいにくの　“雨”、今のところ雨は降っていませんが、曇り空です。

この“ＭＩＣ”が何の意味だろうと調べてみましたが、わかりません。
“御荘インフォメーションセンター”いや単純すぎてこれは違うな～　う～ん！ワカラン！

「オレンジロード」とは国道56号の愛南町から内子町沿線の「ふれあい四国路」に参加しているボランティア活動の総称です。

この道の駅周辺の道路も、お花がいっぱい植えられて、きれいに清掃されています。

ここの道の駅は、あまり広くはなく、こじんまりした感じです。

入口付近には、“とれたて野菜市” として、新鮮野菜、果物が並んでいます。

そしてこんなものも　・・・

どちらも “沖縄産　道の駅 許田” って書いてありますね。
行ったことがあるので懐かしく思いましたが、なんで沖縄の道の駅から取り寄せているの？

店内に入ると、正面に “怪物” がいました。

これは “牛鬼” といい、「うわじま牛鬼まつり」 で使われる、宇和島のシンボルです。
“牛” といえば、宇和島は “闘牛” の町としても有名でしたね。

（パンフより写真借用）

そしてここは “足摺宇和海国立公園” の域内にあります。
ですから、この付近にはいろんなレクレーション施設が集中しています。

ここから右折して３．５ｋｍのところにあるのが“馬瀬公園”で、この標識にもあるように「宇和海展望タワー」だとか、「紫電改展示館」があります。

「宇和海展望タワー」は、馬瀬山頂にそびえる回転昇降式展望タワーで、展望室がゆるやかに回りながら上昇し360度のパノラマを楽しめます。

「紫電改」はゼロ戦に代わる新鋭機として終戦間近に開発され、海軍のもっとも優れた戦闘機だったと言われています。
ここに展示されているものは、地元ダイバーによって海底に沈んでいるのを発見された、日本で唯一の現存する一機です。

（パンフより写真借用）

宇和島を拠点にこの付近を時間をかけて観光すれば、楽しい場所だろうと思います。

だるま夕日の見える海！“すくも”

愛媛県の最後の道の駅をあとにして、県境を越えて初めての “高知県” にやって来ました。

高知県の最初の町 “宿毛市（すくもし）” で国道５６号線と別れてまもなく
道の駅すくも　は宿毛湾に面したきれいな場所にありました。

ここは “国道３２１号線” 沿いになるのですが、この “３２１” から、このルートを通称 “サニーロード” と言います。

四国にはこのように国道の 「数字」 からごろ合わせをした道路が多いのですが、例えば、
国道１９３号線（いくさ酷道）、国道４３９号線（よさく酷道） などは、miya-zさん から、“絶

対に通るな！”と教えて頂いた、超酷道です。

昨日ずっと走った国道１９７号線も（いくな・・行くな）かと思ってましたら、これは大丈夫だったようです。（笑）

高知と言えばやっぱり“龍馬”ですね。
来年は大河ドラマが始まりますから、高知県は特に賑わうことになるでしょう。

さて、ここには、こんな看板もありました。

“だるま夕日” って何でしょう？
道の駅の中に、その写真がありました。

光の屈折の関係でしょうが、ここでは全国でも珍しい、だるま型になった夕日が
１１月から２月にかけて見られるのだそうです。

その時期になれば、この看板にその時刻が表示されるのでしょうね。

さて、この道の駅ですが、駐車場と道の駅の建物の間に、こんな通路があります。

その通路の内側に、同じ形をした６軒の店舗が並んでおり、コーヒー店、珊瑚店、活魚センター、手作り木製品のお店などがあります。

そして一番海岸寄りに道の駅の本体である、土産物、食堂などの入った建物がありました。

１階に土産物と、休憩所がありますが、奥には応接用のソファなどがあって、ちょっと違った雰囲気です。

そして、この休憩所の中からも宿毛湾が望めますが、外にでると散策路があり、とてもきれいな景色が広がります。

今回私も初めて知ったのですが、ここ宿毛市は戦後に活躍した“吉田　茂”の出身地です。

宿毛10代領主や11代領主の頃に、特に教育に力を注いで優秀な人材を育成したそうで、たくさんの人たちが幕末、明治にかけて各方面で活躍されており、“吉田　茂”はその２世です。

地方の小都市からこれほど多数の人材を輩出しているのは、全国的にも例がないそうです。

道の駅
すくも
TEL0880-63-4888

マリンスポーツのメッカ！“大月”

高知県の２か所目は、サニーロード（国道３２１号線） を１１ｋｍほど走った
道の駅大月　です。

大月町はマリーンスポーツのメッカであり、良質の珊瑚の産地としても知られています。

そして近くの “大堂海岸” というのが、花崗岩の断崖が海岸から垂直にそそり立つ絶景らしいのですが、今回は時間が足りず行けませんでした。

駐車場の上のツツジでしょうか、“おおつき”の文字があります。

駐車場はすごく広いのですが、建物は端の方に二つ！

ひとつがこれで、“大月町ふるさとセンター”と書いてあります。
ここは物産館ですね。

ここで、スタンプをゲット！
でも、ちょっとお客さんが少ないな～

そしてもう一つ隣にあるのは　・・・・

中央の広場の奥にあります。

農産物の販売所ですね。

さすがに海に近いだけあって魚貝類も豊富です。

道の駅自体は、あまり特筆することの少ない、ごく一般的な施設でしたね。

付近にはダイビングスポットもあり、ダイバーやサーファーが集まります。
もう一度来る機会があれば、大堂海岸の “奇岩” 群を是非見てみたいものです。

道の駅
大月
TEL0880-73-1610

足摺岬の真近！“めじかの里・土佐清水”

大月の道の駅を出て次の
道の駅めじかの里・土佐清水　までは３５分ほどの距離ですが、海が次第に荒々しくなってきました。

海岸線を走っていると、“おおっ！”という景色が頻繁にあるのですが、走りながらなのでなかなかベストショットは撮れないものです。（と、まず言い訳をしておきます）

この日は雨が降ったり止んだりの状態ですが、晴天ならこの景色、特に素晴らしいと思います。ちょうど、北海道の南西側 積丹半島に向かう「追分ソーランライン」の荒々しい海岸に似ています。

めじかの里へ到着！

“めじか（目近）”とは、「まるそうだ」という小型のかつおの事で、ここ土佐清水が全国１位の水揚げをだそうです。

蕎麦のだし汁に欠かせない宗田節の原料で、その生産量は全国シェアーの80％を占めます。
ですから、宗田節加工業は土佐清水市の重要な地場産業なのです。

道の駅は、このように細長い建物ですが、この裏に看板の見える大きな工場も、めじかの加工工場です。

そして、この道の駅、ちょうど小雨が降っていることもあってか、なにやら寂しげな雰囲気です。

手前の長い部分には、「花・植木」「新鮮さかな」「新鮮野菜・くだもの」などと看板はありますが、どこも閉まっている様子です。

真ん中付近に休憩所があり、そこには若い男性のお遍路さんが休んでいて、「こんにちわ！」と

挨拶をされました。

そういえば、今回四国は３回目ですが、いわゆる遍路姿のお遍路さんにあまり会っていません。

しかし、今日は車で走りながら、道路端を歩いているお遍路さんに、何度も出会いました。
この雨の中、どこまで歩くのか知りませんが、大変だろうと思います。

そして、建物の右端にやっと開いているお店を見つけました。
ここに、スタンプも置いてあり、一安心！

う〜ん！　でもお客さん、誰もいないし　・・・・

この道の駅、大丈夫なのかな～

トイレの横にはこんな可愛いのがあり　・・・・・

でも、公衆電話ボックス って、いまどき誰か使うの？

そして、広い敷地の中にこんなものも　・・・・・

ここには、自転車で回っているらしい別のお遍路さんが休んでいました。
雨宿りなんでしょう！

これは “お遍路さん休憩所” と言うらしく、「ヘンロ小屋土佐清水第３５号」 という立派な名前がついていますから、あちこちにこのような休憩小屋があるのでしょうね。

ここから、ほんの少し足を伸ばせば “足摺岬” です。
足摺宇和海国立公園 になりますから、いろんな景勝地があるようです。

残念ながら今日は行く時間がありませんが、いつか又来てみたいものです。

道の駅制覇がもし達成できたら、次の目標は全国の有名な “岬” を全部巡る旅もいいかな～なんて思ったりしています。

その時のために、“足摺岬” はとっておくことにしましょう。　(^^♪

ホエールウオッチングの基地！“ビオスおおがた”

次の目的地は、最南端の「土佐清水」から土佐湾に沿ってＶ字型に北上し
道の駅ビオスおおがた　に向かいます。

ここは平成１７年に登録された比較的新しい道の駅ですが、私のナビには残念ながら入っていません。
ですから、ここも住所で目的地登録をしました。

国道３２１号線を辿り、途中から国道５６号線に移って、しばらく走り、ナビでは既に着いているはずですが、それらしいのがありません。
どこかコンビニにでも停めて電話してみよう、と話していたとき「道の駅まであと１ｋｍ」の表示があって一安心しました。

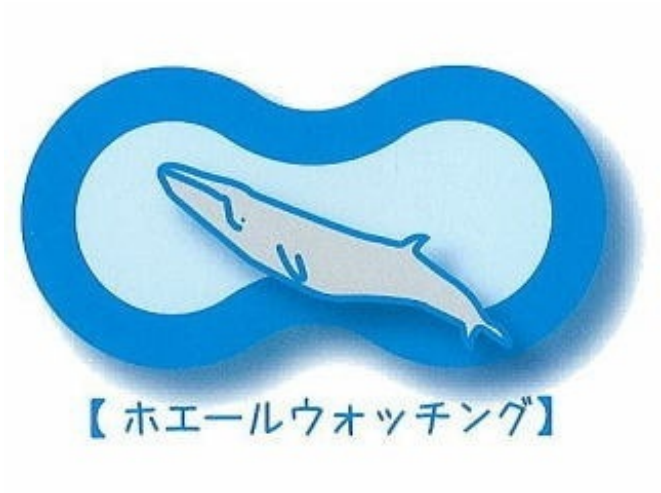
ここは“土佐西南大規模公園”と隣接していて、道の駅というより、すごく大きな公園の一角に建物がある、といった感じです。

駐車場も松林の中にあり、公園と共通しているのでしょうか、すごっく広いです。

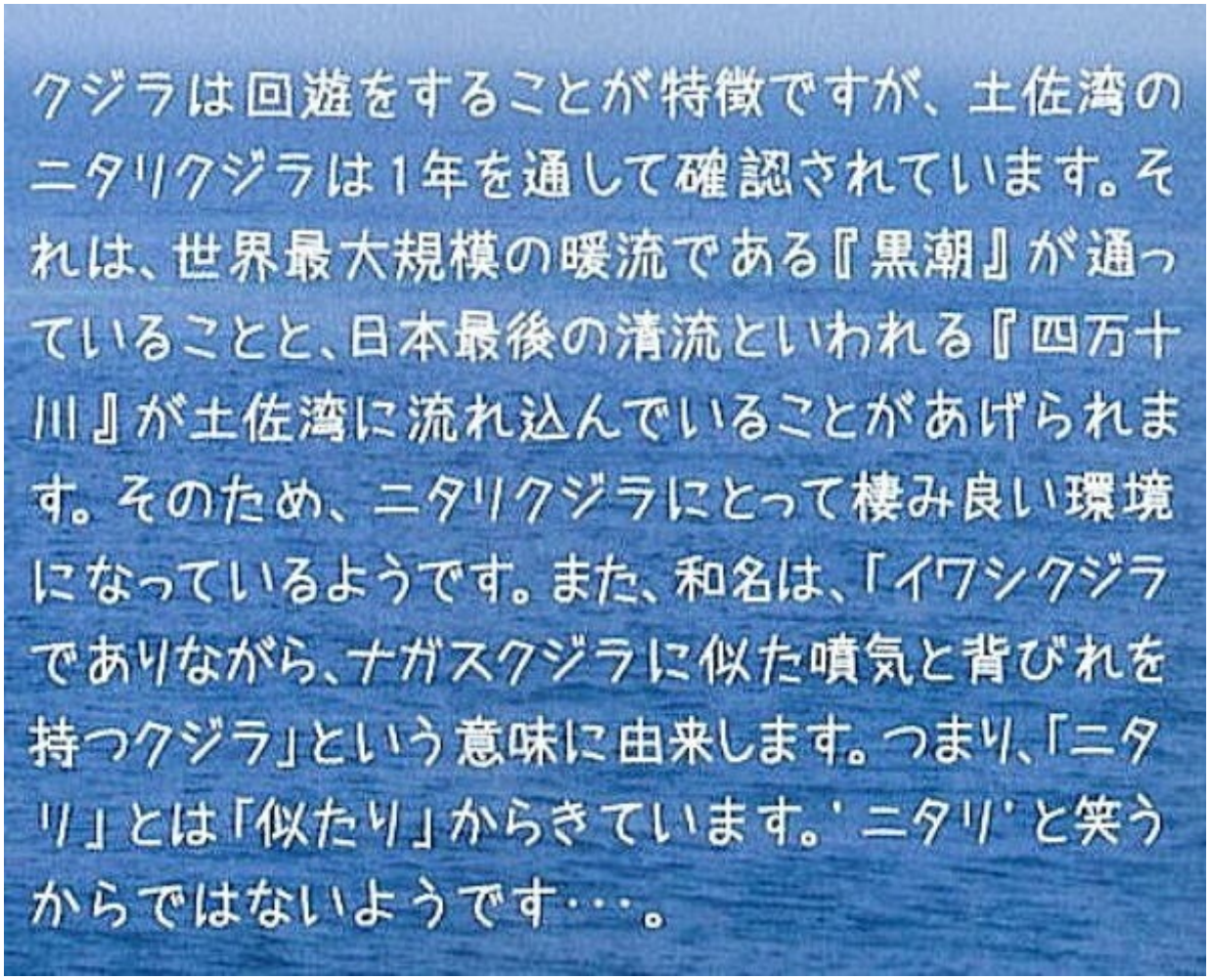
建物は２つあって、向かって左が “情報館” 右が “物産館” です。

これが “情報館” です。
正面に何かいますね！

くじら君です！
そしてここは何と、“ホエールウオッチング”の基地になっているのです。



この土佐湾にいるくじらは、“ニタリクジラ”と言う種類だそうです。
その“ホエールウオッチング”のパンフレットに、説明がかいてありましたので、ご紹介しましょう。



このくじら、“ニタリ”と笑うわけではありませんので、あしからず！（笑）

では、その情報館に入ってみましょう。

天井に巨大な“クジラ”の骨格がぶら下がっていて、まずびっくり！

これは“ミンククジラ”ですが、全長が骨だけで１０mもあって、体重は１０トン以上と推定されます。

この情報館には、“西南大規模公園” 内の自然や生き物をパネルでご紹介しており、
設置してあるテレビでは、ホエールウォッチングのビデオが上映されています。

では、物産館へ！
“クジラソフトクリーム” ってのは、やぱり無いですね！
作れば名物になるだろうに　・・・　！

こちらは人も多いし、結構商品が揃っています。
うちの嫁さんは、巨大な生椎茸を買い込んで、満足していました。

この公園、情報館にあった、この案内地図をみると、ものすごっく広大ですね。

ここでは、毎年５月には “Tシャツアート展”、　“大方シーサイドはだしマラソン”
８月は “シーサイドギャラリー”　１０月は “らっきょうの花見” など、ユニークなイベントが年間を通して催されます。

道の駅★ビオスおおがた
INFORMATIONCENTER・RESTAURANT・SHOPPING

あぐりーなのモニュメント！“あぐり窪川”

ホエールウオッチングの町 “ビオスおおがた” を出ると、右手に海岸線が続きます。
この日は、台風（何号か忘れた！） が近づいていることもあって、かなり波が高いようです。

助手席の嫁曰く、「ほら、あそこの海岸にいっぱい海鳥が浮かんでいるよ！」
「違う、あれはサーファーだよ！」　(￣_￣ i)

そういえば先ほどの道の駅の駐車場でも、ウェットスーツの女性を見かけました。
サーファーにとっては、この荒れた海が最高のサーファー日和なのでしょう。

そして、４５分ほど走って向かったのが、国道５６号線沿いの
道の駅あぐり窪川　です。

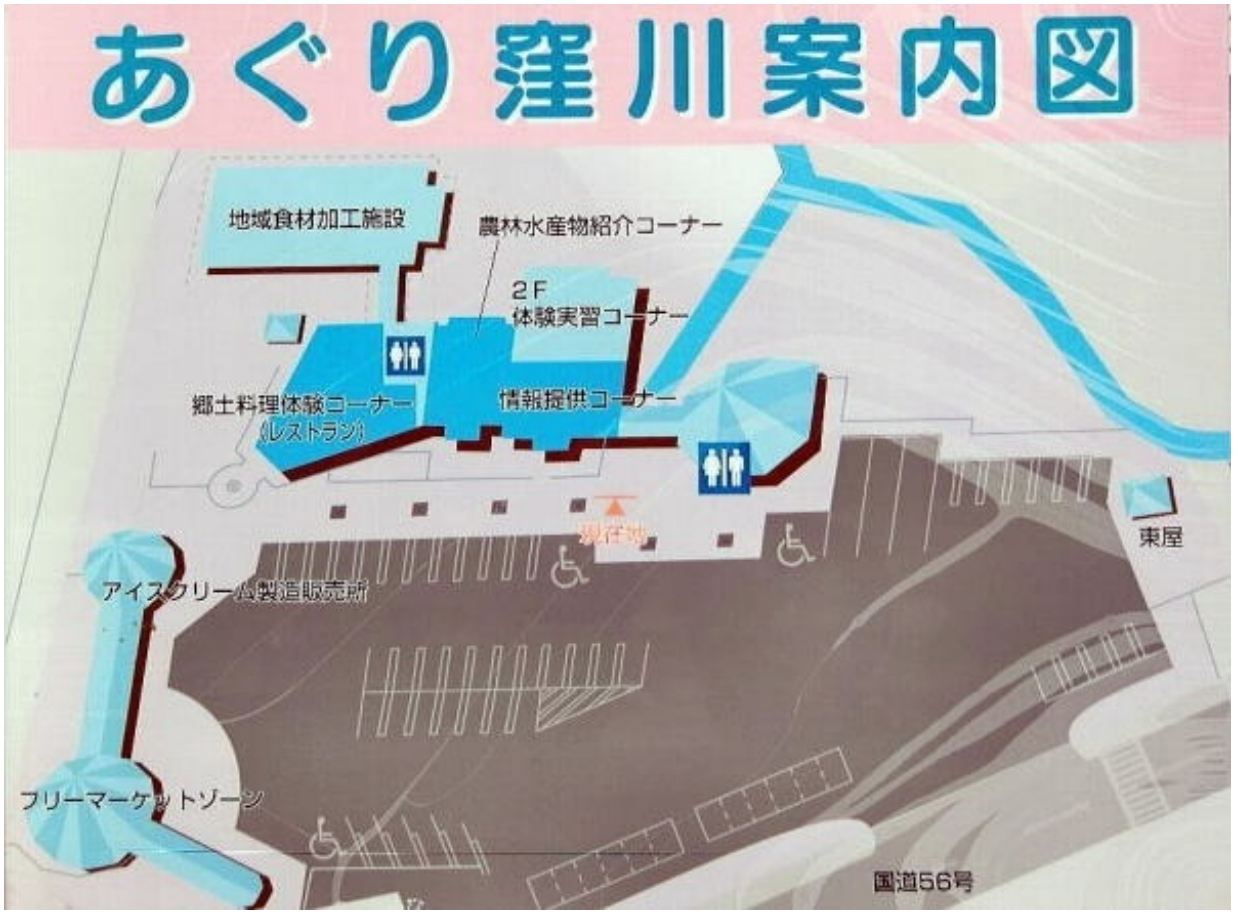
かなり昔になりますが、青柳裕介作の “土佐の一本釣り” という漫画がありました。
私もこれが好きで、毎回読んでいたものです。

この舞台は、“土佐久礼” という漁師町ですが、現在は市町村合併でこの地名は残っていません。
その場所は土佐湾の一部である “久礼湾” に面しており、この窪川からもう少し高知市側に走った場所にあります。

純平という若い主人公の、“土佐の漁師” として成長してゆく姿が思い出されます。

.
駐車場の脇に、こんな像がありました。

これは“あぐりーな”と名付けられたこの道の駅のシンボルで、ここ四万十町窪川出身の造形作家「友永詔三」氏が造られたモニュメントです。



この道の駅は結構規模が大きいのですが、駐車場のまわりにＬ字型に建物があります。

一番左端がフリーマーケットですね。

次がアイスクリームを製造販売する“みるく工房”と、“レストラン風人”　・・・

最後が物産販売所とトイレです。

建物にはいってみましょう。

この道の駅の名前 “あぐり” は、英語のアグリカルチャー（農業） を意味しますが、
四万十川流域の豊かな自然の中で育てられた “窪川ポーク” を使った加工品や、また寒暖の差を利用しておいしく育った “仁井田米” 、そして “お塩” なども特産です。

情報コーナーには自由に使えるパソコンも置いてありました。

最近は、このように道の駅でもインターネットを自由に使える環境が増えて、有難いことだと思います。

四万十川の上流！“四万十大正”

あぐり窪川の道の駅から国道５６号線をちょっとだけ引き返し、市街地から国道３８１号線に進路をとると、ずっと四万十川支流沿いを走ることになります。

九州では熊本県の人吉市から “球磨川” 沿いに、有明海に面した八代市まで走る時、最初は水量も少なく急流だったのが、次第に水が豊かになり、ゆっくりと流れるようになってきます。
ちょうど、それに似た雰囲気を感じました。

道の駅四万十大正　は、その川沿いの山の中に突然現れました。

この写真、すごい山の中にあるってことがよくわかりますね。

そして、この道の駅の前にあったもの　・・・・・

この標識、左折は“国道４３９号線”となっています！
これぞ、恐怖の酷道“よさく”なのです。

今回の出発に際しても、四国在住の miya-zさん から、“よさく” だけは通らないように、とのアドバイスを頂いていました。

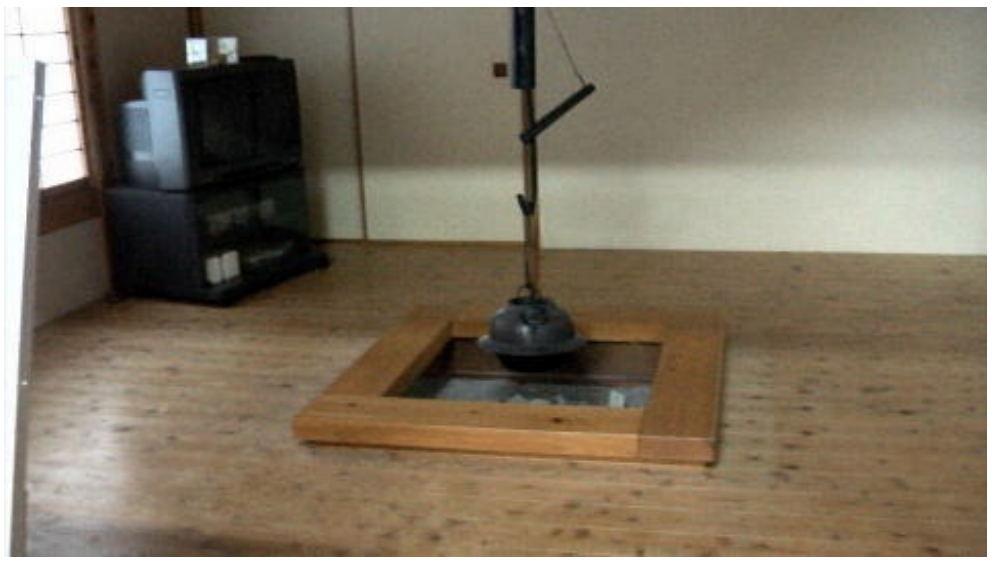
四国は県ごとの 「走り易さＭＡＰ」 というのがあります。
国道、県道に色がついていて、一番厳しい「赤色」だと、“１車線で急カーブが連続する、路肩が狭い” といった意味になり、離合が困難になります。

この “よさく” を走り易さＭＡＰで見ると、見事に真っ赤です。

ここ四万十大正は、この国道４３９号線と国道３８１号線の交わる場所で、私たちはこの先宇和島方面へ直進しますが、しばらくは３８１号線、４３９号線の共通国道になります。

さて、この道の駅、建物は２つあります。
奥の建物が “情報館” です。

ここには、林業に使うのこぎりなどの道具が展示してあり、奥には何故か囲炉裏の部屋がありました。

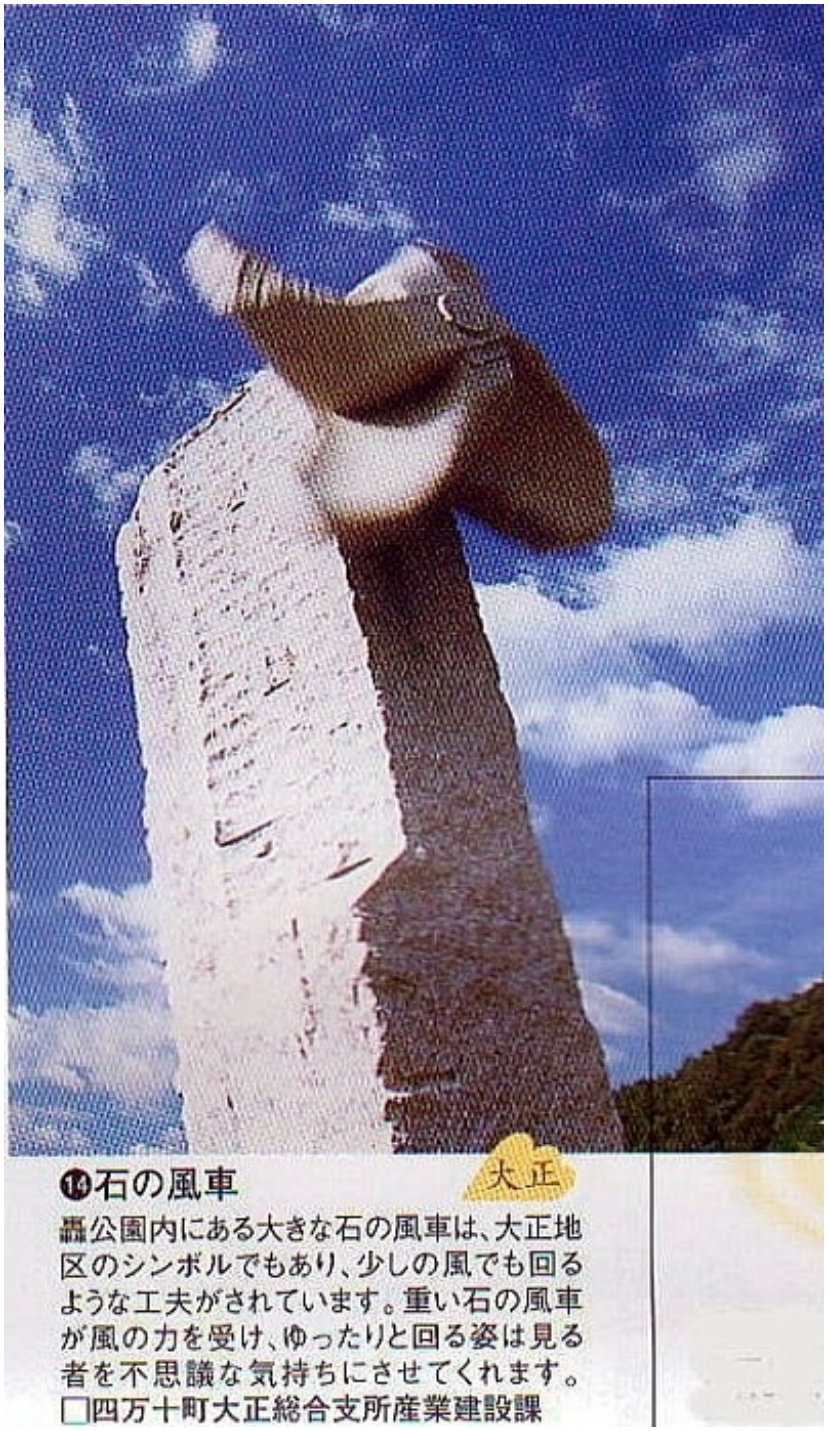


情報館の入口にあった、大きな “樽” が気になりますが、これはこの四万十の 「間伐材」 を使って造ったものだそうです。

もう一つの建物は食堂兼物産館ですが、商品はやや乏しく、食堂がメインのようです。

そして裏手に回ると、木製の階段があって、四万十川の河原まで降りれるようになっています。

実はこの道の駅、「轟公園」という公園の中にあり、“石の風車”というのが有名です。
でも、それがどこにあるのかわからなかったので、貰ってきたパンフレットの切り抜きでご勘弁を！



この説明を読むと、やっぱり見てくれば良かったと後悔しています。

道の駅
四万十大正
TEL(0880)27-0111

最終回！“四万十とおわ”

“四国西部の旅シリーズ” の最終回です。

道の駅四万十とおわ　が今回の最後の道の駅になります。

十和地区の街並みに入ってくると、こんな風景になります。

「街燈」 のデザインがわかりますか、・・・　アップしましょう。

“鯉のぼり” ですね。
ここ、十和地区は、日本における “鯉のぼりの川渡しの発祥の地” と言われています。

山々が新緑に染まる４月中旬から５月中旬にかけて、四万十川の川幅いっぱいに、約５００匹の鯉のぼりが渡され、春の風物詩となって多くの観光客を集めているようです。

でも、九州人としては、熊本県の “杖立温泉” が発祥の地と聞いていたんだけどな～！

ここ旧十和村（とおわそん）は、平成１８年に旧大正町、旧窪川町と合併して “四万十町” となりました。

でもこの十和地区の人たちはこの地名に愛着が残っており、ひらがなの “とおわ” を新しい村づくりのシンボルとして町興しに取り組んでいます。

この環の中に“とおわ”がはいったシンボルマークは、小さな地域でも「一丸」となって「集まり」を「広げる」ことで、新ためて自分の地域の素晴らしさと誇りを見つけ出そう、という願いが込められています。

この日は、朝から雨が降ったりやんだりでしたが、ほぼ走っているときは雨が降り、道の駅に到着すると雨は止む、という繰り返しでした。
でもその運も尽きて、最後の “とおわ” では傘が無いと外に出られない状態になってしまいました。

この道の駅もかなりの山間部ですが、規模は大きく、施設も新しくて立派です。

建物のすぐ裏を四万十川が流れています。
裏に回ってみると　・・・・・

この付近、水量はあまり多くないのですが、見事な景観です。

これは道の駅の裏側ですね。

正面に戻って中にはいってみましょう。

情報コーナーには何か、祭壇みたいなものがあって　・・・・・・

“馬の助神社”って書いてあるみたいだけど、なんだろ？？

そしてここのスタンプ　・・・　えらくちっちゃいのです！

え～と、それからここの名物に “栗の渋皮煮” って言うのがあります。

嫁が欲しそうに見ていましたが、この値段では手が出ないですね！

こうやって、無事に今回の１７か所の道の駅巡りを終了しました。
今の時間が１５時半ですが、ここからの帰りが遠いのです。

このまま３８１号線を進み、昨日訪問した「虹の森公園まつの」　「広見森の三角ぼうし」 そして、県道に入って、「みま」の道の駅を通過します。

“走り易さＭＡＰ” の真っ赤な道路も数か所を走破し、佐多岬半島に戻って “三崎” のフェリー乗り場に到着したのが１８時で、既にあたりは真っ暗です。

フェリーの待合室には、グループらしい男女ライダーが出発を待っていました。
この雨の中のツーリングは大変だっただろうと思います。

フェリーの中の７０分間はさすがに寝ていましたが、大分県の佐賀関から更に２時間半を走って自宅に戻ったのは、夜中１０時半近くになっていました。

さて、今回をもって「四国西部の旅」 は終了します。
最後までおつきあい、ありがとうございました。

四万十
とおわ
道の駅

ドイツとの友好拠点！“第九の里”

本日より “四国徳島の旅シリーズ” をスタート致します。

11月28日（土曜日）、博多から新幹線で岡山まで行き、高松行き “マリーンライナー” に乗り換え、更に高松で徳島行き “うずしお” に乗り換えます。

この “うずしお” は初めて乗りましたが、なんと 「あんぱんまん号」 ！

この車両、真ん中付近に子供の遊び場まであるのです。

更に、車内で改札に来ると　・・・・・

スタンプまで「あんぱんまん」でした！（笑）

徳島到着が11：20、さすが徳島だけあって、駅前のポストの上にはこれが　・・・・・　。

阿波踊りですね！

そして駅前で借りた今日の相棒は、トヨタの“ヴィッツ”です。

さて、今日の行程は次のようになります。

最初は一番遠いところまで一気に走って、あとは道の駅を辿りながら宿泊地の徳島市内に戻ってこようと思いました。
そうすれば万一全部回れなくても、近いので翌日に何とかなりますね。

でも、調べたら一番近い2か所の閉店時間が 17：00 だったので、これは先に行くことにしました。

従って、今回最初の目的地は

道の駅第九の里 なのです。

ここへはJR徳島駅から30分ほどで到着しました。

ここには、上の標識にもあるように、“ドイツ館” と “賀川豊彦記念館” が併設されています。

“賀川豊彦” という方は、明治、大正の時代にスラム救済活動など、さまざまな社会運動を指導してこられた方で、ワシントン大聖堂にもその像が刻まれている平和運動家です。

ドイツ館は、下の写真の建物ですが、何故ここにドイツ館があるのかは、後ほど説明しましょう。

道の駅の方の建物は下の写真です。

手前の 「バラッケ風建物」 はトイレで、奥の木造が道の駅の本体です。

なんか、周りの立派な建物群にそぐわない感じがします。

そして、ここで発見したものがこれです　・・・　。

“捕虜収容所”？？　なんじゃこれは！

「板東」というのは、この付近の旧町名です。

実は、これこそが「ドイツ」との関わりだったのです。

この地にかつて捕虜収容所があり、ドイツ兵約1000名が収容されていたのです。
同盟国であったはずのドイツ兵が何故　・・・　？ってことになりますね。

第一次世界大戦に参戦した日本軍はドイツの租借地であった中国の青島（チンタオ）を攻め、ドイツ兵約5000名を捕虜にしました。
その内の1000名がここに送られ、大正6年から3年間をここで暮したのです。

そしてドイツ兵たちはこの地で、読書やゲームを楽しんだり、楽器演奏の練習をしてオーケストラや合唱のコンサートを定期的に開きました。

この道の駅の名前が“第九の里”というのは、全国で初めてベートーベンの交響曲第９番が演奏されたからなのです。

そして地域の人々も、捕虜たちの進んだ文化や技術を取り入れるために進んで交流を深め、さまざまな分野で指導を受け、捕虜たちを“ドイツさん”と呼んで日常的に親しくつきあいました。

そのような経緯があって、鳴門市とドイツ・リューネブルク市は姉妹都市となり、ドイツ館も作られたものです。

道の駅の裏側のドイツ村公園には、ベートーベンの像が建っていました。

ドイツ館の入り口にはこんなものも！

ドイツ館の１階にはワインだとか、ビールだとかの物産もたくさん　・・・・・　。
２階が資料館になっていましたが、有料なのでいつものように“パス”

でも、日本人がドイツの捕虜の人たちを普通の隣人と同じように温かく交流したという話には、とても嬉しく思いました。

道の駅
第九の里
徳島県・鳴門市

巨大なたらいうどん？！“どなり”

第九の里の次は、
道の駅どなり　です。

徳島自動車道沿いに一般道を走り、約３０分ほどで到着しました。

“道の駅どなり” は、怒鳴りあうような怖いところではありません。(^▽^;)
「土成」 という地名で、近くに “土成ＩＣ” があります。

そばに “宮川内ダム” というダムがあり、その周辺は “奥宮川内ダム公園” になっていて色づいた山々に囲まれています。

道の駅は、円筒形と四角いガラス張りを組み合わせた、ユニークな形をしています。

ここは、“餐（もてなし）のやかた”というのですね！

ここでは手打ちうどんつくりの体験コーナーがありますが、生地練りからの全行程は４時間だとか・・・！
先を急ぐ我々には縁のないことです。

中に入ると、円筒形の部分の１階には、このようにインフォメーションがあり、受付の方がおられます。

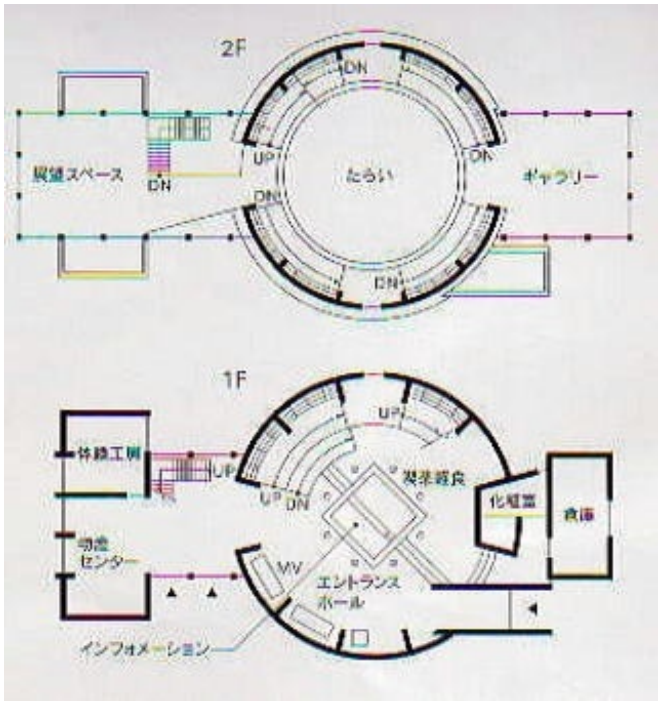
写真では分かりにくいと思いますが、この中は螺旋状にスロープがあります。
そのスロープの壁面には、いろんなアートが飾ってあります。

この土成町の名物は “たらいうどん” です。

林業の盛んだったこの土地で、木こりをもてなすために生まれたというたらいうどんは、少し太めの手打ち麺を、器であるたらいに入れ、みんなでつついて食べるのだそうです。

そして、この道の駅、何故円筒形をしているかと言うと、その螺旋状のスロープの屋根は、実は直径８．７ｍもある、巨大な“たらい”なのです。

この写真を取り損ねたので、パンフレットのコピーでご勘弁を！
たらいの真上にブリッジがあり、上からも眺めることができますよ！

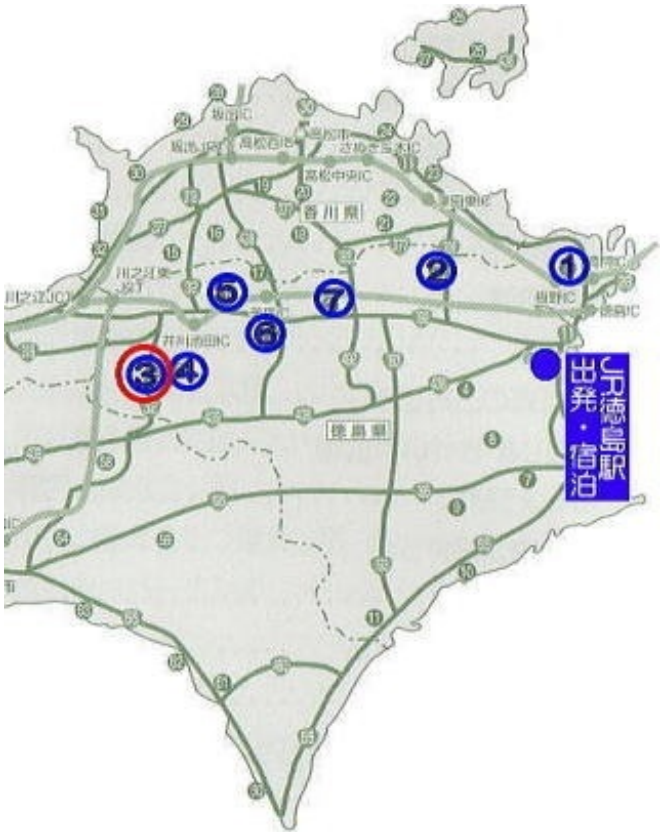


お客さんの少ないのがちょっと気になりましたけど、大自然に囲まれたユニークな道の駅ですね！

妖怪村役場！“大歩危”

「第九の里」 と 「どなり」 の２か所の道の駅を回った後、一気に一番遠いところまで走ります。

今回私が一番楽しみにしていた場所、それが
道の駅大歩危（おおぼけ）　です。



土成ＩＣ から徳島自動車道に乗り、井川池田ＩＣ で一般道に下ります。

ここからは、でっかい川幅の “吉野川” に沿って走るのですが、次第に川幅が狭くなるとともに、その景観は険しいものに変ってゆきます。

“大歩危・小歩危” そして “祖谷（いや）渓谷” は、日本の３大秘境の一つです。

ちなみにあとの二つは、岐阜県の白川郷と、宮崎県の椎葉村ですね。

遊歩道があり、渓谷にかかる橋があり、ラフティングがあり、遊覧船乗り場があり、大きなお土産屋あり、といった渓谷沿いの国道をしばらく走ると道の駅の看板がありました。

駐車場に車を停めると、すぐ真裏が大歩危渓谷になります。

対岸の壁に、なにやら道路みたいな、橋みたいなものが写っていますね。
遊歩道かなにかがあるのかな～と思っていました。

そしたら　・・・・

ちょっと見にくいかもしれませんが、右上、電車が走ってますね。
実は、これは “ＪＲ土讃線”　で、真正面に “大歩危駅” があったのです。

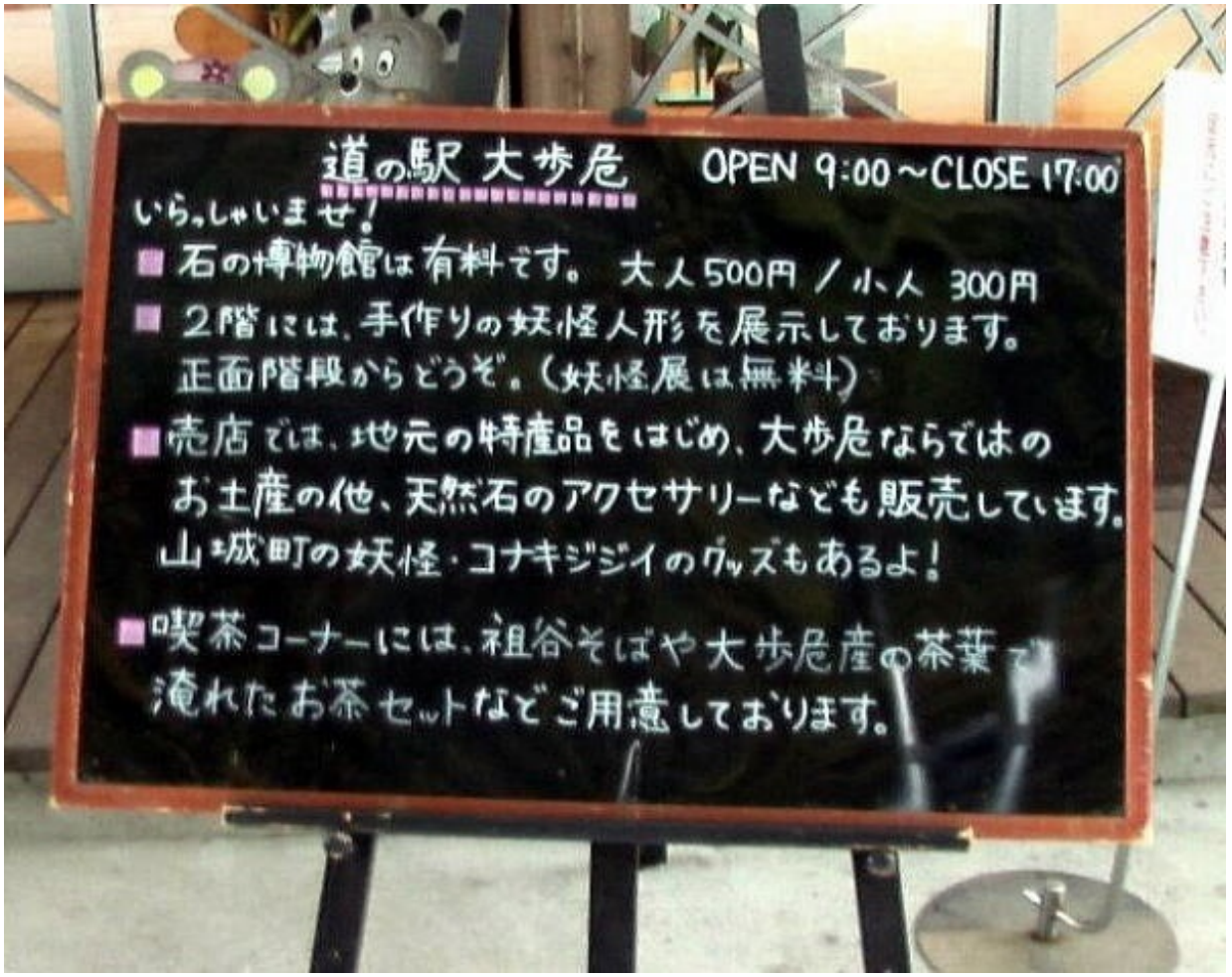
この険しい渓谷の中を走る列車の旅というのも、楽しいかもしれませんね！

ここは、“ラビス大歩危”というのが正式な名前のようです。

一番端の渓谷を見下ろす位置に “足湯” がありました。
この絶景の中での足湯、う～ん！癒されるだろうな～！

さて、建物の中央付近に入口があります。

入口には、こんな案内が　・・・・・　。



中にはいると、まずこんなものが歓迎を！

表の案内にあった “妖怪” ですね。
インフォメーションには、こんな看板も！

ここは、妖怪の村役場だったんです！

２階が “妖怪展示室” なっているので、早速見に行きました。（無料なので！）

鬼太郎を始めとする、お馴染みの顔ぶれが　・・・　。

ん！？　　でも、妖怪といえば島根県だったはず！
水木しげる さんの出身地が島根なんですね。

ここ三好市山城町には、８０か所以上の場所に５０種類もの妖怪の伝承が残されています。
そして、水木しげるさんが会長を務める　「世界妖怪協会」　から、「怪遺産認定証」　まで貰っています。

この地では、妖怪伝承地を巡るウォーキングコースもあるし、また毎年秋に「妖怪まつり」があり、その時パレードするのが、上の写真の“手作り妖怪たち”だったのです！

もう一つ、表の案内板にあった“石の博物館”はこれです。

でも、ここは有料なので、例によって “パス”

何故大歩危に石の博物館があるかと言うと、大歩危渓谷は国際的にも有名な地質学のメッカであり、難しいことは分かりませんが、日本列島の誕生にまつわる重要な知識が得られるのだそうです。

.中央には広いロビーがあり、その奥に物産館やレストランがあります。

大自然の渓谷を見下ろしながら、オープンカフェでの食事も良いだろうと思います。

ところで、うちの嫁のカメラは最近買い替えたもので、風景を鮮やかに撮る 「風景メイクアップ機能」 と 人の肌色を綺麗に写す 「人物メイクアップ機能」 というのがついています。

たまたま私が、風景をバックに写真を撮ってやろうとカメラを受け取った時、その機能を逆に使っているのに気がつきました。

それを指摘すると　・・・・・

「えっ！　こっちのボタンが風景なの？　知らんかった～！　おおボケでやんの！　」

“大歩危” で “おおボケ” に気付いたという、お粗末なお話でした！　(^▽^;)

道の駅 大歩危
徳島県三好市
山城町上名1553-1

日本の秘境！“にしいや”

大歩危の次は、祖谷渓谷のもう少し奥にはいった
道の駅にしいや　に向かいます。

この付近のもう少し詳細な地図をご紹介しましょう。

道の駅大歩危の少し先に渓谷を渡る橋があり、そこを東へ進むとかなり曲がりくねった道路になります。

そして長い “祖谷トンネル” を抜けると道の駅はまもなくです。

ここは、あんまり大きい道の駅ではありません。

中は休憩室を兼ねた情報コーナーがあり、その奥に物産館がありましたが、店員さんも誰もいない！
う〜ん！　ちょっと寂しげな　・・・　！

で、裏に回ってみると、そこにはこんなバス停があります。
“秘境の湯”？

道の駅の隣には、その “秘境の湯” の玄関口がありました。

ちょっと見えにくいと思いますが、屋根のすぐ下に 「秘境の湯」 と書いてありますし、
左端にも 「ホテル秘境の湯」 という青い看板がありますね。

そして、ここには観光バスだとかマイクロバスだとかが次々に入ってゆくのです。
ここからはこの正面入り口だけしか見えなかったのですが、ホームページでみると結構大きなホテルなんですね。

→　「秘境の湯」ホームページ

そしてここに入って行った中に、時代ががった“ボンネットバス”がありました。
一瞬のできごとでカメラ撮影が間に合わなかったので、パンフレットからの切り抜きを！

これって、この付近一帯を５時間かけて巡る定期観光バスなのだそうです。

さて、ここでちょっと悩みました！
祖谷渓谷にはたくさんの観光スポットがあります。

折角来たのだから、最低“かずら橋”くらいは行ってみたいな、と思っていました。
かずら橋は下の写真の右下に看板があるように、この道路をもう少し先に行ったところにあります。

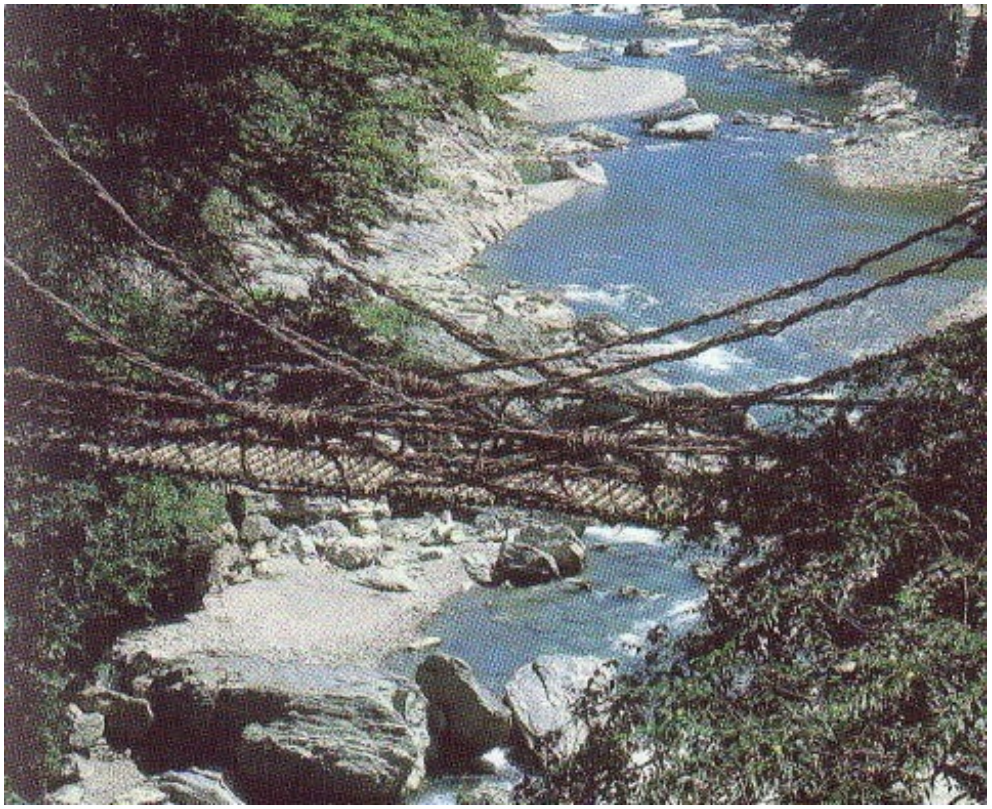
地図からみると、おそらく１５分もあれば行けると思います。
でも、今の時間は １５時４５分。

ここから往復３０分、橋を渡っていれば１５分や２０分はすぐに経ってしまいます。
そして、今日の残っている道の駅はあと３か所。

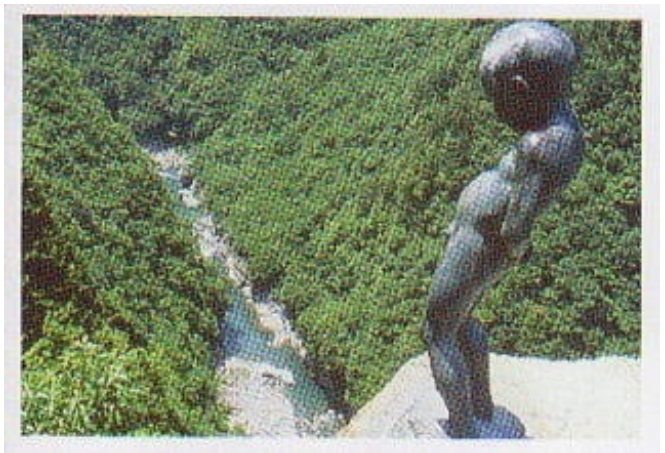
次の道の駅へ行くだけでも、１時間はかかります。
やっぱり、無理です。

結局、かずら橋を目の前にして、断念することにしました。　(Ｔ▽Ｔ;)

悔しいので、パンフレットの切り抜きだけでも載せておきますね！



ついでにもう一つの観光スポット “小便小僧” の切り抜きも！



ちなみに小便小僧へは、この先を左に曲がり、祖谷渓谷の奥へはいってゆくのですが、「走りやすさマップ」でみると真っ赤っかの道路が延々と続きますから、相当な覚悟が必要なようで・・・・！

道の駅
にしいや

吉野川に抱かれる！“三野”

「にしいや」 から今来た道を辿って国道３２号線に戻ると、あとは渓谷沿いに一路北上します。険しい渓谷の水かさが次第に増し、川幅が広くなってやがて、四国三郎 “吉野川” の雄大な姿に変わってゆきます。

祖谷の秘境から約１時間かかって到着したのは、
道の駅三野　です。

徳島自動車道の 井川池田ＩＣ と 美馬ＩＣ の中間に “吉野川サービスエリア” があり、ここはＥＴＣの場合だけ出入りができます。

道の駅三野 は、ここにほど近いのですが、もちろん高速は使いません。

道の駅は、それほど大きくはありませんでした。
手前の部分に野菜などを売る 「産直市」 があり、その先が食堂兼物産館になっています。

ここへの到着が４時４３分ですが、この時期、日が落ちるのが早いですね。
既に、あたりは薄暗くなりかけています。

まずはスタンプをゲット！
あたりを見回しますが、がらんとしていて商品も少なく　・・・・・

う～ん！　これといって特徴のない　・・・・・　。

ここって、ブログに書く材料が何にもないな　・・・・・　と思いつつ、滞在時間７分で立ち去ることにしました。

ということで、今日の記事、すごく短いですけど　・・・　残りがまだ２か所もあるので　・・・　先を急ぎます！

宵闇迫る！“貞光ゆうゆう館”

道の駅貞光ゆうゆう館　には、約２０分で到着しましたが、時間は１７時１０分、
既にあたりは暗くなってしまいました。
ここは国道１９２号線沿いで、結構交通量も多いです。

いつも必ず最初に写真を撮る道の駅の看板、ここは幸い照明があって写せました。
照明付きの看板はあまり見かけないので、普通なら撮れないところでした。

せっかくのシンボルも、暗いのではっきり見えませんね！

ここは駐車場も広くて、久しぶりに大きな道の駅です。

左端の円筒形の高い建物、これは “シンボルタワー” で、地上２３ｍに展望台があります。
ここからは、雄大な吉野川、剣山の山頂、そして街並みが望めるはずなのですが、この暗さではどうにもなりません。

秘境 “かずら橋” を断念してもこの時間なのですから、もし行ってたらどうなったことやら　・・・　。

木々にはイルミネーションが飾ってあります。

この遅い時間にも拘わらず停まっている車も多いし、お客もそこそこ残っていました。
やはり交通量の多い所にある道の駅は、賑わっているものです。

さて、店内はというと　・・・・　。

中央のギャラリーには 「押し花絵」 か何かの展示があっていて、中央には既にクリスマスの飾りつけが・・。

この建物は３階建てになっていて、１階が部産センターとホール、ギャラリー、情報コーナー、そして２階と３階が一部吹き抜けのレストランと、洒落た造りになっています。

さて、あと１か所残ってますからゆっくりしている暇はありません。
ここの滞在時間は“６分”、今までの最短記録です。

ここを出発したのが１７時１６分、最後の道の駅の営業時間は１８時まで。
距離はわずか１０キロメートルしか離れていませんから、十分に間に合う　・・・・・　はずでした。

でも　・・・・・　！

道の駅
貞光ゆうゆう館
TEL0883-62-5000

道の駅はどこにあるの？“藍ランドうだつ（その１）”

貞光ゆうゆう館からは１５分しかかからなかったので、
道の駅藍ランドうだつ　に到着したのは１７時半でした。

ここが、今日の最後の道の駅　・・・　のはずです。

道の駅の標識に従って入ってゆくと、そこは広い駐車場になっていました。
既にあたりは真っ暗で、駐車場の街頭でかろうじて周りが見えます。

駐車場の奥に建物があったので、行ってみました。
でも　・・・　それは　・・・

「あれっ！ここはトイレだよ！」

駐車場のまわりをぐるぐる回ってみましたが、それらしい建物は他には何も無いのです！

トイレの横でタバコを吸っているおじさんがいました。
尋ねて見ると　・・・・・
「ここは、駐車場とトイレしか無いよ！」

「この裏に “うだつの街並み” っていうのがあってね、それを見に来る人たちが車を停めるんだよ！」

そっ、そんなはずは無い！
ちゃんと “道の駅” って看板があったじゃないか！

道の駅に電話をかけてみることにしました。
薄暗い街頭の下でスタンプブックにある電話番号にかけてみます。

「ぶぶぶ・・・・　ぶぶぶ・・・・　ぶぶぶ・・・・・・・・・・・」
出ません！

途方にくれて一旦クルマに戻りましたが、どうにも納得ゆかない。
１８時まで付近を探してみよう！　と再び探索に出ました。

トイレの裏に回ってみると、何か水路の跡のような場所があり、その先に建物が見えます。
どうやら 「うだつの街並み」 の裏側のようです。

行ってみると古い “木戸” があり、その前に小さな道の駅の看板がありました。
どうやら、ここが道の駅の入り口のようです。

でも、戸はしっかり閉まっているし、すべて真っ暗で人がいる様子はありません。

やはり、時間前に閉めてしまったのでしょう。

あらためてスタンプブックを見てみると　・・・
「営業時間　18：00まで」 そのあとに小さく　「季節によって早く閉める場合があります」 と書いてある！
なんじゃ、こりゃ！ヽ(`Д´)ノ

やむを得ないので、明日出なおすことにしました。

この時は真っ暗で何も写真を撮れなかったなので、翌日の分をちょこっとだけお見せしますね！

これが駐車場の先にある“トイレ”ですね。

トイレの裏側の水路跡にかかっている通路を行くと、その先の建物が実は道の駅だったのです。

それを拡大すると、・・・・

この写真も翌日の朝９時前だったので、しっかりと木戸が閉まっていますね！

ここから徳島自動車道に乗って、徳島市内のホテルまで１時間弱かかりました。
困ったのは明日のことです。

朝一番に「藍ランドうだつ」まで戻るとすると、かなりの時間のロスになります。
更に、その次の目的地「温泉の里神山」ですが、このルートだと、あの悪名高い “いくさ酷道”（国道１９３号） を辿ることになるのです。

それを避けるために、別ルートで計画していたのに　・・・・　。（ｉДｉ）

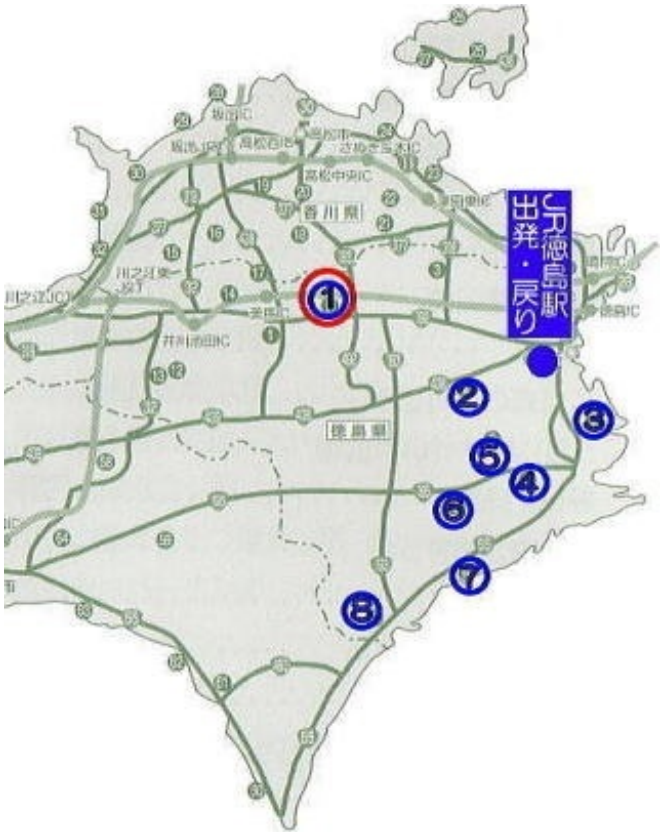
そのことをその夜の記事にアップすると、深夜にも拘わらずすぐに４～５件のコメントをいただき、
その中の miya-z さんから詳細な迂回ルートを教えて頂きました。

本当にありがたいことです。
明日のルートもきまり、これで安心して寝ることができます。

うだつの町並み！“藍ランドうだつ（その２）”

２日目になりました。

前日に真っ暗やみの中で探し回って結局閉まっていた、
道の駅藍ランドうだつ　に、朝一番に向かいました。



徳島市内のホテルを７時４０分に出発し、徳島自動車道を一気に走り、道の駅に到着したのは８時半です。

ここは９時からなので、それまでに “うだつの街並み” なるものを散策してみることにしました。

最初、“うだつ” という地名かと勘違いしていましたが、実際は “美馬市脇町” という場所で、全国でも数少ない “うだつ（卯建）” がある建物が並んでいる、ということで “うだつの町並み” と呼ばれるものです。

上の地図がここで貰ったパンフレットの一部ですが、この略図の道の駅も、パーキングとトイレしか書いてありませんね。　(￣□￣；)

蜂須賀家が 「阿波」 の藩主をしていた時代 「阿波藍」 を奨励し、この脇町一帯を藍商を中心とした商人の町にしました。

そしてこの「南町」の通りが特に豪商の立ち並ぶ本街道であり、大半が当時のまま残されてきたものです。

昨日は暗くて気がつかなかったのですが、うだつの町並みへの道案内がありました。

この通路を進むと、昨日しっかりと閉まっていた “木戸” の裏側に出て、そこに道の駅の建物がありました。
もちろん、この時間はまだ閉まってますから後でご紹介しますね！

その建物の先の路地を入ってゆくと、“うだつの街並み” の通りに出ました。

さすがに朝早いのでまだ通りは少ないです。

この古い街並みにはちゃんと人が住んでいるらしく、それぞれに表札があり、その中の一部はお土産屋や食堂になっています。

ちょうど開店準備で家の前の掃除をしている人に尋ねてみました。

“うだつ” って、どれのことを云うのですか？

「ほら、あそこに鬼瓦のついた突き出た部分があるでしょう！　あれですよ。」

「元々は火事の時に隣りへの類焼を防ぐために造られたのですどね、昔はすごくお金がかかったらしいんです。」
「だからお金持ちにしか造れないから、“うだつがあがらない”っていうのはそこからきているんですよ！」

なるほど、これだったんですね！
そう言われると、この街並み、どこの建物にも立派なうだつがいくつもありますね。

ちなみに “うだつがあがらない” という言葉の由来には２つの説があります。

そのひとつは先ほど教えてもらった「金持ちにしかうだつを造ることができなかった為」、
そしてもう一つの説は、「うだつは２階の大屋根にいつも頭を押さえつけられているから」 だそうですが、果たしてどちらが真実なのでしょう。

上の写真を見ると、後者のような気もしますね！（笑）

さて、もうひとつ不思議に思った光景が　・・・・・　。

この時間、私たちのほかにも何組かの観光客がいました。

その中には、こんな大きな旅行カバンを持って、“ガラガラ” と大きな音を響かせながら散策している若い人たちがいました。

最初は気にならなかったのですが、しばらくすると、同じような旅行カバンの人たちが何人も現れました。

車や観光バスで来ているならこんな大きなカバンは車内に置いて来るはずだし、列車や乗合バスっていうのも不自然ですね。

いまだに “謎” です。

さて、９時になったので道の駅へ行ってみました。

店の方に「ここって、何時まで開いているのですか？」と尋ねてみました。

「本当は６時までなんですけどね！　暗くなるとお客さん来なくなるから早く閉めるんですよ！」

実は昨夜５時半に来て閉まっていたことを告げると　・・・・

ちょっと申し訳なさそうな顔になり、いくつものパンフレットを出して色々と町のことを説明し

てくれました。
「オデオン座にも行ってみた方がいいですよ！　西田敏行主演で映画の舞台になったところです。」

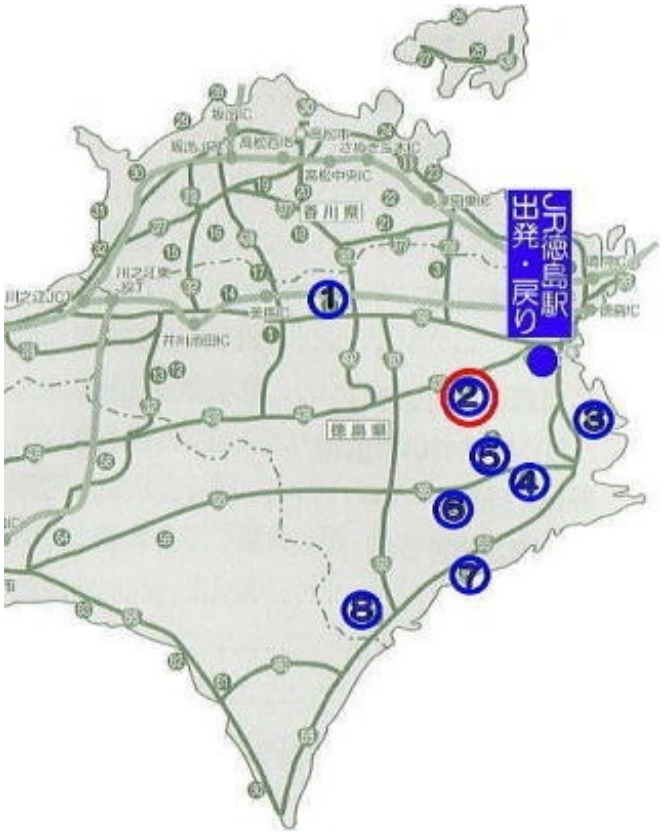
もう、散策を済ませてきたのだと言いだせなくなり、もう一度路地を通って街並みへ　・・・・（汗）
そして、わざわざ遠回りをし駐車場に戻りました。（失笑）

でも、昨日閉まっていたおかげで珍しい “うだつの街並み” というのをゆっくり散策できたんだから、結果的には良かったことになりますね。

道の駅・藍ランドうだつ
AIRANDO
UDATSU
UDATSU WAKIMACHI

粟生の館！“温泉の里神山”

２日がかりで 「藍ランドうだつ」 のスタンプを押して、次に向かうのは、
道の駅温泉の里神山　です。



今回の徳島のルートを決めるときに、一番悩んだのはこの 「温泉の里神山」 です。
ぽつんと一つだけ離れているだけでなく、どのルートから行っても厳しいのです。

結局、一番無難と思われる徳島市内からまっすぐ国道４３８号線を辿るルートに決めていたのですが、それが 「藍ランドうだつ」 のハプニングで、ルートが変わってしまったのです。

この道の駅のすぐそばに 「神山温泉」 というのがあり、そこへの案内が下の地図です。

「藍ランドうだつ」 は、左上 “脇町ＩＣ” のすぐそばです。

ここから 「温泉の里神山」 への最短距離は、普通の地図を見ると国道１９３号線を辿るコースですから、知らない人はここを通りますね。
実際、ナビで目的地を入力したら、国道１９３号線ルートになりましたよ！((((((ﾉﾟ⊿ﾟ)ﾉ

上の案内図、この １９３号線（いくさ酷道） が如何に曲がりくねった道かわかりますね。
しかも、小さい字なので読めないかもしれませんが “※山道のため、おすすめできません。大型車通行不可” って注意書きが書いてあります。

そこで miya-z さんからアドバイス頂いた、国道１９２号線 →　県道２０号線　→　県道２１号線　→　国道４３８号線　というルートを辿ります。

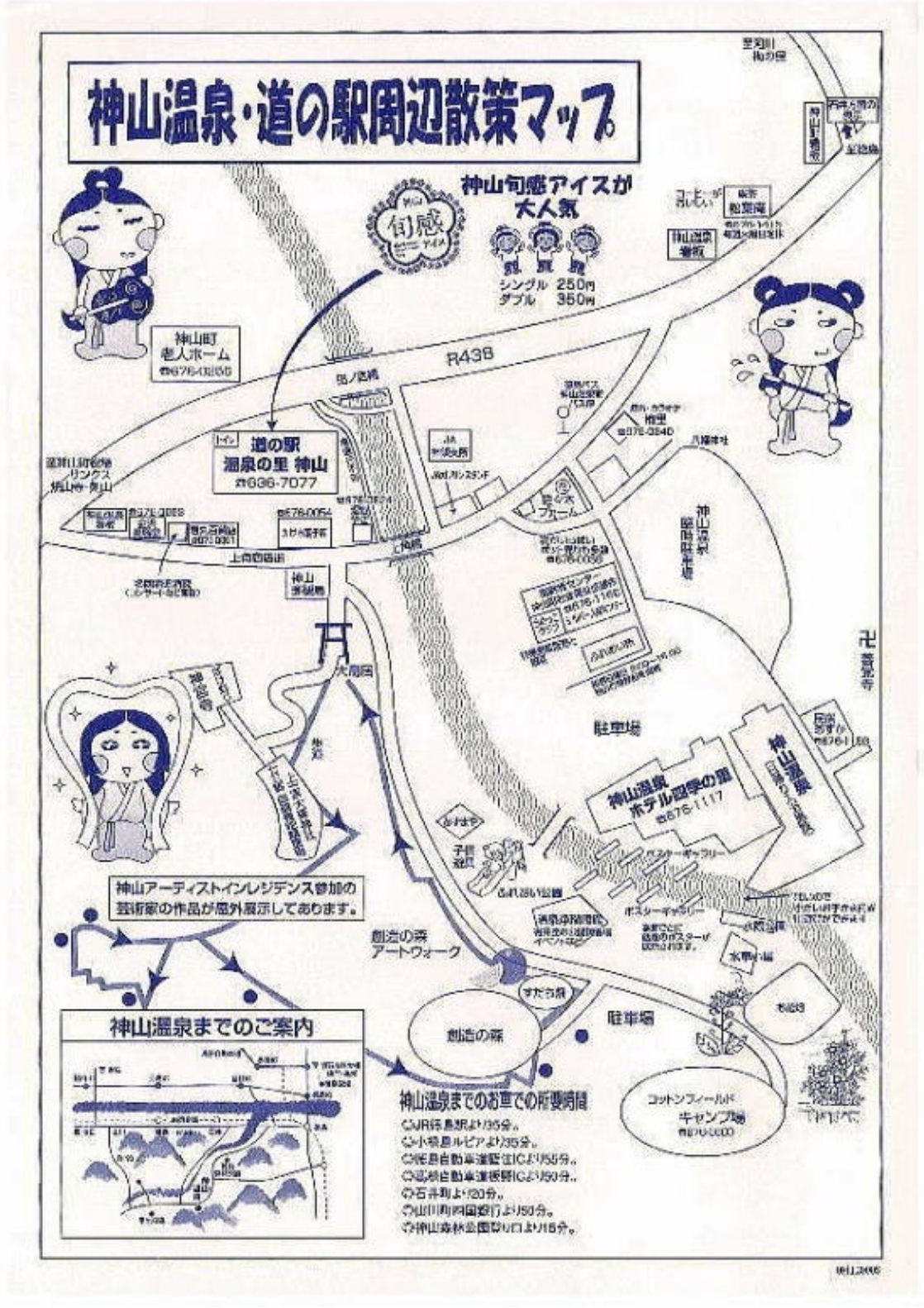
上の案内図だとこのルートが分かりやすく書いてありますが、普通の地図を見ても多分わからないと思います。

と言っても、この県道２０号線、２１号線、“えぇっ！” という場所がいくつかはありましたが、ほんの短い距離ですね。

ジャスト１時間で無事に到着しました。
山の中の寂れた道の駅を想像していましたが、意外と立派！

ここ “神山町” は徳島県のほぼ中央、鮎喰川の上流に位置する山林、農業の町です。
「すだち」 の生産量は日本一、「梅」 の生産量は四国一を誇ります。

そして、この豊かな自然と美しい景観を生かして、キャンプ場、森林公園、ゴルフ場などのレジャー施設も数多く点在します。



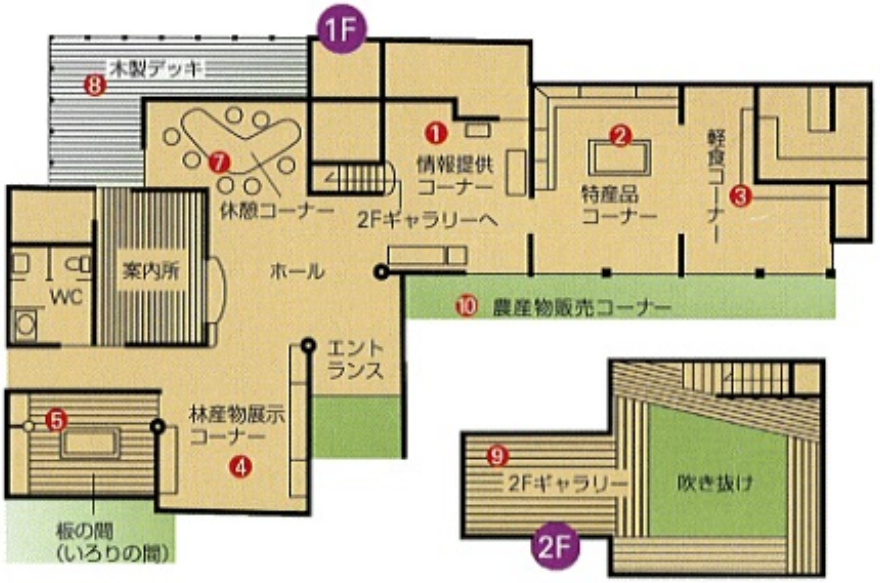
この散策マップを見ても、道の駅付近には温泉あり、ホテルあり、創造の森やキャンプ場あり、と結構賑やかです！

ここの建物は徳島県内の材木を使った、純和風造りの木造建築です。
玄関には、“粟生（あわふ）の館” と書いてあります。

鮎喰川流域に住む人たちは、粟を育て、主食にしていた人達でかつて「粟族」と呼ばれていました。

粟族は徳島に住んだ最も古い開拓集団で、阿波徳島の阿波はこの粟に由来するともいわれています。

「粟生（あわふ）の館」という名称はここから名づけられていますね。



いろりの部屋もありました。
家族やグループで、無料で自由に使うことができます。

特産品コーナーには、お遍路さんの買い物姿もちらほら見えます。

朝１０時過ぎだというのに、お客は結構多くてレジにも列ができていました。
日帰り入浴施設、宿泊・研修施設もすぐそばにあり、私の抱いていたイメージとはかなりかけ離れた道の駅でした。

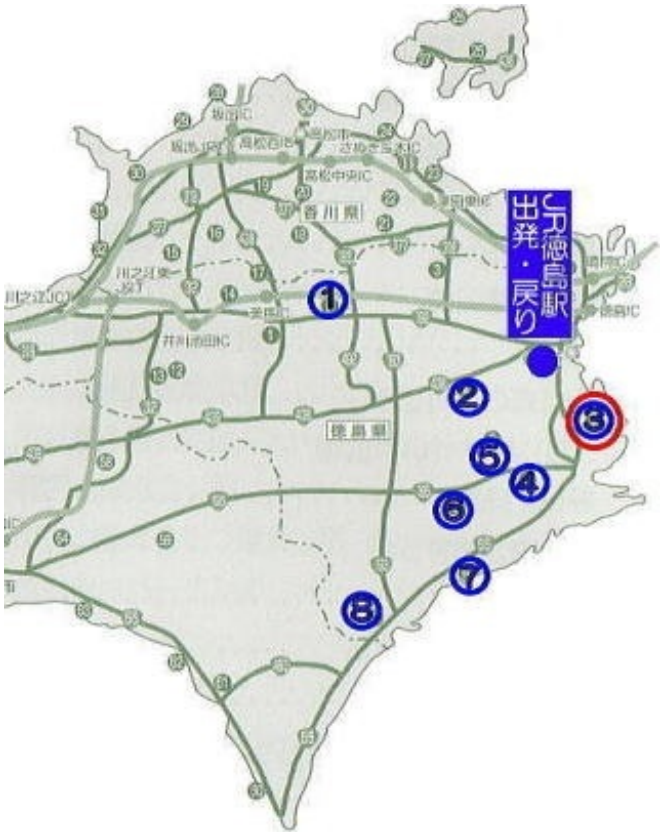
（勝手にぼろっちいのを想像していてすみません！）　m(u_u)m

道の駅
温泉の里神山
杉
スダチ
梅
湯生の館
TOKUSHIMA
KAMIYAMA

足利将軍の末裔が住んだ！“公方の郷なかがわ”

次に向かうのは、国道５５号線沿いにある
道の駅公方の郷なかがわ　です。

国道５５号線は、徳島から海岸線沿いに、室戸岬経由で高知に向かうメインの国道です。



山間部にあった「道の駅温泉の里神山」 から、国道５５号線に出るには、まず４３８号線を徳島市方面に向かい、途中から県道３３号線を辿るルートになります。

この４３８号線、例の走りやすさＭＡＰでは、途中真っ赤な曲がりくねった区間があったのですが、実際には立派なバイパスが出来上がっていました。

県道３３号線には一部狭い部分が残っていますが、距離的にはそれ程ではありません。
無事に国道５５号に出ると、交通量は一気に多くなりますが、メイン道路なので広いし、ほっと安心します。

この道の駅、ナビで探してもこの名前ではでてきません。

１９９９年にオープンしたときはこの名前だったのですが、２００６年に市町村合併した際、「道の駅阿南市那賀川」と名前が変わってしまいました。

でも、「公方の里」という名前の復活を求める声が多く、２００８年になって元の名前に戻ったものです。

ですから、ナビや古い地図には「道の駅阿南市那賀川」として掲載されており、上の道の駅標識を見ても書き換えた跡が残っていますね。

この道の駅のすぐ先に、一級河川 「那賀川」 の河口があります。
阿南市は、この那賀川を中心に開けた町です。

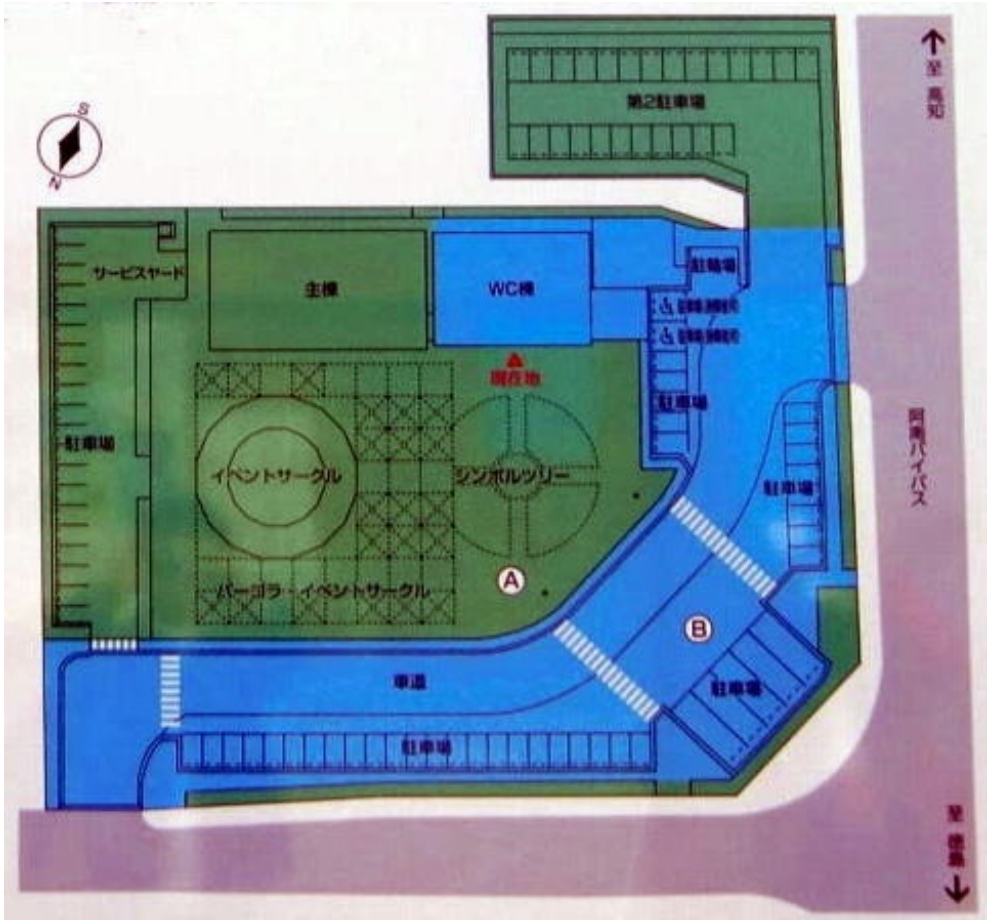
“公方の里” っていう名前ですが、室町時代の末期から約２７０年間足利将軍の末裔が “阿南公方” として居を構えた事から来ています

で、そもそも “公方（くぼう）” って何？ って思われる方もおられますよね。（私もそうです）

Wikipedia で調べると次のように書いてあります。

公方（くぼう）とは、前近代の日本において、国家に関する公（おおやけ）のことを体現する方面及び国家的統治権、すなわち古い時代の天皇やその朝廷、鎌倉時代、室町時代の将軍に起源する言葉である。特に室町時代の後半には、将軍の公権力の代行者として君臨した足利将軍家の一族の者の肩書きとして用いられた。

う〜ん！分かったような、分からないような　・・・　？
県知事みたいなものなのかな？



ここは大きな道の駅です。
周りは広大な田畑が広がっており、気持ちの良い場所にあります。

まだ午前中ですが、新鮮な野菜、海産物を求める為か、駐車場は既にいっぱいです。

周りには、たこ焼き屋やうどん屋などいくつかのファーストフードのお店もあります。

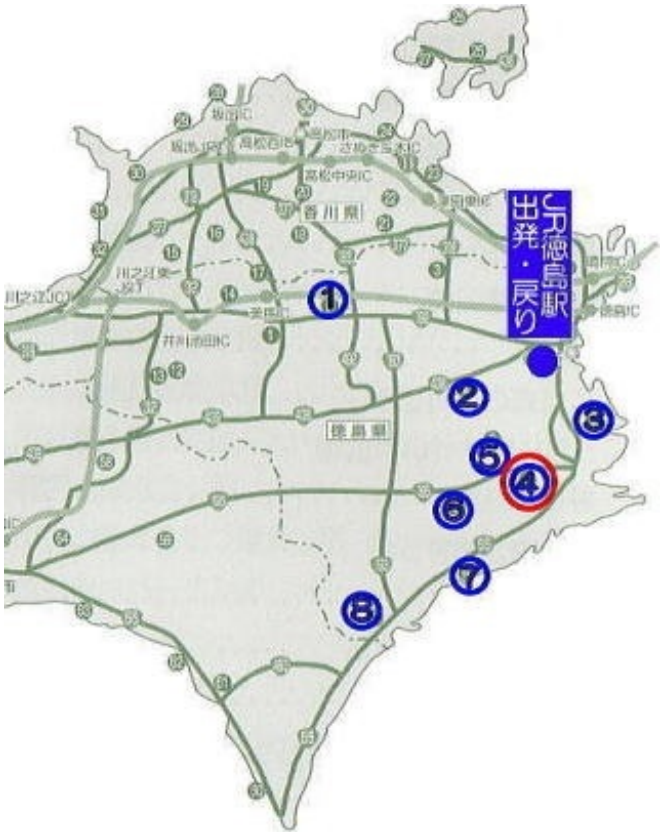
このサークル状になった空間は、いろんなイベントが行われるのでしょう。

国道５５号線バイパス沿いという立地の良さと、近隣住民の食材買い入れや憩いの場として、うまくいっている道の駅の一つだと思いました。

道の駅 公方の郷なかかわ
茨城県
阿南市

お遍路さんグッツも揃う！“わじき”

国道５５号線をしばらく南下したあと、１９５号線に分岐します。
この国道１９５線沿いに３か所の道の駅があるのですが、その最初の
道の駅わじき　に向かいます。



この付近、先ほど通った“那賀川河口”から繋がる那賀川上流にあたり、大きく曲流して景勝地になっており、これが“鷲敷ライン”と呼ばれています。

この道の駅の名称はこの“鷲敷”からきているのですが、ここからは残念ながらそのような川の流れは見えません。

ここは、・・・・　えっ！小さい！
駐車場も狭いし　・・・　ただ、少し離れた場所に第２駐車場、第３駐車場があるようです。

案内図をみると裏には川が流れているようなのですが、そこは鬱蒼とした森林で川らしいのは見えません。

道の駅の建物は “のぎくの館” というようです。

中に入ってみました。

左奥が食堂、右奥は情報コーナー、そしてこの手前が物産品販売所です。

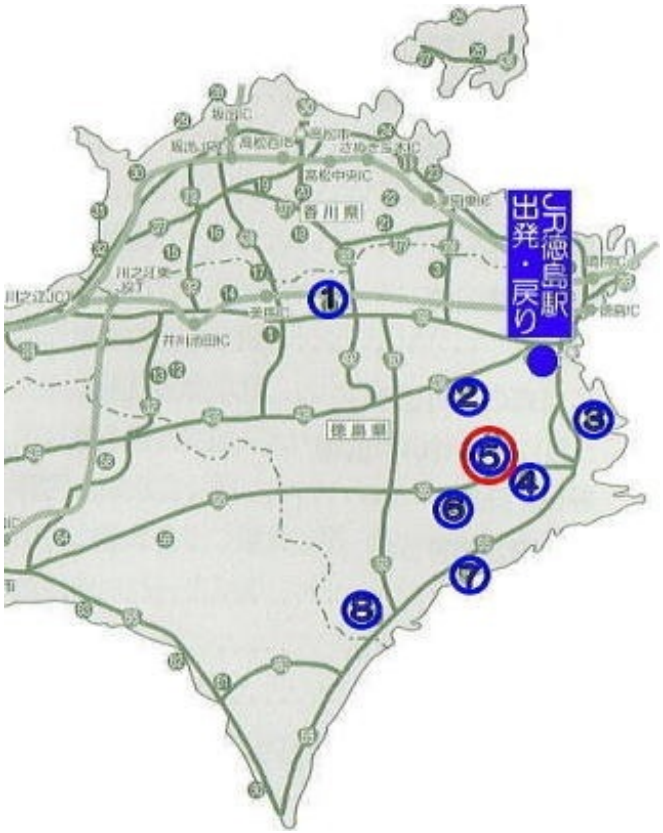
さすがに四国ですね～
お遍路さんグッツが売ってますよ！

う～～ん！　ここには店の中にも、外にもあまり紹介するものがない　・・・・・・・・　！
記事を書くのに一番困るんですよね！こういう特徴のない道の駅！

ということで、さっさと次へ行きますので、レポートも短めに終了です！(^▽^;)

太龍寺ロープウェイの乗り場！“鷲の里”

さて、何にもネタのなかった 「わじき」 から国道１９５号線をもう少し進んで
道の駅鷲の里　へやってきました。



国道からは少しだけ離れますが、那賀川沿い、“鷲敷ライン”の途中に位置しています。

ここは、貸切バスも数台停まっている、すごく大きな道の駅で期待できそうです！

この左側に建物が道の駅のメインで、その右にある６角屋根（？）の部分は展示コーナー、更にその先に“太龍寺ロープウェイ”の乗り場があるのです。

そして、一番上の写真の右手前にある切妻造りの建物は宿泊施設になっています。

“太龍寺ロープウェイ”って何なんでしょうね？
下の写真、ちょうど建物の上にロープウェイが動いているのがわかりますか？

アップしてみましょう。

この斜面の頂上に見えるのが “第一支柱” なのですが、更にここから “第二支柱”、“山頂駅” と続き、全長２，７７５ｍ の西日本一の長さを誇るロープウェイなのです。

そしてその頂上にあるものは　・・・・・

四国霊場二一番札所 “太龍寺” です。
“太龍寺” は、古来より “西の高野” といわれ、弘法大師空海（お大師様） が修業を積まれた場所なのです。

ですから、ここは四国霊場の中でも群を抜く壮大なスケールのお寺で、大勢のお遍路さんがお参りをします。
この日も、下りのロープウェイが着いたとき、お遍路さんの “大群” に出くわしました。

さて、建物に入ってみましょう。

“鷲の里” の名前の通り、鷲（わし）のモニュメントがあります。

さすがに由緒あるお寺の麓にあるだけあって、入口には欄干があり、そこには庭園が造られ、鯉も泳いでいます。

さすがにここは中も広いです。

スタンプがどこに置いてあるか聞こうと一番手前のレストランに入ったら、さっとお冷を持ってこられて慌てました。（汗）

スタンプは一番奥のロープウェイ乗り場の売店にあることが分かって、無事にゲット！

中央の六角屋根のところはこんなになっていました。
正面にあるのは “夫婦鷲” です。

これって、“一刀彫” なんですよ、驚きます。

更に天井には、北海道から贈られた “オオワシ” の剥製が　・・・・　。

ロープウェイの乗り場までには、いろんなお店が並んでいます。
もちろん、お遍路グッツの専門店も！

そして、廊下に飾ってあるこんなものを見つけました。

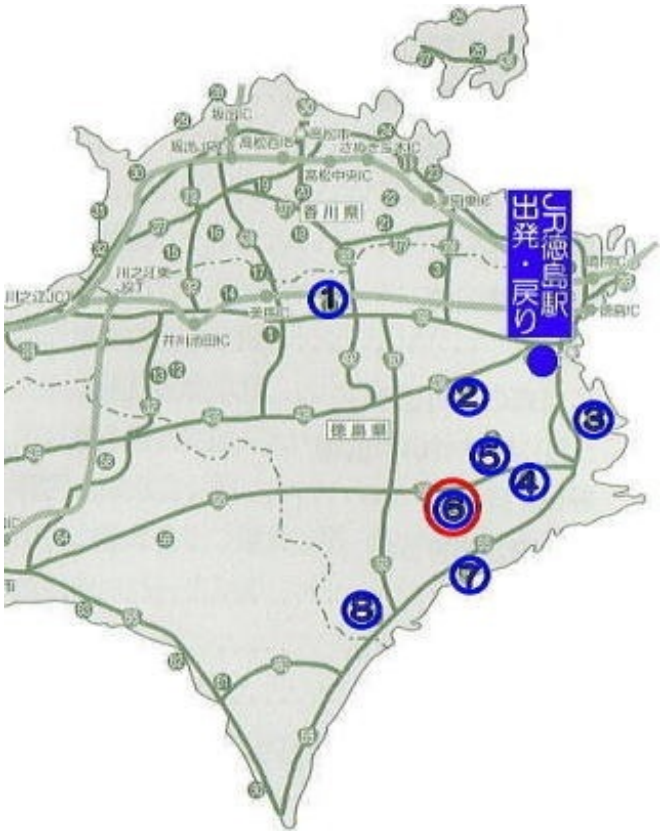
この仏さまの像を数えたら、ちょうど８８体。
ということは、ここでお参りすれば霊場８８か所を巡ったことになるかも？

そんな安易なお参りではご利益は期待できませんね！

道の駅 鷲の里
WASHI-NO-SATO

名物はんごろし！“もみじ川温泉”

鷲の里の道の駅を出て再び国道１９５号線を進み、わずか２０分弱で
道の駅もみじ川温泉　に到着しました。



ここも那賀川沿いであり、道の駅の裏を例の “鷲敷ライン” が流れています。

ここは元々町営の保養センターだったものが、２０００年にリニューアルオープンしたものです。
ですから、道の駅というより日帰り温泉施設、食事処、宿泊・宴会施設として利用されているようです。

宿泊は、１泊２食付きで８４００円からになっていますから、まあ、リーズナブルな値段ですね！

一番右側の丸い部分が、温泉になっているようです。

折角なので温泉の写真も入れてみました。
日帰り入浴だと、５００円です！

国道を挟んだ反対側に、農産物直売所 “あいおい” があります。
ここには、“はんごろし” という物騒なものが売られています。 (((゜д゜;)))

実は “はんごろし” とは、おはぎのことなんですが、もち米を半分くらいしか潰さないことからきているそうです。
米粒が半分くらいしか崩れていないおはぎで、人気商品なので午前中で売り切れます。

ちなみに、この地方では、おはぎのことを “はんごろし” 、よくつきあげたお餅のことを “みなごろし” と呼ぶそうです。

入口の “もみじ川温泉” の看板、一枚板で貫禄があります。

この右奥が温泉の入口です。
正面に、温泉と宿泊施設のフロントがあります。

ミニコンサートもやるんですね！
誰が来るんだろう？

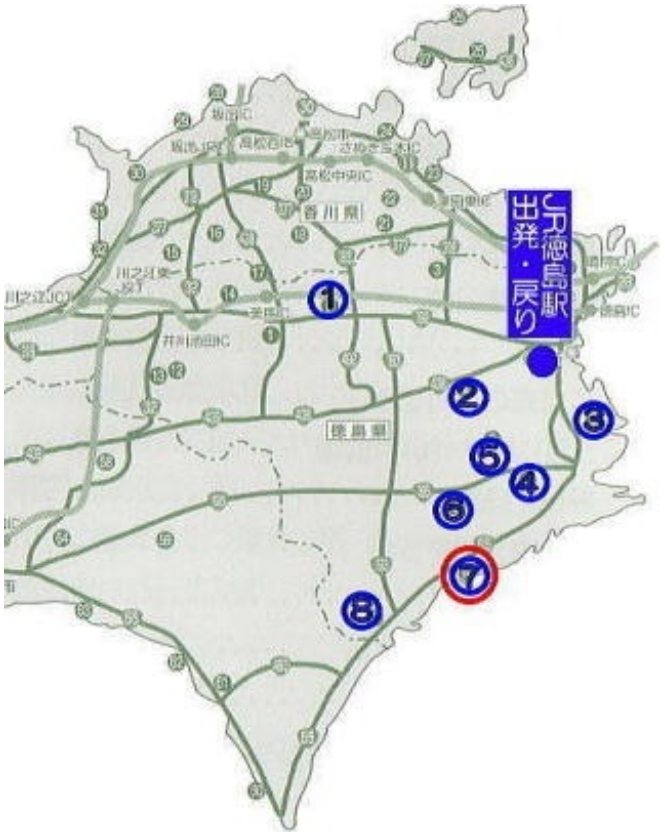
この道の駅、“もみじ川”っていう名前なんで、どこかにモミジの真っ赤な紅葉が見られるかな、と期待していましたが、どこにも見当たりません。

裏に那賀川が流れていますから、そちらの方だったのかもしれませんね！

ウェルかめのロケ地！“日和佐”

もみじ川温泉から国道１９５号線をちょっとだけ戻り、県道１９号線を通って海岸線の国道５５号線に出ます。

道の駅日和佐　は、５５号線に出てすぐのところにありました。



この道の駅、すっごくでかい施設です。

とても一回では写真に入りませんので、まず配置図から！

国道５５線から入って、一番左にあるのが “産直館” です。

ここには、地元のとれたての野菜、果物、農・林・水産加工品などがふんだんに揃っています。

そして、その右隣の建物は “足湯館” です。

この足湯館は、この道の駅の敷地内から湧出している温泉水を使っており、一度に２０名が利用できます。
効用は、血流を改善し、冷え症、疲労回復に効果があるのだそうです。

そしてその先にはトイレの建物が続きます。

ここのトイレ、男子便器の間に仕切りがあってびっくり！

珍しいので誰もいないと思って写真を撮ってたら、小さな子供が不思議そうに私を見上げていた！

・・・・・　　けっ、けっして怪しいものでは　・・・・　（汗）

そして、一番奥にあるのが “物産館” の建物です。

物産館の左側に、JR牟岐線の “日和佐駅” があります。

さて、この物産館の壁に書いてある文字、読めたでしょうか？

“ウエルかめくん にぎわいステージ” と書いてあります。

実はこの日和佐は、海がめの産卵地として有名です。
そして、NHK朝の連続ドラマ 「ウェルかめ」 のロケ地でもあり、その為大勢の観光客が訪れます。

私はさすがに朝の連続ドラマなんて見たことがないのですが、嫁は知っていたようです。

“倉科カナ” とかいう娘が主人公で、
「一流のファッション誌の編集者を目指した主人公が、海がめに導かれるように人生を大転換。そして故郷と向き合ってゆく　・・・・　。」 というストーリーだそうな　・・・。

で、この物産館にはいるとまず出迎えるのは　・・・・・

おおおぉ・・・・・
キミが “ウエルかめ君” なのか　・・・。(ノ´▽｀)ノ

このでっかい奴のほかにも、カメ、カメ、カメ、カメだらけでした！

さて、もう一度外に出てみましょう。

やっぱり広いですね。
中央には風情ある “あずまや” もあり　・・・・

建物の向こう側にはお城が見えました。

これは、“日和佐城”といって、道の駅の向こう側、城山の山頂に聳え立っています。

そして駐車場から見えたもう一つのものがこれです。

かなり望遠で撮っていますが、四国霊場２３番札所“薬王寺”といいます。
厄除けの寺として、弘法大師によって開基され、国宝級の宝物が展示されているそうです。

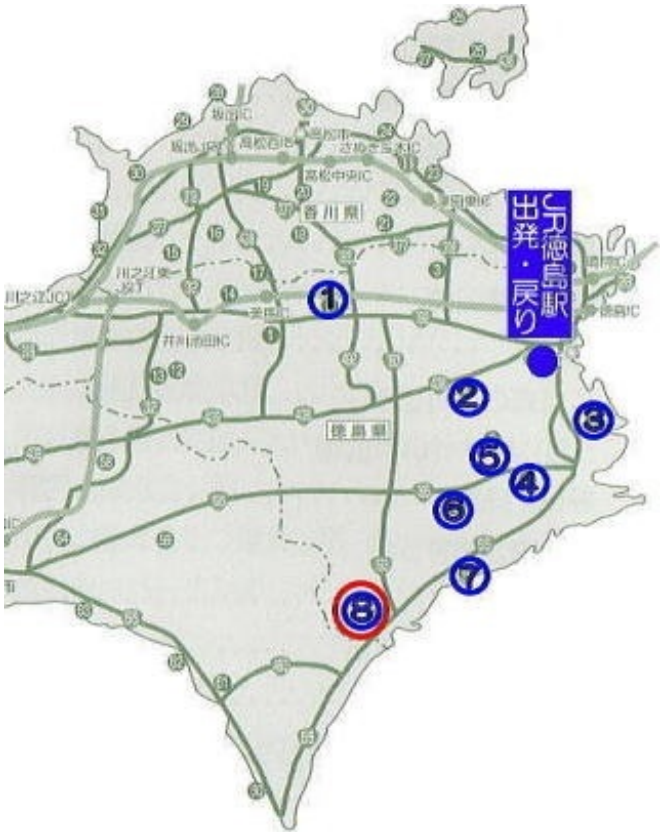
ここは、今回の道の駅の中でも特に良かった中の一つですね。

HIWASA
道の駅日和佐
TEL 0884-77-2121

サーファーのメッカ！“宍喰温泉”

いよいよ徳島の道の駅巡りの最終回になりました。

日和佐から４０分弱走って
道の駅宍喰温泉（ししくいおんせん）　に到着しました。



ここは徳島県の最南端、ここからほんの少し５５線を進めば高知県で、その先端には “室戸岬” があります。

この周辺は “室戸阿南海岸国定公園” に指定されており、サーフィンのメッカとして特に夏場は多くのサーファーが集まります。

そのため町ではサーファー専用の有料駐車場を近くに作り、道の駅には駐車しないよう呼びかけています。

これが道の駅の全体です。
右端の丸い塔のある目立つ建物は、“トイレ” です。

そして、この道の駅の隣には “ホテルリビエラししくい” があります。

このホテル、左下の部分を工事していますね。
これは、玄関前にあった 「プール」 を解体して駐車場にするのだそうです。

［解体前のプール］

う〜ん！何かもったいない気がするな〜！

外で写真を撮っていた時に轟音と共にバイクの軍団が　・・・・・　！
２０台くらいのマスツーでしたね。（“マスツー”って言葉、皆さんのおかげで覚えましたよ！(^ε^)♪）

さて、道の駅の全体は、このような配置になっています。

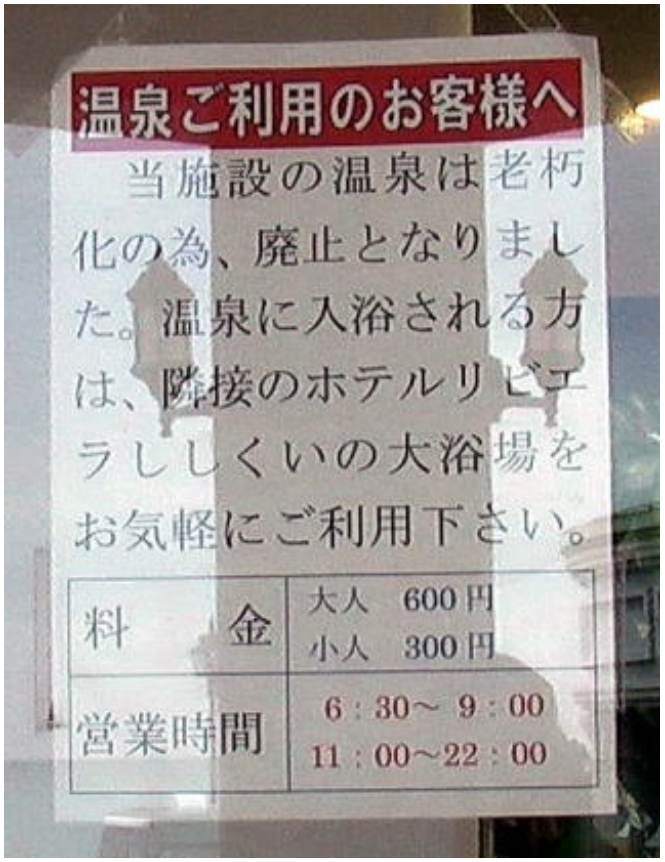
一応ホテルも一体になっているのでしょう。

ここは元“宍喰町”と言っていましたが、市町村合併で現在の地名は“海部郡海陽町”に変わっています。

“宍喰”っていう地名の語源はわかりませんが、森林が90%を占める地域ですから、しし（イノシシ）でも喰っていたってことかな？　（タンジュンスギルヨ！）

この道の駅、“温泉”って名前がついてますよね！
上の配置図をみると、右上、トイレの向こう側が“温泉棟”になっています。

でも、道の駅の入口にはこんな張り紙が　・・・・・　！



昨年２月にボイラーが故障、その交換費用が捻出できず解体、廃止が決まったのだそうです。
こんなところにも不況の影響が　・・・・　！。(´д｀lll)

さて、玄関を入ってみます。

中は広いロビーがあり、　・・・・・・

レストランや物産館もきれいですが、お客さんは少ないな　・・・・・　。
案内カウンターのお嬢さんも手持無沙汰げに　・・・・・　。

さて、これで徳島県１４か所を完走！
ここから、一気に徳島市内まで戻るのですが、２時間かかってＪＲ徳島駅に到着が17：20になりました。

時間があれば淡路島に渡って一番四国寄りの道の駅に行って　・・・　と思ってましたが、断念しました。

ＪＲ徳島駅を18：29に出発し、高松、岡山を経由して自宅に戻ったのは、夜中２３時半すぎ！
いよいよ四国も、高知県の一部を残すのみとなりました。

次回からは、四国道の駅巡りの最終編 “高知の旅シリーズ” を開始しますので、引き続きよろしくお願いします。

道の駅 宍喰温泉
TEL0884-76-3442

雲の上の楽園 “ゆすはら”

今日から新しいシリーズをスタートします。
１２月１１日（金）から１３日（日）まで２泊３日で行った、四国の締めくくりとなる高知県の旅です。

朝６時前に自宅を出発し、九州自動車道、大分自動車道を走り、大分県の佐賀関港までが２時間半かかります。

佐賀関からフェリーに乗り込み、７０分で四国の佐多岬半島にある三崎港に到着です。

フェリーの先端って、こんな風に開くんですね、前回は気がつきませんでした。

佐多岬半島には、無数の風車が回っています。
写真はほんの一部ですが、半島が細長いからどこからでも風を受けるのだろうと思います。

今日、１日目のコースは上の地図の順番ですね。

最初に向かうのは、フェリー乗り場から国道１９７号線を一路突っ走って２時間２５分、
道の駅ゆすはら　です。

ここへの到着時刻、１２時４５分、かなり遅いスタートになりました。

それにしてもここの道の駅の標識、随分汚れていますね。

これが道の駅の建物なんですが、“雲の上の市場”って看板がありますね。

実はここ、“高岡郡梼原町（ゆすはらまち）”は、標高が２２０ｍから１４５５ｍという位置にあって手つかずの自然が残っており、「神々が舞い降りる雲の上の楽園」と呼ばれています。

ですから、道の駅の産直品売り場がそのような名前であるだけでなく、その隣には　・・・・

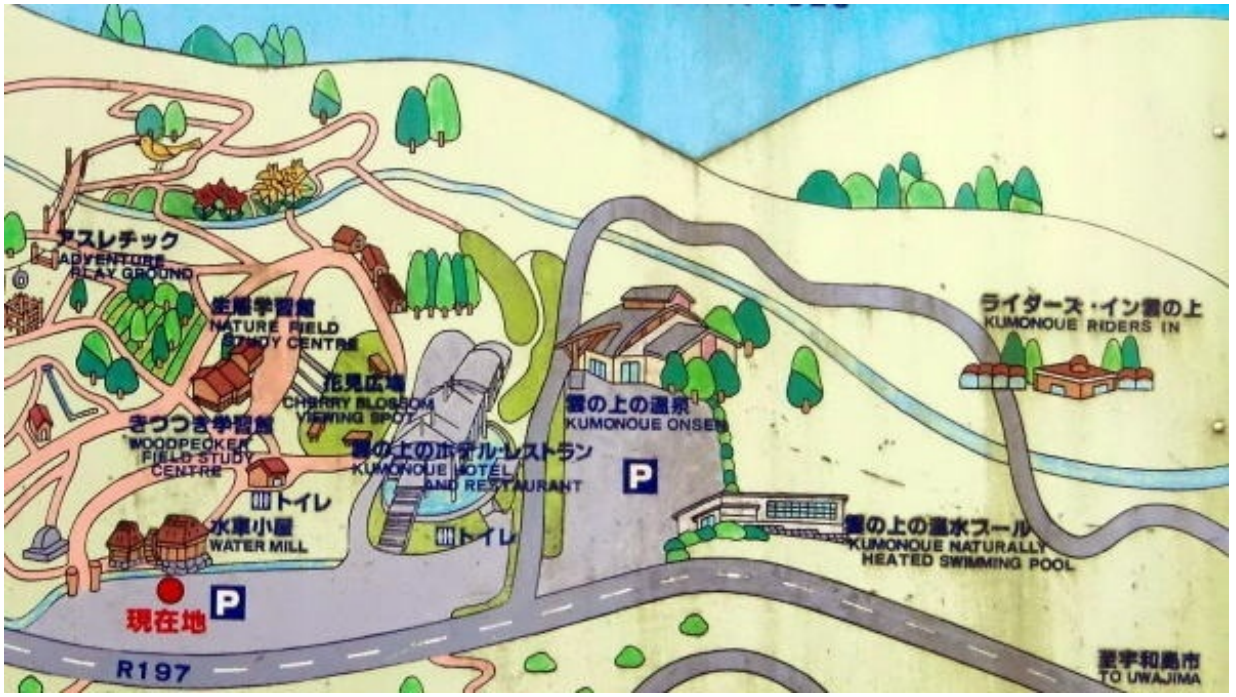
先ほどの道の駅の建物と打って変わって近代的なデザインですが　・・・・・

“雲の上のホテル” と “雲の上のレストラン” があります。

そのもう一段低い場所にある建物は　・・・・・

“雲の上の温泉” です。
この温泉が一番最初にあるので、これが道の駅と間違えて入ってしまいました。

そしてこの一帯、“雲の上の温水プール” や “ライダーズ・イン・雲の上” と、正に 「雲の上」 が徹底しています。



更に追い打ちをかけると　・・・・・

“雲の上のみち” という散策コースがありました。（笑）

さて、肝心の道の駅はというと　・・・・

まあ、普通の農作物売り場があり、食堂（ラーメン屋）があり、ってところです。

一番奥には、かやぶき屋根の水車小屋がありました。

これは、町内に残っていたものをここに復元したものだそうです。

最後にご紹介するのは、ここの“トイレ”です。

どこにあるか分らずうろうろしていたら、道の駅のおばちゃんが「自分も行くところだから」と言って案内してくれました。

まるで古墳の中に入ってゆくようなこのトイレは、先ほどの“雲の上のホテル”の真下の斜面に掘った横穴にあります。
ほとんど平地がないこの地での、土地の有効活用、ってところでしょうか？

この椿原町、不便な場所ではありますが、“雲の上のまちづくり”をキーワードにさまざまな地域活性化に取り組んでいる姿は、すばらしいと思います。

坂本龍馬ゆかりの地 “布施が坂”

本日の２か所目は距離にしてわずか１８ｋｍ、２０分ほど走って、
道の駅布施が坂　に到着しました。

ここも “四万十源流の駅” なんですね。
確か、“四万十源流” って、いままでいくつもあったような・・・・・・　？

これが、道の駅全体を少し離れて撮ったものです。

これが道の駅本体である “物産館” の建物で　・・・・

こちらは左端にある、“郷土料理” の食堂になります。

そして、物産館の正面にはこんなものが　・・・・・　。

実は、ひとつ前の 「ゆすはら」 もそうなんですが、“坂本龍馬” が脱藩した時に通ったルート上にあるのです。

坂本龍馬が維新を夢見て、同志「澤村惣之丞」と共に高知を出奔したのは１８６２年３月２４日、
そしてその辿った道は現在の研究において、

■3月24日～25日
高知－朝倉－佐川－朽木峠－三間ノ川－布施ヶ坂－東津野－当別峠－梼原（泊）
■3月26日
梼原－大越峠－宮野々関－韮ヶ峠－榎ヶ峠－封事ヶ峠－日除－水ヶ峠－泉ヶ峠（泊）
■3月27日
泉ヶ峠－耳取峠－石上峠－宿間－長浜（泊）

と言われています。

ここに布施が坂や、梼原（ゆすはら）の地名が出てくるのですね。
そして、このルートの約７割が、現在の国道１９７号線沿いになるのです。

ですから、このルートを“維新の道・脱藩の道”といって、「日本の道１００選」に選定されています。

さて、道の駅物産館の玄関口には、こんな看板も　・・・・・　！

“一生懸命営業中”って看板、どっか他でも見かけたような　・・・　。

もう一つの右側には　・・・・
“食堂 売店 やりゆうぜよ” って書いてありますよ！

“やりゆうぜよ” って言葉、調べてみました。
“営業中！” って意味らしいです。

“・・・・・ぜよ” って言うのは土佐弁で、“・・・・　しようよ！” といったニュアンスで
“始めゆうぜよ” →　“始めようよ！” といった使い方をしますね。

“やりゆう” というのは “やろう” という意味だと思うから、「営業中！」 ってことになるのかな？

もし解釈が違ってたら土佐の人たちに失礼だから、コメントで教えてね！(^▽^)

さて、店内に入ってみると　・・・・　出ました！

坂本龍馬 ですね！（笑）

今回の高知の旅、この先 “坂本龍馬” にたびたび出会うことになります。

さて、外をもう少し紹介しておくと　・・・・・・

こんなのがありましたよ！

「開拓感謝之碑」
これは、北海道訓子府町より贈られたものだそうで、“訓子府町” とは姉妹町なのだそうです。
経緯は分らないけど、この町の出身者が北海道に移住して開拓を手掛けたのかな？

あくまでも推測ですけど　・・・・　。

そして道路を挟んだ反対側が “休憩公園” になっています。
ここからの眺めは雄大です。

この深い山の中を 坂本龍馬 を始めとする土佐の志士たちが、新しい日本の未来を夢見て “京” を目指したのでしょうね！

そしてここには、こんな滑り台が　・・・・・　。

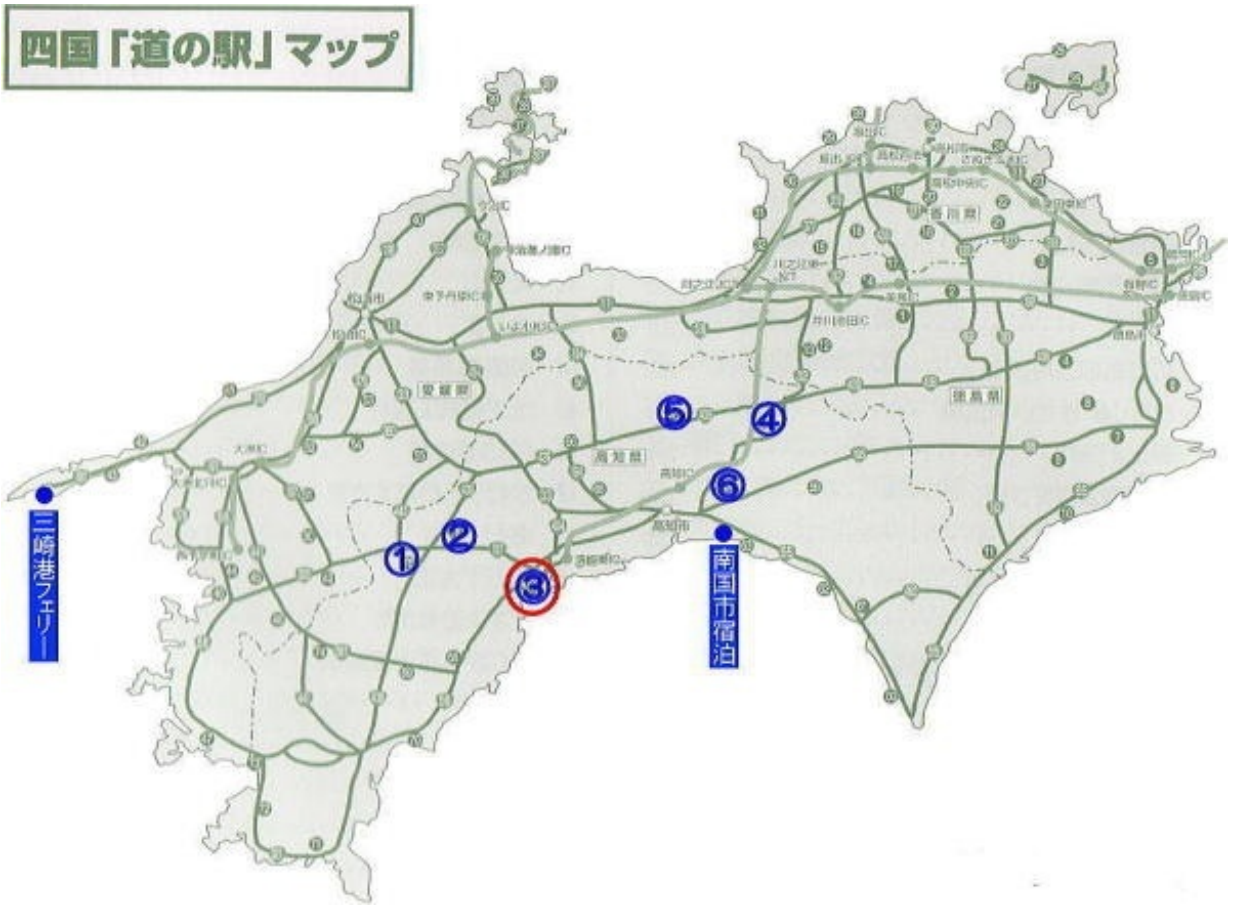
入口の天狗さん、すっかり色あせてますね。（笑）

これは、長さ１００ｍのローラー滑り台なのだそうです。
でも、滑り降りるのはいいけど、ここに戻ってくるのはしんどそう！

最後にもう一枚、段々畑の写真で締めくくりを　・・・・・・　。

四国最大級の道の駅 “かわうその里すさき”

しばらく四国の山間部を走ってきましたが、須崎市で太平洋側の海岸線に出ました。
道の駅かわうその里すさき　は、国道５６号線との交差点の角にありました。



ここまでずっと辿ってきた “国道１９７号線” は、大分市から高知市までを結ぶ幹線国道です。
ただ、この須崎市と高知市の間は “国道５６号線” と重複になるので、実質的にはこの須崎市までとなります。

この１９７号線、ご存じのように大分県の佐賀関港から愛媛県三崎港まではフェリー自体が 「国道」 として九州と四国を繋いでいます。

この国道もかつては “１９７(イクナ（行くな）酷道)” と呼ばれて悪路の典型だったそうですが、トンネル工事や道路整備が進み、ごくわずかな区間を残して快適な２車線道路になっています。

例の “４３９よさく酷道” や “１９３いくさ酷道” も、いずれは “かつてはこう呼ばれていた” と言われる日が来るのでしょうね。

この道の駅は１９７号と５６号の交差点にありますが、すぐ先から左折すると、“高知道” に接続する “須崎バイパス” となります。

このバイパス、多分最近できたのだと思いますが、親切なことに道路にはこんな看板が！

新しい道路データが入っていない古いナビだと、よく遠回りな旧道を行かされますからね。

この道の駅は　・・・・　でっかいです。
特に中にはいるとそのでかさを実感しますが、この道の駅のパンフレットにはこんな文字が　・・・　。

四国最大　・・・・・　！？
確かにここは大きいですが、もっと広い道の駅がいくつもあったような　・・・　？

一つの建物としてみれば、確かに四国最大級かもしれません。

さて、先ほどの道の駅の写真の中に気になる看板が　・・・・　。

“鍋焼きラーメン”！？

実はこれこそが、この須崎市で有名な「ご当地ラーメン」なのです。
スープは、鶏ガラの醤油味で、麺は歯ごたえのある細麺ですが、最大の特徴は、器が土鍋であり、スープが沸騰した状態で出されることです。

戦後間もなくある食堂が、出前をするのに普通の丼では冷えてしまう、と考えて思いついたのが“ホーロー鍋”を使うことで、その後更に保温力のある“土鍋”に変わっていったとのことです。

この鍋焼きラーメンを食べさせるお店は須崎市内に約４０店舗あり、その“日本一熱いラーメン”を求めて、県外からも食通がやってくるのだそうです。

さて、外をぐるっと見て回ったところで、中に入ってみましょう。

3
海のとれとれ市場
5
6

大トロ
焼かつお
須崎
野島水産

ここは、ちょっとしたショッピングセンターですね。
通路の両側にいろんなテナントがはいっており、土産品、衣服、水産加工品など何でも揃います。

そして中央には大型円形水槽があり、その横の情報コーナーには若い女性の案内嬢がおられて、道の駅スタンプもそこにありました。

２階はレストランや多目的ホールになっています。

そういえば、この道の駅、“かわうその里”って名前がついていましたね。
近くにある“新荘川”の河口で、かわうそが日本で最後に発見されたことから名づけられたものです。

そして、かわうそ君は、ここにたくさんいました。（笑）

最後に“龍馬グッツ”ここでも紹介しておきますね。

まず、“龍馬キャップ”と、その奥には“Ｔシャツ”も！

“ブロンズ像”は定番かな？
この先、まだまだ色んなのが出てきますよ！

巨大な大杉に驚く！“大杉”

須崎から “高知自動車道” に乗り、一気に高知市を通り過ぎ “大豊ＩＣ” までやってきました。
ここで高速道路を下りて目指すのは、
道の駅大杉　です。

今回このようなばらばらなルートをとったのは、ここが２日目、３日目のコースからぽつんと離れており、どうしても初日に消化しておく必要があった為です。

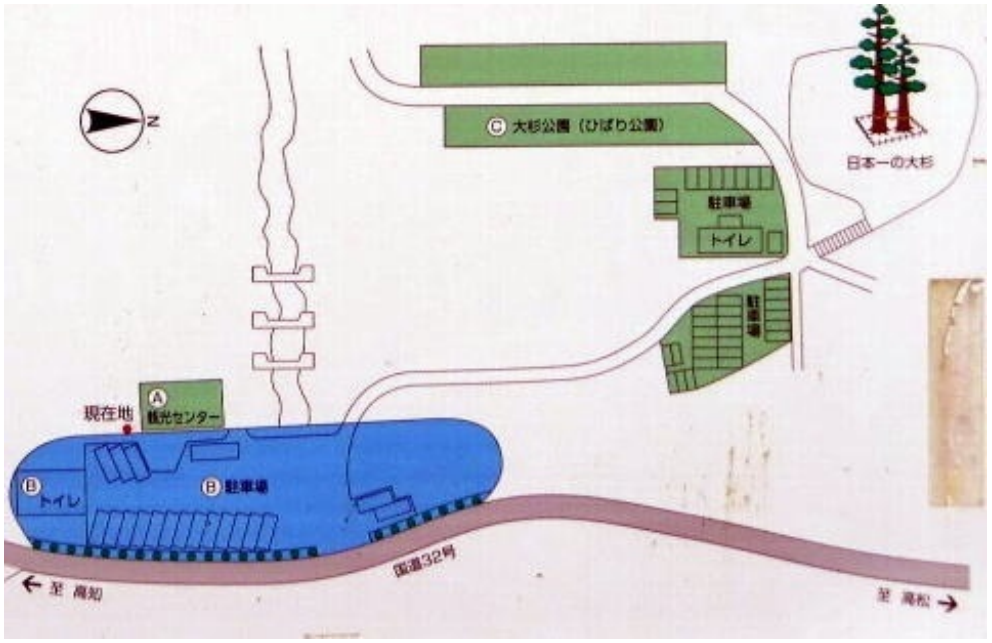
高速を下りてからは近いため、須崎の道の駅から55分程度で到着しました。

ここ、大豊町は、西側は徳島県、北側は愛媛県に隣接する高知県の端っこに位置します。
平安の昔より土佐国府から都への道が通過する町として、多くの文化財や史跡が残されています。

道の駅自体はこの木造の建物1棟だけで、 「なんじゃ、こりゃ！」 って感じです。
観光センターを兼ねているようですが、中にいたのはおばさん一人だけで　・・・・　！？

普通の雑貨屋さんのようなイメージですね。
でも、ここにはこんなものがあるのです　・・・・　。

“日本一の大杉” です。



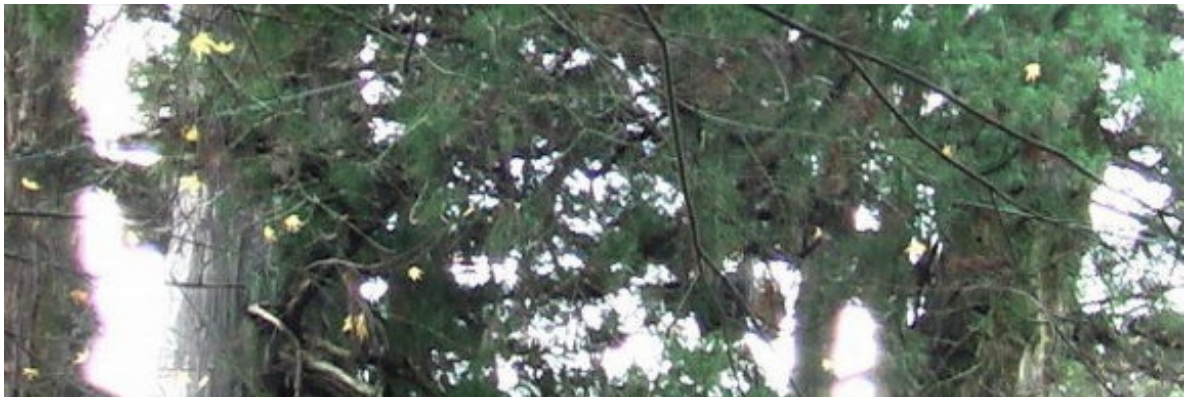
この道の駅から、２～３００ｍほど細い道を登ったところに専用の駐車場がありました。
そのすぐ横に小さな案内所のようなものがあって、・・・・・

「施設整備協力金を２００円お願いします」って書いてある。(ﾟΩﾟ;)
入場料ではなくて、“協力金”となっているところがミソですね！

すぐ前に石段があり、鳥居をくぐって登ってゆくとその奥には“八坂神社”があります。

階段を昇り始めると、神社の中に取り付けられているらしいスピーカーから、たった２人しかいないお客のために、この「大杉」の説明が流れてきました。

そして境内に、その “巨大な物体” はありました。



でっ！でっかい！！
すっ、すごい迫力！！ヽ(*'0'*)ツ

何か部分的に金属で覆われていますが、台風で傷んだところを保護しているようです。

国の特別天然記念物に指定されているこの“杉の大杉”（“杉”というのはここの地名で、そこにある大杉という意味です） は、推定樹齢が３０００年で、太古の昔に 須佐之男命（すさのおみ

こと）によって植えられたと言い伝えられています。

２つの株が根元で合着しており、それぞれを南大杉、北大杉と言いますが、別名“夫婦杉”とも呼ばれています。

南大杉は根元の周囲が約２０ｍ、樹高が約６０ｍで、北大杉は根元の周囲が約１６．５ｍ、樹高が約５７ｍあります。

かなり昔に屋久島の縄文杉を見たことがありますが、あれでも周囲が１６．１ｍ、樹高は３０ｍですから、間違いなくこれが日本一の大杉だと思います。

さて、ここにはもうひとつ見るべきものがあります。
神社の石段をおりると、先ほどの案内所のおばさんが、「美空ひばりはあそこですよ！」と声をかけてくれました。

すぐ近くにある “大杉の苑” と名付けられたこの場所には、美空ひばりの歌碑と、遺影碑がありました。

なぜここに “美空ひばり” か？って言うと、次のようないきさつがあります。

昭和２２年まだ美空和枝という芸名で地方巡業をしている途中、大豊町でバス事故に遭遇し九死に一生を得ました。
そして、一ヶ月半の療養後、町内にある 「杉の大杉」 に 「日本一の歌手になれるように・・・」と願をかけました。
帰京後、芸名を美空ひばりと改名し、文字通り日本一のスターへの道を歩き始めたのです

遺影碑の右手前、白い箱がありますね。
そこにボタンが３つあって、美空ひばりが歌った３曲が書いてありました。

その一つを何気なく押すと、すごい音量で歌が流れ始めました。((>д<))

他に誰もいないし、後ろには民家が建ち並んでいてるし、近所迷惑ではないかと慌ててその場を立ち去りました。

与作に出会う！“土佐さめうら”

「大杉」 から今来た道を一旦引き返し、高速出口を逆方向に２５分ほど進むと
道の駅土佐さめうら　に到着します。

このルート、実はこの道を通るのです。

走りながらなので、ちょっとボケています。（ごめんなさい！）

この国道、もう何度か話題に登場しましたね！
初めての方のために少し “解説” しておきましょう。（ - ^ ▽ ^ - ）

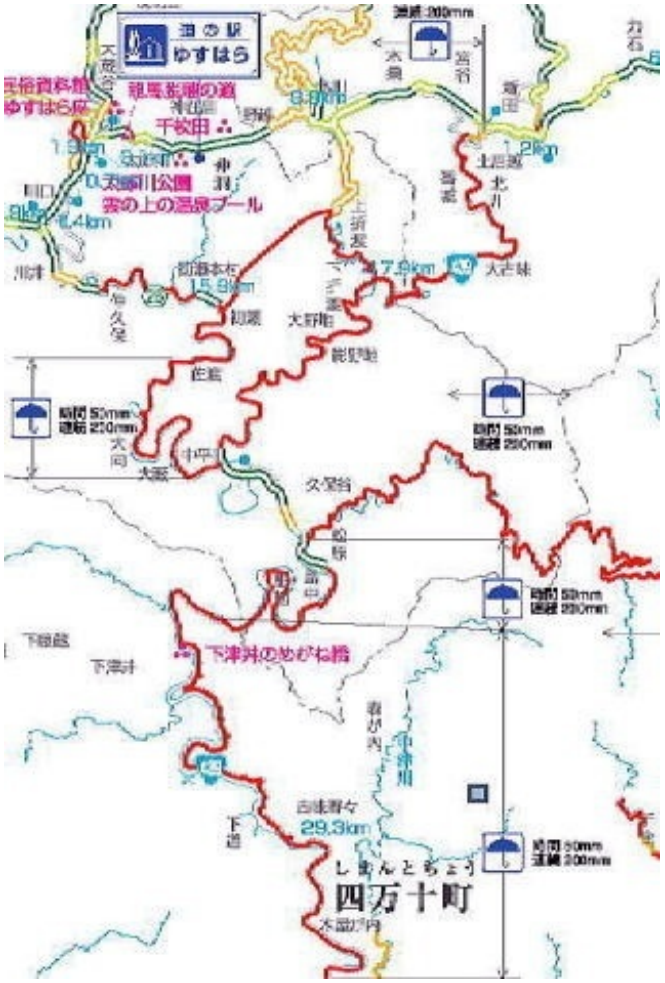
国道４３９号線は、徳島市から四万十市までを結ぶ国道で、総延長３４２Ｋｍの四国では最長の路線です。
そしてここは、ある一定区間を除くとほとんどが乗用車1台分の道幅、つまり２．５ｍ程度しかなく、別名を “よさく（４３９）酷道” と呼ばれています。

「日本三大酷道」 というのがあります。

その一つは紀伊半島の十津川ー龍神間を走る国道４２５号線 “死にGO！酷道” です。
二つ目は長野～岐阜～福井を走る４１８号 （ここは“キングオブ酷道”とも呼ばれます）、そしてこの “よさく酷道” を含めた３つが、名誉ある “スーパー酷道” と言われるものです。

ですから、これらの道を通るのは、 「酷道を好む命知らずのマニア」 か、 「カーナビに誘導されて迷い込んだ不幸なドライバー」 ということになります。

四国には “走りやすさＭＡＰ” というのがあり、道路が安全な “青” から、注意を要する “黄色”、そして危険な “赤” まで色分けされていますが、参考までに４３９号の一部をお見せしましょう。



これは先日紹介した “道の駅ゆすはら” 付近ですが、縦にまっすぐ四万十町まで伸びている赤いラインが “酷道４３９号線” です。

話を元に戻して、高知自動車道の 大豊ＩＣ から 道の駅さめうら までの区間は、同じ４３９号線でも “安全” を確認していますから、安心して走れます。

土佐さめうら に到着しました。
ここも、あまり大きな道の駅ではありません。

左が物産館、休憩所、そして右側には食堂とギャラリーがあります。

この食堂　・・・・・　気がつかれましたか？

“与作” という名前でした！！　ε=ε=ε= ヾ(*~▽~)ノ

さて、物産館の玄関から入ってみると　・・・・・　。

でっかい 「わらじ」 がありました！

そして奥の方には　・・・

和室の部屋があります。

ここは休憩所で、２０畳もある畳の部屋です。
そして別棟には、道の駅には珍しい “シャワー室” もありました。

さて、この “土佐さめうら” は、もう一つ紹介することがあります。

この道の駅の名前でお気づきかと思いますが、四国の水瓶といわれる “早明浦ダム” から車で５分くらいの距離なのです。

“早明浦ダム” は、数年前の異常渇水の時に、全国区のニュースにたびたび映像が流れていましたから私も名前は知っていましたが、貯水量全国第４位、西日本では第一位の巨大ダムなのです。

残念ながらこの道の駅から直接は見えませんが、ここへ来る途中でその雄姿が視界に入ってきます。

ダムの上から見てみたかったのですが、今回は断念！

このダムの水運用は四国地方の経済・市民生活に極めて多大な影響を及しており、「四国のいのち」 とも言われます。
あの時のような渇水が再び起こらないことを祈ります。

道の駅
土佐さめうら
TEL0887-82-1680

夕暮れに到着！“南国風良里”

再び高知自動車道を走り、南国ＩＣ で下りるとまもなく、
道の駅南国風良里（なんこくふらり）　に到着しました。

ここが本日最後の道の駅で、宿泊場所も同じ南国市内、ここから７ｋｍ程しか離れていません。
ここを最後にしたのは、万一時間切れになった場合は明日にでも来れるからです。

到着が１７時１０分、時間的には間に合いましたが、冬の１７時過ぎは既に暗くなりかけています。

この “南国市”、「なんごく」 ではなく 「なんこく」 と読むのですが、高知市に隣接し、人口５万人程の高知県第二位の都市です。

“高知龍馬空港” が、この市内にあります。

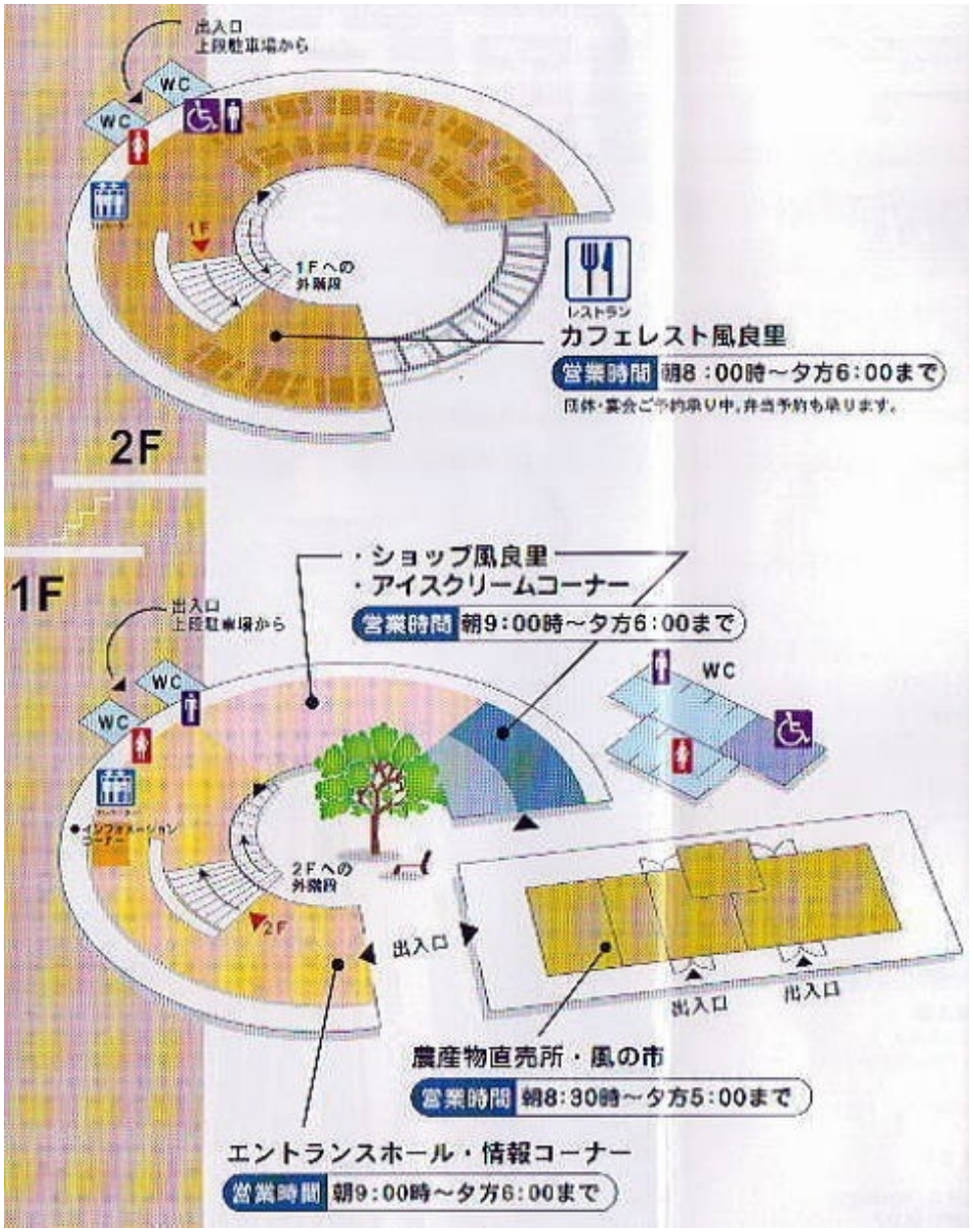
この道の駅、大きくて近代的な建物であり、なかなか素敵な雰囲気です。
そして駐車場の端には、こんなものがありました。

暗いので、ほとんどシルエットでしか見えませんね。
左側が “からくり時計台” 右が “風力＆ソーラー街路灯” です。

“からくり時計台” は、８時から１８時まで時報に合わせて人形が出るのですが、パンフレットからその出たところをお見せしましょう。

昼間だとこんな風に見えるのですね！

この道の駅の内部はこの図面の様な配置になっています。



半ドーナツ型と長方形を見合わせたユニークな形をしています。

これが手前の半ドーナツの部分　・・・・・

今見えている１階が “エントランスホール・情報コーナー” で、その奥に “ショップ” があります。
２階は “カフェレストラン” です。

そして、その右手に農産物直売所 “風の市” があります。

道の駅の経営は 「南国市」 が５０％以上を出資する第３セクターですが、この “風の市” だけは、
ＪＡ南国市 が管理運営をしています。

でもここは１７時までなので、既に閉まっていました。

先にご紹介した配置図で分るように、メインの建物はドーナツを４分の１だけ切り取った形をしていますが、その切り取った部分の２階にはこのように橋がかかっています。

さて、中に入ってみました。
情報コーナーもとても広いのですが、そこにはこんなものも　・・・・。

“ドライビングシミュレーター” です。　なんでこんなものが　・・・　？
その隣には、ネットにつながるパソコンが２台あります。

その奥が “ショップ風良里” です。

ここは結構品物が揃っていて、店員さんの対応もとても行き届いています。
そして、ここでの “龍馬” は　・・・　！

お酒コーナー
20歳以上の年齢であること を確認できない場合に は酒類を販売しません
龍馬
龍馬
龍馬

なかなか良い雰囲気です。

宿泊の “ホリデイ・イン高知” に到着したのは１８時でした。
ここに連泊しますので、明日は南の方、室戸岬方面を回ります。

アンパンマンの故郷 “美良布”

高知の旅の２日目、最初に向かったのは
道の駅美良布（びらふ）　です。

宿泊した南国市のホテルから国道１９５号線を徳島方面に３０分ほど走った “香美市（かみ）” というところにあります。

今日の行程はこの 「美良布」 を除けばすべて太平洋側の国道５５号線沿いで、全部で５か所です。
１日に５か所というのは私にしては随分少ないのですが、かといって明日に予定している３か所を加えて１泊２日では広域すぎて難しいのです。

ですから、今日は久しぶりに余裕のある道の駅巡りを楽しむことができます。

国道沿いの駐車場にくるまを停めると、目の前に立派な建物がありました。

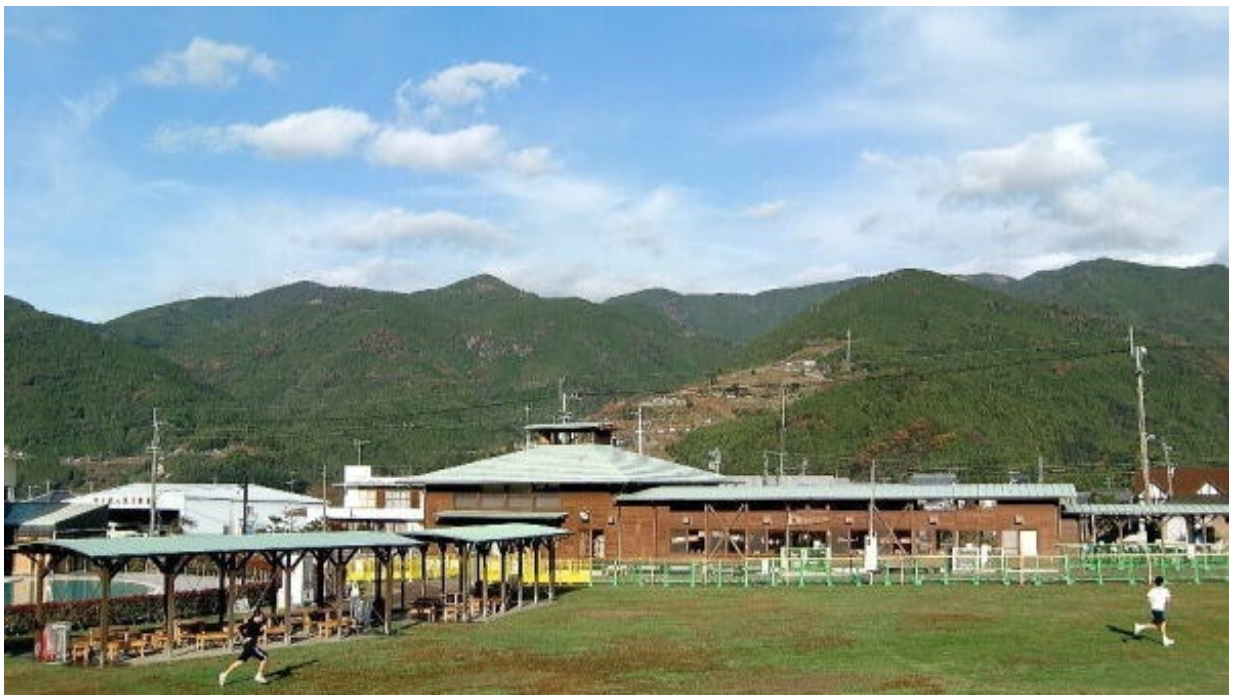
てっきりこれが道の駅の建物だと思って行ってみたのですが、改装工事中のようで中には入れません。
正面にプールまであるこの建物、道の駅ではなく “健康センターセレネ” というスポーツ施設でした。

では道の駅はどれかというと、やはり国道沿いにあるこちらの建物です。

先ほどの健康センターと比較するとちょっと見劣りのするこの木造の建物、農産物の直販所とレストランを備えた　“韮生（にろう）の里” と言います。

でも中に入ってみると、レストランも結構広くてきれいです。

更に、裏側から見ると結構大きくて立派に見えますね。



この道の駅の裏は広い広場になっており、高校生らしい若者たちがランニングなどを行っていました。

そしてここにあるのはこの２つの建物だけではありません。

この洋館風の建物は、宿泊施設 “ピースフル・セレネ” です。

更にその隣にあるのが、“アンパンマンミュージアム” なのです。

香北町出身の漫画家、やなせたかしさんが費用を出して建設し、町に寄付した記念館で、運営はアンパンマンミュージアム振興財団が行っています。

朝９時半の開館なのでまだ閉まっていましたが、建物の周りにはたくさんのアンパンマン仲間が　・・・　。

子供たちが嬉しそうにはしゃぎまわっていました。

道の駅
美良布
TEL0887-59-3111

龍馬とツーショット！“やす”

今回の高知の旅で、一番良かったところはどこかと聞かれれば

道の駅やす　と答えると思います。

ここは高知県下一番の規模を誇る海水浴場である “ヤ・シィパーク” の中にあります。

国道５５線から案内板に従って入ると、そこには突然 “南国リゾート” の景色が広がります。
ここには “ごめん・なはり線” という鉄道が通っており、その “夜須駅” が同じ敷地内にあります。

これがその駅ですが、この“ごめん・なはり線”ほとんどが高架なんですね。
そしてその駅の看板がこれです。

実は学長さんから、「ごめん・なはり線には全ての駅に、やなせたかしがデザインしたキャラクターの置物がありますよ！」と教えて頂いたのですが、このことみたいですね。

この看板にある“人魚”は、アンパンマンの作者「やなせたかし」氏が描かれた“やす にんぎょちゃん”というキャラクターで、写真左端に黄色い人魚の像がありますね。

正面の、海水浴場の入口ではこの人が出迎えてくれました。

時の人 “坂本龍馬さん” に出会ったので、私も早速ミーハー的にツーショットを！

でも、でっかい！

台に乗っても肩までしか届かない！(´__｀。)

で、その奥へ進むと、そこには美しい海と広々とした砂浜が広がっていました。

夏場だったら、おそらく大勢の海水浴客で賑わうのでしょう。
この“ヤ・シィパーク”、全体ではこんな風になっています。

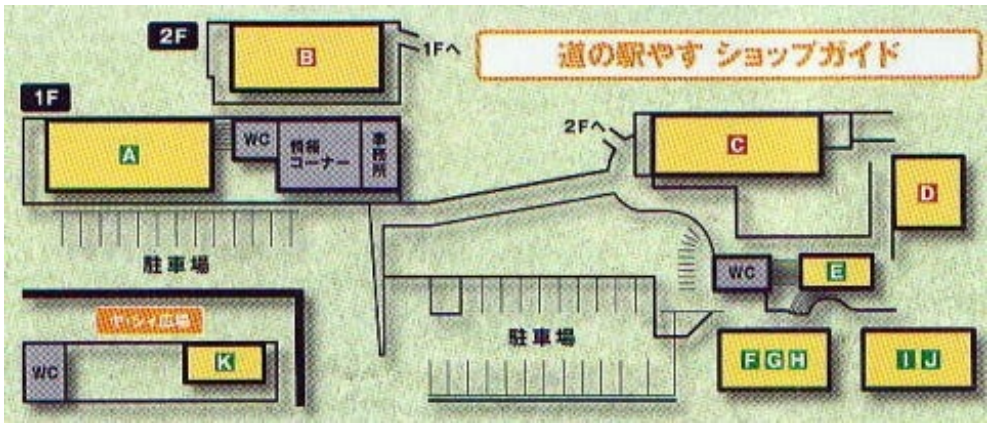
すごく大きいのですね。
そして道の駅は、この左端にあります。

このメインの建物には情報コーナーと農産物直売所 “やすらぎ市” があります。
２階がカフェレストランですね。

そして、“土佐” といえばやっぱり “鰹のたたき” です！

鰹のたたきは、こうやって作っているんです。

ここには、このメインの建物だけでなく、色んなお店が点在していて、ちょっとしたショッピングモールです。



そして最後にもうひとつだけご紹介するものは　・・・・・

この道の駅からちょっとだけ下ったところに “手結港（ていこう）” という港があります。

ここは江戸時代の名残りを再現した石垣造りの港なのですが、ここにあるのが “可動橋” です。

この橋は長さ約32mで、開閉時間は約6分かかります。
警報機がなり始めると遮断機が下り、その橋はゆっくり上がり始めます。
時間が決まっていて、１日に７時間だけ渡ることができるという珍しい橋です。

海辺の公園 “大山”

国道５５号線を更に下ると “安芸市” の市街地に入り、それを抜けたあたりに
道の駅大山（おおやま）　はありました。

ここ “安芸市” は、古くから城下町として栄え、今なお武家屋敷の町並みが残る歴史と文化の町です。
市街地の大きな橋を渡る手前に、「岩崎弥太郎生家」 への案内看板がありました。

“岩崎弥太郎” は、三菱財閥の創始者ですが、今年から始まったＮＨＫ大河ドラマ “龍馬伝” に準主役として登場しますね。

ですから、坂本龍馬同様、２０１０年の時の人になりそうです。

“大山” という名前のついた道の駅、私の知る限りでは３か所あります。

一つは鳥取県の “大山恵みの里” こちらは “だいせん” と読みますね。
もう一つは大分県にある “水辺の里おおやま” で、ここの地名も 「大山」 です。

さて、この道の駅大山ですが、国道沿いのちょっとシンプルでこじんまりとした “休憩所” って感じです。
国道は少し高い位置を走っていますが、そのすぐ下に “漁港” があり、いくつかの漁船が停泊しています。

この道の駅付近がカーブになっていて建物がよく見えなかったことと、道の駅案内標識が少し手前に右矢印があった為に、私は勘違いしてこの漁港まで下りてしまいました。

この海岸、ひとつ前の “やす” の砂浜の美しさとはまた別の風情があります。

この漁船群の向こうにある陸地の部分は、海に出っ張った “公園” として遊歩道などが整備されて

います。
そして “手結住吉県立自然公園” の域内にもなるんですね。

この道の駅、 道路交通情報棟、公衆トイレ棟、特用林産物販売棟 の３つの棟で構成されています。
休憩場所として結構クルマは立ち寄っていますが、売り場も狭くあまり長居をする場所ではありません。

道の駅の裏で景色を見ていると、背広を着た男性に声をかけられました。
「安芸市の観光課の者ですが、アンケートをお願いできませんか？」

アンケートは、どこから来たとか、前日はどこに泊ったとかの簡単なものでしたが、安芸市を紹介するいくつかのパンフレットをくれました。

雑談の中で “岩崎弥太郎” の話題になったのですが、
「今、香川県の人たちがやっきになっているんですよ」 とその観光課の人が話し始めました。

ご存じのとおり四国は４つの県からなっていますね。
ここ高知県は、“坂本龍馬” “岩崎弥太郎” が登場する大河ドラマ “龍馬伝” で沸き立っています。

昨年１１月にスタートしたＮＨＫスペシャルドラマ “坂の上の雲” は、愛媛県の松山が舞台です。
そして、以前に紹介したことのある徳島県は、ＮＨＫ連続テレビ小説 “ウエルかめ” で盛り上げっています。

つまり、四国４県のうちに 香川県 だけが、“何もない”、というわけです。

ですから香川県では、香川県さぬき市生まれの “平賀源内” を主人公としたドラマを作ろうと懸命に働きかけをしているとか　・・・・・　。（笑）

さて最後に、たまたま写真に入っていたものを一枚。

軽のキャンピングカーですね。
話には聞くけど、実物が走っていたのは初めてです。

でも、強い横風を受けたらよろけそう　・・・・　！

鉄道駅と一体化！“田野駅屋”

国道５５号線を更に南下して、

道の駅田野駅屋　へやってきました。

ここは、比較的町の中にある道の駅です。

これが道の駅の全体ですが、すぐ後ろに鉄道の高架が通っているのがわかりますか？
ここは“ごめん・なはり線”の「田野駅」と一体化した道の駅なのです。

この部分がホームですね。

“ごめん・なはり線” というのは、正式な名称は 「土佐くろしお鉄道 阿佐線」 と言います。
“後免駅” から “奈半利駅” までを走るのでこの様な愛称がついたのですが、太平洋沿岸をほぼ国道５５線に沿って走り、大半が “高架” であるので景観が良く、観光目的の乗客も多いそうです。

ここで珍しいデザインの車両を見つけました。
でも、写真が間に合わなかったので、お得意の 「パンフレットからの切り抜き」 を！

黄色に縞模様！？
今年の干支でもある “トラ” ですね！

高知と言えば、阪神タイガースのキャンプ地！
実はこのごめん・なはり線の “安芸駅” の近くの、“安芸市営球場” がそのキャンプ地で、車輌まで

タイガースカラーにしてしまったという訳です。

前々回の “道の駅やす” でも紹介しましたが、このごめん・なはり線には、すべての駅にアンパンマンの作者 「やなせたかし」氏の作られたキャラクターがあります。

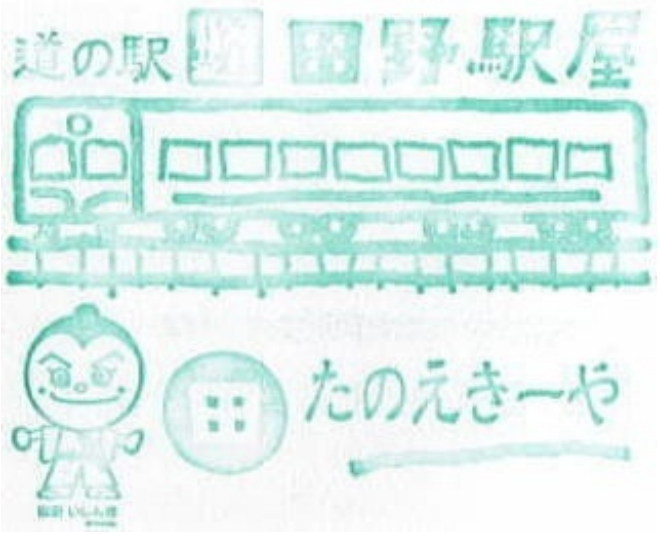
ここ、田野駅のキャラクターは、“田野いしん君” です。
“清岡道之助” を始めとする多くの幕末の志士を育てた町だからでしょう。

さて、道の駅の入口はこちらです。

“鯖ころっけ” てのが気になります。

ここはコロッケだけでなく、いろんなお弁当や食材が売っているのですが、ちょうどお昼時、ここで弁当を買って、隣接した小さな公園で食事する人たちを何人か見かけました。

この “田野町” っていうのは、東西２ｋｍ、南北３ｋｍで、総面積わずか６．５６ｈａしかない、四国一小さな町なんです。
第２７代内閣総理大臣 “浜口雄幸” を生んだ土地でもあり、小さいけれどあくまで独立を貫く、気概のある町のようです。



（四角いスタンプも珍しいですね！）

大漁旗が似合う！“キラメッセ室戸”

最南端室戸岬の少し手前に、本日５か所目の
道の駅キラメッセ室戸　があります。

真っ青な空にたなびく “大漁旗” 今日はこれをＴＯＰの写真にしました。
海に生きる男たちの気概のようなものが伝わってきて、すごく好きです。

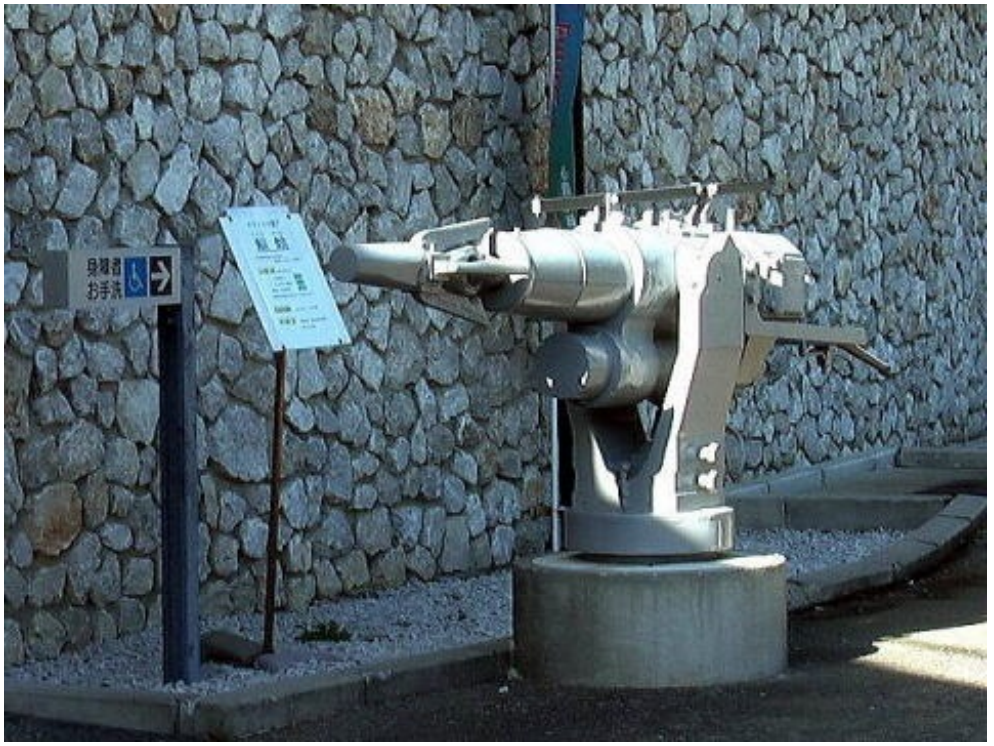
ここ “室戸市” は亜熱帯性気候であり年間を通して温暖な地域です。
太平洋にＶ字型に突き出した室戸岬を中心に、長い海岸線を有しており、かつては古式捕鯨が盛んでした。

この道の駅キラメッセ室戸の中心的な施設は、この古式捕鯨を紹介する “鯨資料館” になります。

国道沿いに巨大な鯨の模型がいます。

旅館 鯨の郷
くじら館

くじら館



鯨資料館の正面には、かつて活躍していた “銛” と “銛” が　・・・・　。

そして中に入ってみると、正面には墨で描いたでっかいクジラの姿があります。
これは　・・・　迫力があります！

そして、かわいい “鯨グッツ” もたくさん！

鯨資料館の隣には、鯨料理を中心としたレストラン “食遊 鯨の郷” があります。

ちなみに、鯨刺身定食が１６００円でした。
太平洋の海原を眺めながら食事ができるということもあって、ファミリー等のお客さんでいっぱい！

こちらが海側で、かなり大きいレストランですね

そして、その眺めはこれです。

でも我が家は、「鯨料理はあんまりね～」 という嫁さんの一言であえなく却下！(Ｔ▽Ｔ;)

さて、ここのもう一つの建物は “農産物直売所” です。

木造の細長い建物ですが、中は大勢のお客で混雑していました。

野菜、鮮魚、干しものなど実に豊富に揃っています。
今回は自分の車で来ていて持ち帰れるので、嫁さんも色々物色していましたが、私が見つけたのはこれ　・・・

いや～！懐かしい、クジラの缶詰です。
もちろん２コ入りを買いました！

最後にこれをご紹介　・・・　。

ここへ来る途中の道で、オレンジ色の珍しい花をたくさん見かけたので何だろうと思っていましたが、アロエの花だったんですね。

我が家にもアロエはありますが、花が咲くなんて知りませんでした。
道路わきに、延々とこのオレンジ色の花が続く景色は圧巻です。

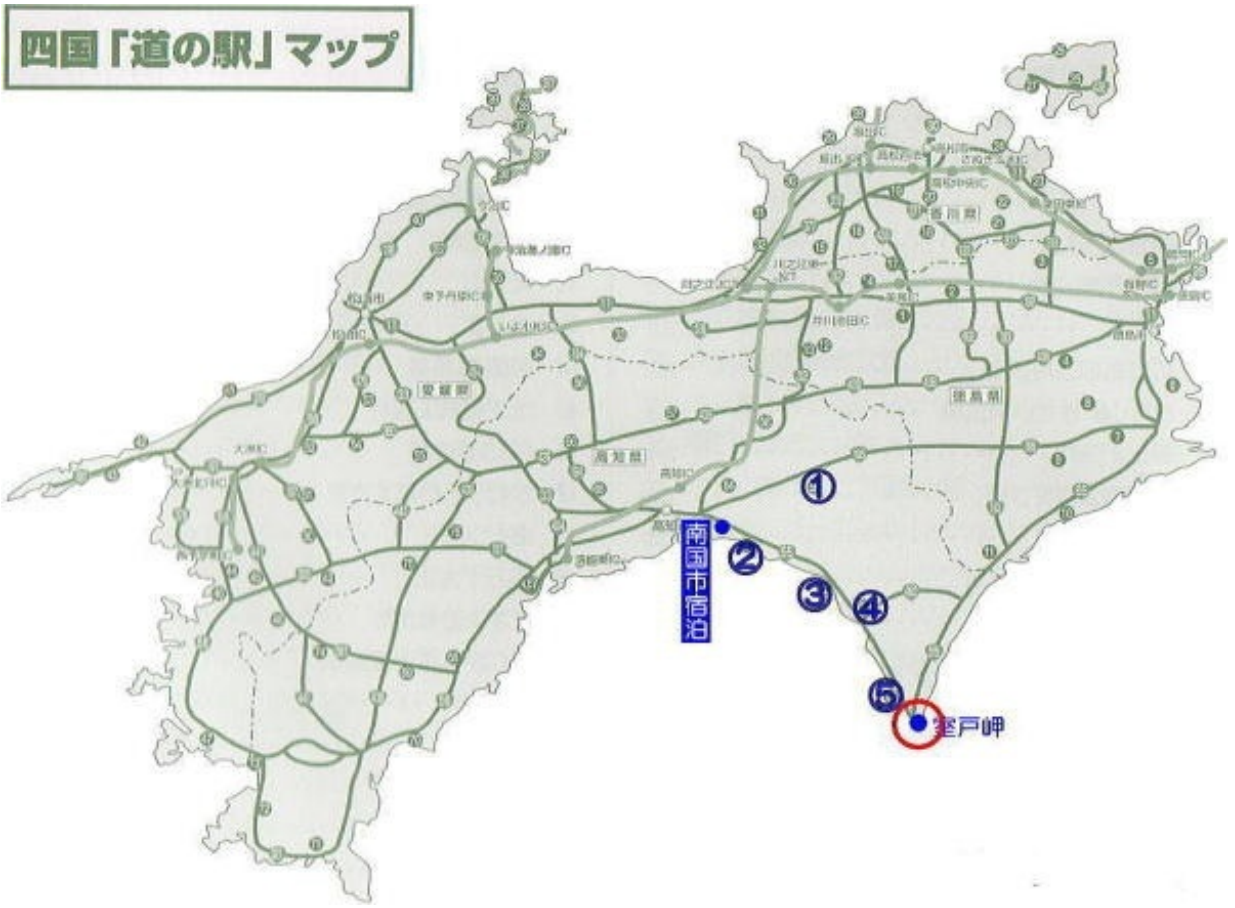
さて、今日の道の駅巡りはこの５か所で終わりなんですが、時間に余裕があるので、これから “室戸岬” へ行ってみることにします！

道の駅 キラメッセ室戸
TEL 08872-5-3377

室戸岬に立つ！

キラメッセ室戸の道の駅から

室戸岬　までは、距離にして１２ｋｍ、ここまできて行かないわけにはいきません。



室戸の町や、漁港を過ぎてしばらく進むと、道路脇に駐車場があり、室戸岬の看板を見つけました。

“室戸岬” といえば四国有数の観光地、広い駐車場と立派なレストハウスを想像していたのですが、全く印象が違います。

駐車場は道路の両側にあるものの狭いし、建物はトイレだけ！
“ここかな〜” と迷いました。

でも、室戸岬のシンボルらしいのが建っていますね。
たぶんこれはクジラの尾っぽをイメージしたもので、その上に真っ黒なクジラが乗っています。

更に少し離れて、こんな銅像が海岸を見つめていました。

これは “中岡慎太郎” の像のようです。

中岡慎太郎はご存じ幕末の勤皇の志士の一人ですが、京都近江屋にて坂本龍馬と共に暗殺されました。
坂本龍馬は即死に近かったけど、中岡慎太郎は２日間生き延び、襲撃の様子を仲間に伝え、２９歳の若さで生涯を閉じたそうです。

駐車場に案内看板がありました。
やはりここが “室戸岬” に間違いないようです。

案内標識に従って、細い道を下りてゆくと海岸に出ました。
本当はもっと分りやすい道が海岸まで通じていたのですが、わざわざ遠回りをしてしまったようです。

海岸には、ごつごつした岩がどこまでも続いています。

“室戸ジオパーク、タービダイト層” という標識がありました。

ジオパークとは、地質学的に重要な地層、岩石の露頭や地形など地質遺産を含む一種の自然公園で、全国で７か所が認定されているのだそうです。

そして、見事に青い太平洋の荒海がそこには広がっていました。

磯釣りの人も見えますね。
“クロ” らしい結構大きな獲物を釣り上げていました。

灌頂ケ浜（かんじょうがはま） という標識があります。
ここ室戸岬は弘法大師が難行苦行の末、悟りを開かれた場所と言い伝えられています。

“室戸岬” といえば、「台風銀座」 としても有名ですね。
１９６１年の第二室戸台風では測候所の風力計が壊れてしまい、最大瞬間風速は「84.5m/s以上」と記録されるにとどまっているのだそうです。

さて、海岸と反対側の山を見上げると、白い灯台が見えました。

これが 「日本の灯台５０選」 にも選ばれた “室戸岬灯台” です。

案内地図を見ると、ここには車で途中まで登れるようです。
まだ時間の余裕はあるので、行ってみることにしました。

室戸岬灯台へ登る！

室戸岬から見上げた山頂に立つ白亜の “室戸岬灯台” 、是非行ってみたくなりました。
地図で見ると、少し戻ったあたりから途中まではクルマで行けるようです。

中岡慎太郎の像に “バイバイ” を言って今来た道を戻ると、四国巡礼２４番札所 “最御崎寺” への案内看板があります。

これを右折すると、山の斜面に沿ってぐんぐん高度を上げて行きます。
眼下に室戸の街や漁港が広がり、なかなかの絶景です。

しばらく登ると、“四国巡礼２４番札所 最御崎寺” への参道があり、そこに駐車場がありました。その先は下り坂になりますから、ここがクルマで行ける一番高いところのようです。

“室戸崎灯台” も同じ参道に道しるべがありますので、どうやらお寺の近くにあると思われます。地図ではここから歩いて５分と書いてありますが、これが結構急坂で日頃の運動不足を思い知らされることになりました。

結局、最御崎寺の横をずっと辿っていってその山門まで登り、山門からほんのちょっと下った場所に目的の “室戸岬灯台” はありました。

このように鉄柵があって、その向こうに灯台がありますから、直接灯台に触ることはできません。

灯台の向こう側には太平洋の海原が広がります。

下から見上げた灯台と比べてみると　・・・・・

確かに形は一緒ですね。（当たり前か！）

灯台といえば普通、波の打ち寄せる海辺に、高い塔があってその一番上にランプがあるイメージですから、ここは少し形が違うようです。

「日本一の一等レンズ」 というのは、日本に６箇所しかない “第一等フレネル式レンズ” のことで、直径２．６ｍは日本一なのだそうです。

実効光度 160万カンデラと光達距離26海里（約48km）というのも日本一で、“日本の灯台５０選” の一つに選ばれています。

さて、室戸岬灯台を間近で見たので満足し帰ろうとしましたが、２４番札所 “最御崎寺” を横目に見て知らん顔をして通り過ぎるのも何となく気が引けました。

そこで、ちょっとお参りを！

私はあんまり信心深いほうではないのですが、この古い山門、何かすごく威圧感がありました。

そして、私が登ってきた方角とは違う、この山門のすぐ裏側に狭い遍路道があるらしく、汗を流し息を切らしたお遍路さんが次々に登ってきて、この山門に深く頭を下げ、そして門をくぐって入ってゆきます。

すぐ近くまで車で登ってきた我が身としては、少々引け目を　・・・・　。

私たちも本堂でお参りを、と思ったのですが、そこにいるのは皆お遍路姿の人たちばかり　・・・　。

汚い格好の二人は明らかに場違いで　・・・・　近づけず！(￣_￣i)

仏様は本堂に続く通路の両側にたくさんおられるので、その一つにお賽銭をあげてお参りしました。
不信心の私でも少しは厳かな気分になれました。

さて、無事に山を降り室戸漁港付近に差し掛かると“海の駅とろむ”という看板が目につきました。

看板までが道の駅に似ています。

直売所で“ぎょろっけ”なるものを購入！
単に、コロッケに魚がはいっているだけのような　・・・　！

そしてここには、小さい足湯がありました。

“ぎょろっけ” を食べ、足湯にはいってしばらくのんびり！
こんなゆっくりした道の駅巡りは初めてのことです。

あとは一路南国市まで走り、昨日と同じ “ホリデイ・イン高知” に泊って２日目終了！
明日は、残り３箇所でいよいよ四国の制覇を達成します。

古き時代に出会う！“土佐和紙工芸村”

さて、いよいよ最終日、３日目になりました。

今日のルートは四国のど真ん中を瀬戸内海側まで一気に突っ切りますが、最初に向かうのは、
道の駅土佐和紙工芸村　です。

宿泊が高知空港に近い“南国市”なので、高知市内を通って目的地に向かうことになります。

路面電車の走る風景って、なかなか良いものですね。

市内を外れると、１級河川 “仁淀川（によどがわ）” に沿って走ります。

その仁淀川に面した場所に、土佐和紙工芸村はありました。

“土佐和紙・・・・”という名前から、比較的小さな道の駅を想像していたのですが、駐車場も広く、建物や施設もすごく大きいので、びっくりしました。

門のところに書いてあるように「土佐和紙工芸村くらうど（ＱＲＡＵＤ）」というのがここの正式名称のようです。

QRAUD
土佐和紙工芸村「くらうど」

とにかく横に長い建物で、右端にはＪＡ直売店がありました。
この、横への長さだけでも驚いたのですが、玄関にあった案内図をみるとこのとおり　・・・・

今見えているのは施設全体のほんの一部で、この奥にまだたくさんの建物があるのです。

まず正面のメインの建物に入ってみると　・・・・
レストラン、フロント、ホール、売店、休憩所　・・・　などがあります。

売店では主に 「木工品」 を販売しているのですが、ロビーや休憩所には木工細工で作った “鳥” た

ちがいっぱい！

この建物を抜けて裏に出ると、そこは 「紙すき」 や 「機織り」 などの体験コーナーがあります。

更に裏に回ると　・・・・

このユニークな建物が“温泉”で、建物をつないだ渡り廊下を通ってゆくことができます。
そして、更にその裏に宿泊施設があり、こんなギャラリーもありました。

このギャラリー、“ぼたにか”というのですが、築１００年以上にもなる古い蔵を改造して、ギャラリーとして使っているものです。
主に、植物画を中心とした作品が、展示、販売されています。

この道の駅、ご紹介したように建物がたくさんあってすごく広いのですが、ぐるっと散策できるようになっています。

川に沿って歩いてゆくと“水車小屋”がありました。

この水車が精米や蕎麦の粉引きの動力源として活躍した時もあったのでしょう。
機織りや紙すき、そして築１００年の蔵や、古い水車といい、古き良き時代を垣間見る気がしました。

モマの棲む山里！“６３３美の里”

最終日の２か所目は

道の駅６３３美の里　です。

さて、この道の駅、何と読むのでしょう？

看板にローマ字がありますから分かりますよね！

「むささびのさと」 と読みます。

なぜそんな名前がついたかの “解説” をしましょう！

これが、この道の駅がある “吾川郡吾北村（アガワグンゴホクソン）” の略図です。
この名前がついた理由は３つあります。

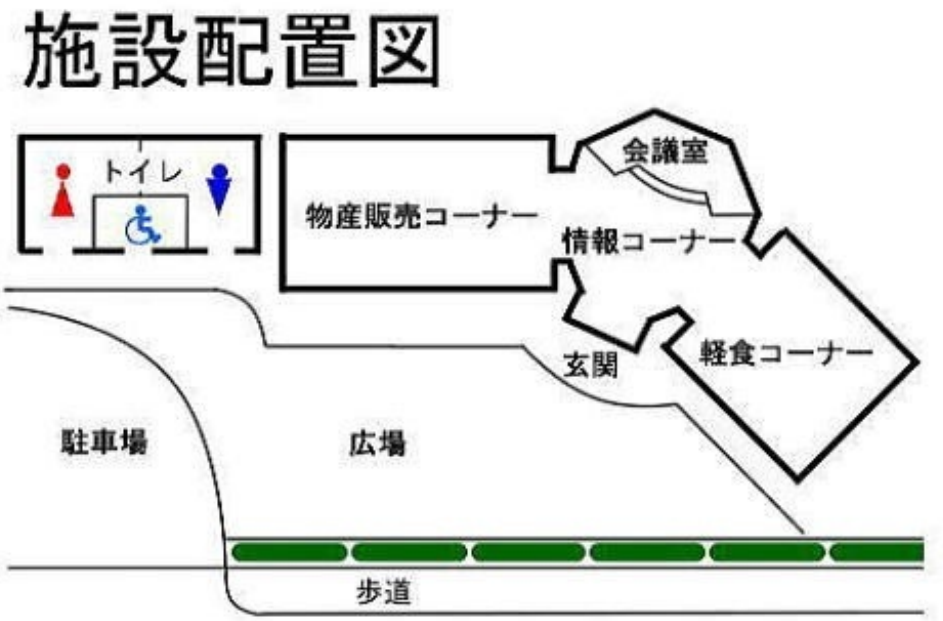
その１：この吾北村の山中に生息している 「むささび」 に因んでいる。
その２：この吾北地区の地図を見てください。むささびの形に似ていませんか？
その３：東西に国道４３９号が走り、南北に国道１９４号が走っています。
つまり、この道の駅の区域はその２つの国道が交わっていますから、
４３９+１９４＝６３３
これに自然の美しさを表す 「美」 をつけて 「６３３美」（むささび）と名付けた。

そして、この “むささび” のことをこの村では昔から 「モマ」 と呼んで、親しみをもってきたのです。

なかなか面白いネーミングと思われませんか？(^▽^)

上の写真がこの道の駅の全体像ですが、建物の屋根にある “風車”　そして入口にある 1 対の “風車” がここのシンボルです。

立派な風車ですが、別に発電しているわけでもなさそうですね。



ここはかなりの山奥ではありますが、施設はなかなか立派なものです。

玄関を入った“情報コーナー”には、パソコンも完備！

販売コーナーにゆくと　・・・・・
ここにいました、むささび君！

入口の玄関マットもむささびですね！

さて、もうひとつこんなものもありました。

県知事からの表彰状ですね。
高知県の木の文化を広く情報発信した功績に対する表彰だそうです。

先日の 俺ですさん からの情報で、中部ブロックの 「道の駅全駅制覇認定証」 は “ヒノキ” でできているそうですが、おそらくこの表彰状みたいな感じなのでしょうね。

ここ吾北村という山間の小さな村は、「珍しい野菜」 の栽培にも力を入れていますし、「写真文化の村宣言」 をして、写真による記録の財産を村民全員で作り上げていく、という運動も展開しています。

森林が総面積の９０%を占める不便な地域ではありますが、自分達の故郷の良さを見つめ直し、さまざまな運動に取り組んでいる姿は素晴らしいと思います。

KOCHI GOHOKU
道の駅
633美の里

四国最後の道の駅！“木の香”

最終日の３か所目、そして四国制覇最後の道の駅は
道の駅木の香（このか）　です。

ここも国道１９４号線沿いですが、川を渡って対岸にありました。

この写真では、対岸が国道で、橋を渡って入ってきます。
道の駅の標識が小さく見えていますね。
この川は“中野川”っていうのですが、渓流釣りのメッカとして知られています。

ここの道の駅、少し分かりにくいので先に配置図を出しますね。

え～と！　これもちょっとわかりにくいな～

要するに中野川の対岸に道の駅の施設が並んでいるのですが、真中に“温泉棟”があり、
左は“レストラン棟”で、売店もここにあります。
温泉の右側は“宿泊棟”になっています。

そしてこの全体を「オリエントホテルグループ」が経営しており、今回の旅で最初に訪れた“道の駅ゆすはら”にあった「雲の上のホテル」も同じグループなんです。

この写真は、温泉棟と宿泊棟です。
温泉は、下から見るとこのように　・・・・・

丸い建物なんですね・・・。

こんなフリーマーケットも並んでいます。

で、レストラン棟は　・・・・・・

こちら側からは小さく見えますが　・・・・・

川の向こうからみるとこんなに長いんです。

で、中に入ってみました。

外見と違って、中は結構きれいです。
まさに、“木の香り” のする建物ですね。

売店も立派ですが、その奥がレストランになっています。
宿泊の受け付けも、ここのフロントで行います。

そしてここで、四国最後の儀式！（おっと、俺ですさん 流になってしまった！）

全部のスタンプを押し終わったところで、ここのフロントで確認をお願いしました。
ホテルマン風の制服を着たお兄さんに、「全部の道の駅を回り終えたのですが、確認印をもらえますか？」 と尋ねると、よく分からない風で、代わりにここの責任者らしい人が奥から出てきました。

「全駅制覇の認定ですね。良いですよ！」 と愛想よく中身を確認した後、ハガキの部分をハサミでチョキチョキ！
えっ！これって切手を貼って出すんじゃないのですか？

「いえ、大丈夫です。私の方から送っておきますから！」 とにっこり！
私の住所・氏名などは既に記入していたし、目の前でハンコも押してくれましたから、任せることにしました。

でも、この時なんとなく一抹の不安がよぎったのです。

その不安が的中した “事件” については既にお話したとおりです。

2009-12-25　道の駅制覇の認定証が届かない！
2010-01-06　やっと届いた認定証！

こうして最後の道の駅「木の香」 に別れを告げました。

あとは一気に四国のど真ん中を瀬戸内海側まで走り、“いよ小松ＩＣ” から高速に乗り、
“大洲ＩＣ” で降りるはずが・・・道を間違え・・・・！

勘違いで降りずにすっと行き過ぎてしまい　・・・・　しまった！((>д<))
仕方ない、次で降りようとそのまま進んだら　・・・・

何と１５分くらい先の “西予宇和ＩＣ” まで行ってしまい　・・・・
結局往復３０分もロスをしてしまった！　馬鹿だ！（自己嫌悪！）

途中 “道の駅伊方きらら館” に立ち寄って “じゃこ天” と　“じゃこカツ” を土産に買い、
三崎港から15：30のフェリーに乗って九州へ戻りました。

結局半年間で５回四国に足を運び、７６か所を制覇したことになります。
すごい道もあったけど、本当に楽しかったです！

四国のみなさん、ありがとう！ヘ(゜∀゜*)ノ

四国・愛媛の新しい道の駅！“八幡浜みなっと”

関東のシリーズ中ですが、昨日の土曜日、日帰りで四国へ渡り
道の駅八幡浜みなっと　へ行って参りました。

私が住む福岡県から四国に渡るには、“国道九四フェリー” を使うのが便利です。

大分自動車道で九州を横断し、“大分宮河内IC” で下りて “佐賀関港” へ向かいます。
佐賀関は、“関サバ” “関アジ” のブランド魚で有名ですね。

佐賀関港から対岸の “佐田岬半島” にある “三崎港” までを就航するのが 国道九四フェリー で、名前の通り “国道１９７号” の九州と四国を繋ぎます。

１時間ごとに就航して７０分で繋ぎますから、他の四国へのフェリーに比べ所要時間は短く、値段も安くなります。

インターネット予約で５％の割引になっています。

佐賀関港を１０時に出港し、佐田岬半島の三崎港に１１時１０分に到着しました。

“佐田岬半島” は日本で最も細長い半島です。
先端が “佐田岬（さだみさき）” で、佐田岬灯台があります。

船の上から見ると、半島にはずらりを発電用風車が並んで実に圧巻です。
細長い半島なので常に風が吹き抜け、発電には最適なのでしょう。

ところで似たような地名に “佐多岬（さたみさき）” がありますが、こちらは鹿児島県の “大隅半

島（地図に向かって右側）” の先端にあります。

“田” と “多” 、それに読み方のにごりが違いますね。

実は今回、楽しみにしていたことがもう一つあります。

佐田岬半島には “道の駅伊方きらら館” というのが途中にあり、そこの “じゃこてん” “じゃこカツ” が抜群に美味しいのです。

土産に買って、その中の１枚づつを車の中で頂きました。(^▽^)

三崎港を出発して、ちょうど１時間で到着しました。
じゃこてんを食べている時間を除けば、もうちょっと短かかったでしょう。

道の駅八幡浜みなっとは、今年４月にオープンした道の駅で、 “八幡浜港” の中にあります。

ご覧のようにすぐ目の前に大型フェリーが停泊していますが、これは八幡浜と別府、あるいは八幡浜と臼杵を結んでいます。

ですからこれを使う方法もあったのですが、所要時間と値段から国道フェリーを選んだものです。

“八幡浜” は森進一の “港町ブルース” の歌詞にもでてくる港町ですが、藩政の頃から天然の良港として栄え、四国有数の規模を誇る魚市場があり、トロール漁業の拠点としても活況を呈しています。

この日は、“まるごと みかんフェスタ” というイベントが行われていました。

そこにあったのが、この巨大なみかんのオブジェです。
これをよく見ると ・・・・・・・

なんと、本物のみかんでできていました。(@_@;)

八幡浜は、漁業の町であるとともに、全国有数のみかんの産地でもあります。

道の駅の背後の山の斜面にも、みかんの段々畑が広がっています。

道の駅はご覧のように、向かって右から “みなと交流館” “アゴラマルシェ” “どーや市場” という３つの施設で構成されています。

もう少し詳しく見たのが、このパンフレットからの図ですが、手前の広い “緑地公園” が先程イベントの開催されていた場所です。

まず最初にあるのがこの “みなと交流館” です。

一番左の入口から入ると事務室があり、観光パンフレットなどが並んでいます。
この建物の大半のスペースは、多目的ホールや研修室になっていて、市民の方に貸し出されています。

そのお隣が “アゴラマルシェ” です。

“AGORA（アゴラ）” は古代ギリシア語で “広場” を意味します。
ここには様々な産直品のショップと、レストランがあります。

私たちはまず腹ごしらえをしました。

このレストランには、“フードコート” “石窯グルメ” “パン工房” それに “カフェ” があります。

入口で食券を買うと自動的に注文が入り、番号を呼ばれるのを待つ仕組みです。
最近はどこでもこのやり方が増えてきたように思います。

私たちが注文したのは、“やはたはまチャンポン” です。

普段たべる、こってり味ではなく、どちらかというとあっさり味でした。

産直物産の販売スペースは実に賑やかです。
珍しい商品もたくさん揃っていて、衝動買いで随分多くの買い物をしました。(^^ゞ

一番奥にある建物は、“どーや市場” です。
ここは、仲買人がその日に競り落とした海産物を店頭販売する “海産物直売所” です。

これだけたくさんの仲買人の店舗がありますが、売り切れればその日は閉めるらしく、お昼過ぎのこの時間は、開いているのが３分の１程度でした。

最後にもう一つ、感心したのはこちらです。

こちらは、“トイレ” です。
真ん中の白いのは、男性用、女性用を仕切る壁で、その先に立派な “中庭” があるのです。

最近は立派なトイレを目玉にするところが増えていますが、ここもそのランキングにノミネートできると思います。

“道の駅八幡浜みなっと” は、印象に残る道の駅のひとつになったと思います。

じゃこ天・じゃこカツを味わう！“どんぶり館”

本日より 7/22（水）～7/24（金）で回ってきた四国の新駅巡りの旅をレポートします。
その最初は
道の駅どんぶり館　からスタートします。

この日、自宅を出発したのは朝の５時半です。

九州自動車道から鳥栖ＪＣＴで大分自動車道に進路をとり、ひたすら走って “大分宮河内ＩＣ” で高速を降り、一般道を３０分強走って “佐賀関港” に到着します。

ここから “国道九四フェリー” で四国の佐田岬にある “三崎港” に渡るのが、一番便利なのです。
四国から細長く突き出た佐田岬へは距離も短く、所要時間は７０分、しかも早朝から深夜まで１時間ごとに就航してます。

私たちは９時のフェリーに乗り込み、船を下りて走り始めたのが１０時２０分でした。

自宅を出る時に曇っていた空はまもなく雨が降り始め、高速の途中でも何度も深い霧に阻まれました。
そしてこの佐田岬半島は日本一細長い半島なので、まさにこの日は雲の中を走るようなもので、しっかりと前の車のテールライトを追って行かねばなりません。

最初の目的の “道の駅どんぶり館” には１１時３５分に到着しました。

“道の駅どんぶり館” は、元々あった施設が昨年（2014年）4月に道の駅として登録されたものです。

この所在地 “西予市” は平成の大合併で５つの町が合併して誕生しました。
それぞれの町の良いもの、持ち味をひとつの器（どんぶり）に盛り付け、豊かな味わいを作り出す、というのがこの “どんぶり館” というネーミングの由来なのだそうです。

ここは “どんぶり館” ですが、岐阜県にもうひとつ、“どんぶり会館” という道の駅があります。

正式な名称は “道の駅土岐美濃焼街道「どんぶり会館」” というのですが、ここは正に美濃焼の産地で、どんぶりを始めとする陶器が大きな売り場を占めているのでこんな名称です。

（岐阜県の道の駅どんぶり会館）

こちらは建物自体がご覧のように、どんぶりを伏せた形をしています。（笑）

“西予市” のもう一つの特徴が、東西に細長い地形にあり、宇和海に面した海抜ゼロｍから、四国カルストの一部 “大野ヶ原” の海抜１４００ｍまでその海抜差の大きさです。

標高差は寒暖の差にもなり、収穫できる作物やその生育状況も違うので、１年中新鮮な作物が供給できるメリットにもなります。

道の駅全体の配置はご覧のとおりです。
入り口を入ってすぐ右手が “青空市場”です。

“青空” とはいっても、ちゃんと屋根があり、新鮮な農作物や宇和海で獲れた新鮮な魚介類が販売されています。

真っ直ぐに進むとロビーがあり、そこは展示販売もできるようになっていてこの日は陶器類が並んでいました。

その奥、入り口から入って左手が “特産品売り場” です。

天井に特徴がありますが、これが外から見えたとんがり屋根の部分です。

特産品売り場と反対側にはレストランがあります。
新鮮な刺身を使った海鮮丼が９５０円というのは安いです。

さて、この道の駅のもう一つの人気が入り口付近にある小さな店舗です。
まず紹介したいのはジェラードのお店！

ここは手作りイタリアンジェラードのお店で、季節ごとにいろんな種類を味わうことができます。
でも、この日は雨で肌寒さもあって、お客さんは少ないですね。

そしてもう一つ、私が一番気になっていたお店があります。

実はこの道の駅に到着して車を下りた時から、あの匂いがしていたのです。
愛媛といえば、“じゃこ天・じゃこカツ” です。

さすがにこのお店にはお客さんが並んでおり、次々にやってきます。
ここは注文してから揚げるので、少し待たなければなりません。

私が初めて味わったのは佐田岬半島にある “道の駅伊方きらら館” なのですが、揚げたてのじゃこカツを初めて食べて、そのジューシーさに感動し、それ以来の大ファンなのです。

ここでもじゃこ天とじゃこカツをそれぞれ買って、車の中で味わいました。

上がじゃこ天、下がじゃこカツです。
揚げたてなので期待通りの味でした。

過去何度か土産に買って帰ったことがあるのですが、自宅に戻って冷えた、あるいは電子レンジで温め直しても、これほどの旨さではないのです。

やはり、その場で揚げたばかりというのが、最高のようです。

日帰り温泉施設！“津島やすらぎの里”

初日の２カ所目は約３０ｋｍほど離れた
道の駅津島やすらぎの里　です。

道の駅どんぶり館のすぐ近くにある “西予宇和ＩＣ” から “宇和島道路” にのり、“津島高田ＩＣ” を下りると間もなくです。

この道の駅も昨年（2014年）４月にオープンした新しい道の駅ですが、元々は旧津島町が２００２年に日帰り温泉施設である “熱田温泉” を作り、それに付随して特産物販売所などを整備し、“津島やすらぎの里” として運営していたものです。

このように “新駅” とはいえ、元からあった施設を “道の駅” として登録し再出発するケースが全国どこでも多いように思います。
道の駅ブームで、その方が客足も伸びるのではないでしょうか？

配置図でお分かりのように温泉施設の他、温水プールや大ホール、会議室なども備わっています。
ここ、“宇和島市” には、この他に “うわじま きさいや広場” や “みま” という合計３つがありますが、いずれも規模の大きな道の駅です。

一番端には、“じゃこ天” の幟が！
でも、続けて食べるわけにもゆきません。(^_^;)

その隣が “特産品販売所” で、農作物などが並んでいて、道の駅スタンプもここにありました。
でも、ちょっと入り口が分かり難い気がします。

そしてその先は、交流室、会議室、大ホールといった建物が続き、一番奥が温泉の建物なのですが、そこには木製の屋根のついた落ち着いた通路があります。

通路の一番奥にあるのが、“熱田の湯” です。

玄関脇には足湯もありました。

中に入るとロビーがあり、温泉の受付や食事処がありました。

この温泉の建物の中には、日本一大きな樹根太鼓である “津島平安太鼓” というのが飾ってあったらしいのですが、残念ながらそれには気が付きませんでした。

さて次は、県境を超えて高知県に入ります。

カツオ漁獲量日本一！“なぶら土佐佐賀”

次は県境を超えて高知県に入り
道の駅なぶら土佐佐賀　を目指しました。

上の地図、２ページに渡っているのでちょっと見難いとは思いますが、津島やすらぎの里からなぶら土佐佐賀へは、県道４号　→　国道５６号　というルートを辿ります。

ご存知の方も多いかと思いますが、四国は厳しい道路が多いことで知られており、その代表格は “国道４３９号（よさく）” と “国道１９３号（いくさ）” です。

特に “よさく” は “日本３大酷道” の一つとして、マニアックな酷道愛好者（？）達の聖地にもなっています。

今回、４３９号や１９３号は通りませんが、国道でさえこのようなものですから、まして県道を通って山越えをするとなると、それなりの覚悟が必要です。(-_-;)

今回通った県道４号も、途中何度も離合不可能な薄暗い山中を黙々と走る場面に遭遇しました。
今回気持ちが悪かったのは、その前の週に台風１１号が四国を縦断して多くの被害が出ており、更にこの日も含めて数日、雨が降り続いていたことです。

道路わきの山腹から幾筋も大量の水が流れ落ちている場所や、道路が冠水して浅い川を突っ走るようなシーンもありました。

無事に国道５６号に出るとあとは問題なく、全行程９０ｋｍ、１時間５０分ほどで到着しました。

この道の駅は、昨年（２０１４年）４月にオープンしました。
今回訪ねたどんぶり館、津島やすらぎの里の二つの道の駅が既にあった施設を道の駅に登録したのに対し、ここは全く新規にできた道の駅です。

“黒潮町” は２００６年に “佐賀町” と “大方町” が合併して誕生しました。

“土佐の一本釣り” といえば、むかし青柳裕介原作の人気漫画があり、映画化もされましたが、その舞台の地でもあります。

一本釣りとはもちろん “カツオ” ですが、黒潮町は鰹の漁獲量日本一を誇っています。

建物としてはこの１棟だけですが、なかなか近代的なデザインだと思います。

“なぶら” という文字が、魚（カツオ）を使って書いてあります。
道の駅の名前でもある “なぶら” というのは、イワシなどの小魚の群れが水面を波打たせる様のことをいいます。

つまり、そのなぶらの下には餌を追ったカツオの群れがおり、カツオ漁で一番大事なことは、その “なぶら” を探すことなのです。

（道の駅パンフレットより借用）

これが道の駅の配置図で、半分が直売所、半分がフードコートです。
では、早速中にはいってみます。

雰囲気の良いお店で、さすがにカツオ漁の盛んな土地柄だけあって、さまざまな加工品があります。
陳列のなかにはこんなものもありました。

錆びついた双眼鏡ですね。
これを使って漁師さん達が必死になぶらを探し求めてきたのでしょう。
私もここで、カツオの角煮を土産に買いました。

直売所とフードコートの境になる場所には、こんなものもありました。

ガラスの向こう側は、“カツオのたたき” を作るための、わら焼きをする施設です。

残念ながらこの時は焼いていなかったので、パンフレットから写真をお借りしました。

本場のカツオのたたきはこのように必ず “藁” を使いますから、香ばしい風味がたまらないですね。
カツオのたたきの起源については様々な説があり、「山内一豊が食中毒を防止するため鰹の刺身を禁止したので、焼き魚と称して表面だけをさっとあぶって食したところ、これがとても旨かった」 等が有力です。

勿論私たちも、この日の夕食で堪能することになります。

名物鍋焼きラーメン！“かわうその里すさき”

次は以前にも行ったことのある
道の駅かわうその里すさき　です。

初日の新しい道の駅は３カ所で終わりですが、今夜宿泊する南国市のホテルに向かう途中にある、この道の駅に立ち寄りました。

快適な自動車専用道路を走り、須崎西ICで下りると道の駅はすぐそばです。

道の駅の建物にも、黄色い “鍋焼きラーメン” の看板が見えると思いますが、須崎市といえば Ｂ級グルメの鍋焼きラーメンが有名です。

（パンフレットより借用）

戦後まもなく須崎の路地裏で開業した “谷口食堂” が、出前をするときに熱いまま美味しく食べてもらえるようにと、丼でなくホーロー鍋を使ったのがその発祥です。

数年後他の食堂でもメニューに加わり、ホーロー鍋より更に保温力のある土鍋に変わって須崎の名物といわれるようになりました。

鶏がらだしに醤油ベース、細めのストレート麺というのが基本で、生卵が必ずトッピングとしてのります。
現在須崎市内で３５店舗が提供しており、道の駅もその一つですが、私たちはもうすぐホテルに行って夕食なのでここで味わうのは断念しました。

店内に入るとまず出迎えてくれるのが、この大きなかわうそのキャラクターです。
店内いろんなところにかわうそ君はいます。

この道の駅の名前にもなっていますが、日本で最後にかわうそが発見された新荘川の河口に近接していることから “かわうその里” と呼ばれているのです。

建物の１階はご覧のように、直営店の他にいくつかのテナントが入っています。
例えばこれは水産物を扱う多田水産ですが、カツオのたたきも実演販売しています。

この写真ではちょっと分かり難いですが、時折大きな炎が上がっていました。

テナントの多いのも良いですが、レジがそれぞれ分かれており、このコーナーの商品は何番レジで、という看板があります。
纏めて精算できないので、ちょっと面倒な気がしました。

中央には魚の泳ぐ円形の水槽があり、階段を上がった２階が “とれた亭” という食事処です。

さて、ここでもいくつかの土産を買い、須崎中央ＩＣから再び高速に乗って、南国市へ向かいます。
南国市は高知市の東隣ですが、明日の行程を考えてここに宿泊することにしました。

この日泊まったのは “サザンシティホテル” というのですが、以前は “ホリディイン高知” という名前であり、数年前に高知方面を回った時に２連泊したことがあります。

値段の割に部屋も広かったので、気に入っていたものです。
食事は隣接する居酒屋に行きましたが、ここも以前食事をしたことにあるお店です。

宿泊者にはサービスでこの “晩酌セット” がつきます。
これにもカツオのたたきが入っていました。（既にいくつか食べた後の写真です(^_^;)）

本場の味を味わって、初日を終えました。

重要な情報を得る！“美良布”

２日目、南国市内のホテルを出発してまず向かったのは
道の駅美良布（びらふ）　です。

南国市から国道１９５号を東へ走り、４０分ほどで到着しました。

この道の駅も２回目なのですが、徳島県の新駅 “ひなの里かつうら” へこの１９５号経由で向かうため、その途中であるここに立ち寄ったものです。

道の駅は国道に面した木造平屋の建物で、一見ごく普通の農産物直売所に見えます。
でも、裏に回ってみると結構大きな建物であることが分かります。

そして特筆すべきは、ここが “香北の自然公園” という大きな施設の一部だということです。

この案内図の一番下にある “韮生の里（にろうのさと）美良布直売店” と書かれたところが道の駅です。

そして道路に近いこの近代的な建物は “健康センターセレネ” で、室内温水プール、屋外温水プールの他、トレーニングルームやテニスコートなどがあります。

この建物、天空を月が移動する軌跡をモチーフにしているのだそうです。

道の駅の裏手は広い芝生広場になっていて、その先にこの２つの建物があります。
右手の洋館風の建物は、ホテルで “ピースフル セレネ” といいます。

建物の名前に “セレネ” というのが多いですが、これは “月の女神” のことです。

そして左手のこの建物、これがご存知 “アンパンマンミュージアム” です。

「アンパンマン」 の生みの親 “やなせたかし” 氏はこの “高知県香美市” の出身であり、その縁でやなせたかし氏が費用を出して建設し、市に寄付された施設です。

氏は、２０１３年１０月に残念ながら９４歳でお亡くなりになりました。

道の駅の天井にも、ご覧の通りアンパンマンが飛んでいました。（笑）

その道の駅は農産物の直売所と、このレストランがあります。
レストランは結構広くて、早朝だというのに何人ものお客さんがおられました。

さて、実はここで、重要な “事件” が起きました。
ここから徳島方面へ行く国道１９５号はかなり険しい山越えであり、もしかしたら昨日以上に厳しいかも、とちょっと不安を抱いていました。

この道の駅のあと、最終目的のひなの里かつうらのちょっと手前にある “道の駅鷲の里” に立ち寄る予定にしていたので、それをナビに設定しようとしました。
すると何故か、一旦南国市に戻って、高知自動車道、徳島自動車道経由で徳島市に入り、そこから南下して道の駅に向かうという、ものすごく遠回りなルートを案内するのです。

変だな、と思いその他のルートも検索してみたのですが、逆に南に回って室戸岬経由だとか、最短距離の国道１９５号は一切出てこないのです。

もしかして、と思い道の駅の従業員の方に尋ねてみました。
すると・・・・・
「１９５号は昨日土砂崩れで通行止めになっていますよ。」　(￣□￣;)!!

更に、納品に来られていたらしい業者のかたが、「今朝からは太平洋側の国道５５号もこのあたりが通行止めだよ」 と地図を指して教えてくれました。

道の駅の方は親切に、交通情報センターの電話番号をしらべて 「ここに聞いてみたらいいよ」 とメモを渡してくれ、「私たちも普段徳島方面に行くときは、時間は３０分ほど遠回りだけど高速を使いますよ！」 とアドバイスしてくれました。

先週の台風の四国縦断と、この数日の雨であちこち被害が出ていたようです。
もし、ナビが普通に１９５号経由で案内していたら何も知らずにこのまま進んだわけですから、冷汗がでました。

こうして、走行距離約１９０ｋｍ、３時間１５分をこれから一気に走ることになりました。

ビッグひな祭りの町！“ひなの里かつうら”

前回お話ししたように、国道１９５号の通行止めで遠回りを余儀なくされ
道の駅ひなの里かつうら　を目指しました。

当初の予定の国道１９５号経由だと道の駅美良布からここまで１１７ｋｍの距離なのですが、一旦南国市まで戻り、高知自動車道、徳島自動車道を走って徳島ＩＣでおり、そこから一般道を南下したので、その走行距離は１８９ｋｍにもなりました。

所要時間も大きく狂いましたが、難所を予想された１９５号を走らなくて良かったので気分的には楽だったかもしれません。

徳島ＩＣからは国道５５号で市内を突っ切り、勝浦川橋を渡って右折し、県道１６号をしばらく走るとその県道沿いに目的の道の駅はありました。

“勝浦”という地名は、千葉県の房総半島にある“勝浦市”、和歌山県の紀伊半島の先端に近い“那智勝浦町”等があり、何となく海辺のイメージがあったのですが、ここ徳島県の“勝浦町”は内陸の農村地帯です。

ちなみに勝浦という地名はこの他に、香川県、福岡県、鹿児島県にもあります。

この道の駅がオープンしたのは２０１１年３月ですから、それほど最新ではありません。

勝浦町では毎年春に、“ビッグひな祭り”という一大イベントが開催されます。
高さ７ｍ、１００段の巨大ピラミッド型ひな壇を始め、全国から集められたいろんな時代の３万体もの雛人形が飾られ、多くの観光客が訪れます。

“ひなの里”という道の駅の名前はこのイベントに由来します。

道の駅には二つの建物があり、左側のこちらは情報コーナーと土産物、飲食コーナーです。

これは情報コーナーから撮った写真ですが、左手が土産物販売所、右手が飲食コーナーです。
飲食コーナーには、“喫茶オレンジ” と “手打ちうどん みやこ家” の二つの店舗が入っています。

“オレンジ” と店名にありますが、四国といえばみかんの産地です。
ここ勝浦町は、“徳島みかん発祥の地” であり、江戸末期からみかんの栽培が始まったのだそうです。

さて、その右手にあるもう一つの建物は、地元産直市場の 「よってネ市」 です。

ここでは珍しい野菜を発見！

色も形も違いますが、これって茄子なんだそうです。
レシピも書いてあったので、早速買って帰りました。

今回はレンタカーでなく自分の車で来ているので、こんな時、何でも買えるから安心です。
レシピのとおり、大きく切って天ぷらにしたらとっても美味しかったです！

さて次は再び徳島市内を走り、大鳴門橋を渡って淡路島の道の駅を訪ねます。

徳島といえば一番有名なのは “阿波踊り” ですね。
４００有余年の歴史を持つこの徳島の夏祭りは、毎年８月８日に開催される 「鳴門市選抜阿波おどり大会」 に始まり、最も賑わうのが１２日から１５日までの徳島市の阿波踊りなのだそうです。

今週は正に、徳島は熱気に包まれているのではないでしょうか？

四国新駅巡りの旅：うずしおクルーズが発着！“福良”

島から鳴門海峡を渡って淡路島に入り
道の駅福良（ふくら）　にやってきました。

（いつもの標識が見当たらなかったのでこれで代用！）

道の駅ひなの里かつうらから再び徳島市内を通り抜け、徳島ＩＣで高速に乗ります。
一旦北上して鳴門ジャンクションから淡路島方面に進路をとります。

大鳴門橋で鳴門海峡を渡り、“淡路島南ＩＣ”を下りると、そこから道の駅福良までは約８ｋｍ、１２～３分の距離です。

駐車場に車を停めると、最初はどこが道の駅かよくわかりませんでした。

ここは“うずしお”で有名な鳴門海峡からちょっとだけ入り込んだ福良湾の奥にある“福良港”にあり、周辺のいくつかの施設の集合体で道の駅を構成しています。

（道の駅パンフレットより借用）

この案内図でお分かりでしょうか？
道の駅のメインは“うずしおドーム なないろ館”ですが、それぞれの施設を順番に紹介してゆくことにしましょう。

まず何と言っても必見は、“うずしおクルーズ乗船桟橋”です。
あとで紹介するうずしおドームなないろ館が、その乗船チケットの販売所や待合室を兼ねています。

ここには２隻のクルーズ船がありますが、まず向かって左側のこの船は“咸臨丸（かんりんまる）”です。

“咸臨丸”は、１８５６年にオランダで建造され、１８６０年に勝海舟によって日本人として初めて太平洋を横断してアメリカに渡った蒸気船ですが、これを復元したものです。

（パンフレットより借用）

全長が４９．４ｍ、三層甲板３本マストの帆船で定員は５００名です。

そして向かって右手に停泊していたこちらが、“日本丸（にっぽんまる）” です。

“日本丸” は、日本を代表する練習用帆船であり、これはそのレプリカ船です。

（パンフレットより借用）

こちらは全長５３．９８ｍ、三層甲板４本マストの帆船です。
定員は咸臨丸を上回る７００名になります。

この２隻が “うずしおクルーズ” として１日に最大１２便、就航しています。

ちなみに鳴門海峡の渦潮は、春と秋の大潮の時には直径９０ｍもの大渦が出現し、これは世界最大です。
またイタリアの “メッシーナ海峡” カナダの “セイモアナロー” と並んで世界三大潮流のひとつに数えられています。

ただ渦潮は常時見れる訳ではなく、基本的に潮の流れの強い大潮の時間帯だけになります。

さて、次に紹介するのは “淡路人形座” です。

この斬新な形の人形座は、２０１２年７月に遠藤秀平氏によって設計されたもので、淡路島特有のいぶし瓦や兵庫県産の木材や竹が使われています。

淡路島の伝統芸能である “淡路人形浄瑠璃” は５００年の伝統があり、全国にその芸能を伝え、その人気はかつて歌舞伎と競った時代もありました。

“国指定重要無形民俗文化財” に指定され、ここ福良での通常公演のほか、国の内外でも出張公演を行っています。

（パンフレットより借用）

さて次は、“福良マルシェ” です。

ここは新鮮野菜や海産物の産直市場です。
カフェスペースでは、淡路の美味しい食事ができます。

この写真は道の駅内にある公園スペースですが、遠くに咸臨丸の帆が見えますね。

そして次に紹介するのは “足湯うずのゆ” です。
これは１００％天然温泉で、無料で入れます。

これがその足湯でかなり大きな施設だったのですが、何故か周りにロープが張ってあって入れない・・・　と思ったら　・・・

たまたまこの日はメンテナンスで休業でした！(TωT)

さて、もう一つ紹介するのがこの施設です。
これは、“福良港津波防災ステーション” です。

ここ福良の町は “福良湾” に面していますが、山を削るように海が入り込んだ特殊な地形をしています。
更に、鳴門海峡はその幅がわずか１．３ｋｍしかないため、太平洋側から津波が来た時、海水は瀬戸内海側に抜けず、福良湾に押し寄せるのです。

ですから古来より、幾度も津波の被害を受けてきた地域です。

この津波防災ステーションは、普段はこの津波に関する情報や防災資料が展示されており、非常時には住民が避難できる施設なのです。

最後は、“うずしおドーム なないろ館” です。

これが道の駅のメイン施設であり、登録証や道の駅スタンプもここにあります。

ここはご覧のような４階構造になっていて、１階はクルーズのチケット売り場と待合室、それにいくつかの土産店があります。
２階はレストランコーナーです。

淡路島の特産といえば玉ねぎですね。
私たちはここで、“サラダ玉ねぎ” なるものを買いました。

１個で確か２００円以上はしたのですが、生でスライスして食べたら初めて味わう食感でした。

大鳴門橋の真下！“うずしお”

折角淡路島にきたので、もう一カ所
道の駅うずしお　にも立ち寄りました。

地図で見ると、まるで鳴門海峡の上にあるように見えますね。
実は道の駅のある場所は、細長く突き出た岬の先端にあるのです。

この細長い岬があるために実際の鳴門海峡の幅はわずか１．３ｋｍしかなく、これが巨大なうずしおの発生する理由のひとつにもなります。

道の駅のある岬の先端部分を拡大してみました。

正確にいうと大鳴門橋の真横にあるのですが、歩いて橋の下をくぐり、反対側に出ることができます。
これはあとで紹介しましょう。

そして道の駅からの大鳴門橋の眺めは圧巻です。

さて、道の駅ですが、駐車場に停めた後、この入り口から入ります。

この藤棚のスロープを上がって行くと正面玄関です。
でもここは、最上階の４階になるのです。

（配置図をＨＰより借用）

ここから階段等で下のフロアに下りられますが、３階は団体専用で２００名収容、２階も２００名収容できる宴会場、１階には小宴会場があります。

どの階からも雄大な大鳴門橋を目の前にしながら食事ができるというのが強みだと思います。

この写真が道の駅の建物を裏側から見たものです。
正面玄関から入ったのが、この４階というのが、なんとなくわかります。

この４階にあるショップは島内最大級の品揃えがあり、淡路島の土産がなんでも揃います。
私たちもここである程度まとめて土産を揃えました。

そしたら、たまたまキャンペーンがあっていたらしく、買い物金額のなんと２０％の金券を貰えたので、再び土産を物色することに！

ラッキーでした。(^▽^)

買い物を済ませたあと、ソフトクリームの売り場へ！

でもそのソフト、形がいびつではないですか！(;^_^A

４階の奥に展望屋外デッキがあります。
そこから下を眺めていると、人が歩いているのが見えました。

以前来た時は気が付かなかったけど、橋の下を歩けそうなので、早速行ってみました。

橋の真下だということがこの写真で分かりますね。
もう一つ、こちらの写真　・・・・

これは橋の下の構造がわかります。
工事の方がなにか点検をされている様子でした。

そして橋の下をくぐり抜けると、橋の反対側に出ます。
ここからは、鳴門の渦を直接眺めることができます。

望遠を使ったけど、あんまり良い写真は撮れませんでした。

４本マストの船が見えますから、これがおそらく福良港から出港した “日本丸” ではないかと思います。
咸臨丸だったら３本マストですからね！

鳴門海峡のうずしおは常時見えるわけではなく、満潮と干潮の時間だけで、季節によってもその大きさが違います。

うずしおが発生する理由は太平洋側と瀬戸内海側の水面の高さの差なのですが、その詳しいメカニズムは、以前のレポートに書いています。

その時の記事　→　兵庫の旅：最終回！“うずしお”

リンクしていますので、興味のある方はご覧ください。

こうして２日目の予定を終え、再び四国の徳島市内に戻り、この日は “ホテル千秋閣” に宿泊しました。
ビジネスホテルにしては部屋が広かったので選んだものです。

いよいよ明日が最終日です。

幻の銘菓を味わう！“霧の森”

最終日の３日目となり、最初に向かったのは
道の駅霧の森　です。

朝８時過ぎに徳島市内のホテルを出発し、徳島自動車道に乗って一気に昨日走った道を戻ります。
川之江東ジャンクションから高知自動車道に進路を変え、“新宮IC”で下りると、道の駅はすぐのところにあります。

ホテルからの所要時間は１時間４６分でした。

霧の森の名前の通り、ここは山々に囲まれた静かな森の中にあります。

駐車場に車を停めると、そこには“かほり”という農産物の青空市がありました。
でも、これが道の駅の本体ではなさそうです。

案内板を見てみると、もっと奥の方にいろんな施設があるようなので行ってみることにしました。

道路を横切ると最初にあるのがこの赤い吊り橋です。
どうやらこの橋が霧の森への入り口のようです。

この日は、幼稚園児らしい子供たちがいっぱい遠足に来ていて、とても賑やかです。

この赤い吊り橋は“玉水橋”といい、その橋の下は“馬立川”の渓流が流れています。
子供たちはここで水遊びをするのでしょうが、ピーク時には２００人ほどの家族連れで賑わうのだそうです。

これが霧の森の正面入り口です。

“霧の森”はもともと１９９９年にオープンしました。

その後リニューアルや新しい施設の整備などが進み、２０１０年に道の駅に登録され、実際に道の駅としてスタートしたのが２０１１年３月です。

ここには後ほど紹介する温泉、レストラン、ギャラリー、イベント広場、カフェなどがあるほか、７棟の山小屋風コテージで宿泊することもできます。

ここから更に山手に入った場所に “霧の高原” という大規模なアウトドア施設があり、霧の森と一体運営されています。

（パンフレットより借用）

これが霧の森の全体図ですが、今は右下の吊り橋付近にいます。
橋のすぐ左手にあるのが、日帰り温泉の “霧の森交湯～館” です。

ここは２０１２年にリニューアルオープンしました。
ここは大浴場やサウナの他に男女別の “露天ジャグジー” も備わっています。

２階は最大１０７名収容できる研修室です。

入り口から入った先にあるのが、“イベント広場” です。
立派なステージが備わっています。

そして次が “ふれあい館” です。

ここに道の駅の登録証や道の駅スタンプがありました。

中はギャラリー風に特産品や民芸品などが展示してあり、霧の森の総合案内所にもなっています。
奥が工事中でしたが、そこには昆虫館ができる予定です。

この２枚の写真のうち、上が “霧の森レストラン” で、下が “街道茶屋 聴水庵” です。
いずれも木立に囲まれた癒しの場所で食事や抹茶が楽しめます。

さて最後に訪れたのがこちらの建物です。

ここは “菓子工房　新宮本店” と “茶フェ” の建物で、正面階段を上がると、中央は鯉の泳ぐ中庭になっていました。

正面玄関から建物の中に入ってみると、真正面にあったのがこの店舗です。

実は私も楽しみにしていたのですが、この “霧の森菓子工房” で売っているのはこれです。

（パンフレットより借用）

これは “霧の森大福” といいます。

ここ愛媛県新宮町は、四国のお茶産業発祥の地といわれています。
無農薬有機栽培で作った抹茶を餅に贅沢に練りこみ、クリームとこし餡を包み込んだのが、この霧の森大福です。

高級な抹茶の生産量が少ないため製造が追いつかず、ほとんどの場合午前中で売り切れ、ネットでは抽選販売になっていて、“幻の銘菓” と呼ばれています。

この店舗でも、「１家族２箱（だったと思う）までお願いします」 と書いてありました。

朝早かったこともあり、私も運よく手に入れることができました。

餅のなかの抹茶のかすかな苦みと、クリームや餡の甘さが絶妙でした。v(^-^)v

さて、この建物、ご覧のような配置になっています。
菓子工房を出て先へ行くと、そこは “新宮茶ミュージアム” です。

ここには新宮茶の歴史、文化、伝統などが様々な品物と一緒に紹介されています。

更にその先へ行くと、“茶フェ” があって、お茶とともにスイーツが味わえます。

念願の幻の銘菓も手に入ったし、いろいろと見るところも多かったので、ここでは 1 時間近く滞在してしまいました。
次の目的地も離れているので、先を急ぎます。

平均標高８００ｍ！“天空の郷さんさん”

次も一気に１２５ｋｍを走って
道の駅天空の郷さんさん　へやってきました。

松山自動車道を “松山ＩＣ” で下りて、国道３３号を南下した “久万高原町” に道の駅はあります。

“久万高原町” は、標高が３００ｍから１０００ｍの地域にあり、平均標高は８００ｍです。
“天空の郷” というのはその標高の高さから名付けられており、北東には西日本最高峰である “石鎚山” が聳えます。

更に日本三大カルストの “四国カルスト”、国指定名勝 “面河渓” など名だたる名勝、大自然に恵まれた地域です。

今回の旅は１日目、２日目と雨にたたられましたが、最終日の今日は見事な青空で気持ちが良いです。

“さんさん” というのは、太陽の “SUN（さん）” と “山（さん）” を意味しており、更に国道３３号（さんさん）に面していることもネーミングの由来です。

ここは２０１４年４月にオープンしました。
上の配置図の （Ｂ） のところにあるのが “防災センター” です。

最近の新しい道の駅では、このような防災施設を備えたところが多くなってきました。
ここも将来発生する懸念のある南海トラフ巨大地震に備えた施設の一つとして、自家発電設備、防火水槽、給水タンクを備え、災害時の食料、テント、生活用品などが備蓄されています。

そして万が一の時はここが一時避難場所となり、災害救援隊の指令室、輸送車両の駐車場、ボラ

ンティアの活動拠点として機能するのです。

建物群の一番左端がトイレ、そして次が “情報提供施設” です。

道の駅登録証やスタンプはここにあり、久万高原町を紹介するいろんなパンフレットが並んでいます。
２階はギャラリーになっているようで、この時は創作こけしのポスターがありました。

その隣は “農産物等直売所” になっています。

かなり広い売り場で、地元の高原野菜などが並んでいます。
直売所の右隣がファーストフードのコーナーで、この列の右端が “農家レストラン” です。

このレストランには、地元食材を使った昼食バイキングがあります。

Ｌ字方の建物群の防災センターの隣には、パン工房があります。
ここでも地元食材を使った焼き立てパンを味わえます。

そして最後の写真、シルバーマーク専用駐車場は初めて見たような気がします。

やはり新しい道の駅というのは気持ちが良いものです。
道の駅としての必要な機能をすべて備えた、モデルになるような道の駅だと思いました。

さてここからは国道３３号を下り、国道３３０号、３７９号を辿って佐田岬方面に向かいます。
佐田岬半島にはいってから “伊方きらら館” にちょっとだけ立ち寄り、自宅で食べるためのじゃこ天、じゃこカツを買い込みました。

道の駅天空の郷さんさんから三崎港までが約１１０ｋｍ、フェリーで渡った大分県の佐賀関港から自宅までは２１０ｋｍほど走り、３日間の全行程１３２０ｋｍの旅を無事に終えました。

森林保全への取り組み！〝にちなん日野川の郷”

先月（１０月）末に１泊２日で訪問した、中国・四国の新駅巡りのレポートを本日より開始します。

道の駅にちなん日野川の郷　が、初日最初の目的地です。

この道の駅は鳥取県に、今年（２０１６年）４月２２日にオープンしました。

九州の我が家からだと、九州自動車道、中国自動車道と走り、地図の左下にある　〝庄原ＩＣ”で下りて、あとは国道１８３号の一般道を１時間ほど走ります。
１８３号は国道と言っても、山間部の離合が厳しい箇所も多々あります。

自宅を朝７時に出発しましたが、途中のＰＡでのトイレ休憩を挟み、到着したのは１３時１５分でしたから、６時間１５分かかったことになります。

前回中国地方の道の駅を巡ったのは４月１日から４日迄ですから、そのおよそ３週間後にこの新しい道の駅ができたことになります。

今回はここと、今月（１０月）広島県に誕生した新駅、更に四国に渡り、高知県の新駅の３カ所を制覇するのが旅の目的です。
目的は３か所ですが、途中ルート上の道の駅にも３カ所ほど立ち寄ります。

ここは　〝鳥取県日野郡日南町”ですが、鳥取県といっても南西の端っこに位置し、島根、広島、岡山の３県に接しており、町の面積の９割を中国山地の森林が占めています。

（日南町ＨＰより画像借用）

１９７０年には１万１千人ほどあった人口は現在４９００人ほどに減っており、山深い山村に共通した高齢化、過疎化がこの町の課題の一つです。
そんな町の地域活性化を目指して、この道の駅は作られました。

（道の駅ＨＰより画像借用）

施設の配置図が現地に見当たらなかったので、道の駅ＨＰから画像をお借りしました。

正面にある大きな屋根の部分は〝多目的ルーム”であり、会議やイベントに使われますが、ここは予約が必要で有料です。
また万一の場合の避難所としても使われ、防災施設としての機能も担っています。

この大きな屋根の左手は特産である〝トマトの加工所”になっており、右手が〝直売所”です。
右手の直売所に入ってみましょう。

直売所では日南町で獲れた新鮮野菜や加工品、それにドレッシングやジャム、お酒、お菓子などのオリジナル商品が販売されていますが、一つだけ特徴ある取り組みがあります。

それは、全国でも初めての「ＣＯ２排出ゼロの道の駅」を目指していることです。

具体的にどういうことかというと、この直売所で販売される商品すべてにつき〝１円”が日南町の森林の保全のために使われるのです。

これは〝カーボンオフセット”という仕組みですが、森林が９０％を占める日南町ならではの取り組みだと思います。

これらを含む地域活性化への取り組みにより、道の駅にちなん日野川の郷は国土交通省の〝平成２６年度重点道の駅”の一つに選定されています。

〝「まちを創生するための拠点（コンパクト・ヴィレッジ）」を形成し、6次産業化による産業振興等促進”というのが、正式な選定された理由です。

さて、道の駅の一番右端にあるのが、レストランです。
私たちもここで昼食をとることにしました。

おかずなどが並んでおり、好きなものをとって精算するセルフサービス方式です。

うどんや丼物もありましたが、時間がかかるとのことで、私はご飯、みそ汁、焼き魚、漬物にしました。
写真は撮っていませんが、値段も安くて満足しました。

さて次は広島県に今月オープンしたばかりの道の駅を目指しますが、距離は１００ｋｍ以上あり、一般道なので２時間半はかかります。

ものづくりの町！〝びんご府中”

初日の２カ所目は、広島県の

道の駅びんご府中 に向かいました。

最初に訪問した鳥取県の道の駅からびんご府中に向かうには、庄原ＩＣまで戻って中国自動車道と尾道自動車道を経由するルートと、すべて一般道を走るルートの二つがあります。

時間的にはそれほど違わないので、私は一般道ルートを選びました。
県道８号、国道１８２号と辿り、〝鯉が窪” 〝遊YOUさろん東城” などの知っている道の駅の前を通り、途中から狭い山道を走って、ちょうど２時間で府中市に入りました。

この道の駅は今年（２０１６年）１０月２２日にオープンしたばかりで、私が訪問した時点で１週間ほどしか経っていません。
従ってナビにも登録がないので、市内の２か所で通行人に道を尋ねてようやくたどり着きました。

今後行かれる方のために、パンフレットにあった地図を載せておきます。

私は府中駅を目指して脇道に入り込んでしまい、道の駅の裏側から探したので苦労しました。
市役所のある大きな通り（国道４８６号）を辿れば、目立つ看板があって分かり易いと思います。

道の駅の隣に “天満屋” という大きなショッピングセンターがあるので目標にすれば良いと思います。
実はこの道の駅の指定管理者も、その 〝天満屋ストア” です。

“広島県府中市” は広島県の東南部にある人口が３万９千人ほどの町です。

“府中市” というと東京都にもありますね。
更にややこしいことに、同じ広島県内の安芸郡にも “府中町” というのがあります。

従って、東京を “武蔵府中” 、安芸郡を “安芸府中” 、そしてここは “備後府中（びんごふちゅう）” と一般には言うのだそうです。

道の駅の名前が “びんご府中” というのも、これで納得できます。
道の駅は府中駅に近い市街地の中にあり、総事業費１２億円でオープンし、年間２０万人の来場を目指しています。

道の駅の配置図をパンフレットからお借りしました。

今、この配置図の右側から入ってきましたが、その右手（配置図では上）に情報コーナー、アンテナショップ、レストランがあります。

この入り口から入って左手が “情報コーナー” で、右側には開店祝いでしょうか、ランの花がいっぱい飾ってありました。

突き当りにはファーストフードがあり、その右手が “アンテナショップ” です。

“レストラン” を外から覗いたのが次の写真です。

この道の駅に到着したのが１６時半なのですが、このアンテナショップやレストランの営業時間は１７時までだったので、３０分程しか余裕がなかったことになります。

でも、この向かい側にある “産直市場” はご覧の通り！

産直市場の営業時間は、１５時までだったのです。

それで困ったのが、いつも写真に収めている道の駅の登録証です。
この産直市場の中に掲示されているのですが、外から見えるのだけど写真に撮れない！

外のガラスが反射して、ぼんやりとしか映らない！(;^_^A
それにしても１５時閉店は早すぎますね！

レストランと産直市場の間は “中庭”　になっています。

中庭の突き当りにもう一つ建物があって、そこは “交流テラス” になっています。

その入り口では、ビデオで府中の特産品などを紹介しています。
中に入ると、そこにあったのがこれです。

これは、ここ 「道の駅びんご府中」 の５０分の１の模型です。
更に、・・・・・

こんな家具が置かれていました。

実は府中市は、４００年の伝統を誇る “木工の町” で、市内に家具を製作する会社が１９社もあります。
特に “府中タンス” は桐の高級家具として江戸時代から知られている伝統工芸です。

ここにあるテーブルや椅子、それにレストランの家具もすべて “府中家具” を使っています。

先ほどの道の駅の模型も、府中の職人さんが工芸技術によって造られたものですね！
府中は家具工芸を始め、府中味噌、繊維、お菓子などの逸品が自慢の “ものづくり” の町なのです。

この道の駅パンフレットにある、“ぼれええ！” というのは、備後地方の方言で、「すごくいい」 という意味なのだそうです。

ものづくりの町府中市の、伝統を生かした “すごくいいもの” を発信してゆく、というのがこの道の駅の役割なのだろうと思います。

さて、初日は２か所の道の駅で終了です。
この日はここから２２ｋｍの距離にある福山市内のホテルに宿泊し、明日は四国を回ります。

※初日に走ったルート（google mapの自動記録）
※この日の走行距離は、５６８ｋｍでした。

２日目の最初に立ち寄ったのは

道の駅多々羅しまなみ公園 です。

本州と四国を車で行き来する場合、現在３つのルートがあります。

東側から言うと、まず “明石海峡大橋　→　淡路島　→　大鳴門橋” を通るルート、二つ目が岡山からの “瀬戸大橋” のルート、そしてもう一つが今回の “しまなみ海道” を辿るルートです。

しまなみ海道は正式名称を “西瀬戸自動車道” といい、広島県の尾道と愛媛県の今治を結びます。向島・因島・生口島・大三島・伯方島・大島などの島をそれぞれの橋で繋ぎ、全長は５９．４ｋｍです。

２番目の写真は途中のパーキングエリアから写したものです。
このしまなみ海道にはサイクリング専用道路が併設されており、車道と並行して走る多くのサイクリストを見かけます。

この道の駅は２００９年８月に一度来ていますから７年ぶりです。

ここは１９９９年８月に 「上浦町多々羅しまなみ公園」 としてオープンしましたが、２００５年に今治市と合併したことから、 「今治市多々羅しまなみ公園」 と名前が変わりました。

でも、今気が付いたのだけど、案内看板は 「上浦町・・・・・」 のままですね！

ちなみに公式な道の駅のホームページでは、地名の無い 「多々羅しまなみ公園」 になっています。
道の駅の名前が長すぎるので、今回私も短縮版を使わせて頂きました。(^_^;)

この道の駅は、生口島と大三島を結ぶ “多々羅大橋” を渡ってすぐのところにあります。

生口島（いくちじま）は広島県尾道市であり、大三島（おおみしま）は愛媛県今治市ですから、この多々羅大橋が本州と四国の境界、ということになりますね。

道の駅からの多々羅大橋の眺めが次の写真です。

お天気がいまいちなので、あんまり綺麗には撮れていません。

この多々羅大橋は１９９９年５月に総工費１４００億円で完成しました。
国内最長の斜張橋であり、現在は世界で５位ですが、完成当時は世界最大でした。

当時世界２位だったフランスのノルマンディー橋とは、その縁で姉妹縁組をしているそうです。

道の駅のすぐ裏側がご覧のように瀬戸内海に面しており、広い公園になっています。

しまなみ海道は “サイクリストの聖地” として海外でも有名であり、例えば台湾サイクリスト協会とは、姉妹自転車道協定を結び、国際大会なども開催されています。

写真には撮り漏れましたが、石を組み合わせて自転車をイメージした記念碑も建てられています。

道の駅内には、ご覧のようなレンタサイクルも並んでいます。
次に、道の駅の本体を紹介しておきましょう。

手前のとんがり屋根のある建物が “特産品センター” です。

中央のとんがった箇所は明り取りになっていますね。
この円形の部屋は、主にお菓子類を扱っているようです。

通路で隣の部屋に行くと、海産物等を主に扱うコーナーがあります。

特産品センターの隣にある、このかまぼこ型の建物は “生簀コーナー” です。

そこにあるのは名前の通り、でっかい生簀です。
ここにはたくさんの高級魚が泳いでいました。

写りが悪くて恐縮ですが、これはヒラメですね。
これらのお魚は、隣のレストランで味わうことができます。

ここは抜群のロケーションに恵まれ、更に施設も充実しており、私がもう一度来てみたかった道の駅の一つです。

次回、しまなみ海道でもう一カ所立ち寄ります。

来島海峡大橋を望む！“よしうみいきいき館”

しまなみ海道での２カ所目は

道の駅よしうみいきいき館 です。

“しまなみ海道” は瀬戸内海の島々を 「新尾道大橋・尾道大橋」、「因島大橋」、「生口大橋」、「多々羅大橋」、「大三島橋」、「伯方・大島大橋」、「来島海峡大橋」 という７つの橋で結んでいます。

そのしまなみ海道には全部で４つの道の駅があるのですが、今回は “多々羅しまなみ公園” と “よしうみいきいき館” の２か所だけ立ち寄りました。

“よしうみいきいき館” は、大島と四国本島の間を結ぶ、しまなみ海道最後の 「来島海峡大橋」 のたもとにあります。

これが道の駅の駐車場から見上げた 「来島海峡大橋」 です。

来島海峡大橋は、正確に言うと来島海峡第一大橋、来島海峡第二大橋、来島海峡第三大橋の総称であり、３つの長大橋梁により構成された世界初の三連吊り橋で、全長は４１０５ｍあります。

下から見上げた写真、とってもかっこいいですね。
でも、この写真にある、インターチェンジのような、円を描いた道路が何なのか気になります。

私たちが車で乗り降りした ”大島南ＩＣ” はもっと手前にあるし、地図を見てもそれらしいものは描かれていないので、航空写真に切り替えてみました。

航空写真で見ると、確かにインターチェンジみたいなものが見えます。

実はこれ、“サイクリングロード”の出入口のようです。

しまなみ海道には、サイクリング専用道路が併設されていることは前回の記事でご紹介しました。
そのサイクリングロードは自動車道とは若干コースが違い、島内では主に一般道を走ります。

島と島を結ぶ橋の上では、その場所によって、自動車道と並行して走るもの、自動車道と自転車歩行者道が二段階構造になっているものなど様々です。

来島海峡大橋の場合は、中央に西瀬戸自動車道があり、北側に自動車歩行者道、南側にバイク道が併設されているのです。
ですから、写真にあるインタチェンジらしきものは、自転車やバイクの出入口だと思います。

こんなものがありました。
自転車に乗っているのは、愛媛県のイメージキャラクター“みきゃん”君です。

前回紹介した“多々羅しまなみ公園”同様、この道の駅も“サイクリストの聖地”になっています。

２０１４年にテレビ東京系の「ガイアの夜明け」という番組で、ここ道の駅よしうみいきいき館が、町および道の駅の活性化の為にサイクリングコースを世界にＰＲする取り組みが放送されました。
それらが功を奏して、現在では日本国内各地だけでなく、海外からも多くのサイクリストが集まる聖地になりました。

しまなみ海道にある、“伯方Ｓ・Ｃパーク”“多々羅しまなみ公園”“しまなみの駅御島”“よしうみいきいき館”の４つの道の駅は、平成２６年度の“重点道の駅”に制定されています。

【愛媛県施策の「愛媛マルゴト自転車道」のコース沿い、県内外のサイクリストが多く利用】というのが、その選定理由です。

“急流観潮船”というのも、この道の駅が積極的に取り組んできた施策のひとつです。

来島海峡は、鳴門海峡、関門海峡と並んで“日本三大急潮”と呼ばれます。
この観潮船はここよしうみいきいき館から出航しますが、先ほど紹介した“ガイアの夜明け”では、道の駅の駅長さんご自身が操船の免許を持ち、自分で船を操っておられました。

さて、、道の駅本体の紹介です。
この道の駅の最大の魅力はこちらです。

この建物の前に作られた小屋のようなもの、これが “七輪バーベキュー” の部屋です。

この日は早朝なのでお客さんはまだいませんが、この横に大きな水槽を備えた魚介類の販売コーナーがあり、そこで好きなものを買って、この部屋の七輪で焼いていただくのです。

参考までに、７年前に来た時の写真を掲載しておきます。
雰囲気だけはおわかりですね！

これが、魚介類を売っているコーナーです。

土産物コーナーをちょっとだけ覗きます。
そして駐車場にあった、このお地蔵さんにも癒されました。

四国の３カ所目は

道の駅内子フレッシュパークからり にやってきました。

しまなみ海道を走り終えて四国本土に入り、“今治小松自動車道” “松山自動車道” と辿ります。
高速を１時間半ほど走り、“内子五十崎IC” で下りて５分程で目的の道の駅に到着しました。

“内子フレッシュパークからり” は、他の一般的な道の駅のような、大きな建物はありません。

樹々のあいだに隠れるように大きなテント張りみたいな施設があり、これが “直売所” です。
この直売所を中心に、周囲の林の中にいくつかの関連する建物があり、自然の中に溶け込んだ産直市場、といったイメージがあります。

私が、７年ぶりにこの道の駅にもう一度立ち寄りたいと思ったのには訳があります。

直売所の入り口に “全国モデル「道の駅」” という大きな看板が掲げられています。

実はこの道の駅、国土交通省が２０１５年１月に 「全国モデル道の駅」 「重点道の駅」 「重点道の駅候補」 を選定した際、全国でわずか６カ所の 「モデル道の駅」 に選ばれたのです。

“全国モデル「道の駅」” というのは、 「地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められるもの」 が選定条件であり、その６カ所は以下の通りです。

・遠野風の丘（岩手県）
・もてぎ（栃木県）
・川場田園プラザ（群馬県）
・とみうら（千葉県）
・萩しーまーと（山口県）

・内子フレッシュパークからり（愛媛県）

全国１０００か所以上の道の駅の中から選ばれたのですから、すごいことだと思います。

参考：国土交通省HP　→　http://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/juten_eki/model01.html

全国モデル「道の駅」の選定証がこれですね！

テント張りのような屋根の下には、近隣農家から運ばれた新鮮な野菜、果物が並んでいます。

今でこそ、全国に道の駅を始めとする産直市場が数多くありますが、実はその産直市場の『元祖』と言われているのが、ここ内子フレッシュパークなのです。

“愛媛県内子町”は、総面積の７割以上を山林が占める、典型的な山間地の農村です。
他の地域と同様、過疎化、少子高齢化、それに農業の後継者不足に悩まされていました。

そんな中、１９８５年、農家の女性を中心に、地域の将来を学習することを目的として「内子町知的農村塾」が開講しました。
そしてこの塾の出身者を中心に、１９９４年「内の子市場」が開設され、農家が直接農作物を持ち込む、いわゆる農産物直売所の草分けが誕生したのです。

２年後の１９９６年には内子町が50%、住民の株主（現在は677人）が50%出資した第三セクター、「内子フレッシュパークからり」として発展、拡大し、今の形が作られました。

この道の駅のもう一つの特徴は、ネットやITを活用した農業の情報化、システム化だと思います。

安全、安心を目的としたトレーサビリティ（栽培履歴）は勿論のこと、農家には“農業情報端末”直売所には“POSシステム”を導入し、農家は出荷品の販売状況を端末で見ながら、足りないと思えば畑で収穫して店頭に並べ、逆に売れ残ったら引き取りに行きます。

農家の高齢者がシステムを使えなければ意味がないので、“農業情報センター”を作って使い方の教育を徹底し、今では８０歳の高齢者でも自分の畑で端末を自在に操ります。

結果として内子町の兼業農家でも月に１０万円前後の副収入があり、専業農家では１０００万円

を超える年収のところもあるのだそうです。

さて、直売所の裏手に出ると、ご覧のような美しい風景が広がります。
この自然のままの空間に、いくつかの施設が点在します。

敷地の一番奥にあるこちらが、“レストランからり” です。
地元の食材と旬にこだわった、「内子をまるごと味わっていただく料理」 が自慢です。

これは “からりパン工房” “ハンバーガーショップからり” などが入った建物で、他に “からり燻製工房” “からりシャーベット工房” などもあります。

どの施設にも “からり” という名前がついていますが、これは

「果楽里」果物を楽しむ里
「花楽里」花を楽しむ里
「香楽里」香りを楽しむ里
「加楽里」加工することを楽しむ里
「カラリ」と晴れ晴れした気分
「カラリ」としたすがすがしい時間
「カラリ」とした爽やかな人間関係、出会いを楽しむ

という意味だそうです。

この道の駅は 「小田川」 という分岐した2つの川にに挟まれた中洲のようになっています。

その小田川に架かる吊り橋が、この “からり橋” です。
揺れる吊り橋の中央付近で撮ったのが、次の写真です。

こちらは橋の左手で、遠くに松山自動車道の架橋が見えます。

これが反対方向ですが、アユか何かを獲っているのだと思います。

道の駅フレッシュパークからりは、道の駅のモデルとしての魅力だけではなく、大自然をそのまま残したロケーションの良さもあって、年間７０万人もの顧客が訪れています。

道の駅に出荷する農家は約４３０名で、これは内子町の農家の２０％を占めています。
過疎地の農業高齢者の生き甲斐を作り出し、地域活性化の見本となる道の駅に相違ないと思います。

清流四万十川の恵み！“よって西土佐”

今回の中国・四国の旅の最後に訪れたのは、高知県西部にある

道の駅よって西土佐 です。

前回立ち寄った “内子フレッシュパークからり” から目的の “よって西土佐” までは１０８ｋｍあります。

松山自動車道は現在宇和島北ＩＣまで繋がっており、その一つ手前である “三間ＩＣ” で下りて、あとは一般道を２８ｋｍほど走ります。
ＩＣを下りてすぐのところに “道の駅みま” がありますが、更に目的地までには “道の駅広見森の三角ぼうし” “道の駅虹の森公園まつの” の前を通ります。

そして高知県にはいって目的地に近づくと、こんな標識も！

これは “よって西土佐” まで６ｋｍの標識ですが、同じ方向にあと３つも道の駅があるのです。
この付近、本当に道の駅が多いことに感心します。

内子の道の駅から１時間１５分程でようやく到着しました。

この道の駅は、今年（２０１６年）４月１０日にオープンしました。
その５か月後の９月２２日には１０万人の来客数を達成しています。

道の駅のある “四万十市西土佐” は住民わずか３０００人足らずの小さな町です。
その田舎町で短期間に来場者が１０万人を突破したのには、従業員の方たちの工夫を凝らした “ユニークさ” があると思います。

そのユニークさの一つが、ネットを使った情報発信の上手さだと私は思っています。

今年の初め頃、この道の駅がいつ頃オープンするか検索してみたところ、既にＨＰが出来上がっていて、そこには“開店準備中”の様子が写真と動画で克明に発信されていました。

それは４月１０日のオープンに向けて村人総出でＰＲ動画を作られたらしく、ＷＥＢで先行公開されたあと、テレビのＣＭでも流れたのだそうです。
工事中の現場の様子や、出荷を予定されている住民の方たちのふるさと自慢など、実に面白く、楽しく表現されていました。

現在のＨＰも、従来の道の駅のそれとは違ったユニークさがありますから、是非ご覧になって下さい。

（パンフレットより配置図の画像借用）

道の駅は国道４４１号に面していますが、国道を挟んだ向かい側には展望デッキがあり、その裏手には清流で名高い“四万十川（しまんとがわ）”が流れています。

四万十川は、増水時でも橋が流されないように欄干が一切ない“沈下橋”でも有名ですね。

案内図にもあるように、道の駅の右端は“鮎市場”になっていて、四万十川で獲れた新鮮な鮎の塩焼きや干し鮎などが販売されています。

この鮎市場は、「四万十川西部漁業協同組合」の運営です。

店内の一角で、なぜか北海道の物産ばかり並んでいるコーナーを見つけました。
何故だろうかと思って上を見ると、こんな看板がありました。

四万十市は数年前に「摂氏４１度」という“日本一あついまち”という記録が生まれました。
片や北海道の旭川は、“日本一さむいまち”として「マイナス４１度」という記録があります。

日本一のあつい町とさむい町、しかもどちらも４１度ということに目をつけたのもユニークです。

ユニークなことはまだまだあります。

階段で２階に上がって行くとき、下を振り返って 「あれっ！」 と思いました。
店の中に軽トラックが停まっている！？

引き返してみると、まさしく軽トラックです！(￣□￣;)!!

これはこの道の駅の名物のひとつで “軽トラックワゴン” というそうで、荷台には西土佐の旬の農作物が山積みになっています。
トラックにはちゃんとナンバープレートもついています。(＾～＾)

更にその運転席の窓ガラスには　・・・・！

たくさんの顔が！（笑）
これはおそらく従業員さんや、商品を納めておられる住民の方たちのお顔ではないかと思います。

この道の駅のユニークさのひとつは、店内はもとよりパンフレットやホームページに、従業員や地域住民の方たちのお顔がたくさん出てくることです。

パンフレットの表紙もご覧の通りですが、中身にもたくさんの方たちが登場されています。

こういったものを見ても、「みんなで道の駅を良いものにし、地域の方々みんなの力で盛り上げてゆきたい！」 という駅長さんの想いがわかる気がします。

２階に上がってみると、なぜかそこには大きな “鉄道ジオラマ” がありました。
これは四万十町と愛媛県宇和島を結ぶ　「予土線」　の鉄道ジオラマだそうです。

その奥には “コミュニティスペース” があり、この日は年配の方たち１０数名が集まって、なにか健康に関するセミナーのようなものが行われていました。

２階のベランダは “みはらしデッキ” といって休憩できるコーナーになっています。
１階で買ったケーキやお弁当をここで食べることもできます。

下を見下ろすと、そこにもテーブルと椅子があるようです。
ここから見える１階部分は、手作りスイーツを味わえるカフェ “ストローベイルSANKANYA” です。

ところでこの道の駅の名前 “よって西土佐” の “よって” ですが、次の３つの意味だそうです。

①寄って！
②選って！
③酔って！

高知県の小さな町の小さな道の駅ですが、そのなかに知恵と工夫と独自のユニークさがいっぱい詰まっていて、みんなで応援してやりたい、と思わせる道の駅だったと思います。

さて、今回の旅の目的はすべて終了しました。
ここから、来た道を一気に戻り、佐田岬のほぼ先端にある “三崎港” に向かいます。

２時間以上を一気に走って三崎港に到着したのが１６時２０分でした。
ここから大分県の佐賀関港まで “国道九四フェリー” に乗るのですが、ちょうど１６時３０分の便に乗船が始まっており、最後尾でなんとか間に合いました。

乗り込んでから、あれっ！いつもと違う！と思ったのですが、なんと６月に新造船が就航していました。

このフェリー、“国道” と名前がついているのは、“国道１９７号” の四国と九州を繋いでいるからです。
九州と四国を最短距離で結び、わずか７０分の所要時間で、しかも１時間ごとにシャトル運行し

ているので実に便利です。
そしてこの新造船、やはり新しいだけあって、とっても快適でした。

自宅には２０時半すぎに無事に到着しました。
この日の走行距離は５１６ｋｍ、２日間の合計は１０９２ｋｍでした。

中国・四国の旅シリーズ、最後までのお付き合い、有難うございました。

※２日目に走ったルート（google mapの自動記録）

ギリシャ風車に感動！“小豆島オリーブ公園”

次はいよいよ小豆島に渡り

道の駅小豆島オリーブ公園 を目指します。

ここは見どころが多いので、２回に分けてご紹介します。

みやま公園から２５分ほど走って、“新岡山港” にやってきました。
新岡山港と小豆島の “土庄港（とのしょうこう）” との間に、両備フェリーがほぼ１時間ごと、１日１３往復で就航しています。（別途小豆島フェリーも就航）

港に到着したのは１３時５分、ちょうど１３時発が出港したばかりで、５０分ほど待つことになりました。

しばらくしてやってきたのがこの船、“おりんぴあ どりーむ号” です。

この “おりんぴあどりーむ” は全長が約６６ｍ、９９０トンで定員は５００人、普通車６０台と観光バス９台を載せることができます。
この船を設計したのは、ＪＲ九州の豪華クルーズトレイン 『ななつ星 in 九州』 を設計したことで有名な、“水戸岡 鋭治” 氏です。

ようやく時間がきて乗船です。
小豆島までの所要時間は７０分ですが、５ｍ未満の車に大人二人で、８３５０円でした。

これは途中ですれ違った姉妹船 “にゅう　おりんぴあ号” です。

この両備フェリーは、就航以来すべての旅客船に “オリンピア” の名前がついています。
これは１９６４年東京オリンピックの年に小豆島に初めて就航したことと、小豆島とオリンピアのあるギリシャのミロス島が姉妹島縁組をしていることに由来しています。

これが一般客室ですが、とっても明るくて快適です。
私たちはずっと２階の客室にいたので気が付かなかったのですが、この船の３階にある甲板にはなんと“足湯”があるそうです。

小豆島にはフェリーが就航する港は６カ所程ありますが、私たちは西端の“土庄港”に上陸しました。
この島には３カ所の道の駅がありますが、そのうちの２か所に今回は訪問します。

最初に小豆島全体の地図をご覧いただきましょう。

（小豆島フェリーの案内パンフレットから地図借用）

おおよその位置関係がわかると思いますが、左端の土庄港から、島の中央付近にある“道の駅小豆島オリーブ公園”に最初に向かいます。

これはその途中の交差点の角にあった“しあわせの像”と名付けられたカエルの家族です。
かわいかったので、確か前回来た時も写真に収めたと思います。

土庄港に上陸して２０分ほどで、オリーブ公園に到着しました。
ここは道の駅の本体にあたる“オリーブ記念館”を中心に、いくつものビュースポットがあります。

（パンフレットから案内図画像借用）

パンフレットから案内図をお借りし、文字だけは追記してみました。
右上にある、“ギリシャ風車”が私が最も期待していたスポットのひとつなので、今回はこれに絞って紹介しましょう。

オリーブ記念館から歩いて３～４分程度でしょうか？
広大なオリーブ畑の中を抜けてゆくと、真っ白いこの風車があります。

次回以降でも紹介しますが、ここはギリシャのエーゲ海の風景に似ています。
小豆島と姉妹島提携を結んでいる、「ギリシャ・ミロス島」との友好の証として平成４年に建設され、オリーブ公園のシンボルとして絶好の撮影ポイントになっています。

エーゲ海に似た瀬戸内海の島々をバックに、日本国内とは思えないこの絶景、私が是非もう一度撮りたかった写真なのです。

ところでこの最後の写真ですが、左側の女性ふたり、なにをしているかお分かりですか？
よく見て頂くと、ホウキに跨っています。

ご覧のように、途中で出会った女の子たちも、みなさんホウキを手にしています。
ボランティアでオリーブ園の掃除を？　そんな訳ないですね！（笑）

実はこのオリーブ園は、映画『魔女の宅急便』のロケ地で、そのロケセットも残っています。
そこで道の駅では、その主人公キキになりきって貰うために、ホウキを無料貸出ししているのです。

そしてこのギリシャ風車を背景にジャンプした瞬間をスマホで撮影し、あたかもホウキに跨って空を飛んでいるような写真をインスタグラムに投稿するのが流行っている、という訳です。(*^o^*)

長くなるので今回はここまでとして、次回には他の絶景ポイントを紹介しましょう。

地中海風の景観！“小豆島オリーブ公園”

前回に引き続き

道の駅小豆島オリーブ公園 のご紹介です。

前回もご紹介したオリーブ公園の案内図ですが、オリーブ記念館の左隣に “ふれあい広場” というのがあります。
最初にここの写真をご覧いただきましょう。

この写真、なんだか地中海を望むギリシャの神殿跡にいるような気分になりませんか？
ここもギリシャ風車に並んで、私の好きなスポットのひとつです。

この公園は小高い丘になっていて、ここから見下ろす瀬戸内海の眺めもなかなかのものです。

下に見える樹々はもちろんオリーブの樹です。

この地は “日本のオリーブ発祥の地” であり、公園には約２０００本のオリーブ畑が広がっています。
明治４１年に当時の農商務省がアメリカから苗木を輸入し、三重県、鹿児島県、香川県（小豆島）で植樹を始めたのですが、温暖な気候に恵まれたここ、小豆島だけが栽培に成功したのです。

小豆島を走っていると、一般家庭の庭先でもたくさんのオリーブの樹を見かけます。

園内にはこんな像がいくつもあって、ギリシャの雰囲気を醸し出しています。
そしてこんなものも！

これは “幸せのオリーブ色のポスト” といいます。

オリーブの花言葉は 「平和」　「安らぎ」　「知恵」　「勝利」　であり、オリーブ発祥の地からたくさんの幸せが届くよう、道の駅では専用のポストカードも販売しています。

ここはオリーブ記念館から一段下にある “イベント広場” です。
中央のステージのような丸い台に、不思議な形のモニュメントがあります。

これは古代ギリシャにおける、「オストラキシモス（陶片追放）」 で使われた投票片がモチーフです。
投票片は市民による選挙あるいは追放、裁判などで使われたもので、中央の心棒があれば “無罪” であり、なければ “有罪” を表わします。
このモニュメントには心棒がありますから “無罪” すなわち “平和” を表現しています。

イベント広場へ下りてゆく親子連れも、やっぱり “魔法のホウキ” を持っています。（笑）

そしてここでもホウキに跨って、ジャンプ！！
良い写真が撮れたでしょうか？(^O^)

これがオリーブ記念館からイベント広場へ下りる階段ですが、その向こうに見えるのは “サンオリーブ” というレストラン、温泉の建物です。

ほとんどの建物がこのように “白” で統一されており、地中海を意識しているのが分かります。

バックに瀬戸内海をゆく白い船が写っています。
みなさん、いろんなポーズで写真を撮っていますね！

これは道路を挟んだ向かい側になりますが、左が “搾油所コミロス” 右手の青いのが “温室ガーデン” です。
温室のもう一段上には、“雑貨・ハーブカフェ　コリコ” があり、これが映画 『魔女の宅急便』 のロケセットをそのまま残したものです。

道の駅のパンフレットから、室内の写真の一部をお借りしました。
ちゃんと壁に、魔法のホウキが架かっています。(≡^▽^≡)

さて、道の駅の本体である “オリーブ記念館” に戻りましょう。

ここにはオリーブやハーブの加工品などをたくさん揃えた売店や、オリーブの歴史、産業、オリーブオイルの特質などを資料や映像で紹介する 「オリーブまるごと情報ギャラリー」 などがあります。

ここで最初にご紹介したいのがこちらの写真です。

事務室のすぐ隣にあるこのコーナー、ここで “魔法のホウキ” を貸し出していたのです。
ホウキの上には、魔法のホウキで空を飛んでいる写真がいっぱい並んでいます。

この無料レンタルのホウキを借りるには、いくつかの “心得”　を守らねばなりません。

①公園内ならどこでも 「持ち出しＯＫ！」
②とにかくキキに 「なりきる」　そしてスマホで 「連写」
③ホウキが怒ると魔法が使えないので 「ホウキに感謝して大切に使う」
④みんながキキになれるよう 「すばやく」 「ホウキを黒猫しっぽに返却する」

というものです。
そういえば、ホウキがかかっているのはよく見ると黒猫のしっぽです。(^▽^)

あまりに人が多いので正面からは撮れなかったのですが、玄関から入ったロビー中央に立つこの像は、オリーブの女神である “アテナ像” です。

こちらが売店ですが、オリーブオイルや化粧品など様々なオリーブ製品が並びます。

私はオリーブソフトクリームを味わって、オリーブ公園の締めくくりとしました。

次はわずか５ｋｍほどの距離にある

道の駅小豆島ふるさと村 にやってきました。

小豆島には３カ所の道の駅がありますが、今回訪問した “小豆島オリーブ公園” と “小豆島ふるさと村” の二つは、全国的にも特に人気の高い道の駅です。

その証拠としては、先般も紹介しましたが、今年（２０１７年）８月５日の日本経済新聞土曜版の、「道の駅ランキング」 で西日本側の第一位が “小豆島オリーブ公園” です。

更に、その６年前、２０１１年８月２０日の同じく日本経済新聞土曜版 「家族で一日遊べる道の駅」 のランキングで西日本第一位が、“小豆島ふるさと村” です。

小豆島というこんな小さな島にある二つの道の駅が、いずれもランキングで１位になるのは素晴らしいことだと思います。

ついでに紹介すると、この２つの道の駅、いずれもホームページが実に良くできています。
関心のある方は、道の駅の名前で検索してみて下さい。

道の駅のシンボルともいえる、このとんがり屋根の円形の建物は、“夢想館” といいます。
ここには現代美術を展示する、池田美術館が併設されています。

この建物の１階が多目的スペースで、グループやサークルで利用できる夢工房です。
そして２階が、先ほど紹介した美術館になっています。

オリーブの樹が植えられた中庭があって、その奥にある建物は “手延べそうめん館” です。

小豆島はオリーブの他に、お醤油、それにそうめんが特産です。
ここでは、伝統のそうめん作りが見学できます。

夢想館の向かい側の建物は、“物産館” と “休憩・喫茶コーナー” です。

そしてもう一つ、中庭付近で面白いものを見つけました。

ガラス戸越しなのであんまり綺麗に撮れていませんが、これは２人乗りの電気自動車 “豆モビ” です。
走れる範囲は指定エリアのみ、となっていますが、１日借りて４３２０円です。

ＨＰで事前に見ていたので、乗ってみたいな、と思っていたのですがこの日はもう時間切れのようです。
ここではこの電気自動車の他に、電動自転車を含むレンタサイクルも借りられます。

ざっくりと道の駅の建物を紹介しましたが、この道の駅、こんなものではありません。
パンフレットから全体像を見て頂きましょう。

いきなり国民宿舎のパンフレットが出てきましたが、ここには国民宿舎を含む宿泊施設も複数あります。
実を言うと今回ここに泊まりたかったのだけど、満室で全く空いていなかったのです。

（パンフレットから案内図の画像借用）

パンフレットの中にあった、ふるさと村の全体図です。

点線のマルで囲ったところが、先ほど紹介した道の駅の本体部分です。

宿泊施設だけでも、国民宿舎、公共の宿ふるさと荘、ファミリーロッジ、オートキャンプ場などがあります。
ですから、グループやスポーツ合宿などでの利用も多いようです。

施設としては、他に体育館、グラウンド、テニスコート、ファミリープール、イベント広場、いちご狩り農園などがあり、海辺にはシーカヤックと釣り桟橋があります。

道の駅のすぐ近くに、このシーカヤックがありました。
私も若くはないのだけど、こんなのを見ると、一度は乗ってみたくなります。

こちらは釣り船でしょうか？
ふるさと村全体のほんの一部しか見ていませんが、ここには楽しそうなものがたくさんあります。

（パンフレットから画像借用）

これはパンフレットにあった、“体験学習”の一部です。
このような体験や、スポーツ全般を楽しめる、滞在・体験型のまさに何でもあり、の道の駅です。

さて、そろそろ夕方になったので、今夜の宿泊先に向かいます。
この日フェリーで到着した、土庄港に近い場所にホテルはあります。

楽天トラベルで予約したこの“天空ホテル　海盧（かいろ）”ですが、建物の外観はちょっと年季が入ったように見えましたが、小高い場所に建っていて、その眺めは抜群です。

これが部屋の窓からの写真ですが、島に繋がった細い箇所がありますね。

その細い箇所を人が歩いているのが見えると思います。

ここは “エンジェロード” 、又は “天使の散歩道” と呼ばれます。
潮の満ち干きにより、道が現れたり消えたりしますから、１日に２回干潮の時だけ渡ることができます。

美味しい食事を味わい、２日目の予定を終了しました。

※２日目に走ったルート（google mapの自動記録）

ちょっとだけ観光！“寒霞渓”

３日目は小豆島でちょっとだけ観光をします。

寒霞渓（かんかけい）　がその目的地です。

昨夜泊まった土庄港に近いホテルを８時２０分に出て、小豆島の内陸部にある寒霞渓を目指します。

直接行けば３０分強で到着する距離ですが、私たちは途中、昨日気になっていた “小豆島オリーブ園”に立ち寄りました。

ここは昨日訪問した 道の駅小豆島オリーブ公園 の少し手前にあって、８年前に来た時には無かった、新しい施設のようです。

階段を上がって正面の入り口を入ってみると、そこは特産品の直売店と喫茶コーナーがありました。
そこを出て裏手に回って見ると “オリーブの丘” という広大なオリーブ畑が広がっており、遊歩道が縦横に整備されています。

途中にご覧のような遊具広場があったのですが、ここにあるのは世界的な彫刻家 「イサム・ノグチ」 氏が作製された遊具彫刻で、２０１２年１０月に完成したのだそうです。

ここも小高い丘の上にありますから、眺望もなかなか綺麗です。

売店で貰った園内ＭＡＰが次の画像です。

園内ＭＡＰの一番右側に、“ギリシャ風車” と書かれているのがお分かりでしょうか？
つまりこのオリーブ園は、道の駅のオリーブ公園と中で繋がった一体のものだったようです。

折角なので売店で土産などを買って、本来の目的地である寒霞渓に向って再出発しました。

寒霞渓はオリーブ公園の少し先、草壁港から内陸の山間部に入ってゆきます。
ロープウェイに乗るために、私たちは “紅雲亭” まで行って車を駐車し、駅に向かいました。

ロープウェイは１２分ごとに運行しており、往復で１４７０円です。
４０人乗車できるロープウェイは、私たち二人だけの貸切りでした。(^O^)

全長９１７ｍ、標高差３１７ｍをロープウェイは約５分で山頂駅に着くのですが、その間正面や左右には、次々に巨大な奇岩、岸壁が現れます。

寒霞渓は１３００万年前の火山噴火で誕生し、２００万年という気が遠くなる年月をかけて自然が創りあげた渓谷で、“日本三大渓谷美” のひとつです。
ちなみにあとの二つは、群馬県の “妙義山” と大分県の “耶馬渓” です。

途中で下りのロープウェイとすれ違います。

大迫力の中、やがて山頂駅に到着しました。
山頂駅では、色鮮やかなあじさいの花が迎えてくれました。

山頂駅には、ご覧のように結構大きな土産物の売店やレストランがあります。

そしてその裏手には、広い駐車場があってたくさんの車が停まっているのを見てがっくり！
何もロープウェイに乗らなくても、直接車で来られたわけです。

事前に良く調べてなかったので仕方がありませんが、ただ直接車で来ていれば、おそらく先ほどの迫力ある渓谷美は見れなかっただろうと思います。

ここにはご覧のような “かわら投げ” があり、２００円で買った幸せ祈願のかわらを投げて、的を通れば願いが叶う、というものです。

そして本来ならここからは眼下の内海湾、瀬戸内海、四国の山々までの眺望が開けるのですが、この日はあいにく雲がかかって何にも見えませんでした。

あんまりゆっくりもできないので、再び下りのロープウェイに乗って麓に戻り、土庄港まで引き返します。
土庄港から、今度は四国本土の高松港にフェリーで向かいました。

次回は、四国本土の、“瀬戸大橋記念公園” を紹介します。

水の回廊に遊ぶ！“瀬戸大橋記念公園”

小豆島からフェリーで高松港に上陸し

道の駅瀬戸大橋記念公園 を目指しました。

ここも写真が多いので、２回に分けてご紹介します。

寒霞渓から土庄港に戻ると、ちょうど１１時２０分発の高松港行きフェリーが乗船を始めていました。
急いで切符を買って、最後尾で乗り込むことができました。

高松港までの所要時間は６５分です。
船を下りたあと道を迷って市内をうろうろしましたが、それでも４０分ほどで目的地に到着できました。

この道の駅に来るのは今回が３回目になります。
四国における、私のお気に入りのひとつです。

ここは１９８８年に瀬戸大橋の完成を記念して開催された “瀬戸大橋架橋記念博覧会” の会場跡を整備した海浜公園で、広さは１０．２ｈａあります。

写真の奥、正面に見える “瀬戸大橋記念館” を中心に、周囲には “マリンドーム” “架橋機器展示広場” “子ども広場” “浜栗林” “球戯場” “美術館” などさまざまな施設で構成されています。

今回、まず紹介したいのは、案内図左手の公園入口から瀬戸大橋記念館に続く、メインのプロムナードにある、“水の回廊” と呼ばれる噴水群です。

この日は７月末の夏休み、そして太陽がさんさんと降り注ぐ真夏日で、たくさんの子供達とお母さん方が水遊びを楽しんでいました。

ここにはいろんな形の噴水があるのですが、最初に見て頂いたこの噴水は、瀬戸大橋の “吊り橋” をイメージしています。

確かに形がそっくりですね。
そして２つ目はこちらの噴水です。

こちらの噴水は、斜め下に水を噴き出して、“斜張橋” を表わしています。

確かにこの形に水が噴き出していますね！

河川や海峡を跨ぐ巨大な橋というのは、基本的な形としては３種類があって、長い距離に適してる “吊り橋”　美しい姿の “斜張橋” そしてもう一つが、三角形を組み合わせて安定的な “トラス橋” です。

（瀬戸大橋ものしり事典より借用）

瀬戸大橋は、区間ごとの距離などの条件に応じて、この３種類を組み合わせて作られています。
そして噴水の３つ目は、次の写真です。

この３枚の写真は “天の泉” といい、瀬戸大橋を構成する一つである、“南北備讃瀬戸大橋” のメインケーブルをイメージしています。
下に向かって勢いよく噴出する水流がハンガーロープを表わし、虹の曲線は未来に向かう四国の姿を表現したものだそうです。

この３枚目の写真でお分かりのように、この瀬戸大橋記念公園は、瀬戸大橋のほぼ真下に位置します。

先ほどの３つの区分でいうと、この手前の方は “トラス橋”　で、その先の海の部分が “吊り橋” ですね。

瀬戸大橋は、“道路鉄道併用橋” としては世界最大級で、全長は９３６８ｍあります。
上を車が走り、下を列車が走る２階建てで、時折、“ゴォー” という音を響かせて列車が走り抜けます。

次回ではもう少し詳しく瀬戸大橋を紹介しようと思います。

巨大橋の絶景！“瀬戸大橋記念公園”

前回に引き続き、

道の駅瀬戸大橋記念公園 のご紹介です。

今回はまず、道の駅のパンフレットからご覧頂きたいと思います。
道の駅および、瀬戸大橋記念館のパンフレットです。

左側の道の駅のパンフレットに航空写真が写っているので、これを拡大してみましょう。

瀬戸内海を巨大な橋が貫く迫力ある絶景ですが、ではこれを地上から見てみましょう。

晴れわたる青空と瀬戸内海、はるか遠くまで伸びる瀬戸大橋、まさしく絶景です。
これは瀬戸大橋記念館の裏手にある広場から撮影したものです。

この瀬戸大橋は岡山県の倉敷市と香川県の坂出市を結ぶ全長約９．４ｋｍありますが、実際には途中の島々の上を通るので、６つの橋と、４つの高架橋の総称です。

６つの橋は、岡山県側から下津井瀬戸大橋、櫃石島橋、岩黒島橋、与島橋、北備讃瀬戸大橋、南備讃瀬戸大橋であり、この内３つが“吊り橋”２つが“斜張橋”１つが“トラスト橋”です

この中で一番長いのは今写真に写っている、“南備讃瀬戸大橋”の１７２３ｍですが、これだけ長い橋になると、地球の“丸さ”の影響を受けます。

この橋の塔から塔までの底辺部の幅は１１００ｍありますが、高さ１９４ｍの塔の頂上から頂上までの間隔は、それより３２ｍｍ広いのだそうです。

瀬戸大橋は上を４車線の“瀬戸中央自動車道”が通り、下部を“ＪＲ瀬戸大橋線”の列車が走ります。

それらのすべての重さが橋にかかった場合、温度差による伸びも含めて、南備讃瀬戸大橋の場合で、塔と塔の間は最大５ｍも下がるそうです。

（瀬戸大橋ものしり事典より）

この世紀の大工事である瀬戸大橋は、９年半の工期と１兆１２００億円の費用をかけて、１９８８年（昭和６３年）に完成しました。

この写真は、“瀬戸大橋記念館”を水の回廊のあるメインプロムナード側から見た写真ですが、これを裏の海側から見たものが次の写真です。

なにかの工場群を思わせるような、複雑な形の建物です。
右手奥に高いタワーが見えます。

これは地上１０８ｍの回転式展望塔で、“瀬戸大橋タワー”といいます。
まだ乗ったことはないのですが、おそらく素晴らしい眺望だろうと思います。

では、瀬戸大橋記念館に入ってみたいと思います。

パンフレットから画像をお借りした内部の案内図がこれです。
外観に似合わず、中はとってもきれいです。

四角いフロアの四隅に展示室があり、途中の通路にもさまざまな展示があります。
案内図にＡからＦまでの表示がありますが、それぞれのテーマは次の通りです。

Ａ：太古から海の道へ
Ｂ：架橋時代
Ｃ：時代を創った偉人
Ｄ：時代を支える技術
Ｅ：そして未来へつながる

Ｆ：宇宙と未来のアート

映像や巨大模型など、それぞれ個性のある展示がされていました。

これらに囲まれた中央部分は“ブリッジシアター”といい、大型全天周映像装置を備えた、１９５人収容のシアターです。
１日に５回上映されますが、時間があわず今回私たちは見ることができませんでした。

瀬戸大橋記念館は１９８８年（昭和６３年）１１月に開館しましたが、２５周年に当たる２０１３年（平成２５年）にリニューアルし、「アート」と「宇宙」をメインテーマに生まれ変わっていました。

瀬戸大橋は本州と四国を橋で結ぶという、先人の最初の提唱（夢）から１００年かかって実現しました。
不可能を可能にする人々の強い意志と最先端の科学技術により、２０世紀最大のプロジェクトは成功し、ここに世界に誇る遺産があります。

絶景に恵まれた素晴らしい環境とともに、ここは四国が誇る道の駅のひとつだと思います。

世界的産業遺産の里！“マイントピア別子”

次は香川県から愛媛県へ大きく移動して

道の駅マイントピア別子 （べっし） へやってきました。

瀬戸大橋近くの “坂出ＩＣ” から 愛媛県東部の “新居浜ＩＣ” まで高速道路を１時間以上走り、そこから一般道を１５分、道の駅マイントピア別子に到着したのは、１５時３５分でした。

この道の駅も２００９年８月以来８年ぶりですが、前回はちょっとしか見ておらず、気になっていたのです。

この道の駅は、ご覧の通り深い山の中にあります。

新居浜市は “別子銅山” によって栄えた工業の町です。
別子銅山は１６９０年（元禄３年）に住友の田向重右衛門(たむけじゅうえもん)によって開坑され、以来１９７３年（昭和４８年）の閉山までの約２８０年間、住友家によって経営されてきました。

日本三大銅山の一つとして日本の貿易や近代化に貢献するとともに、“住友” が日本有数の巨大財閥となる礎となりました。

“マイントピア別子” はその開坑３００年を記念して作られたテーマパークで、“マイン” は「鉱山」を意味し、それに 「ユートピア（理想郷）」 を組み合わせて名付けられました。

県道４７号から右折し、この大きな橋を渡るとマイントピア別子です。

上の写真に、「東洋のマチュピチュへは、安心・安全なバスで行こう！」 という旗が並んでいるのがわかりますか？

世界的な産業遺産である別子銅山の跡地は、大きく分けると“端出場（はでば）ゾーン”と“東平（とうなる）ゾーン”に分けられます。

道の駅は端出場ゾーンにありますが、東平ゾーンへはかなり狭くて厳しい山道を上るので、ここから案内ガイド付きのマイクロバスで送迎しているのです。

“東洋のマチュピチュ”と呼ばれる東平ゾーンは、標高７５０ｍの高地にあり、かつて別子銅山の採鉱本部が置かれ、最盛期には鉱山関係者とその家族約５０００人が住んでいました。
社宅・小学校・病院・娯楽場・接待館などが建っていた跡地に、現在では「東平歴史資料館」「マイン工房」それに遊歩道、花木園などが整備され、宿泊研修もできます。

端出場ゾーンに話を戻しますが、道の駅の本体となる“マイントピア本館”がこの建物です。
駐車場からここへ来るまでの道沿いにも、別子銅山時代の産業遺産が展示されています。

下の２枚の写真は“仲持像”といって、男性は４５ｋｇ、女性は３０ｋｇの重い荷物を背負って、険しい山道をこうやって物資を運んだのだそうです。

マイントピア本館の玄関を入ると、すぐのところに鉱山鉄道のチケット売り場があります。

私たちは時間がないので乗りませんが、これに乗ると“観光坑道”があり、江戸ゾーン、近代ゾーン、体験ゾーン、それに“砂金採り”、などを楽しむことができます。

置いてあったチラシから、全体像の画像をお借りしました。
中央にある建物がマインピア本館ですから、随分と広いことがわかります。

これが鉱山鉄道の乗場ですが、マイントピア本館の建物の、２階から入ります。

チケット売り場の隣に、こんな掲示板がありました。

一番左の列は、“科捜研の女”のロケが、東洋のマチュピチュであった時の写真です。
右から２つ目の列は、本物のマチュピチュがある、ペルーの大使ご夫妻が視察に来られた時の写真だそうです。

ペルー大使のお墨付きを貰えたのでしょうか？（笑）

この建物は４階建てになっていて、１階にご覧のような土産物売り場と喫茶コーナーがあります。
２階はレストラン、工芸展示室、コミュニティホール、それに鉱山鉄道の乗場です。

３階は和風レストラン、そして４階には“別子温泉～天空の湯～”という温浴施設と、子供の遊具施設“あかがねキッズパーク”があります。

これが４階の配置図で、右半分は温浴施設、左手はキッズパークという、子供の遊び場です。
その下の斜めに伸びているところに、「芝生公園」「バーベキューハウス」「砂金採り体験」という矢印が書いてあります。

ここから外に出られるのかな、とエレベーターで４階まで上がってみましたが、お金を払って温浴施設に入らなければここへは行けませんでした。

１階の売店には銅山らしく、こんなモニュメントも！
このモグラくん、ゆっくり回りながらノミで鉱山を叩いています。(^▽^)

この道の駅、やはり鉱山鉄道に乗って観光坑道や体験コーナーまで行かないと、本当の良さは味わえないのかもしれません。

さて、３日目の予定はこれで終わりです。

ただ、次は四国南部、高知県の太平洋側になるので、これから一気に高知市の隣り、南国市まで走って宿泊です。

再び１時間半ほどの長距離を走って、“サザンシティホテル高知” に到着したのが１７時４０分です。
ここは高知方面の時はいつも泊まるので、今回が３回目です。

隣りにある居酒屋でカツオのたたきなど、高知の味覚を味わって、３日目を締めくくりました。

※３日目に走ったルート（google mapの自動記録）

土佐の一本釣りの漁師町！“なかとさ”

最終日の４日目となり、最初に向かったのは

道の駅なかとさ　です。

前日に宿泊したのが南国市ですから、高知ＩＣから中土佐ＩＣまでを高速で走り、下りて約５分、全部で１時間１０分ほどで到着しました。

ここは今年（２０１７年）７月１５日のオープンですから、開業して約２週間目に訪問したことになります。

この道の駅の所在地は、“高知県中土佐町久礼（くれ）”です。

私は若いころ、雑誌ビックコミックに連載されていた「土佐の一本釣り」という連載漫画を毎週楽しみに読んでいました。
この久礼の漁師町が舞台で、主人公“純平”が中学を卒業後、漁師として成長してゆく姿を描いたもので、作者は中土佐町の名誉町民にもなった、同じ高知県出身の故青柳裕介氏です。

久礼の町を全国的に有名にしたとして、この町に銅像も建てられています。

（中土佐町パンフレットより画像借用）

ここ中土佐の久礼は、先ほども触れたように、４００年もの昔からカツオ一本釣りが盛んな漁師町であり、四万十川（しまんとがわ）上流域の木材搬出港としても栄えてきました。

その歴史と美しい港や町の景観が、２０１１年（平成２３年）２月に“漁師町”として全国で初めて、「国の文化財（重要文化的景観）」として選定されています。

その美しい漁師町に誕生したのが、この道の駅なかとさです。

この道の駅、すぐ目の前が海なのですが、道の駅の裏手はご覧のように小高い山になっています。
道の駅の中の通路に、こんな標識がありました。

「津波避難場所」 であり、その矢印の先にはご覧のように長い階段があります。
いくつかの階段を上ると、高台に避難することができます。

太平洋に面した港町ですから、こういった備えが必要なのだろうと思います。

最初に全体の案内図をＨＰよりお借りしてきました。
左手は、芝生広場やドックランの施設です。

右手の建物の部分を拡大してみましょう。

文字が見にくいので、追記してみました。

道の駅は４つの建物からできています。
直営店とテナントが、ご覧の通り入っています。

駐車場側から最初の建物がこれで、ここには直営店である “マルシェなかとさ” と、漁師が厳選した活きのいい魚介類を販売する、“黒潮亭いか船頭” が入っています。

その隣にあるのが、“浜焼き　海王” で、目の前の海で水揚げされた新鮮な魚介類を、豪快に炭火で焼く浜焼きを味わうことができます。

朝早いのでこの時間はまだ開店していませんが、他にもカツオの舟盛りや海鮮丼といった、漁師町ならではの海の幸を堪能することができるお店です。

３つ目の建物がこの、“岩本こむぎ店” です。
食パン、フランスパン、季節の食材を生かしたサンドウィッチやさまざまなパンが販売されます。

ここも１０時オープンなので、まだ開店前でした。

突き当りの４つ目の建物は、“風工房” という、いちご農家のケーキ屋さんです。

１２月から６月までは生イチゴを使ったケーキ、夏から秋にかけては、いちごソースを使ったケーキやアイスクリームが提供されます。

ここも１０時のオープンです。

店舗の前は、広い “賑わい広場” と “ちびっこ広場” です。
地面に線路が敷いてありますから、遊具の列車が走るのかもしれません。

早朝のこの時間、唯一開いていた “マルシェなかとさ” に入ってみます。
この建物、切妻屋根で焼き杉を使った壁を採用しており、漁師町の雰囲気を出しています。

道の駅の登録証の隣りに、「みなとオアシス久礼」 とい登録証も掲示されていました。
この “みなとオアシス” というのも国土交通省が認定するもので、全国に現在ちょうど１００か所登録されています。

（国土交通省ＨＰより）

“海の駅” というのも同じく国土交通省の認可なので混同しがちですが、海の駅は 「国土交通省により登録された船舶係留施設」 で全国に現在１６０か所あります。

■海の駅：
「海から、誰でも、いつでも、気軽に、安心して立ち寄り、利用でき、憩える」ことを標榜している

■みなとオアシス：
地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設

つまり、海の駅は海からの利用が基本、みなとオアシスは「みなと」を中心とした、地域住民や観光の振興のための施設、といった違いでしょうか？

“カツオ一本釣り”の町らしく、こんな時計がかかっていました。

一本釣りというのは熟練の技が必要であり、一見非効率な漁の方法ですが、巻き網漁で一網打尽に捕獲する漁と較べ、獲れたカツオの味は比較にならないのだそうです。

しかも、いかに大漁であろうと釣り上げたカツオは群れの中のせいぜい1%程度であり、逃げ延びた大半のカツオは子孫を次の代に残します。

近年、諸外国による大量捕獲で絶滅危惧種になる魚種が多いと聞きます。
土佐の一本釣りの伝統を、これからもずっと守ってほしいと思います。

次に向かったのは、四万十川中流域にある

道の駅四万十大正（しまんとたいしょう）　です。

前回訪問した新しい道の駅 「なかとさ」 で一応今回の旅の目的は達成したのですが、九州へのフェリーターミナルまでかなりの距離があるので、途中の道の駅にいくつか立ち寄ることにしたのです。

あぐり窪川の道の駅の前を素通りし、その先から内陸部へと右折して出発から約５０分で、深い山の中にある道の駅、四万十大正にやってきました。

ここは “高知県四万十町” です。

四万十町といえば、２０１３年に気温 『４１．０度』 を記録し、常連の熊谷、舘林、多治見などを抜いて、日本の観測史上最高気温を達成しましたね。

でもここは、道の駅の裏を “日本最後の清流” と呼ばれる “四万十川” が流れ、山に囲まれた静かな山村で、とても日本一暑い場所、というイメージはありません。

道の駅は、東西を貫く国道３８１号と、南北に走る国道４３９号のちょうど交差する場所にあります。

この “国道４３９号” は、ご存知の方も多いと思いますが、通称 『よさく（４３９）』 と呼ばれ、悪名高い “日本三大酷道” の一つです。

あとの二つは次のとおりです。

・三重県尾鷲市から和歌山県御坊市に至る “国道４２５号”　通称 『死にGo！（４２５）』

・福井県大野市から長野県飯田市に至る “国道４１８号”　通称 『キングオブ酷道』

私の記事には何度も出てきますからご存知ですね！
でも、この付近の 『よさく』 は、ごく普通のアスファルト道路です。

実は今回、この道の駅でぜひ見たいものがありました。
道の駅の標識の下に、“轟公園（石の風車）” と書かれているのがお分かりでしょうか？

以前ここへ来た時には気が付かず、自宅に戻ってからパンフレットを見て大いに後悔したものです。
そのリベンジの意味もあって、今回再訪問しました。

道の駅に車を停めたまま、矢印に従って向かい側の坂を上って行きました。

最初にこの “ネイチャーセンター” の看板が見えました。
このネイチャーセンターは、２０１４年７月に新規オープンしたもので、学生や市民団体を主な対象に、環境学習や研修を行う施設です。

更に上って行くと、突き当りに “轟公園” の案内板がありました。

案内図を拡大してみました。
中央の “現在地” が今いる場所で、左手には “郷土資料館” や、ここには描かれていませんが、先ほど紹介した “ネイチャーセンター” の建物などがあります。

そして右手の方にもう一度坂を上ると広い多目的広場があり、“石の風車” はそこにあるようです。
私たちは歩いて上ってきましたが、この付近まで車できて停めることもできそうです。

広場へ行ってみると　・・・・・　ありました！

横に立っている人物と較べると、どのくらい大きいかが分かりますね！

この日は、ほとんど風を感じないくらいのお天気だったのですが、この石でできた巨大な羽根がゆっくりと回転しているのです。

ちょうどそこに、施設の管理人らしき人が通りかかって話しかけてこられました。
こんなでっかい石の羽根がわずかな風で回っているのが不思議だ、と私が話すと、「これは回転軸にあるベアリングが凄いらしいです」と説明して頂きました。

回転軸の部分を拡大して写真を撮ってみましたが、おわかりでしょうか？
この特殊なベアリングのおかげで、この石で作られた巨大な羽根が、わずかな風でも回転するのです。

その管理人らしき人が、「もうひとつ小さな風車もその下にありますよ！」と教えて頂きました。

なるほど、一段下にある岩に、直接羽根が取り付けてあるようです。
下の方にも道があるようなので、迂回して下りてみました。

これが下の道から見上げた、小さいほうの風車です。
大きい方も、ここからだと裏側が見えます。

本当に珍しいものを見ることができました。
さて、それでは本題の道の駅に戻ってみましょう。

ここのトイレ、“ミュージックトイレ”と書いてあります。
中で音楽が鳴っているのかどうか、あとで入ってみよう、と思っていたら忘れていました。(;^_^A

ここには、“情報館”と“食堂兼物産館”の二つの建物があります。

まず情報館に入ってみます。

ここの道の駅登録証、金属製かな？

情報館には、各種パンフレット等の他、ご覧のような囲炉裏の部屋もあります。

そして隣の建物は、ご覧のように小さな土産物店と食堂になっています。
道の駅の裏手にでてみると、四万十川が流れており、階段で下りてゆくことができます。

先ほどの “石の風車” ですが、全国にここだけかと思ったら、熊本県山鹿市の “石のかざぐるま” をはじめ、いくつかあるようです。

それにして珍しいものを見ることができ、立ち寄った甲斐がありました。

四万十川沿いに約２０ｋｍほど下り、

道の駅四万十とおわ にやってきました。

四万十大正付近から川沿いに下ると、四万十川は次第に川幅を広げ、流れもやや緩やかになります。

ここ道の駅とおわの住所も前回と同じく “高知県四万十町” です。
四万十町は、２００６年（平成１８年）３月に、旧十和村、旧大正町、旧窪川町が合併して誕生しました。

合併する前の３つの地域、十和、大正、窪川のそれぞれに道の駅があるのも面白いと思います。

この道の駅の建物は、地元高知県で育ったスギやヒノキをふんだんに使った純和風です。
前回来た時もそうでしたが、いつもたくさんの車が停まっています。

まずは、全体の配置図をパンフレットからご覧頂きます。

（道の駅パンフレットから配置図借用）

前回の四万十大正に較べれば随分広いのですが、この案内図に描かれていない、新しい建物がトイレと川の間にできていました。

この真新しい建物は、前回来た時には無かったもので、“shimanto おちゃくり cafe” と書いてあります。

“おちゃくり” というのは、お茶と、ここ十和地区名産の “栗” を掛け合わせたものかな？
あくまでも私の推測です！(;^_^A

喫茶コーナーだと思いますが、このすぐ裏側が四万十川であり、素晴らしい景観が広がっています。
この建物と四万十川を、一緒に見てみましょう。

四万十川中流域のこの景観、私はとっても気に入っています。
四万十川の景観といえば、一番知られているのは “沈下橋” だと思います。

このパンフレットにある、手前の橋がそれで、洪水や大水があっても流されることがないように、欄干が一切ありません。
この四万十川のシンボルともいえる沈下橋は、本流に２１カ所、支流にも２６カ所あるそうですが、残念ながら私はまだ実際に見たことがありません。

この日は、地元の高校生の研修実習のようなものがあっており、女子高生は制服のまま店舗の手伝い、男子高生がレジを手伝っていました。

私たちが買った品物にも、ぎこちなく手間取っていましたが、一生懸命さに好感を感じました。
地産地消で農村高齢者の生き甲斐を創るだけでなく、このように若い世代の教育にも道の駅は役立っているようです。

おさかな館を併設！“虹の森公園まつの”

いよいよ今回の旅、最終回になりました。

道の駅虹の森公園まつの　が最後に訪れた道の駅です。

県境を越えて高知県から愛媛県に入り、ここの住所は “愛媛県北宇和郡松野町” です。

“愛媛県イチこんまい町「きちみんか森の国」”　というのが、松野町のキャッチフレーズです。
こんまい町というのは小さい町の意味で、きちみんかは、方言で来てみませんか？の意味です。

そして森の国というのが松野町の愛称であり、この道の駅の名前 “虹の森” にも通じます。

道の駅の裏手を流れるこの川は、日本最後の清流・四万十川の支流の一つである “広見川” です。

四万十川の主な支流は、広見川、梼原川、黒尊川、目黒川、中筋川　などがありますが、“広見川” は、四万十市西土佐で、高知県を流れてきた四万十川本流と合流します。

そんな自然に恵まれたこの道の駅には、四万十川に生息する淡水魚などを中心に展示する水族館である、“おさかな館” が併設されています。

そのおさかな館の目玉のひとつがこちらです。

これは、四万十川に生息する巨大魚で、幻の魚とよばれる “アカメ” です。
もちろんこれは作りものですが、本物はおさかな館の玄関を入ったところにあります。

これは全長が１１２ｃｍのアカメの剥製です。

全長が１ｍを超えるアカメは四万十川でも年に数匹しか捕獲されないのだそうです。

「幻の魚」と呼ばれる所以だと思います。

おさかな館の入り口付近には、ご覧のような土産物の売店があります。

その先が有料エリアになりますが、全長１９６ｋｍもの長さをもつ四万十川の、上流、中流、下流のそれぞれの環境を再現し、そこに棲息する淡水魚たちを展示しています。
さらに、目玉としてはコツメカワウソがいたり、ペンギンのお散歩などのイベントが行われます。

道の駅のパンフレットから、おさかな館の部分の配置図をお借りしました。
奥まで随分広いですね！

おさかな館の手前には“テント広場”があり、ここから先ほど紹介した広見川に出られます。
さらにその手前（右手）には、レストランや店舗が続きます。

最初のこれが、食事処“遊鶴羽”でお昼にはランチバイキングがあります。

その先にフードオーナー、キッズコーナーなどがあり、一番奥に農産物直売所とガラス工房があります。
直売所の写真は撮ってないのですが、私がもう一度ここに寄りたかった理由はこの、“ガラス工房「風音（かざね）」”を見たかったからです。

個別の作品は撮影する訳にいかないので全体だけですが、とっても可愛い作品が並んでいます。
主にリサイクル再生ガラスによる作品だそうです。
奥に体験工房があって、自分で作品作りに挑戦することもできます。

もうひとつ、写真はありませんが、道路を挟んだ反対側には “森の国ファーム” という農園があり、そこでは新鮮トマトなどのもぎ取り体験ができます。

おさかな館、ガラス工房、野菜の収穫体験、そして美しい景観と、特色の豊かな道の駅だと思います。

さて、この先に何カ所もの道の駅がありましたが、時間の関係ですべて素通りし、１５時に佐田岬にある三崎港に到着、“国道九四フェリー” で九州に戻りました。

近畿、中国、四国を走った、走行距離１２８０ｋｍの旅はこれで終わりです。

明日、９月１９日（火）から、東北地方５日間の旅に出発します。
台風１８号が、ぎりぎりの日程で通り過ぎてくれて、本当に良かった！(≡^▽^≡)

※４日目に走ったルート（google mapの自動記録）

歴史散策の町！“みまの里”

先週の土日で、四国の新駅を回ってきました。
その１カ所目は徳島県に昨年オープンした
道の駅みまの里　です。

私が住む福岡県から四国へ行く場合は、大分県の佐賀関港から “九四国道フェリー” を使って、佐多岬にある三崎港まで渡ります。
距離が一番短いので乗船時間は７０分しかなく、１時間ごとに出ているのでとても便利です。

四国の西側を回る時はたいてい日帰りですが、今回は時間的に厳しいので１泊２日にしました。
自宅を朝６時２０分に出発し１０時に佐賀関を出港、三崎港には１１時１０分に着岸したのですが、目的地である “道の駅みまの里” に到着したのは１５時１０分になっていました。

今回の目的の新駅はわずか２カ所ですが、まず遠い方から先に目指したのです。
でも、私が計算していた時間より、３０分以上も遅れて最初から予定が狂ってしまいました。

この道の駅は昨年（２０１８年）６月のオープンで、所在地は “徳島県美馬市” です。
徳島自動車道の “美馬ＩＣ” を下りてわずか２分ほどの距離にあります。

四国を代表する名峰のひとつ “剣山” は、ここをまっすぐ南に下った位置にあります。

この看板で、“寺町” というのが１．９ｋｍの距離にありますが、美馬市には “願勝寺” “安楽寺” “西教寺” を始めとして歴史の古い、堂々たる山門、伽藍を持つ寺が多数あります。
それが集中している地域が “寺町” です。

また、“うだつの町並み” など古い建造物がそのままの形で残っており、“悠久の古都” と表現される美馬には、歴史散策を楽しむ人たちが多く訪れます。

道の駅は中央に “産地直売所” があり、左手に “交流センター” 右手に “農家レストラン” があります。
その配置図が次の写真です。

まずは、一番左端の 交流センターに入ってみました。

道の駅の登録証とスタンプはこの部屋にありました。
道の駅登録証と並んで、既にお馴染みとなった “重点「道の駅」選定証” もありました。

とっても明るい部屋で、奥の方に事務室があり観光案内のコーナーも兼ねているようです。

天井をはじめ、いくつもの “和傘” が飾ってあるのにお気づきでしょうか？
これは伝統工芸である、“美馬和傘” といいます。

他にもこのコーナーには様々な伝統工芸が飾ってありました。
更にこの部屋では無料のＷｉＦｉも利用できます。

次は “産地直売所” に入ってみました。

天井近くの壁に、美馬市の観光スポットの大きな写真が飾ってあります。
先ほどの交流センターもそうですが、なかなかセンスが良いと思いました。

そして一番右端が “農家レストラン” です。

ここにはめん処、唐揚げの店、焼き立てパンの３つの店舗があり、そこで買ったものを飲食スペースでいただくようになっています。

これはメインの建物の右手にあるトイレですが、最近のトイレはどこもとってもきれいです。
やはり 「きれいなトイレ」 というのは道の駅にとって重要なポイントになりますね。

案内図で裏手に “交流広場” があったので見に行くと、塀で囲んで工事中でした。
何か新しいものができるのだろうと思います。

当初の予定では、この後約５０ｋｍ離れた “道の駅大歩危” に立ち寄る計画でしたが、ここへの到着が大幅に遅れたので諦めることにしました。

今日来た高速道路を “新居浜ＩＣ” まで戻り、この日は新居浜市内のホテルに宿泊しました。

木のぬくもりの里！“なかやま”

２日目、ホテルを出てまず向ったのは昨年８月に誕生した
道の駅なかやま　です。

宿泊した新居浜市の “いよ西条ＩＣ” から高速道路にのり、松山自動車道 “伊予ＩＣ” で下りると、そこから１２分ほどの距離です。
ホテルを出発して１時間１７分かかりました。

ここは “愛媛県伊予市中山町” にありますが、元々 “クラフトの里” という名前で、中山町の特産品販売や情報発信のための施設でした。
それをリニューアルし、昨年（２０１８年）８月２５日に道の駅として再スタートしたものです。

道の駅の敷地はかなり広く、ご覧のようにいくつもの施設があります。

メインの建物は “ウッドクラフトセンター” といい、ここには情報コーナー、売店、産直市場、それにパン工房の “モンタナ” がはいっています。

このパン工房、評判が良いようで頻繁にお客さんの出入りがあるし、屋外にもテーブルがあって、そこで買ったパンを食べている姿が見えます。

パン工房はこの正面の玄関から入れますが、右手の奥に産直市場の入り口があります。

中山町は “栗” が名産だそうで、栗の入った羊羹や、栗を加工した土産物が多く並んでいます。
あとでお見せしますが、この道の駅のスタンプも栗の形をしていました。(^^♪

さて、これ以外の施設についてもざっくりと紹介しましょう。

先ほどの案内図にあったように、ここにはいくつもの建物があります。

まずこれは “木工体験道場（木遊舎）” です。
“クラフトの里” の名前の通り、乳幼児向けの手作り木のおもちゃの作成などの体験工房です。

奥の大きな建物が “そば食堂 こねこね亭” で、“そば打ち体験道場” を兼ねています。
ここの蕎麦も人気なのですが、私が行った時間はまだ営業時間前でした。

もうひとつがこの “シャーベットハウス” です。

厳選素材の手作りシャーベットが評判です。
もちろん、特産の栗を使ったマロン味のアイスクリームもあります。

周囲の風景でもお分かりのように、中山町は山に囲まれた自然豊かな山村です。
道の駅の近くにもキャンプ場やアスレチック、ログハウスなどがあり、観光くり園も近いです。

自然の中でゆったりと体験工房などを楽しめる道の駅かと思います。

さて、今回四国へやってきた目的の２つの新駅は無事制覇しました。
この後、帰途の途中にあと３カ所ほど道の駅に立ち寄りましたので、次回はそれらを紹介して参ります。

※スタンプも特産の栗の形をしています。(*^_^*)

カップルたちの聖地！“ふたみ”

四国の新駅を回り終え、九州に戻るルート上でまず立ち寄ったのが
道の駅ふたみ　です。

当初この道の駅は立ち寄る予定に入ってなかったのですが、山越えをして海岸線に出るとすぐに道の駅の看板に遭遇したのです。

このルート、途中の山道は結構狭い箇所が随所にあります。
対向車と何度かぎりぎりの離合をしました。

ここの所在地は“愛媛県伊予市双海町”で、伊予湾に沿って走る国道３７８号に面しています。
国道３７８号のこの付近、夕陽がきれいなことから別名“ゆうやけこやけライン”と呼ばれます。

道の駅は“ふたみシーサイド公園”の一部なのですが、「日本の夕陽百選」にも選ばれており、更に“恋人たちの聖地”にも認定されています。

道の駅のすぐ裏手には、長さ３８０ｍの人工海浜があります。

前回私がこの道の駅へ来たのは２００９年８月ですから夏の真っ盛り、このビーチにたくさんの海水浴客がいたことを覚えています。

この付近の伊予灘は、瀬戸内海の一部ではあるけれど島が少ないので西側に開けています。
伊予市に合併する前の“双海町”は『しずむ夕日が立ちどまる町』というのがキャッチフレーズでした。

ウッドデッキのような木製の構造物とビーチに沿った階段式護岸が夕陽の観覧席になります。

国道沿いの駐車場からは、階段を少し下りた場所に道の駅の建物は建っています。
正面の白い２階建てが特産品センターで、２階はレストランです。

その右手には、食材などを売る昔ながらの商店が並んでいます。

□

□

ここには地元の鮮魚店や、じゃこ天の店、イカ焼きの店などが並びます。
じゃこ天は他のところで買う予定なので、ここでは我慢！

□

□

次は特産品センターに入ります。
道の駅の登録証やスタンプはここにありました。

□

□

□

ここには海産物をはじめ、特産品や土産物がたくさん並んでいます。

その写真、わりとがらんとしていますが、この数分後に観光バスの一団らしき人たちが流れ込み、一気に店内は満員状態に！
おかげで土産を買うのにレジで随分待たされました！

□

奥付

全国の“道の駅”完全制覇の旅　［四国編］

http://p.booklog.jp/book/18608

著者：よしだやすお
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/rs-trip/profile

発行所：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/18608

ブクログのパブー本棚へ入れる
http://booklog.jp/puboo/book/18608